本書の見方

このたびは、マツダ車をお買いあげいただき、ありがとうございます。

本書は、安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、お車の正しい取り扱いや簡単なお手入れ方法について説明しています。ご使用前に必ずお読みください。

発行元　**マツダ株式会社**
〒 730–8670　広島県安芸郡府中町新地 3–1

・お車をゆずられるときは、次のオーナーのために、本書をお車につけておいてください。
・お車の仕様変更などにより、本書の内容の一部がお車と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

・グレードの仕様により異なる装備については「グレード/仕様別装備」をつけています。
・マツダ販売店で取り付けられた装備品は、付属の取扱説明書をご覧ください。
・お車の保証および点検、整備要領については、別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。
・本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管してください。

©2021 マツダ株式会社
発行 2021 年 8 月 (2 版)

本書の見方

安全にお車を使用していただくために守っていただきたいことを、次の表示で区分して記載しています。これらは重要ですので、必ず読んでお守りください。

⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を負う可能性のあるもの

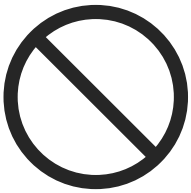
⚠ 注意

取り扱いを誤った場合、傷害を負ったりお車の損傷につながったりする可能性のあるもの

知識

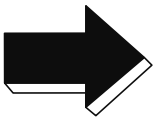
・知っておいていただきたいこと
・知っておくと便利なこと

イラストで表現している内容の禁止を意味しています。

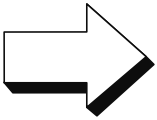


イラスト内の矢印は、次の意味を示しています。

・1 番目の操作を示しています。



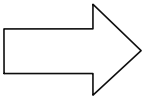
・2 番目の操作を示しています。



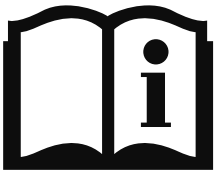
・部品の位置を示しています。



・状態の移り変わりを示しています。



お車に表示されている次のマークは「詳しい説明を本書に記載しています。」を示しています。必ず本書の説明を読んでご使用ください。



MEMO

目次

イラスト目次 1
車の内装、外観、各部分について

安全にお使いいただくための装備 2
安全にお使いいただくための装備や取り扱い

運転する前に 3
運転する前に必要な操作と取り扱い

運転のアドバイス 4
安全なドライブのための運転のアドバイス

運転するときに 5
運転するときに必要な操作と取り扱い

快適装備の使いかた 6
ドライブをより快適にする装備の操作と取り扱い

お手入れのしかた 7
手入れの方法、真冬の取り扱いなど

トラブルが起きたら 8
車が故障したとき、事故にあったときの処置

カスタマーインフォメーション 9
車に関する情報について

車両スペック 10

さくいん 11

詳細目次

1 イラスト目次

イラスト目次 1-2

ハンドルまわり 1-2
運転席まわり 1-4
室内 (前) 1-5
室内 (後) 1-6
ラゲッジルーム 1-7
外観 1-8

2 安全にお使いいただくための装備

シート 2-2

シート使用上の注意 2-2
フロントシート 2-3
リアシートの操作 2-12
ヘッドレストの使いかた 2-14

シートヒーター/ステアリングヒーター 2-16

シートヒーターの使いかた 2-16
ステアリングヒーターの使いかた 2-18

シートベルト 2-20

シートベルトについて 2-20
シートベルトの正しい着用のしかた 2-22
シートベルト警告システム 2-23
プリテンショナー/ロードリミッター機構 2-24

お子さまの安全 2-25

お子さま専用シートについて 2-25
シート位置別お子さま専用シート選択の目安表 2-28
チャイルドシートを固定するとき 2-31

SRS エアバッグシステム 2-33

SRS エアバッグシステムについて 2-33
エアバッグの種類 2-33
エアバッグの注意点 2-34
エアバッグの作動条件について 2-37

3 運転する前に

電気自動車とは 3-2

電気自動車とは 3-2
充電について 3-9
給電について 3-21

キー 3-26

キーについて 3-26
キーレスエントリーシステム機能を使っての操作 3-29

アドバンストキーレスエントリーシステム 3-30

アドバンストキーレスエントリーシステム 3-30

ドア 3-31

ドアの開閉 3-31

リアゲート 3-38
リアゲートの開閉.....3-38
トノカバー 3-40
トノカバーの使いかた.....3-40
ミラー 3-41
ミラーの操作.....3-41
ウインドー 3-44
窓ガラスの開閉.....3-44
盗難防止システム 3-46
イモビライザーシステム.....3-46

4 運転のアドバイス

安全なドライブのために 4-2
お出かけ前に.....4-2
運転するとき.....4-2
こんなことにも注意.....4-3
駐停車するとき.....4-4
お子さまを乗せるとき.....4-5
安全に運転をしていただくために 4-6
積雪、寒冷時の取り扱い.....4-6
さまざまな状況での運転のときは 4-7
悪天候での運転.....4-7
環境保護のために 4-8
経済的な運転.....4-8

5 運転するときに

EV システムの始動と停止 5-4
電源ポジション (パワースイッチ).....5-4
EV システムの始動.....5-5
EV システムの停止.....5-7
メーター、警告灯、表示灯の見方 5-9
メーター、表示.....5-9
メーター.....5-9
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM).....5-25
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 5-27
シフトシステム 5-29
各位置の働き.....5-29
セレクトレバーの操作.....5-31
シフトロック装置.....5-35
電気自動車を運転するときに.....5-35
スイッチの使いかた 5-38
ヘッドランプスイッチ.....5-38
方向指示器.....5-41
フロントワイパー/ウォッシャースイッチ.....5-42
リアワイパー/ウォッシャースイッチ 5-45
ヘッドランプウォッシャースイッチ 5-46
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....5-46
ホーン.....5-48
非常点滅灯スイッチ.....5-48

ブレーキ 5-49

ブレーキの操作..... 5-49
オートホールド..... 5-52
エマージェンシーシグナルシステム (ESS).....5-56
ヒル・ローンチ・アシスト (HLA) とは 5-56

ABS/TCS/DSC について 5-57

ABS とは.....5-57
TCS とは..... 5-58
DSC とは.....5-59

i-ACTIVSENSE について 5-61

i-ACTIVSENSE とは.....5-61
フォワードセンシングカメラ (FSC) について.....5-64
フロントレーダーセンサーについて 5-67
フロントサイドレーダーセンサーについて.....5-69
リアサイドレーダーセンサーについて 5-70
フロント超音波センサーについて 5-71
リア超音波センサーについて.....5-72
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ..... 5-72
ドライバー・モニタリングカメラ.....5-73
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) とは.....5-74
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) とは.....5-75
車線逸脱警報システムとは.....5-77
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) とは.....5-79
交通標識認識システム (TSR) とは 5-83
ディスタンス&スピード・アラート (DSA) とは.....5-89
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) とは..... 5-90
ドライバー・モニタリングとは..... 5-91
前側方接近車両検知 (FCTA) とは.....5-93
後側方接近車両検知 (RCTA) とは 5-95
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは 5-98
クルージング & トラフィック・サポート (CTS) とは.....5-103
レーンキープ・アシスト・システム (LAS) とは..... 5-111
緊急時車線維持支援 (ELK) とは.... 5-114
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは.....5-120
AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは 5-129
AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは 5-133
360° ビュー・モニターとは..... 5-135

クルーズコントロールについて 5-166

クルーズコントロールとは.....5-166

駐車支援システムについて 5-168

駐車支援システムとは.....5-168

6 快適装備の使いかた

空調 6-2

快適に使用していただくために..... 6-2
エアコンの操作部について.....6-3
エアコンの基本的な使いかた.....6-7
エアコンの便利な使いかた..... 6-10

マツダコネクト 6-13

マツダコネクトとは?.....6-13
マツダコネクトの基本操作..... 6-17

室内装備 6-30

サンバイザー.....6-30
室内照明..... 6-31
電源ソケット.....6-33
アジャスター機能付カップホルダー 6-34
ボトルホルダー..... 6-35
アシストグリップ.....6-35
リアコートフック.....6-36
収納..... 6-36

7 お手入れのしかた

車と上手につきあうために 7-2

必ず守る..... 7-2
お車に触れるときはけがに注意する 7-3

点検、整備 7-4

点検整備について.....7-4
定期点検..... 7-5
ボンネット.....7-5
日常点検..... 7-7
ウォッシャー液の補充.....7-10
ワイパーブレードの交換..... 7-10
12V バッテリーの点検.....7-14
キーの電池を交換するときは.....7-15
タイヤの点検..... 7-16

ヒューズ切れ、電球切れのとき 7-19

ヒューズの受け持つ装置..... 7-19
ランプ類、電気装置が作動しないとき 7-25

車の手入れ 7-27

外装の手入れ..... 7-27
内装の手入れ..... 7-29

季節の準備 7-32

冬に備えて.....7-32

環境保護のために 7-34

環境保護のために.....7-34

8 トラブルが起きたら

マツダエマージェンシーコール 8-4

マツダエマージェンシーコール..... 8-4

故障したとき 8-5

路上で動けなくなったとき..... 8-5
スタックしたとき.....8-5
踏切内で動けなくなったとき.....8-6
パンクやバースト (破裂) したとき 8-6

緊急用具の取り扱い 8-7

発炎筒.....8-7

工具の格納場所..... 8-7

パンクしたとき 8-9

タイヤパンク応急修理キット.....8-9

充電で困ったときは 8-14

充電できないときの対処方法.....8-14

給電で困ったときは 8-16

給電できないときの対処方法.....8-16

12V バッテリーがあがったとき 8-17

12V バッテリーあがりについて.....8-17

駆動用バッテリーがあがったとき 8-20

駆動用バッテリーあがりについて 8-20

キーが作動しないとき 8-21

キー一時停止機能.....8-21

けん引について 8-22

けん引について.....8-22

警告灯/表示灯、警報チャイム 8-24

警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは 8-24

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは..... 8-31

チャイムがなったときは..... 8-36

リアゲート 8-40

リアゲートが開けられなくなったとき 8-40

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ 8-41

アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないとき..... 8-41

フロントワイパーが高速作動するとき 8-42

フロントワイパーが高速作動するとき 8-42

万一事故が起きたとき 8-43

万一事故が起きたときは..... 8-43

9 カスタマーインフォメーション

カスタマーインフォメーション 9-2

お車の点検について..... 9-2

携帯電話の使用について..... 9-2

EDR (イベントデータレコーダー)について.....9-3

車両データの記録について.....9-3

10 車両スペック

車両スペック 10-2

車両スペック..... 10-2

各部の点検値、交換時期..... 10-7

MEMO

1 イラスト目次

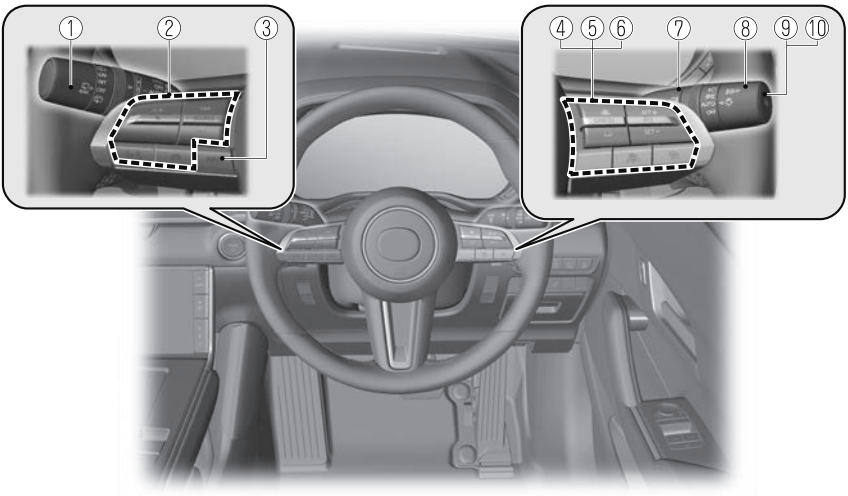
車の内装、外観、各部分について

イラスト目次.....1-2
ハンドルまわり.....1-2
運転席まわり.....1-4
室内 (前).....1-5
室内 (後).....1-6
ラゲッジルーム.....1-7
外観.....1-8

イラスト目次

ハンドルまわり

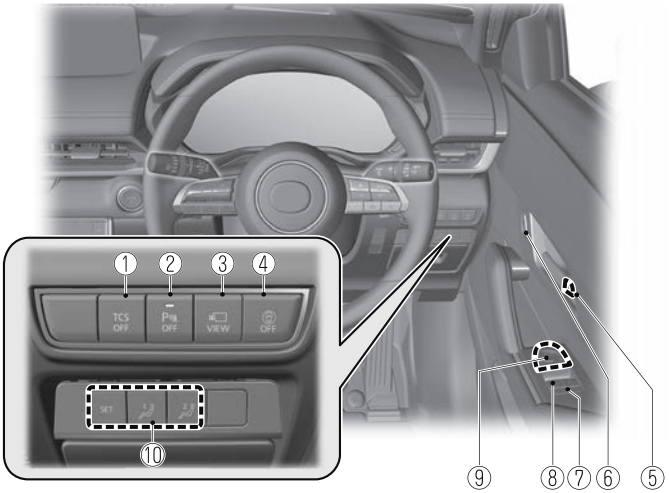
▼ ハンドルまわり A



① ワイパー/ウォッシャースイッチ.....5-42 ページ
② オーディオリモートコントロールスイッチ.....6-20 ページ
③ INFO スイッチ.....5-11 ページ
④ マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))スイッチ.....5-100 ページ
⑤ クルージング&トラフィック･サポート (CTS)スイッチ.....5-107 ページ
⑥ クルーズコントロールスイッチ.....5-166 ページ
⑦ 方向指示器.....5-41 ページ
⑧ ランプスイッチ.....5-38 ページ
⑨ ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)スイッチ.....5-75 ページ
⑩ アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) スイッチ.....5-76 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

▼ ハンドルまわり B

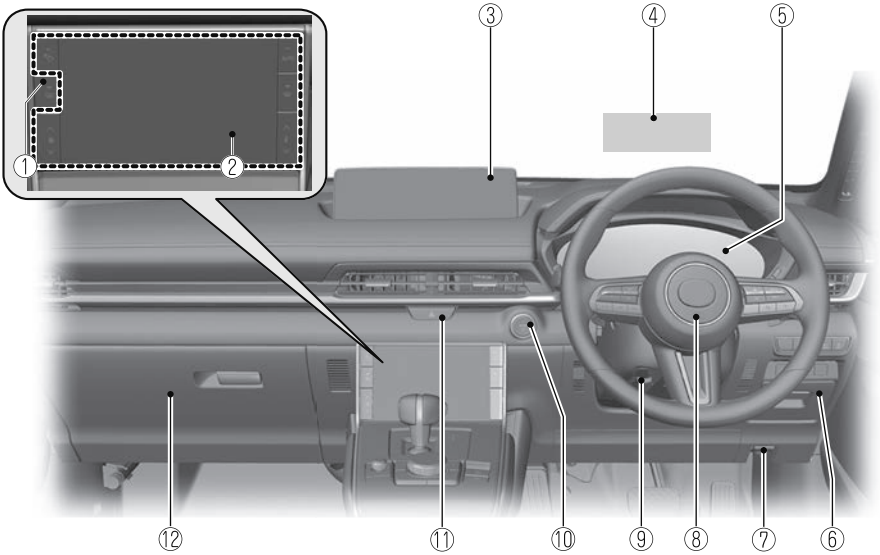


① TCS OFF スイッチ.....5-58 ページ
② パーキングセンサー OFF スイッチ.....5-182 ページ
③ 360°ビュー・モニター・スイッチ.....5-142 ページ
④ i-ACTIVSENSE OFF スイッチ.....5-63 ページ
⑤ ドアロックノブ.....3-36 ページ
⑥ ドアロックスイッチ.....3-35 ページ
⑦ パワーウインドーロックスイッチ.....3-44 ページ
⑧ パワーウインドースイッチ.....3-44 ページ
⑨ ドアミラースイッチ.....3-41 ページ
⑩ ポジションメモリースイッチ.....2-7 ページ

イラスト目次

運転席まわり

▼ 運転席まわり

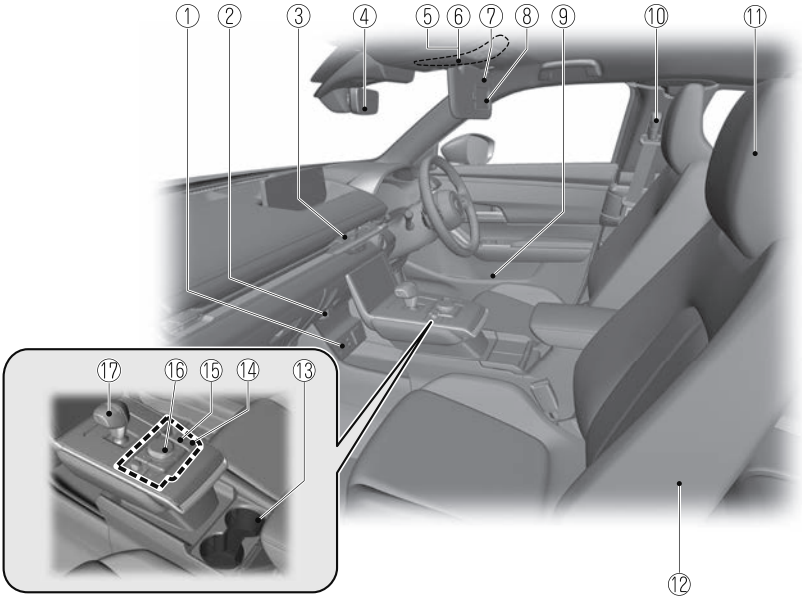


① リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....5-46 ページ
② エアコン.....6-3 ページ
③ マツダコネクト.....6-13 ページ
④ アクティブ･ドライビング･ディスプレイ.....5-27 ページ
⑤ メーター.....5-9 ページ
⑥ コインボックス.....6-37 ページ
⑦ ボンネットオープナー.....7-5 ページ
⑧ ホーン.....5-48 ページ
⑨ ハンドル調節レバー.....2-3 ページ
⑩ パワースイッチ.....5-4 ページ
⑪ 非常点滅灯スイッチ.....5-48 ページ
⑫ グローブボックス.....6-37 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

室内 (前)

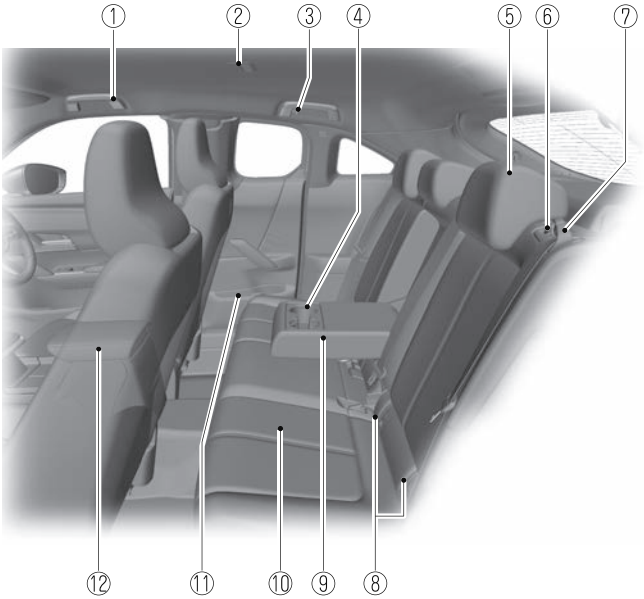
▼ 室内 (前)



① 外部入力端子.....6-13 ページ
② 電源ソケット.....6-33 ページ
③ 吹き出し口.....6-7 ページ
④ ルームミラー.....3-42 ページ
⑤ ルームランプ.....6-31 ページ
⑥ オーバーヘッドコンソール.....6-37 ページ
⑦ サンバイザー.....6-30 ページ
⑧ バニティミラー.....6-30 ページ
⑨ ボトルホルダー.....6-35 ページ
⑩ シートベルト.....2-20 ページ
⑪ ヘッドレスト.....2-14 ページ
⑫ フロントシート.....2-3 ページ
⑬ アジャスター機能付カップホルダー.....6-34 ページ
⑭ オートホールドスイッチ.....5-54 ページ
⑮ 電動パーキングブレーキ (EPB).....5-49 ページ
⑯ コマンダースイッチ.....6-17 ページ
⑰ セレクトレバー.....5-29 ページ

室内 (後)

▼ 室内 (後)

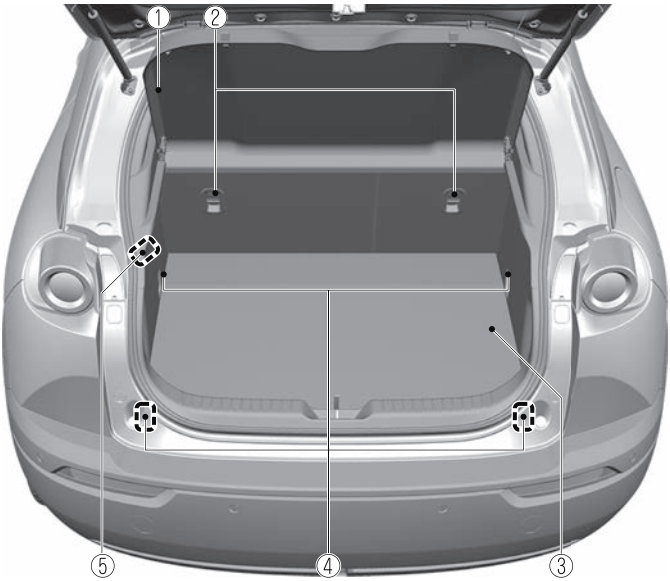


① アシストグリップ.....6-35 ページ
② リアルームランプ.....6-31 ページ
③ リアコートフック..... 6-36 ページ
④ アジャスター機能付カップホルダー.....6-34 ページ
⑤ ヘッドレスト.....2-14 ページ
⑥ プッシュノブ.....2-12 ページ
⑦ シートベルト.....2-20 ページ
⑧ ロアアンカレッジ.....2-31 ページ
⑨ アームレスト.....2-14 ページ
⑩ リアシート..... 2-12 ページ
⑪ ボトルホルダー.....6-35 ページ
⑫ コンソールボックス.....6-37 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

ラゲッジルーム

▼ ラゲッジルーム

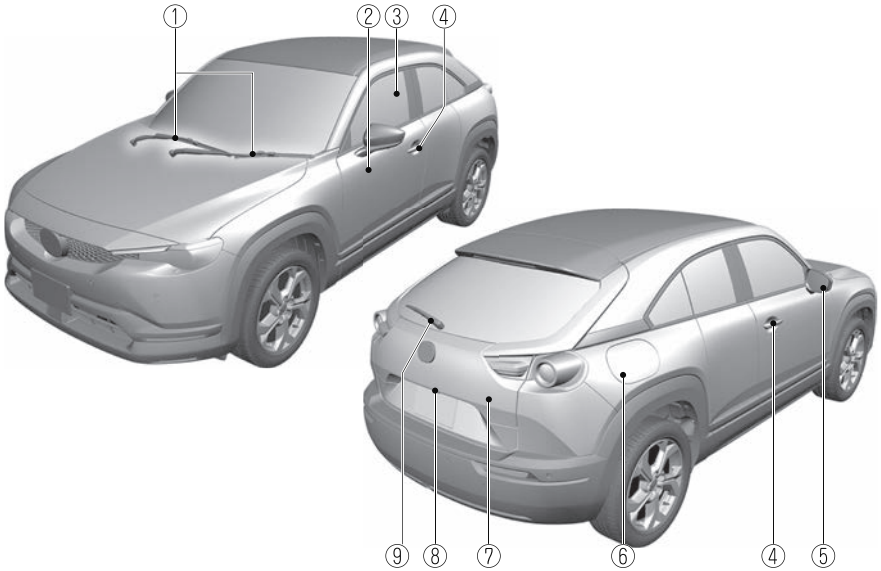


① トノカバー.....3-40 ページ
② トップテザーアンカレッジ.....2-31 ページ
③ サブトランクボックス.....6-38 ページ
④ ラゲッジフック.....6-38 ページ
⑤ ラゲッジルームランプ.....6-31 ページ

イラスト目次

外観

▼ 外観



① フロントワイパー..... 7-11 ページ
② ドア..... 3-31 ページ
③ ウインドー..... 3-44 ページ
④ タッチセンサー..... 3-32 ページ
⑤ ドアミラー..... 3-41 ページ
⑥ 充電リッド..... 3-12 ページ
⑦ リアゲート..... 3-38 ページ
⑧ 電磁式リアゲートオープナー..... 3-38 ページ
⑨ リアワイパー..... 7-13 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

2 安全にお使いいただくための装備

安全にお使いいただくための装備や取り扱い

シート.....2-2
シート使用上の注意.....2-2
フロントシート.....2-3
リアシートの操作.....2-12
ヘッドレストの使いかた.....2-14

シートヒーター/ステアリングヒーター..... 2-16
シートヒーターの使いかた*..... 2-16
ステアリングヒーターの使いかた*..... 2-18

シートベルト.....2-20
シートベルトについて..... 2-20
シートベルトの正しい着用のしかた.....2-22
シートベルト警告システム 2-23
プリテンショナー/ロードリミッター機構.....2-24

お子さまの安全.....2-25
お子さま専用シートについて 2-25
シート位置別お子さま専用シート選択の目安表.....2-28
チャイルドシートを固定するとき.....2-31

SRS エアバッグシステム..... 2-33
SRS エアバッグシステムについて 2-33
エアバッグの種類.....2-33
エアバッグの注意点.....2-34
エアバッグの作動条件について 2-37

シート使用上の注意

▼ シート使用上の注意

⚠ 警告

シート各部の調節は、必ず走行前に行なう。
走行中に行なうと、必要以上にシートが動いて姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートが損傷した場合は必ずマツダ販売店で点検を受ける。
エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシート内部のエアバッグシステムの部品が本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。衝突後やシートクッションが破れたり、ウレタンまで達するほどの損傷の場合は、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突時にシートベルトなど拘束装置の効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

操作後は確実にロックされていることを確認する。
走行中シートが不意に動くと姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを操作するときは、シートの動く部品周辺やサイドトリムなどに手や指を置かないでください。手や指を置いているとけがをするおそれがあります。
- **(マニュアルシート)**
  シートを前後に動かすときや、後ろに倒した背もたれをもとにもどすときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、シートが急に動き、けがをするおそれがあります。
- 車室内を清掃したり、シートの下に落としたものを拾ったりするためにシートの下に手を入れるときは、けがをしないように注意してください。シートレールやシートフレーム、シート下周辺の可動部、および周辺部品にあたり、けがをするおそれがあります。

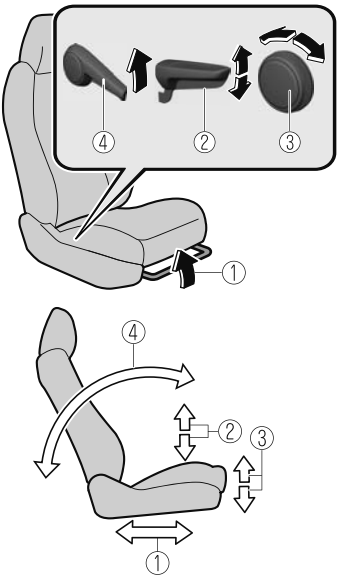
フロントシート

▼ 運転席の操作

マツダが推奨するドライビングポジションにすることで、リラックスした姿勢を保ち、ドライバーが長時間の運転でも疲れにくく、自然に素早い操作をすることができます。
また、前方の視野を確保し、安全で楽しく運転することができます。
マツダが推奨するドライビングポジションにするには、次の手順で調節します。

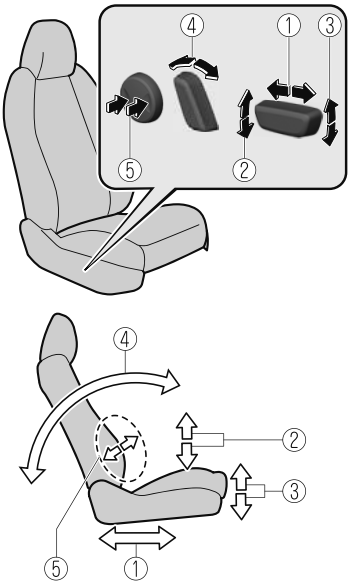
1. ハンドルとシートを初期位置へ移動する。
2. シートの背もたれの角度を調節する。
3. シートの前後位置を調節する。
4. シート全体の高さを調節する。
5. シート前端の高さを調節する。
6. ハンドルの位置を調節する。
7. ヘッドレストの位置を調節する。

マニュアルシート



1. 前後調節 (スライディング)
2. シート全体高さ調節
3. シート前端高さ調節
4. 角度調節 (リクライニング)

パワーシート



1. 前後調節 (スライディング)
2. シート全体高さ調節
3. シート前端高さ調節
4. 角度調節 (リクライニング)
5. 張り出し調節 (ランバーサポート)

マツダが推奨するドライビングポジションに調節する前に

調節する前にハンドル、シートを初期位置へ移動させます。

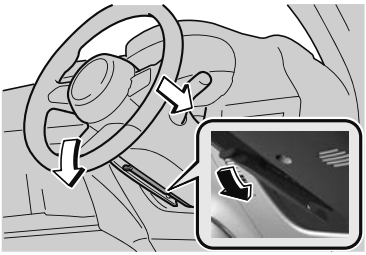
ハンドル初期位置への移動のしかた

⚠ 警告

調節は必ず車両を停止した状態で行なう。
走行中に調節すると、運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

調節後は、ハンドルを上下にゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。
走行中ハンドルが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

1. レバーを下げます。
   ハンドルの高さをいちばん下の位置にし、奥まで押し下げます。



シート初期位置への移動のしかた

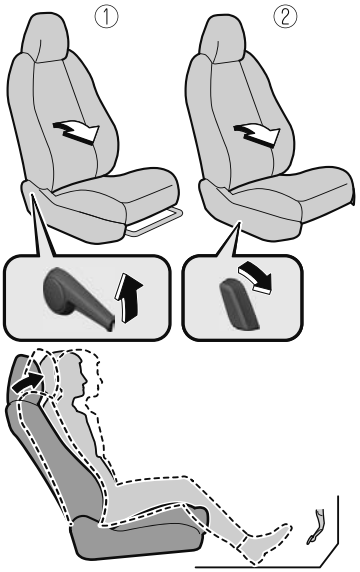
1. シートをいちばん後ろに下げます。
2. シート全体の高さをいちばん下まで下げます。
3. シート前端の高さをいちばん下まで下げます。
4. シートに深く腰かけて、背もたれと背中を密着させます。

マツダが推奨するドライビングポジションへの調節手順

シートの背もたれの角度を調節する (リクライニング)

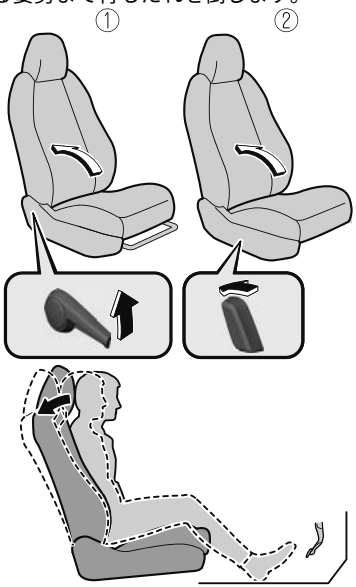
楽な姿勢で座れる角度にシートの背もたれを調節します。

1. 少し前かがみの姿勢で、お腹まわりが窮屈と感じる角度まで背もたれを起こします。



1. マニュアルシート
2. パワーシート

2. お腹まわりに窮屈な感じがなく、楽に座れる姿勢まで背もたれを倒します。

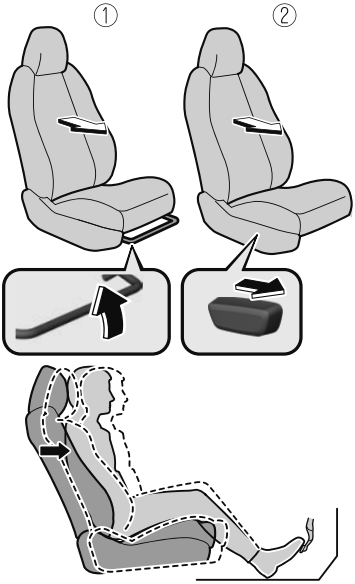


1. マニュアルシート
2. パワーシート

シートの前後位置を調節する (スライディング)

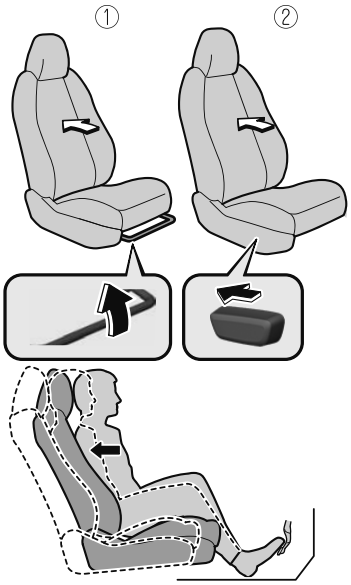
ペダルが操作しやすい位置に調節します。

1. 左足はフットレストに置き、右足はアクセルペダルとブレーキペダルの中間、ペダルを踏みかえられる位置にかかとを置きます。
2. かかとを床につけた状態でブレーキペダルに右足を乗せ、足首が少し窮屈に感じるまでシートをできるだけ前へ動かします。



1. マニュアルシート
2. パワーシート

3. ブレーキペダルに右足を乗せたまま、足首が窮屈と感じなくなるまでシートを後ろへ動かします。



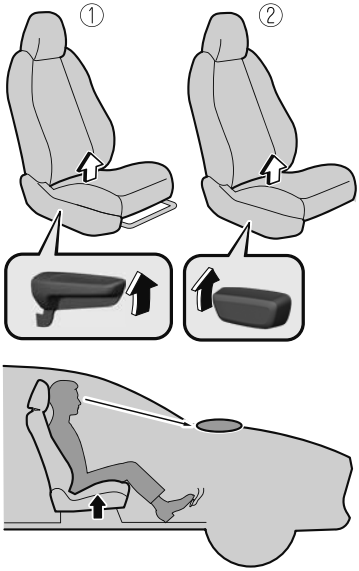
1. マニュアルシート
2. パワーシート

4. かかとを床につけたまま、ブレーキペダルとアクセルペダルの踏みかえがスムーズにできることを確認します。
5. かかとを床につけたままアクセルペダルをいちばん奥まで踏み、足首が伸びきった感じを受けないことを確認します。

シート全体の高さを調節する

前が見やすく、運転しやすい高さに調節します。

1. 背もたれに背中を密着させた状態で、ボンネット表面の後端部分が確認できる高さまでシート全体の高さを上げます。

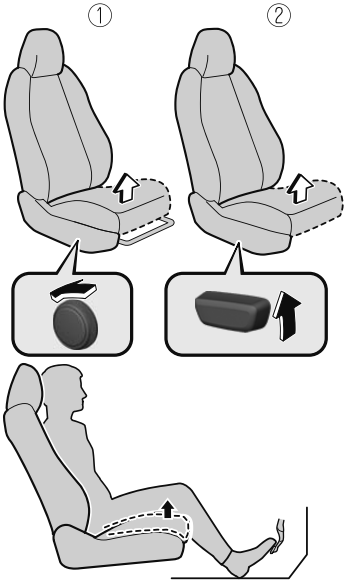


1. マニュアルシート
2. パワーシート

シート前端の高さを調節する

ひざの裏にシート前端が密着するようにシート前端の高さを調節します。

1. アクセルペダルに右足を乗せたまま、ひざの裏にシート前端が軽く沿うようにシート前端の高さを調節します。
2. アクセルペダルを踏み込んでひざの裏が窮屈と感じないことを確認します。

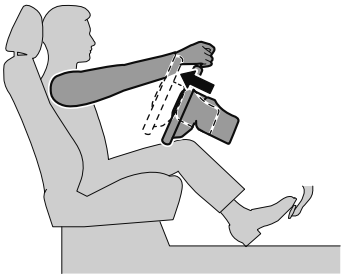


1. マニュアルシート
2. パワーシート

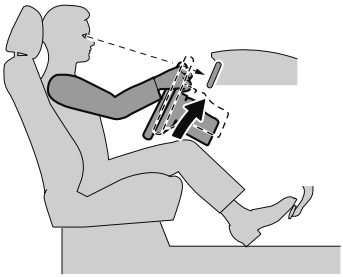
ハンドルの位置を調節する

運転操作がしやすく、メーターが見える位置に調節します。

1. 背もたれに背中を密着させた状態で、両腕をのばし、ハンドル上部に両手を置いて、手首の位置までハンドルを引き寄せます。



2. メーター類がしっかり見えるように、ハンドルの高さを調節します。



3. レバーを引き上げてハンドルを固定します。

ヘッドレストの位置を調節する

万一のときに頭部への衝撃を防ぐため、正しい位置にヘッドレストを調節します。
→2-14 ページ「ヘッドレストを調節するとき」

▼ ドライビングポジションメモリー機能 (パワーシート)

お好みのドライビングポジションを記憶させることができます。
次のドライビングポジションを記憶させることができます。

- 運転席シート位置 (角度、前後位置、全体高さ、前端高さ)
  →2-3 ページ「運転席の操作」
- アクティブ・ドライビング・ディスプレイ (表示位置、輝度、表示情報)
  →5-27 ページ「アクティブ・ドライビング・ディスプレイ」

・ドアミラー角度
→3-41 ページ「ドアミラーの操作」

ドライビングポジションを次の操作で記憶または操作することができます。

・ポジションメモリースイッチの操作
・キーを使った操作

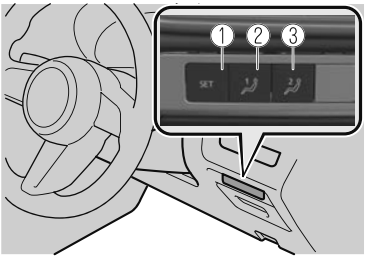
知識

張り出し調節 (ランバーサポート) は記憶させることはできません。

記憶させるとき

ドライビングポジションをポジションメモリースイッチとキーに記憶させることができます。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. セレクトレバーが P の位置にあることを確認します。
3. 電源ポジションを ON にします。
4. 次のドライビングポジションをお好みの位置に調節します。
   ・運転席シート
   ・アクティブ･ドライビング･ディスプレイ
   ・ドアミラー
5. 音が鳴るまで､SET スイッチを押し続けます。



1. SET スイッチ
2. スイッチ 1
3. スイッチ 2

6. 音が鳴ってから 5 秒以内に次の操作を行ない､ドライビングポジションを記憶させます。
   ・**ポジションメモリースイッチに記憶させるとき**
   スイッチ 1 またはスイッチ 2 のうち記憶させたいスイッチを押します。
   ・**キーに記憶させるとき**
   キーの解錠スイッチを押します。

   正しく操作して記憶が完了すると､音が鳴ります。

知識

・操作を誤ると､記憶に失敗したことを示す音が鳴ります。
・ドアミラー角度の変更量が少ない場合は､ドアミラー角度が正しく記憶されないことがあります。
・ドアミラー角度が可動域の限界近くに調節されている場合､ドライビングポジションの記憶には成功しますが､記憶させたドライビングポジションを呼び出すときに失敗することがあります。

記憶させたドライビングポジションを呼び出すとき

注意

ドライビングポジションメモリー機能でシートが自動的に動いているときは､シートの下やその周辺に手や指などを近づけないでください。手や指などをはさんで､けがをするおそれがあります。

知識

・呼び出すドライビングポジションと現在のシートの位置が同じときは､音が鳴りません。
・次のような場合､ドライビングポジションの調節を中止します。
   ・運転席シートのシート調節スイッチを操作したとき
   ・ドアミラーの角度を調節したとき
   ・SET スイッチを押したとき
   ・スイッチ 1 またはスイッチ 2 を押したとき
   ・キーの施錠スイッチまたは解錠スイッチを操作したとき
   ・車両が走行状態になったとき

知識

・アクティブ･ドライビング･ディスプレイを調節したとき
・セレクトレバーを P 以外の位置にしたとき
・ウォークインスイッチを操作したとき
→2-10 ページ「リアシートへの乗り降り」

ポジションメモリースイッチで操作するとき

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. セレクトレバーが P の位置にあることを確認します。
3. 電源ポジションを ON にします。
4. スイッチ 1 またはスイッチ 2 のうち呼び出したい位置が記憶されているスイッチを押すと、記憶させたドライビングポジションへの調節が開始されます。
5. 記憶させたドライビングポジションへの調節が終了すると、音が鳴ります。

キーで操作するとき

1. 次のいずれかの方法で運転席ドアを解錠します。
   ・解錠用タッチセンサーの感知エリアに触れる。
   ・キーの解錠スイッチを押す。
2. 解錠してから 90 秒以内に運転席ドアを開けると、記憶させたドライビングポジションへの調節が開始されます。
3. 記憶させたドライビングポジションへの調節が終了すると、音が鳴ります。

記憶させた位置を消去するとき

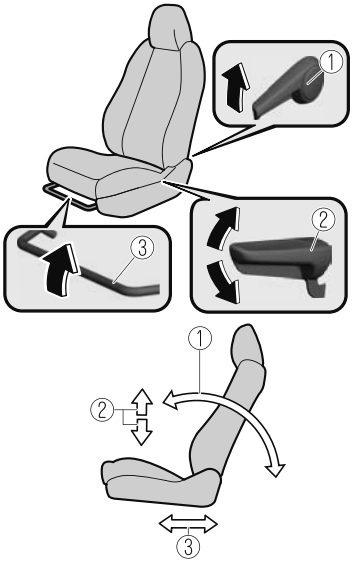
キーに記憶させた位置を消去するとき

1. 電源ポジションを OFF にします。
2. 音が鳴るまで、SET スイッチを押し続けます。
3. 音が鳴ってから 5 秒以内に、キーの施錠スイッチを押します。

知識

操作を誤ると、記憶の消去に失敗したことを示す音が鳴ります。

▼ 助手席の操作



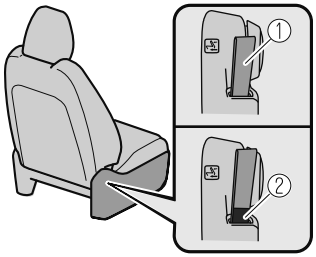
1. 角度調節(リクライニング)
2. シート全体高さ調節
3. 前後調節(スライディング)

▼ リアシートへの乗り降り

⚠ 警告

フロントシートに人が乗っているときは、フロントシートを操作しない。
人が乗っているときに、背もたれを前に倒したり、シートのスイッチを操作したりすると、背もたれが急に倒れたり、意図しないシート位置になったりして、走行に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあります。
(マニュアルシート)

操作した背もたれやシートをもとにもどすときはシートを確実にロックさせ、ウォークインストラップの赤色の表示が見えないことを確認する。
シートがロックされていないまま走行すると、背もたれが急に倒れるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。また、ウォークインストラップの赤色の表示が見えているときは、シートがロックされていません。シートを確実にロックしてウォークインストラップの赤色の表示が見えないことを確認してください。



1. ウォークインストラップ
2. 赤色の表示

⚠ 注意

- リアシートへ乗り降りする際は、ドア開口部の上部に注意してください。頭や体をぶつけてけがをするおそれがあります。
- フロントシートを操作する際は、ヘッドレストを下げて操作してください。ヘッドレストを上げた状態で操作をするとヘッドレストと天井が干渉し損傷するおそれがあります。

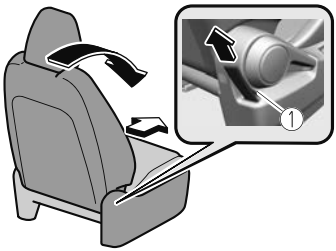
この車両のドアはフロントドアとリアドアを観音開き式に開閉するフリースタイルドアです。フロントドアが閉まっているときは、リアドアを開けることができません。→3-37 ページ「フリースタイルドア」

リアシートへ乗り降りする際は、リアドアを開けて乗り降りしてください。
フロントシートの背もたれの角度、前後位置を変えると、リアシートへ乗り降りしやすくなります。
必要に応じて、次の操作を行なってください。

乗るとき

マニュアルシート

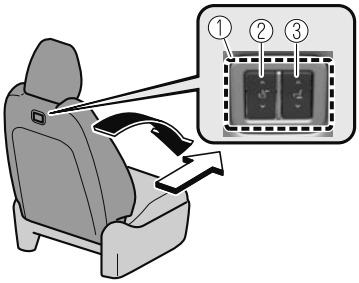
1. フロントシート横の角度調節 (リクライニング) レバー/前後調節 (スライディング) レバー、またはウォークインストラップを操作します。
   ウォークインストラップを引くと、シートの背もたれが前に倒れ、シートを前方にスライドさせることができます。



   1. ウォークインストラップ
2. 乗車後、操作したフロントシートの位置をもどすときは、背もたれが倒れた状態でシートを後方にスライドさせ、背もたれを起こします。
3. フロントシートを前後に軽くゆさぶって、背もたれやスライド調節が確実にロックされていることを確認します。

パワーシート

1. フロントシート横の角度調節 (リクライニング) スイッチ/前後調節 (スライディング) スイッチ、またはウォークインスイッチを操作します。
   角度変更スイッチの上側を押している間は、背もたれが前に倒れ、前後移動スイッチの上側を押している間は、シートが前方にスライドします。



   1. ウォークインスイッチ
   2. 角度変更スイッチ
   3. 前後移動スイッチ
2. 乗車後、操作したフロントシートの位置をもどすときは、次の操作を行ないます。
   1. 角度変更スイッチの下側を押します。スイッチを押している間は、背もたれが後ろに倒れます。
   2. 前後移動スイッチの下側を押します。スイッチを押している間は、シートが後方にスライドします。

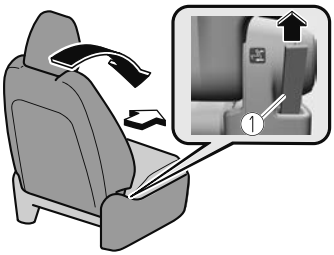
知識

電源ポジションを OFF にしてからしばらくすると、ウォークインスイッチを操作してもシートを移動することができません。
ドアを開閉したり、パワーシートのスイッチを操作したりすると、再度ウォークインスイッチを操作して、シートを移動することができます。

降りるとき

マニュアルシート

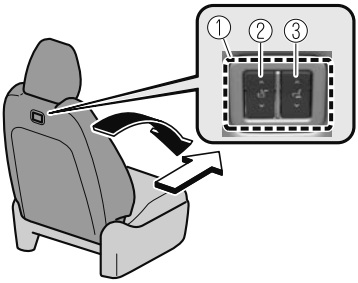
1. フロントシートのウォークインストラップを引くと、シートの背もたれが前に倒れ、シートを前方にスライドさせることができます。



   1. ウォークインストラップ
2. 降車後、操作したフロントシートの位置をもどすときは、背もたれが倒れた状態でシートを後方にスライドさせ、背もたれを起こします。
3. フロントシートを前後に軽くゆさぶって、背もたれやスライド調節が確実にロックされていることを確認します。

パワーシート

1. 角度変更スイッチの上側を押します。スイッチを押している間は、背もたれが前に倒れます。
2. 前後移動スイッチの上側を押します。スイッチを押している間は、シートが前方にスライドします。



   1. ウォークインスイッチ
   2. 角度変更スイッチ
   3. 前後移動スイッチ

知識

・運転席に人が座っているときは、ウォークインスイッチでシートを動かすことができません。
・電源ポジションを OFF にしてからしばらくすると、ウォークインスイッチを操作してもシートを移動することができません。
ドアを開閉したり、パワーシートのスイッチを操作したりすると、再度ウォークインスイッチを操作して、シートを移動することができます。

3. 降車後、操作したフロントシートの位置をもどすときは、次の操作を行ないます。
   1. フロントシート横の角度調節 (リクライニング) スイッチ、またはフロントシート背面の角度変更スイッチを操作して背もたれを起こします。
   2. フロントシート横の前後調節 (スライディング) スイッチ、またはフロントシート背面の前後移動スイッチを操作してシートを後方にスライドさせます。

リアシートの操作

▼ 荷室を作るとき

リアシートの背もたれを倒すと荷室として広げることができます。

⚠ 警告

倒した背もたれの上や荷室内に人を乗せて走行しない。
シートベルトが着用できないため、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

背もたれを倒した車内でお子さまを遊ばせない。
お子さまがラゲッジルーム内に入り、背もたれがもどった場合、ラゲッジルーム内に閉じ込められるため思わぬ事故につながるおそれがあります。

背もたれを倒して荷物を運ぶときは、荷物を確実に固定する。
固定しないで走行すると、急ブレーキ時や衝突時に荷物が動き運転操作のさまたげになるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

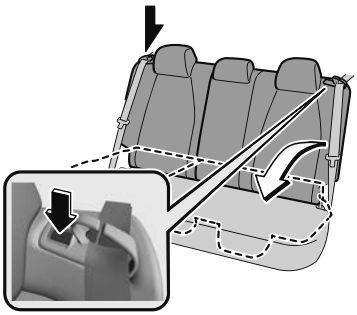
荷物を運ぶときは、シート背もたれの高さを越えないようにする。
後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

背もたれを倒すとき

⚠ 注意

- 背もたれを倒すときは、必ず背もたれを手で支えながら操作してください。背もたれを手で支えずに操作すると、プッシュノブを押す指などにけがをするおそれがあります。
- 背もたれを倒す前にフロントシートの位置を確認してください。 フロントシートの位置によっては、リアシートの背もたれがフロントシートにあたって、フロントシートやシートバックポケットが損傷、破損したり、背もたれを倒すことができなくなったりする場合があります。また、必要に応じてリアシート左右席のヘッドレストは、位置を下げる、または取りはずしてください。

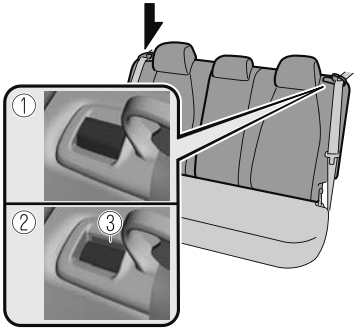
プッシュノブを押して背もたれを前に倒します。



もとにもどすとき

⚠ 警告

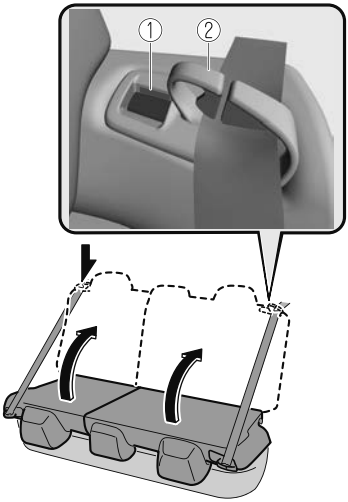
背もたれをもとにもどすときは確実にロックし、赤色の表示が見えないことを確認する。
プッシュノブ後部に赤色の表示が見えているときは、背もたれがロックされていません。ロックしないまま走行すると、背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



1. ロック
2. アンロック
3. 赤色の表示

1. シートベルトが、シートベルトガイドに正しく通っていることとねじれていないことを確認します。

2. シートベルトがはさまらないようにして背もたれを起こします。

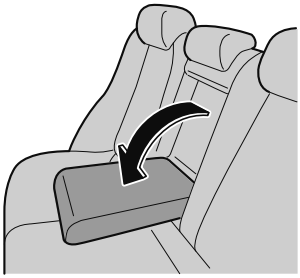


1. 赤色の表示
2. シートベルトガイド

3. 背もたれを後ろに押しつけロックさせます。背もたれをもとの位置にもどした後は、確実にロックされていることを確認してください。

▼ アームレストの使いかた

前に倒して使用します。



⚠ 警告

アームレストの取り付け部周辺に、手や指を置かない。
シートとアームレストの間に手や指がはさまり、けがをするおそれがあります。

ヘッドレストの使いかた

▼ ヘッドレストの使いかた

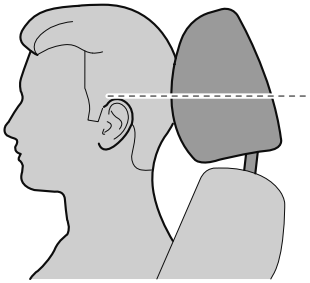
すべてのシートには、ヘッドレストが装備されています。
ヘッドレストは、万一のときに、むち打ち症や他のけがから乗員を保護します。

▼ ヘッドレストを調節するとき

⚠ 警告

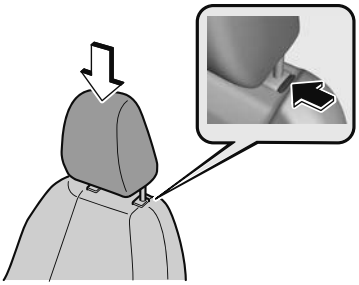
高さを調節しないままで走行しない。
高さを調節しないまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、リアシート (全席) のヘッドレストは引き上げた状態で使用してください。

ヘッドレストの中央が、耳の上部と同じ高さになるように調節してください。

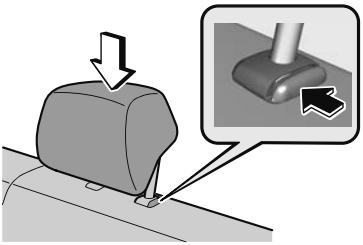


- **高くするとき**
  そのまま引き上げます。
- **低くするとき**
  ロックノブを押したまま下げます。

フロントシート



リアシート



▼ ヘッドレストを脱着するとき

・**ヘッドレストを取りはずすとき**
ロックノブを押しながら引き上げます。
・**ヘッドレストを取り付けるとき**
ロックノブを押しながら差し込みます。

⚠ 警告

ヘッドレストをはずした状態で走行しない。
取りはずした状態のまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

取り付けた後は、ヘッドレストが抜け出さないことを確認する。
ヘッドレストが抜け出すと万一の場合、思わぬけがをするおそれがあります。ヘッドレストを引き上げて、抜け出さないことを確認してください。

⚠ 注意

- ヘッドレストを取り付けるときは、ヘッドレストの前後の向きを間違えないようにしてください。前後の向きを間違えて取り付けると、衝突時などにヘッドレストがはずれ、けがをするおそれがあります。
- ヘッドレストは、各シート専用です。他のシートのヘッドレストと入れ替えないでください。入れ替えると、衝突時などにヘッドレストの効果が十分に発揮できず、けがをするおそれがあります。

シートヒーターの使いかた*

▼ シートヒーターの使いかた

EV システムが作動しているときに、フロントシートを温めることができます。

⚠ 警告

- 次のような方がご使用になる場合は、熱すぎたり、低温やけどを起こしたりするおそれがありますので、十分注意してください。
  - 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
  - 皮膚の弱い方
  - 疲労の激しい方
  - 深酒や眠気をさそう薬 (睡眠薬、かぜ薬など) を服用された方
- 低温やけどを起こさないために、次のことをお守りください。
  - 毛布や座布団など保温性のよいものをかけた状態で使用しないでください。異常加熱するおそれがあります。
  - 仮眠するときは使用しないでください。
  - 突起のある重量物をシートの上に置いたり、針金やピンなどでシートクッションをつきさしたりしないでください。異常加熱するおそれがあります。

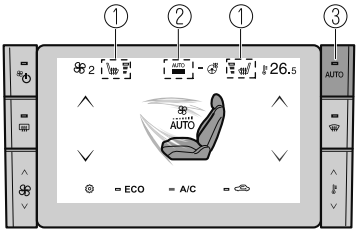
⚠ 注意

シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。

知識

充電中はシートヒーターを使用することができません。

シートヒーターはエアコンの操作画面で操作することができます。



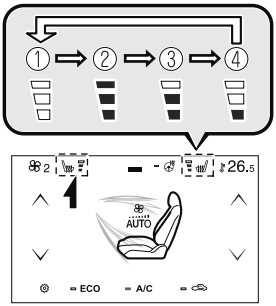
1. シートヒーターアイコン
2. シートヒーター設定アイコン
3. AUTO スイッチ

シートヒーターにはマニュアルモードとオートモードがあります。

マニュアルモード

をタッチまたはフリックすると、シートヒーターがマニュアルモードで作動します。

をタッチまたはフリックすると、出力段位が切り替わります。

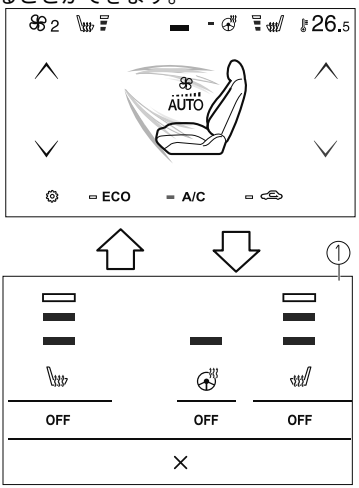


1. OFF
2. 高
3. 中
4. 低

知識

、を上にフリックすると高、下にフリックすると OFF に切り替わります。

をタッチまたは下にフリックすると、シートヒーターの設定画面を表示させることができます。
設定画面の各アイコンをタッチまたはフリックすると設定画面上でも出力段位を切り替えることができます。
をタッチまたはフリックすると、設定画面を閉じることができます。



1. 設定画面

知識

シートヒーターがマニュアルモードで作動しているときに EV システムを停止すると、次に EV システムを始動したとき、シートヒーターは自動的に ON にはなりません。シートヒーターを使用するときは、再度スイッチを押してください。

オートモード

シートヒーターをエアコンのオートモードと連動して作動させることができます。
オートモードは、マツダコネクトの「設定」で、オートモードを有効にしているときに作動します。
→マツダコネクト取扱書 「設定」
AUTO スイッチを押すと、オートモードになります。
オートモードで作動しているときはAUTOが表示されます。
設定画面ではAUTO (白) が運転席/助手席でそれぞれ表示されます。
車内環境に応じてシート温度が 4 段階 (高、中、低、OFF) で自動制御されます。

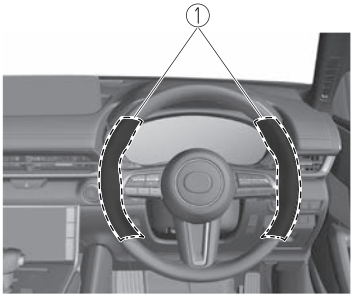
知識

- マツダコネクトでオートモードを有効にし、オートモードで作動していないときは、シートヒーターの設定画面でAUTO (グレー) が表示されます。
- 助手席のシートヒーターは助手席のシートベルトが装着されているときに ON になります。
- オートモード中に、を操作すると、操作した側のシートヒーターがマニュアルモードに移行します。オートモードにもどすときは、AUTO スイッチを押します。
- シートヒーターがオートモードで作動しているときに EV システムを停止すると、次に EV システムを始動したとき、シートヒーターは再度オートモードで作動します。

ステアリングヒーターの使いかた*

▼ ステアリングヒーターの使いかた

EV システムが作動しているときに、ハンドルの左右のグリップ部分を温めることができます。



1. 加熱位置

⚠ 警告

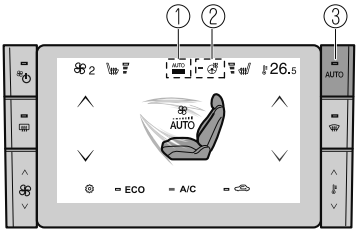
低温やけどを起こすおそれがありますので、次のような方が触れないよう注意してください。

- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬 (睡眠薬、かぜ薬など) を服用された方

知識

充電中はステアリングヒーターを使用することができません。

ステアリングヒーターはエアコンの操作画面で操作することができます。



1. ステアリングヒーター設定アイコン
2. ステアリングヒーターアイコン
3. AUTO スイッチ

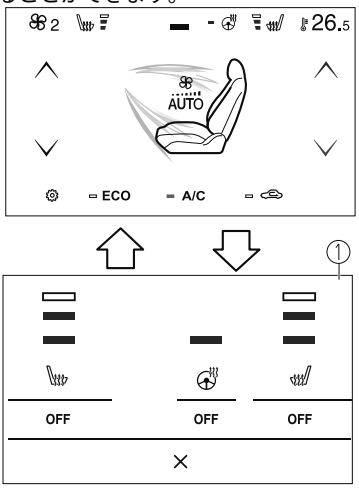
ステアリングヒーターにはマニュアルモードとオートモードがあります。

マニュアルモード

をタッチまたは上にフリックすると、ステアリングヒーターが約 30 分間作動し、その後自動で停止します。
ステアリングヒーターを手動で停止したいときは、もう一度をタッチまたは下にフリックします。

をタッチまたは下にフリックすると、ステアリングヒーターの設定画面を表示させることができます。
設定画面の各アイコンをタッチまたはフリックすると設定画面上でも ON/OFF を切り替えることができます。

×をタッチまたはフリックすると、設定画面を閉じることができます。



1. 設定画面

オートモード

ステアリングヒーターをエアコンのオートモードと連動して作動させることができます。
オートモードは、マツダコネクトの「設定」で、オートモードを有効にしているときに作動します。
→マツダコネクト取扱書 「設定」
AUTO スイッチを押すと、オートモードになります。
オートモードで作動しているときはAUTOが表示されます。
設定画面ではAUTO (白) が表示されます。
車内環境に応じて自動でステアリングヒーターが作動/停止します。

知識

・マツダコネクトでオートモードを有効にし、オートモードで作動していないときは、ステアリングヒーターの設定画面でAUTO (グレー) が表示されます。

オートモード中にを操作すると、ステアリングヒーターがマニュアルモードに移行します。オートモードにもどすときは、AUTO スイッチを押します。

知識

・ステアリングヒーターがオートモードで作動しているときに EV システムを停止すると、次に EV システムを始動したとき、ステアリングヒーターは再度オートモードで作動します。

シートベルトについて

▼ シートベルトの注意点

車を運転する前に必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

⚠ 警告

シートベルトは全員が正しく着用する。
着用しないと体が拘束されないため、急ブレーキ時や衝突時に車内の物に打ちつけられたり、車外に放りだされたりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

1 つのシートベルトを同時に 2 人以上で使用しない。
2 人以上で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

クリップなどでシートベルトにたるみをつけない。
万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

ベルトがねじれた状態で使用しない。
ねじれがあると、万一の場合衝撃力が分散できず局部的に強い力を受けるため、重大な事故につながるおそれがあります。

肩ベルトを肩の中央にかけて着用する。腕の下に通して着用しない。
ベルトが肩に十分かかっていないと急ブレーキ時や衝突時に、体が前方に投げ出され、重大な傷害につながるおそれがあります。

背もたれは倒しすぎない。
急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下にすべり込み、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる。
シートベルトが腰骨からずれていると、急ブレーキ時や衝突時に、腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

妊娠中の女性や疾患のあるかたもシートベルトを着用する。
ただし、急ブレーキ時や衝突時、局部的に強い力を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。腰部ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。また、肩ベルトは肩に十分かかるようにし、腹部を避けて胸部に密着させてください。



シートベルトのバックルの中に異物を入れない。
異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらず、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

前席用シートベルトをリアシートで使用しない。
この車両のシートベルトは前席用シートベルトがリアドアにビルトインされています。前席用シートベルトをリアシートで無理矢理使用すると、リアシートベルトのバックルが破損するおそれがあります。また、急ブレーキや衝突時にシートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

事故などにあったときは、必ずマツダ販売店で点検を受ける。
プリテンショナー付きシートベルトおよびロードリミッター付きシートベルトは、一度作動すると再使用できません。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

シートベルトが首や顔などにあたるなどして、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用する。
シートベルトは成人サイズの方の乗員による着用を目的としています。
ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスについて

シートベルトを分解・改造・交換しない。
万一の場合、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

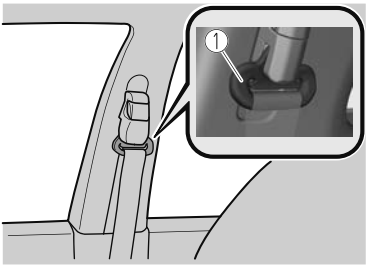
事故などにあったときは、必ずマツダ販売店で点検を受ける。
プリテンショナー付きシートベルトおよびロードリミッター付きシートベルトは、一度作動すると再使用できません。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店に相談する。
プリテンショナー機構が不意に作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

プリテンショナー機構の部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナー機構の回路診断をしたりしない。
正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

シートベルトやリングが汚れると、ベルトの巻き取りが悪くなるので汚れを取ってください。



1. リング

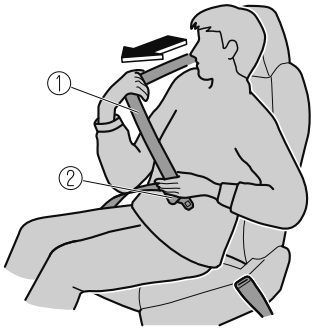
▼ ELR (緊急時固定) 機構

全席のシートベルトに装備されています。
シートベルトは体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックされ体を固定します。

シートベルトの正しい着用のしかた

▼ シートベルトを着用するとき

1. プレートを持って、ベルトをゆっくり引き出します。
2. ベルトを素早く引き出し、ロックされることを確認してください。

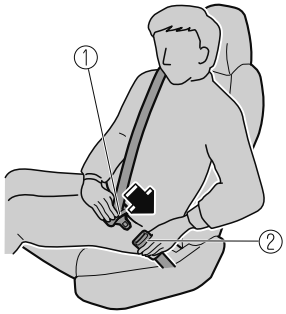


1. ベルト
2. プレート

知識

ベルトがロックして引き出せないときは
一度ベルトを巻き取らせてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引っ張ってからベルトをゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

3. プレートをバックルにカチッと音がするまで差し込みます。

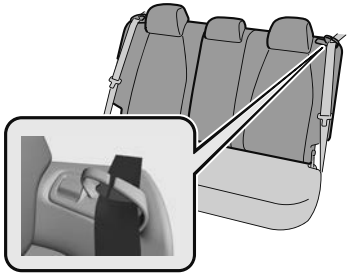


1. プレート
2. バックル

4. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかけ、たるみがないようにベルトを引いて体に密着させます。

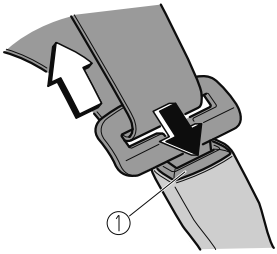


リアシートのシートベルトは、着用する前にシートベルトがシートベルトガイドに正しく通っていることを確認してください。



▼ シートベルトをはずすとき

はずすときはバックルのボタンを押します。ベルトにねじれがないかを確認しながら、ゆっくりと巻き取らせます。



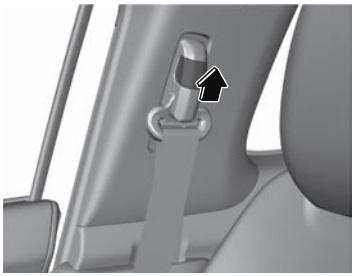
1. ボタン

▼ シートベルトの高さ調節

フロントシートベルトにはシートベルトアンカーアジャスターが付いています。
シートベルトが首にあたったり、肩からはずれたりしてしまうときには、ベルトの高さを調節してください。

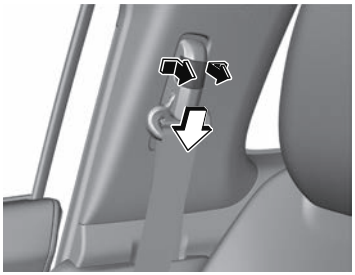
高くするとき

高くするときは、そのまま上に動かします。



低くするとき

低くするときは、ボタンを引いたまま下げます。



調節した後は、シートベルトアンカーアジャスターを下方に押し、確実にロックされていることを確認してください。

シートベルト警告システム

▼ シートベルト警告システム

シートベルトを着用していないと、警告灯とチャイムが作動します。
→8-30 ページ「シートベルト警告灯 (フロントシート)」
→8-30 ページ「シートベルト警告灯 (リアシート) (赤)」
→8-36 ページ「シートベルト着用忘れチャイム」

シートベルト表示灯 (リアシート) (緑)

REAR 

電源ポジションが ON のとき、リアシートのシートベルトを着用するとしばらくの間点灯し、その後消灯します。

プリテンショナー/ロードリミッター機構

▼ プリテンショナー/ロードリミッター機構

プリテンショナー機構
運転席、助手席、リアシート左右席のシートベルトに装備されています。
車両前方または側方から強い衝撃を受けると、シートベルトを引き込み、シートベルトの効果をより高める装置です。

ロードリミッター機構
運転席、助手席、リアシート左右席のシートベルトに装備されています。
車両前方から強い衝撃を受けたときなど、シートベルトに一定以上の荷重がかからないように作動する装置です。シートベルトにかかる荷重を規定値に保つことで、乗員の胸に加わる力を減少させます。

知識

- プリテンショナー機構は、車両前方または側方から強い衝撃を受けたとき作動しますが、衝撃の度合いにより作動しない場合があります。
- プリテンショナー機構の作動により、白煙が見えることがありますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。プリテンショナー機構作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。

お子さま専用シートについて

▼ お子さま専用シートについて

車両に固定するお子さま専用シートには、シートベルト固定タイプ、または ISOFIX 対応タイプの 2 種類があります。
シートベルト固定タイプのベビーシート、チャイルドシートは、リアシートのシートベルトを使用してシートに固定します。
また ISOFIX 対応タイプのチャイルドシートは、リアシート左右席に装備されているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。

⚠ 警告

お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従う。
正しく取り付けられていないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

助手席には絶対にベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。
エアバッグの作動可能な助手席には、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負ったりする可能性があります。やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。
助手席エアバッグ装備車には図のような警告ラベルが貼付されています。この警告ラベルは、助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付けてはいけないということを示しています。



⚠ 警告

警告ラベル



▼ お子さま専用シートの種類

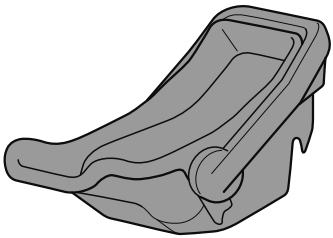
UN-R 44 法規に適合するお子さま専用シートは、お子さまの体重によって次の 5 種類に分類されます。

知識

・UN-R 44 法規は、お子さま専用シートに関する国連法規です。

グループ	体重	サイズ等級/器具 (CRF)
0	10kg まで	ISO/L1
		ISO/L2
		ISO/R1
0+	13kg まで	ISO/R1
		ISO/R2
		ISO/R3
I	9～18kg	ISO/R2
		ISO/R3
		ISO/F2
		ISO/F2X
		ISO/F3
II	15～25kg	—
III	22～36kg	—

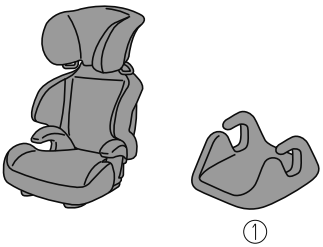
本書では、3 種類のお子さま専用シートについて説明します。
ベビーシート
UN-R 44 法規のグループ 0、0+に相当



チャイルドシート
UN-R 44 法規のグループ I に相当



ジュニアシート
UN-R 44 法規のグループ II、IIIに相当



1. ブースターシート

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

▼ シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

お子さま専用シートは次の表を目安に選択してください。
詳しくはお子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

⚠ 警告

お子さま専用シートを取り付けるときは、必ず選択の目安表を確認する。
誤った取り付けをすると正しく固定されず、急ブレーキや衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

シート位置	着座位置			
	助手席	第 2 列左	第 2 列中央	第 2 列右
汎用ベルト式に適する着席位置	UF	U	U	U
アイサイズ着席位置	X	i-U	X	i-U
適する最大の後向き装具 (R1)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R2)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R2X)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R3)	X	IL	X	IL
適する最大の前向き装具 (F2)	X	IUF	X	IUF
適する最大の前向き装具 (F2X)	X	IUF	X	IUF
適する最大の前向き装具 (F3)	X	IUF	X	IUF
適する最大の横向き装具 (L1)	X	X	X	X
適する最大の横向き装具 (L2)	X	X	X	X
適する最大のブースター装具(B2)	X	IUF	X	IUF
適する最大のブースター装具(B3)	X	IUF	X	IUF

シート位置	着座位置			
	助手席	第 2 列左	第 2 列中央	第 2 列右
サポートレッグ付装具に適した着席位置 (有/無)	有*1	有	無	有
ロアアンカレッジを備えるがトップテザーのない着席位置 (有/無)	無	無	無	無

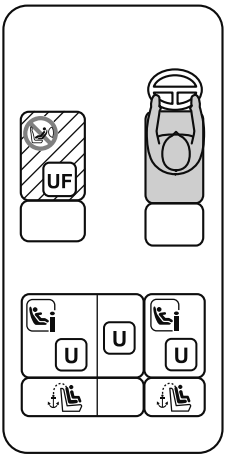
上表の記号について:
U ＝この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
UF ＝この質量グループでの使用を認可された前向き「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
L ＝「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
IUF ＝この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリー前向き ISOFIX チャイルドシートに適しています。
IL ＝「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーの ISOFIX チャイルドシートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
i-U ＝前向きおよび後向きの i-Size「汎用」チャイルドシートに適しています。
i-UF ＝前向き i-Size「汎用」チャイルドシートのみに適しています。
有＝装具を使用して、チャイルドシートを固定できる席です。
無＝装具を使用して、チャイルドシートを固定できない、または装具がない席です。
X ＝お子さま専用シートを取り付けることはできません。
*1　前向きお子さま専用シートのみ取り付けることができます。

知識

・助手席にお子さま専用シートを取り付けるときは、シート位置をできるだけ後ろに調節してください。また、助手席が高さ調節できる場合は、シートベルトでお子さま専用シートがしっかり固定できるようにシートクッションの高さをいちばん高い位置に調節してください。
→2-9 ページ「助手席の操作」
・助手席にお子さま専用シートを取り付けにくいときやお子さま専用シートがシートベルトでしっかり固定できないときは、次の操作をしてお子さま専用シートがシートベルトでしっかり固定できるようにシートを調節してください。

・シートを前方または後方に動かす。
・シートの背もたれを前後に動かす。
・シートを上または下に動かす。

・テザーストラップを使用するときは、必ず、ヘッドレストを取りはずしてください。ただし、ブースターシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずさないでください。



U ：シートベルトで固定するお子さま専用シート（ユニバーサルタイプ）に適しています。

UF ：シートベルトで固定するお子さま専用シート（ユニバーサルタイプ）の前向きに取り付けるタイプに適しています。

：ISOFIX 対応お子さま専用シートに適しています。

：i-Size および ISOFIX 対応お子さま専用シートに適しています。

：前向きお子さま専用シートに適しています。

：後ろ向きのお子さま専用シートを取り付けないでください。

：お子さま専用シートを取り付けることはできません。

：トップテザーアンカレッジが装備されている座席です。

チャイルドシートを固定するとき

▼ シートベルトを使用するとき

お子さま専用シートを取り付けるときは、シート位置別お子さま専用シート選択の目安表を参照ください。
→2-28 ページ「シート位置別お子さま専用シート選択の目安表」

▼ ISOFIX 対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ

リアシートの左右席には、チャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。
このロアアンカレッジには、道路運送車両の保安基準に適合したチャイルドシート (チャイルドシート固定ロアアンカレッジ) のみを取り付けることができます。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

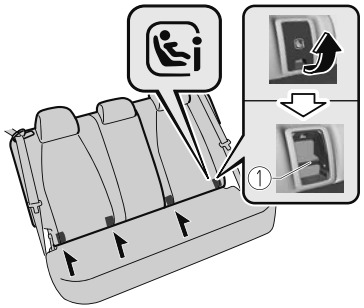
チャイルドシートを取り付けるときは、ロアアンカレッジ周辺に異物がないこと、シートベルトなどをはさみ込んでいないことなどを確認する。
異物やシートベルトなどをはさみ込むとチャイルドシートが固定されず、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

トップテザーアンカレッジは、チャイルドシートを固定するため以外のことには使用しない。
チャイルドシートの固定以外のことに使用すると、アンカレッジ部が曲がったり、損傷したりして、テザーストラップが正しくかけられなくなりチャイルドシートが固定されません。急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

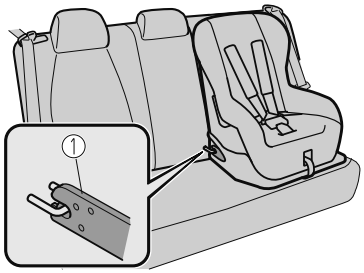
チャイルドシート固定ロアアンカレッジ対応の純正チャイルドシートはチャイルドシート固定ロアアンカレッジで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。

1. チャイルドシートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートを調節します。→2-3 ページ「運転席の操作」
→2-9 ページ「助手席の操作」
2. フロントおよびリアシートが確実に固定されていることを確認します。
3. チャイルドシート固定ロアアンカレッジのカバーを取りはずし、ロアアンカレッジの位置を確認します。



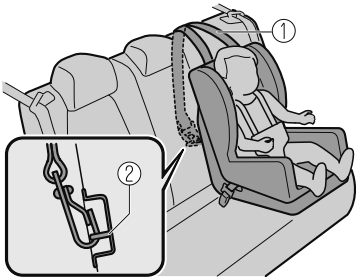
1. ロアアンカレッジ

4. ヘッドレストを取りはずします。ただし、ブースターシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずさないでください。
5. チャイルドシートのコネクターをロアアンカレッジに取り付けます。



1. コネクター

6. チャイルドシートのテザーストラップを図のようにトップテザーアンカレッジにかけます。



1. テザーストラップ
2. トップテザーアンカレッジ

7. テザーストラップがたるまないように調節します。
8. チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

SRS エアバッグシステムについて

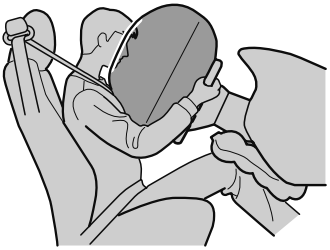
▼ SRS エアバッグシステムについて

SRS とは Supplemental Restraint System (サプルメンタルレストレイントシステム) の略で、補助乗員保護装置の意味です。
エアバッグは、電源ポジションが ON のとき車両前方または側方から強い衝撃を受けると瞬間的に膨らみ、運転者および同乗者の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげます。
SRS エアバッグシステムはシートベルトの働きに加えて乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

エアバッグの種類

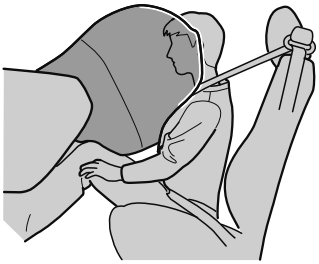
▼ 運転席エアバッグ

運転席エアバッグはハンドルの中央に格納されています。



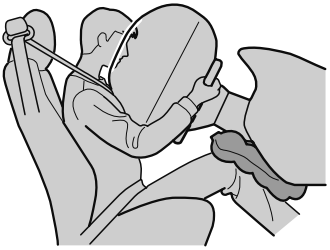
▼ 助手席エアバッグ

助手席エアバッグはインストルメントパネルに格納されています。助手席に同乗者がいなくても運転席エアバッグと同時に膨らみます。



▼ 運転席ニーエアバッグ

ニーエアバッグはインストルメントパネルの下に格納されています。



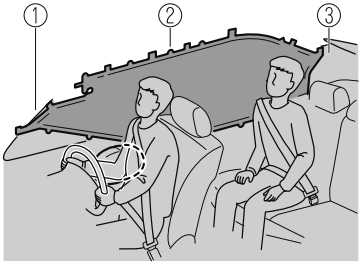
▼ サイドエアバッグ

サイドエアバッグはフロントシート背もたれの外側部分に格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のサイドエアバッグが膨らみます。



▼ カーテンエアバッグ

カーテンエアバッグはフロントピラー、ルーフサイド部、リアピラーに格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のカーテンエアバッグが膨らみます。



1. フロントピラー
2. ルーフサイド部
3. リアピラー

エアバッグの注意点

▼ エアバッグの注意点

⚠ 警告

お車に乗る前に

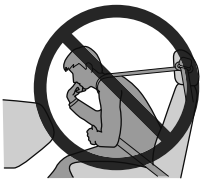
運転者はもちろん、同乗者も必ずシートベルトを着用する。
SRS エアバッグシステムはシートベルトと併用することで効果を発揮します。シートベルトを着用していないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートに座ったときは

ハンドル中央部に手を置いたり、顔や体を近づけたりしない。
エアバッグが作動したときに、強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



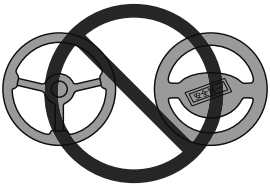
シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったり、手や顔を近づけない。
エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



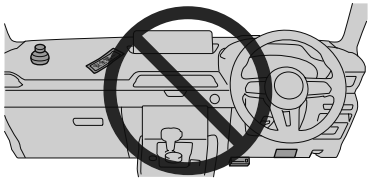
⚠ 警告

こんなことにも注意

ハンドルを交換しない。また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしない。
万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



インストルメントパネル上下部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリー用品、手荷物などの物を置いたりしない。また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けない。
エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。



車両前部にグリルガードなどを装着しない。
SRS エアバッグシステムに影響をおよぼすため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

サイドエアバッグについて

フロントシート背もたれの外側部分に手、足、顔を近づけた姿勢で座らない。
フロントシートに座ったときは、フロントドアにもたれかかったり、窓から腕を出したりしないでください。また、リアシートに座ったときはフロントシートの背もたれを抱えないでください。サイドエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



フロントシートにシートカバーを使用しない。
シートカバーを使用するとサイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

フロントドアやフロントシート付近にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けない。
サイドエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

フロントシートの下に荷物などを置かない。
フロントシートの下部にあるサイドエアバッグの配線が損傷し、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

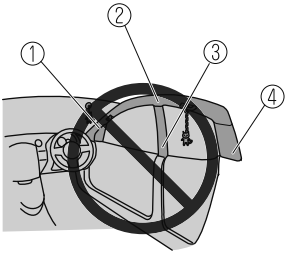
⚠ 警告

カーテンエアバッグについて

ドアにもたれかかったり、フロントピラー、リアピラー、ルーフサイド部などに近づいたりしないようにして座る。
カーテンエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



フロント窓ガラス、リア窓ガラス、フロントピラー、サイドピラー、リアピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けたりしない。
カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



1. フロントピラー
2. ルーフサイド部
3. サイドピラー
4. リアピラー

⚠ 注意

- エアバッグが作動した直後は、しばらくの間エアバッグ取り付け部をさわらないでください。エアバッグが作動すると高温になるため、やけどをするおそれがあります。
- ドアを閉じるときは窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。サイドおよびカーテンエアバッグが作動するおそれがあります。

知識

エアバッグの作動について

- エアバッグは瞬時に膨らむため、エアバッグとの接触により打撲やすり傷など、けがをするおそれがあります。
- エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。エアバッグ作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- エアバッグは一度膨らむと再使用できません。マツダ販売店で交換してください。
- 助手席エアバッグが膨らむときにフロントガラスが破損することがあります。

エアバッグの作動条件について

▼ エアバッグの作動条件について

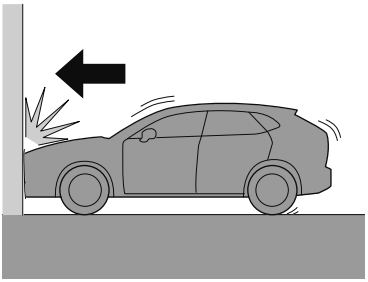
運転席/助手席エアバッグ、運転席ニーエアバッグは正面衝突において、サイド/カーテンエアバッグは側面衝突において、強い衝撃を受けたときに作動します。
車体の衝撃吸収ボディー構造により、乗員への衝撃は大きくならない場合があります。
したがって、車両の損傷が大きくてもエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

エアバッグが作動するとき

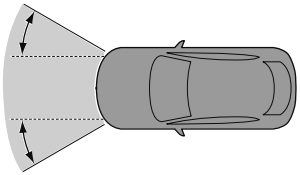
運転席/助手席エアバッグ、運転席ニーエアバッグ

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

・約 22 km/h 以上で固いコンクリートの壁などに正面衝突したときと同じ程度の衝撃を受けたとき

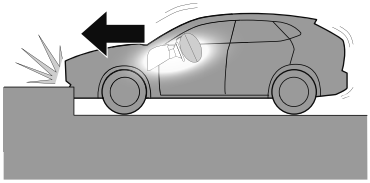


・正面衝突など車両の前方左右約 30°以内の方向から強い衝撃を受けたとき

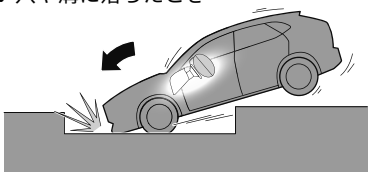


次のようなときには、路面などから車両下部に強い衝撃を受けると作動することがあります。

・中央分離帯や縁石などに衝突したとき



・深い穴や溝に落ちたとき

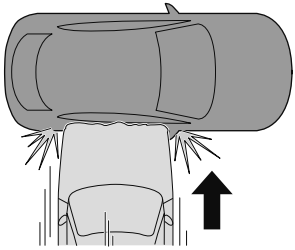


・ジャンプなどで地面にぶつかったとき



サイド/カーテンエアバッグ

車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)に衝突されたとき、衝撃が大きいと作動します。

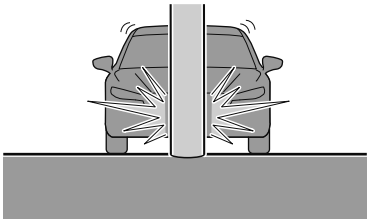


エアバッグが作動しにくいとき

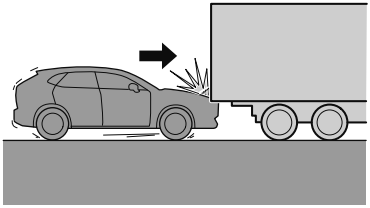
次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

運転席/助手席エアバッグ、運転席ニーエアバッグ

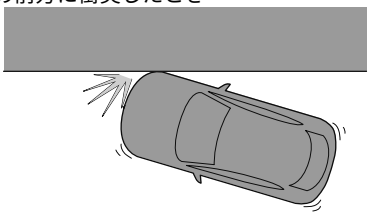
・立木や電柱に衝突したとき



・トラックの下などに潜り込んだとき

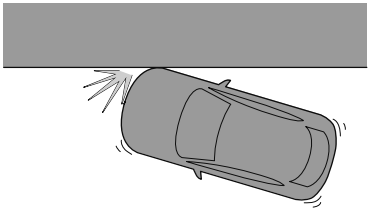


・斜め前方に衝突したとき

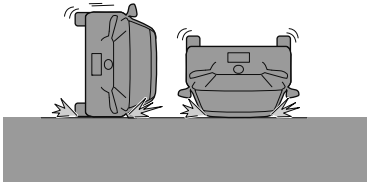


サイド/カーテンエアバッグ

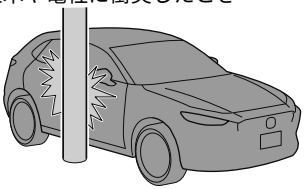
・斜め前方に衝突したとき



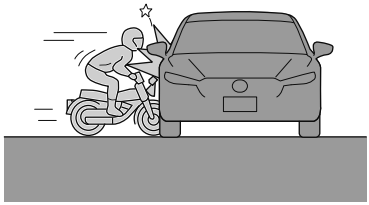
・横転や転覆したとき



・車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)から立木や電柱に衝突したとき



・2 輪車が側面に衝突したとき

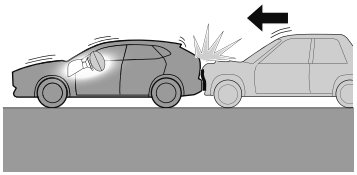


エアバッグが作動しないとき

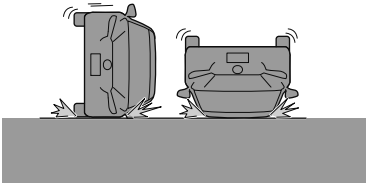
次のようなときには作動しません。

運転席/助手席エアバッグ、運転席ニーエアバッグ

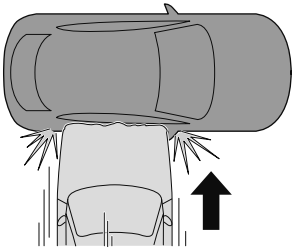
・後ろ方向から衝突されたとき



・横転や転覆したとき

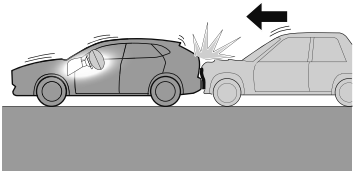


・横方向から衝突されたとき

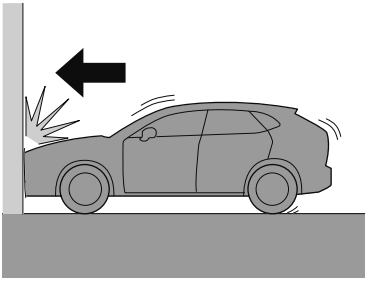


サイド/カーテンエアバッグ

・後ろ方向から衝突されたとき



・正面衝突したとき



MEMO

3 運転する前に

運転する前に必要な操作と取り扱い

電気自動車とは.....3-2
電気自動車とは.....3-2
充電について.....3-9
給電について.....3-21

キー.....3-26
キーについて.....3-26
キーレスエントリーシステム機能を使っての操作.....3-29

アドバンストキーレスエントリーシステム.....3-30
アドバンストキーレスエントリーシステム.....3-30

ドア.....3-31
ドアの開閉.....3-31

リアゲート.....3-38
リアゲートの開閉.....3-38

トノカバー.....3-40
トノカバーの使いかた*.....3-40

ミラー.....3-41
ミラーの操作.....3-41

ウインドー.....3-44
窓ガラスの開閉.....3-44

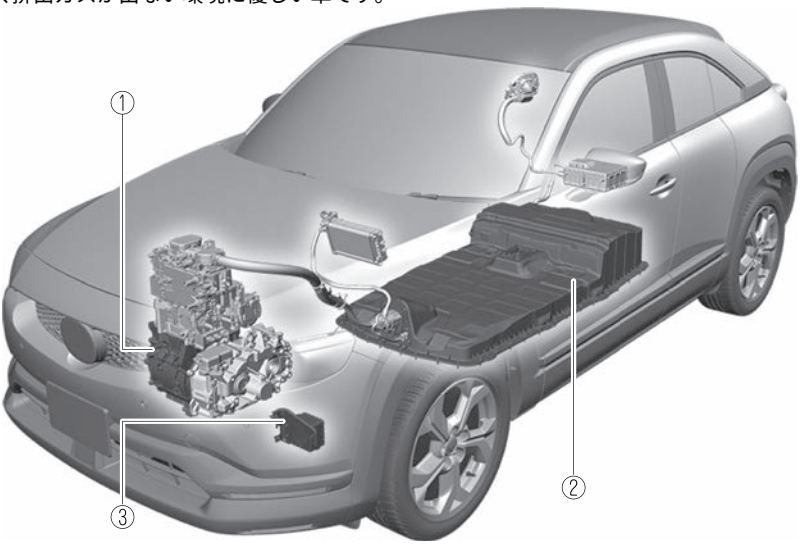
盗難防止システム.....3-46
イモビライザーシステム.....3-46

*グレード/仕様別装備

電気自動車とは

▼ 電気自動車とは

電気自動車は、駆動用バッテリーに蓄えた電力を利用して、モーターの動力で走行します。燃料を使わないため、排出ガスが出ない環境に優しい車です。



1. モーター、回生ブレーキ
2. 駆動用バッテリー
3. 車両接近通報装置

モーター

モーターは駆動用バッテリーの電力を使って、車輪に動力を伝えます。

回生ブレーキ

回生ブレーキとはモーターを利用して車を減速させることです。減速時に車輪がモーターを回転させることで発電し、発電した電力を駆動用バッテリーに充電しています。
→3-6 ページ「ステアリングホイールパドル」

駆動用バッテリー

駆動用バッテリーは大容量の蓄電池で、充電電力、回生ブレーキで発電した電力を蓄えます。

車両接近通報装置

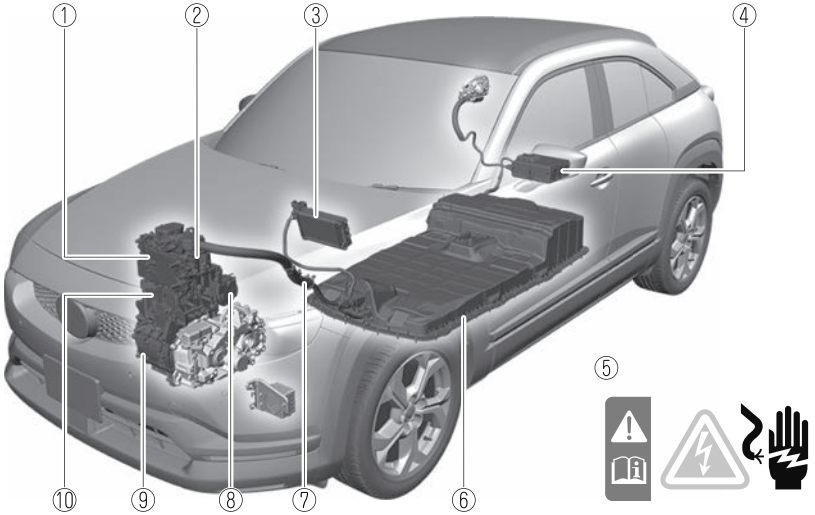
車両接近通報装置は、低速走行中に車両が接近していることを通報音で歩行者に知らせます。
→3-8 ページ「車両接近通報装置」

▼ 取り扱いに関する注意

電気自動車は、高電圧部位、高温部位があります。
高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼り付けてあります。必ずラベルの指示に従い、正しく取り扱いください。

⚠ 警告

高電圧部位に十分注意する。また、高電圧部品の分解、改造、取りはずしをしない。
次の部位は高電圧部品のため、触れると感電のおそれがあります。



1. DC-DC コンバーター
2. ジャンクションボックス
3. PTC ヒーター
4. 車載充電器
5. 警告ラベルの例
6. 駆動用バッテリー
7. 高電圧ケーブル
8. 電動コンプレッサー
9. モーター
10. インバーター

高温部位に十分注意する。
走行直後はモーターが高温になっている可能性があります。モータールーム内に貼り付けられているラベルの記載に必ず従ってください。

EV システム作動中、タイマーエアコン作動中、タイマー充電中、普通充電中、急速充電中はボンネットを開けない。
モータールーム内の冷却ファンが突然回転し、腕や衣類/アクセサリーなどがファンに接触したり、巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

▼ メンテナンスや修理について

お車のメンテナンスや修理する場合はマツダ販売店にご相談ください。
駆動用バッテリー取り扱いには、専門的な知識と技術が必要です。

⚠ 警告

駆動用バッテリーを安全に取り扱うために、次のことを必ず守る。

- 駆動用バッテリーを取りはずさない。
- 駆動用バッテリーを転売、譲渡、改造しない。
- 駆動用バッテリーを装備された車両以外で使用しない。

適切に取り扱わないと次のようなことが起こり、重大な傷害につながるおそれがあります。

- 放置された駆動用バッテリーに触れてしまい感電事故が発生する。
- 装備された車両以外で駆動用バッテリーを使用し (改造などを含む)、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する。

駆動用バッテリーの劣化/損傷を防ぐために次のことをお守りください。

・車両を極端な高温または低温環境下に長時間放置しない
・駆動用バッテリー残量計が Empty (残量 0) の状態で、14 日間以上放置しない

📖 知識

駆動用バッテリーには寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

▼ 使用済み自動車の廃車と駆動用バッテリーの廃棄について

駆動用バッテリーによる事故を防止するため、駆動用バッテリーの回収を行っています。お車を廃車にする場合、駆動用バッテリーを交換する場合、駆動用バッテリーを廃棄する場合などは、マツダ販売店にご相談ください。駆動用バッテリーが確実に回収できるようご協力ください。

⚠ 警告

駆動用バッテリーを適切に処理する。
駆動用バッテリーを放置または不法投棄するなど、適切に回収し廃棄しないと、第三者が駆動用バッテリーに触れる感電事故を引き起こし、重大な傷害につながるおそれがあります。

▼ 事故が起きたとき

衝突事故など車両に一定以上の衝撃が加わったときなど、EV システムが停止します。この場合 EV システム異常警告表示/警告灯が表示/点灯し、EV システムが始動できないときがあります。ただちにマツダ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

車室内および車室外にはみ出している電気配線には絶対に触らない。
感電など重大な傷害につながるおそれがあります。

電解液が付着している、電解液が漏れている場合は絶対にさわらない。
駆動用バッテリーの電解液が目や皮膚にふれると失明や皮膚障害のおそれがあります。万が一、目や皮膚に付着した場合はただちに大量の水で洗い流し、早急に医師の診断を受けてください。

火気や高温のものを絶対に近づけない。
駆動用バッテリーの電解液に引火するおそれがあります。
万が一、車両火災が発生したときは、消火器 (ABC、BC または C タイプ)を使用して消火する。

⚠ 警告

水で消火する場合は、消火栓など、大量の放水が可能な場合のみ行ってください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 電気自動車使用上のアドバイス

電気自動車特有の音と振動について

電気自動車は、通常の車と異なる特有の音や振動があります。次のような音や振動が発生することがありますが、電気車特有のもので、異常ではありません。

- モーターの作動音
- 充電中の冷却水のポンプおよび冷却ファンの作動音
- 回生ブレーキの作動音
- EV システム始動時、停止時のリレー作動音
- ブレーキシステムの作動音および振動

ブレーキシステムの作動音
次のような場合、車両前方から音が聞こえます。

- 運転席ドアを開けたとき
- 電源ポジションを ON にしたとき
- ブレーキペダルを操作したとき
- 自動でブレーキシステムが作動したとき
- EV システムを停止して数分経過したとき

ブレーキペダルの振動
次のような場合、ブレーキペダルに振動を感じるときがあります。

- 電源ポジションを ON にしたとき
- ブレーキペダルを操作したとき

駆動用バッテリーの残量と温度について

駆動用バッテリーの残量が少ない場合や温度が低い場合は、モーターの出力が制限されてアクセルペダルを踏んでも車速が上がらなくなることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに表示される内容にしたがって走行してください。

航続距離をのばすために

- 次のような操作を行なうことで走行中の消費電力が抑えられ航続距離をのばすことができます。
- 充電コネクターを接続した状態でエアコンを作動させ、お出かけ前に車内を快適な温度にする
- 走行中に寒いときは、エアコンの代わりにシートヒーターやステアリングヒーターを使用する
- エアコンの風量、設定温度を控えめに調整する
- 窓の曇りや凍結しているとき以外はデフォッガー (曇り取り) の使用を控える
- 不要な荷物を降ろし、車両重量を軽くする
- 不必要な急発進、急加速を避け、なめらかな発進、加速を行なう
- スピードを出し過ぎず、できるだけ一定のスピードで運転する
- タイヤの空気圧をこまめに点検し、常に規定の空気圧に調整する
- 車間距離を十分にとり、回生ブレーキを上手に使用することで、より多くの電力を駆動用バッテリーに充電することができます。

駆動用バッテリーの寿命をのばすためのポイント

駆動用バッテリーは 車両の保管の状態、充電方法によって寿命が変化します。
駆動用バッテリーの寿命をのばすために、次のことに気をつけてください。

充電するとき

- 必要以上の頻繁な充電を避ける。
- できるだけ急速充電を控え普通充電する。
- 常時満充電ではなく必要な分だけ充電する。
  上限充電量を設定することができます。
  →3-17 ページ「充電内容の設定」

駐車するとき

- 外気温が極端に高いまたは低い場所で車両を保管しない。
- 駆動用バッテリー残量が極端に少ないまま車両を放置しない。
- 運転終了後にセンターディスプレイに [バッテリークーリング] 作動通知が表示された場合は [作動させる] を選択する。

▼ ステアリングホイールパドル

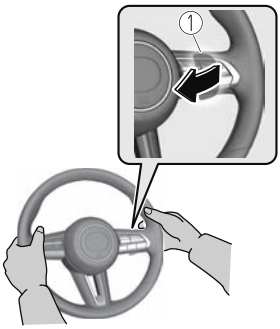
ステアリングホイールパドルは、アクセルペダル操作による車両速度の調整を容易にする機能です。
上り坂や下り坂、渋滞、高速走行など様々な走行状況に応じた車両の加速、減速ができます。

⚠ 警告

ぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、ステアリングホイールパドルの使用を避ける。
タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

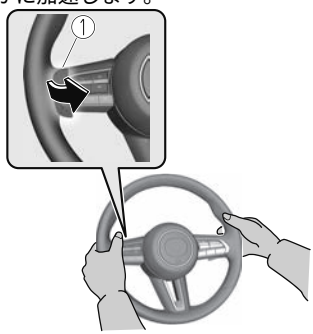
設定する

プラススイッチ (+/OFF) を操作すると、アクセルペダルから足を放した際の回生ブレーキ力を弱め、アクセルペダルを踏み込んだ際に素早く加速します。



1. プラススイッチ (+/OFF)

マイナススイッチ (–) を操作すると、アクセルペダルから足を放した際の回生ブレーキ力を強め、アクセルペダルを踏み込んだ際に緩やかに加速します。



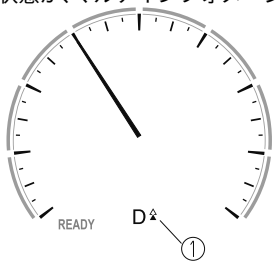
1. マイナススイッチ (–)

知識

・クルーズコントロールとマツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))、クルージング & トラフィック･サポート (CTS) が作動中はステアリングホイールパドルを使用することができません。
・以下の操作をおこなうとステアリングホイールパドルの設定は普通になります。
  ・プラススイッチ (+/OFF) を一定時間引き続けた場合
  ・セレクトレバーを D の位置から他の位置にした場合
  ・電源ポジションを OFF にした場合

表示

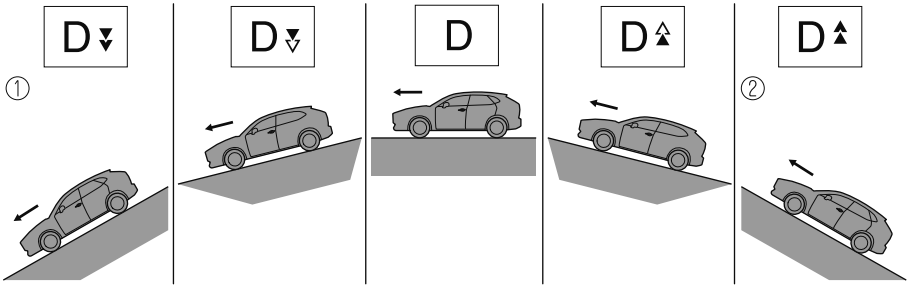
ステアリングホイールパドルの作動状態が、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



1. ステアリングホイールパドル表示

表示	スイッチ操作		回生ブレーキ力	加速
	プラススイッチ (+/OFF)	マイナススイッチ (–)		
D	-	↓	弱い	素早い
D	↑	↓	やや弱い	やや素早い
D	↑	↓	普通	普通
D	↑	↓	やや強い	やや緩やか
D	↑	-	強い	緩やか

活用シーン



1. 下り坂や渋滞などのとき
2. 上り坂や高速道路などのとき

知識

・駆動用バッテリー残量が多い場合や駆動用バッテリー温度が低い場合は回生ブレーキが制限されるため、マルチインフォメーションディスプレイの表示は変化しますが、回生ブレーキ力の変化は小さい、または変化しない場合があります。
・回生ブレーキ力が強いときは、ブレーキランプが点灯する場合があります。

▼ 車両接近通報装置

車両接近通報装置は、低速走行中に車両が接近していることを通報音で歩行者に知らせる装置です。
車両接近通報装置は次の条件のときに作動します。

・車両が発進して、車速が 30 km/h 以下のとき
・車両が減速して、車速が 25 km/h 以下になったとき
・セレクトレバーが P 以外の位置でブレーキペダルから足を放したとき

▼ 電子音

電子音は、音をスピーカーで車内に吹鳴させることにより、車両の挙動を運転者にお知らせするシステムです。
電子音は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

・セレクトレバーが N または P レンジ以外の位置のとき
・すべてのドア、リアゲートが閉まっているとき
・緊急ブレーキが作動していないとき

充電について

▼ 充電に関する注意

⚠ 警告

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器などの医療用機器を使用している方は、充電作業が医療用機器におよぼす影響を、医師や医療用機器製造業者などに確認する。
医療用機器の作動に影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器などの医療用機器を使用している方は、充電中に荷室を含む車内に入らない。
医療用機器の作動に影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

充電するときは、次のことを守る。
感電するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- お子さまに充電させない
- ボディカバーをかけたまま充電しない

雨や雪の中で充電するときは、次のことを守る。
感電するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 大雨、強風、落雷のおそれがあるときは、屋外で充電しない
- 充電コネクターや充電プラグが濡れているときは、布などで水をふき取る
- 充電ポートや充電ケーブルを、濡れた手で触らない
- 充電中にコンセント部分が雪で埋もれたときは、ブレーカーを落とすなどして電源を断った後、雪を除去して充電プラグをはずす

充電ケーブル付属の説明書を参照し、充電ケーブルを正しく使用する。
充電ケーブルの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

充電ケーブルに次のような異常がある場合は、充電ケーブルを使用しない。
感電するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 充電コネクター部が錆びたり、腐食したりしているとき
- 充電コネクター部に損傷があったり、異物が入ったりしているとき

充電ケーブルを使用するときは、次のことを守る。
充電ケーブルが破損するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 充電ケーブルを過度に引っ張ったり、折り曲げたりしない
- 充電ケーブルを踏んだり、引きずったりしない
- 充電コネクターおよび充電プラグを抜き差しするとき、過度にこじらない
- 接続した状態の充電コネクターに、体重をかけるなどの過度な力を加えない
- 高熱を発するもの (ヒーター、タバコなど) に充電ケーブルを近づけない
- 有機溶剤や、酸またはアルカリの溶剤を充電ケーブルに付着させない

⚠ 注意

- 駆動用バッテリーを充電しているときは、12V バッテリーにブースターケーブルを接続したり、12V バッテリーを取りはずしたりしないでください。車両や充電機器が破損するおそれがあります。
- 充電終了後に充電コネクターをはずしたら、すみやかに充電ポートキャップを閉めてください。充電ポートキャップが開いた状態で充電リッドを閉めると、水やゴミが充電ポートに入って故障の原因になります。

⚠ 注意

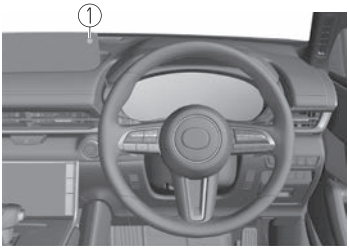
- 運転する前に必ず、充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認してください。充電コネクターが正しく接続されていれば走行できませんが、接続が浅いと走行できてしまうため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 充電ポートが凍結しているときは、ヘアドライヤーなどで解凍してください。凍結した状態で充電ケーブルを抜き差しすると、故障の原因になります。

知識

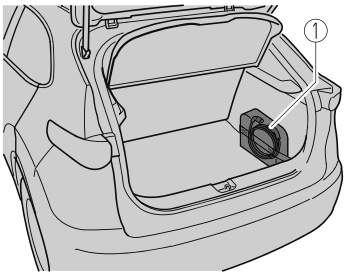
・普通充電と急速充電を同時に行なうことはできません。
・充電中でも、ナビゲーションシステムやエアコンを使用できます。ただし、電力を消費するため、充電時間は長くなります。場合によっては、消費量が充電量を超え、充電が終わらないことがあります。
・充電中に停電が発生したときは、充電プラグと充電コネクターを外し、最初から充電をやり直してください。
・充電前に充電コネクターや充電ポートに水がたまっていないことを確認してください。充電コネクターや充電ポートに異物が入り込んだときは充電せず、マツダ販売店にご相談ください。

▼ 充電前の準備

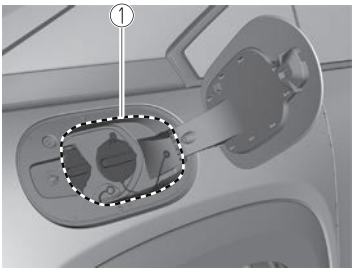
この車両は駆動用バッテリーに蓄えた電力を消費して走行するため、充電が必要です。
充電に関わる部品は、次の箇所に備え付けられています。



1. マツダコネクト



1. 充電ケーブル



1. 充電ポート

充電ケーブル

充電ケーブルは、電源と車両を繋ぎ、車両に電力を送る部品です。充電ケーブルに関する詳細は、充電ケーブル付属の説明書を参照してください。
基本的には、ご自宅に充電ケーブルを保管してください。充電ケーブルを車載される場合は、次の手順でしっかりと固定してください。

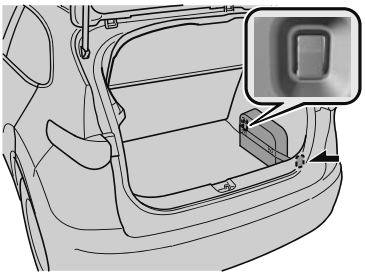
1. 充電ケーブルを、専用の収納バッグに収納します。
2. 収納バッグのフック 2 個を荷室内右側のラゲッジフック 2 箇所にそれぞれ取り付け、収納バッグを確実に固定します。このとき、収納バッグに取り付けられているロゴが、荷室中央を向くようにしてください。

⚠ 注意

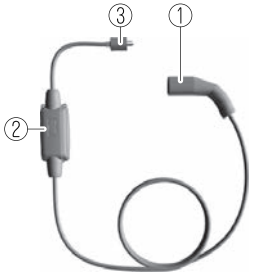
収納バッグのフックにはとがった部位があるため、取り扱いに注意してください。手や指などがとがった部位に触れると、けがをするおそれがあります。

知識

収納バッグのフックとラゲッジフックがぶつかると、音が鳴ります。運転中の接触音が気になる場合は、付属のシートをフックがぶつかる箇所に巻き付けてください。



充電ケーブルの構成部品は、次のとおりです。



1. 充電コネクター
2. コントロールボックス
3. 充電プラグ

充電コネクター

充電コネクターは、車両側の普通充電ポートと接続する部品です。
充電コネクターを普通充電ポートに接続すると、車両システムが充電コネクターをロックします。
車両システムによるロックは、運転席ドアを解錠すると解除されます。
運転席ドアを解錠しても車両システムによるロックが解除されない場合は、マツダ販売店にご相談ください。

車両システムによるロックの条件を変えることができます。変更手順については、「充電内容の設定」を参照してください。
→3-17 ページ「充電内容の設定」

コントロールボックス

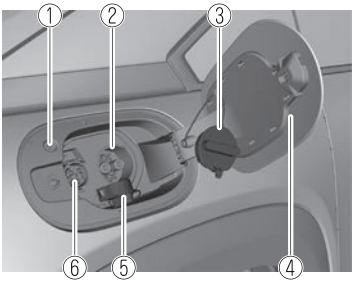
コントロールボックスは、表示灯を点灯/点滅させて充電状態を示します。
表示灯の点灯/点滅パターンについては、充電ケーブル付属の説明書を参照してください。

充電プラグ

充電プラグは、電源と接続する部品です。

充電ポート

充電ポートとは、充電コネクターを接続する場所周辺を総称したものです。
充電ポートの構成部品は、次のとおりです。



1. 充電インジケーター
2. 急速充電ポート
3. 急速充電ポートキャップ
4. 充電リッド
5. 普通充電ポートキャップ
6. 普通充電ポート

充電インジケーター

充電インジケーターは、点灯/点滅することによって充電状態を示します。
充電インジケーターの点灯/点滅パターンについては、「充電する」を参照してください。
→3-12 ページ「充電する」

急速充電ポート

急速充電ポートは、急速充電器の充電コネクターと接続する部品です。急速充電をするときに使います。

充電リッド

充電リッドの施錠/解錠は、ドアの施錠/解錠と連動します。
運転席ドアを解錠すると充電リッドが解錠され、運転席ドアを施錠すると充電リッドが施錠されます。
ただし、補助キーを使って運転席ドアを解錠する場合は、充電リッドが解錠されません。

知識

次の機能によって運転席ドアが施錠されるときは、運転席ドアの施錠と同時に充電リッドも施錠されます。

・車速感応式オートドアロック機能
・オートリロック機能

普通充電ポート

普通充電ポートは、充電ケーブルの充電コネクターと接続する部品です。普通充電をするときに使います。

バッテリーヒーター

バッテリーヒーターは、駆動用バッテリーの温度を適切に保つシステムです。
駆動用バッテリーの温度が低下すると走行性能や充電性能が低下するため、バッテリーヒーターによって駆動用バッテリーの温度を保つことで、性能の低下を抑制します。
駐車中または充電中に駆動用バッテリーの温度が著しく低下するとバッテリーヒーターが作動し、規定値まで温度が上昇すると停止します。
ただし、駆動用バッテリー残量が少ないときは、バッテリーヒーターは作動しません。

知識

・バッテリーヒーターは駆動用バッテリーの電力を使用するため、駐車中は充電コネクターを接続しておくことをおすすめします。
・長期間車両を使用しない場合は、マツダコネクトの「設定」でバッテリーヒーターを OFF にすることをおすすめします。
・バッテリーヒーターが作動したときは、充電時間が長くなる場合があります。

バッテリークーリング

運転終了後に駆動用バッテリー温度が 40°C以上の場合、駆動用バッテリーの寿命をのばすために駐車中に駆動用バッテリーを冷却させることが可能です。運転終了後、「バッテリークーリング」の通知がセンターディスプレイに表示された場合は、「作動させる」を選択することでバッテリークーリングが作動します。

知識

バッテリークーリングは駆動用バッテリーの電力を使用するため、バッテリークーリングを作動させるときは充電コネクターを接続しておくことをおすすめします。

▼ 充電する

充電の種類

駆動用バッテリーの充電方法には、普通充電と急速充電の 2 種類があります。
駆動用バッテリーの寿命をのばすためには、急速充電をなるべく避けて、普通充電をすることをおすすめします。

駆動用バッテリーの充電にかかる時間は、駆動用バッテリーの充電状態、経年数、温度などによって変わります。

普通充電

普通充電とは、日常的に行なう充電のことです。
最大 6 kW の電力で充電できます。
駆動用バッテリー残量警告表示/警告灯が点灯してから充電を開始した場合、満充電状態になるまでの時間は次のとおりです。

・**(3 kW 普通充電)**
およそ 12 時間
・**(6 kW 普通充電)**
およそ 5 時間

普通充電をする際は、充電開始から充電終了までを自動的に行なう、タイマー充電機能を利用できます。利用方法については、「充電内容の設定」を参照してください。
→3-17 ページ「充電内容の設定」

知識

6 kW 普通充電を行なう場合は、充電設備の工事が必要です。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

急速充電

急速充電とは、急速充電器を使用して短時間で行なう充電のことです。
駆動用バッテリー残量警告表示/警告灯が点灯してから充電を開始した場合、満充電状態になるまでにおよそ 40 分かかります。

警告

急速充電器を使用するときは、次のことを守る。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

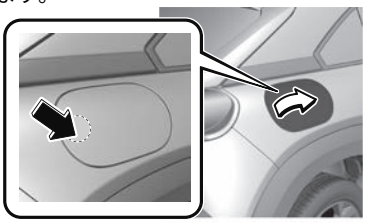
- 30 m を超える充電ケーブルを使用しないでください。
- 本車両の急速充電は、30 m 以内の充電ケーブルでの充電、または他の機器や車両と同時充電をしない急速充電器に対応しています。

注意

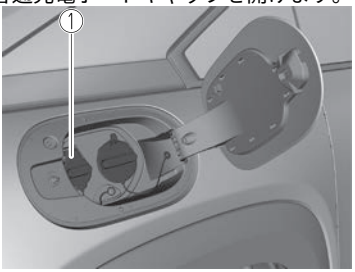
普通充電と急速充電を同時に行なうことはできません。充電の異常停止につながりますので、充電コネクターを両方の充電ポートに接続しないでください。

普通充電のしかた

1. セレクトレバーを P の位置にします。
2. 電源ポジションを OFF にします。
3. 図に示す箇所を押して、充電リッドを開けます。

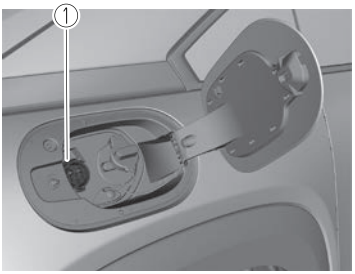


4. 普通充電ポートキャップを開けます。



1. 普通充電ポートキャップ

5. 充電プラグをコンセントに接続します。
6. 充電コネクターを普通充電ポートに接続します。接続が完了すると、充電が開始されます。



1. 普通充電ポート

知識

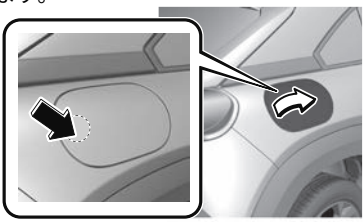
タイマー充電が設定されているときは、充電コネクターを接続しても充電が開始されません。すぐに充電を始めたいときは、タイマー充電キャンセルの機能を使用してください。

充電中に車から離れるときは、必ずドアを施錠してください。
7. 充電が終わったら、充電コネクターのロックを解除するためにドアを解錠します。
8. 充電コネクターをはずします。
9. 普通充電ポートキャップを閉めます。
10. 充電リッドを閉めます。
11. 充電プラグをはずします。

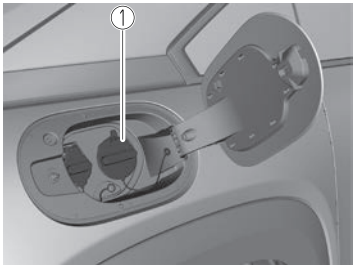
車から離れるときは、必ずドアを施錠してください。

急速充電のしかた

1. セレクトレバーを P の位置にします。
2. 電源ポジションを OFF にします。
3. 図に示す箇所を押して、充電リッドを開けます。

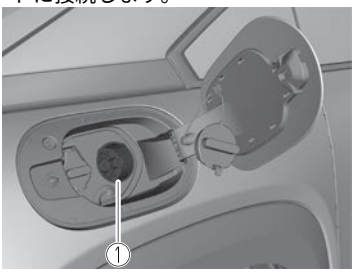


4. 急速充電ポートキャップを開けます。



1. 急速充電ポートキャップ

5. 急速充電器の充電コネクターを急速充電ポートに接続します。



1. 急速充電ポート

6. 急速充電器を操作して、充電を開始します。

注意

急速充電器を操作するときは、必ず急速充電器本体の取り扱い表示に従ってください。操作を誤ると、急速充電器や車両が破損するおそれがあります。

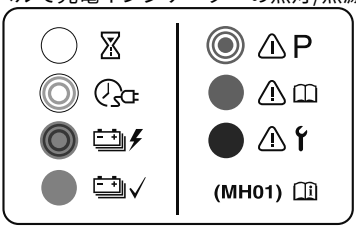
充電中に車から離れるときは、必ずドアを施錠してください。
7. 充電が終わったら、充電コネクターのロックを解除するためにドアを解錠します。
8. 充電コネクターをはずします。
9. 急速充電ポートキャップを閉めます。
10. 充電リッドを閉めます。

車から離れるときは、必ずドアを施錠してください。

▼ 充電状態の確認

充電インジケーター

充電リッドに貼り付けているラベルで充電インジケーターの点灯/点滅パターンを確認できます。

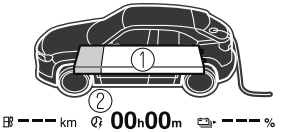


充電インジケーターの点灯/点滅パターン		内容
—	消灯	充電が可能な状態を示します。
○ (白)	点灯	充電の開始を待機しているときに点灯します。
◎ (白)	ゆっくり点滅	タイマー充電を設定すると点滅します。
◎ (緑)	ゆっくり点滅	充電中に点滅します。
● (緑)	点灯	充電が完了すると点灯します。 充電完了後、一定時間が経過すると消灯します。
◎ (橙)	点滅	充電コネクターを接続したとき、セレクトレバーが P 以外の位置あると点滅します。 セレクトレバーを P の位置にしてください。
● (橙)	点灯	充電コネクターを接続したとき、充電システムに異常があると点灯します。 時間を空けてから、充電コネクターを再接続してください。
● (赤)	点灯	充電システムが故障しているときに充電リッドを開く/充電コネクターを接続すると点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ

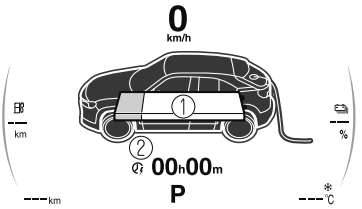
充電コネクターを接続した状態で、運転席のドアを開けるとマルチインフォメーションディスプレイに充電状態を表示します。

パワースイッチ OFF



1. 駆動用バッテリー表示
2. 充電完了時間

パワースイッチ ON



1. 駆動用バッテリー表示
2. 充電完了時間

駆動用バッテリー表示		内容
—	充電準備中	タイマー充電キャンセル中かつ充電コネクター接続時に表示します。
—	タイマー充電待機中	タイマー充電モードかつ充電コネクター接続時に表示します。
	充電中	充電中に表示します。
	充電完了	充電が完了したときに表示します。
	充電条件不成立セレクトレバーを P に入れてください	セレクトレバーが P 以外の位置のときに充電を開始とすると表示します。
	充電中断取扱説明書を確認してください	充電が中断した場合に表示します。
	充電不可点検を受けてください	充電システムの異常などにより、充電ができない場合に表示します。

知識

充電を開始すると充電状態画面が表示されます。一定の時間が経過するか、またはドア、リアゲートを施錠すると、充電状態画面は非表示になります。
ドア、リアゲートを解錠すると、再度表示されます。

▼ 便利な機能

タイマー充電

タイマー充電とは、あらかじめ設定された時刻に従って、自動的に充電を行なう機能です。
この機能を使うことにより、電気料金が安い時間帯に充電できます。また、上限充電量を設定して充電できます。
設定方法については、「充電内容の設定」を参照してください。
→3-17 ページ「充電内容の設定」

タイマー充電キャンセル

タイマー充電の設定を一時的にキャンセルして、すぐに充電を始めることができます。
設定方法については、「充電内容の設定」を参照してください。
→3-17 ページ「充電内容の設定」

タイマーエアコン

タイマーエアコンとは、あらかじめ設定された時刻に従って、自動的に冷房または暖房を作動させる機能です。
お出かけ前にエアコンを作動させ車内を快適な温度にすることで走行を始めてからのエアコン消費電力を抑えられます。
設定方法については、「タイマー予約でエアコンをつけるとき(タイマーエアコン)」を参照してください。
→6-11 ページ「タイマー予約でエアコンをつけるとき(タイマーエアコン)」

充電コネクターロック

充電コネクターロックとは、車両に接続された充電コネクターをロックして抜けなくする機能です。
場所や状況に応じて充電コネクターのロック条件を使い分けることができます。
設定方法については、「充電内容の設定」を参照してください。
→3-17 ページ「充電内容の設定」

・**挿入時にロック**
充電コネクターが接続されると同時にロックします。運転席ドアが解錠されると解錠後 1 分間アンロックします。
次のような場所/状況で充電する場合に設定してください。

  ・屋外駐車場
  ・充電施設で、お客様の充電ケーブルを使用して充電するとき

・**充電中のみロック**
充電中のみ充電コネクターをロックします。充電が終了すると充電コネクターをアンロックします。また、充電中でも運転席ドアが解錠されると解錠後 1 分間アンロックします。
順番待ちが発生する公共の充電ステーションなどで、充電中に車両から離れるときに設定してください。

・**ロックしない**
充電コネクターをロックしません。
次のような場所/状況で充電する場合に設定してください。

  ・シャッター付きの屋外駐車場
  ・公共の充電ステーションなどで、充電コネクターロックが禁止されているとき

スマートフォンを使用してできる機能

スマートフォンを使用して、離れた場所から駆動用バッテリーの残量確認、充電の操作やエアコンの操作をすることができます。
詳しくは、コネクティッドサービスのオーナーズマニュアルを参照してください。

▼ 充電内容の設定

充電の設定のしかた

1. マツダコネクトのホーム画面から、“設定”を選択します。
2. 設定画面から、“EV システム”を選択します。
3. 表示された内容から、設定を変更したい項目を選択します。

タイマー充電キャンセル

タイマーを一時的にキャンセルし、すぐに充電を開始します。

機能
有効、無効

知識

・電源ポジションを OFF にしたときにセンターディスプレイに表示される画面でも、タイマー充電をキャンセルできます。
・タイマー充電キャンセル後、充電が完了するとタイマー充電設定が復帰します。

タイマー充電設定

タイマー充電の条件を設定します。

機能	設定内容	
1 ----	有効、無効*1	編集、削除*2
2 ----		
3 ----		
4 ----		
5 ----		
6 ----		
7 ----		

*1 カーソルで選択しているリストの設定がされている場合は、有効/無効を切り替えることができます。
*2 カーソルで選択しているリストから右スライドすると編集/削除が選択できます。

知識

12 V バッテリー脱着直後や一度も GPS を受信していないときは、タイマー充電は作動しません。GPS を受信していない状態で充電すると即時充電が開始されます。GPS を受信するとタイマー充電が作動可能になります。

編集

機能	設定内容
開始時刻 タイマー充電の開始時刻を設定します。	時刻 (10 分間隔)
終了時刻 タイマー充電の終了時刻を設定します。	時刻 (10 分間隔)
繰り返し 繰り返しをする曜日を設定します。	月曜日 — 日曜日
充電量設定 充電量の設定方法を選択します。	SOC で設定、走行予定距離で設定
上限 SOC*1 駆動用バッテリーの上限充電量を設定します。	100% % — 10% % (10 段階)
走行予定距離*2 駆動用バッテリーの上限充電量を設定します。	距離 (10 km 間隔)

*1 “充電量設定” で “SOC で設定” を選択している場合に切り替えることができます。必要な充電量のみ充電したいときに使用します。節電やバッテリー劣化を抑止することができます。
*2 “充電量設定” で “走行予定距離で設定” を選択している場合に切り替えることができます。

予定している走行距離に応じて充電したいときに使用します。
走行状態や周辺環境によって走行可能距離は変動します。航続可能距離を確認してください。

知識

・**繰り返しで曜日を設定している場合**
繰り返しを一つでも設定している場合、設定された曜日で毎週繰り返して充電されます。
繰り返しの表示は、設定されている曜日によっては平日、休日、毎日とまとめて表示しますが、それ以外ではカスタムと表示されます。

設定の例

機能	設定内容
開始時刻	21:00
終了時刻	6:00
繰り返し	金曜日
充電量設定	SOC で設定
上限 SOC	80 %

この場合、毎週金曜日 21:00―土曜日 6:00 に充電されます。ただし上限 SOC が 80%に達したら、終了時刻前であっても充電を停止します。

・**繰り返しで曜日を設定していない場合**
繰り返しの曜日を一つも指定していない場合、設定している時刻で一回だけ充電を行います。

設定の例 (13:00 時点で下記の設定を行ったとき)

機能	設定内容
開始時刻	12:00
終了時刻	18:00
繰り返し	一度のみ

知識

機能	設定内容
充電量設定	走行予定距離で設定
走行予定距離	50 km

この場合、充電コネクターを接続するとすぐに充電が開始され、当日の 18:00 まで充電されます。
ただし、50 kmを走行できる充電量に達したら、終了時刻前であっても充電を停止します。

設定の例 (13:00 時点で下記の設定を行ったとき)

機能	設定内容
開始時刻	1:00
終了時刻	8:00
繰り返し	一度のみ
充電量設定	SOC で設定
走行予定距離	100 %

この場合、翌日 1:00―翌日 8:00 に充電されます。ただし上限 SOC が 100%に達したら、終了時刻前であっても充電を停止します。

普通充電の上限 SOC

普通充電時の駆動用バッテリーの上限充電量を設定します。

変更内容
100% ― 10% (10 段階)

知識

タイマー充電の上限 SOC は、各タイマー充電設定で設定してください。

急速充電の上限 SOC

急速充電時の駆動用バッテリーの上限充電量を設定します。

変更内容
100% ― 10% (10 段階)

充電コネクタロック

普通充電時に充電コネクタをロックする条件を設定します。

変更内容
充電中のみロック 充電終了もしくはドアのアンロックで解除します。
挿入時にロック ドアをアンロックすると解除します。
ロックしない いつでも充電コネクタを取り外せます。

バッテリーヒーター

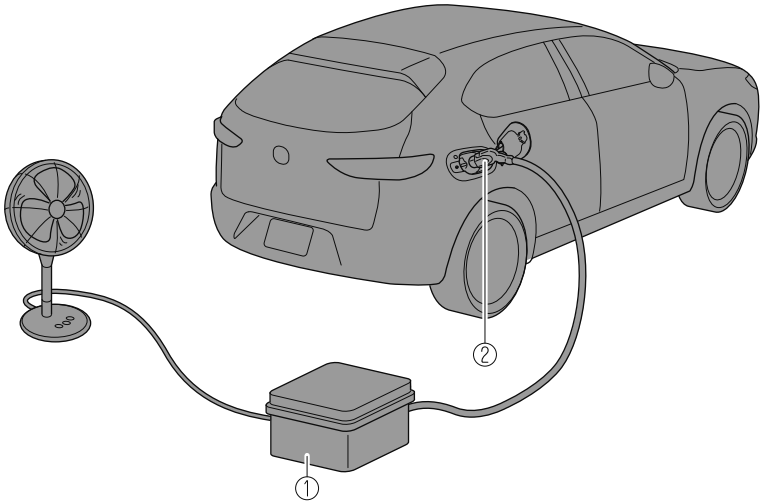
バッテリーヒーターが動作する条件を設定します。

変更内容
自動、OFF

給電について

▼ 給電システム

所定の外部給電器*1*2 を使うことで、駆動用バッテリーに蓄えた電力を電気製品に供給できます (V2L)。
このシステムは、駆動用バッテリーを充電するものではありません。また、家庭に電力を供給する機器 (V2H) には対応していません。



1. 外部給電器
2. 給電コネクター

*1 一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版に準拠した外部給電器

*2 外部給電器が系統連系などの機能を有する場合は、給電できないことがあります。詳しくは、外部給電器の製造業者または販売業者にご相談ください。

給電に関する注意

⚠ 警告

給電するときは、次のことを守る。
火災や感電など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 坂道に停車した状態で給電しない。
- 換気の悪い場所では給電しない。
- 落雷のおそれがある場合は、屋外で給電しない。
- 可燃物や危険物を車両の近くに置かない。
- 急速充電ポートに触れない。
- 急速充電ポートに破損が見受けられる場合は給電しない。
- 急速充電ポートに異物が付着している場合は給電しない。雪や水が付着している場合は、取り除いてから給電する。

⚠ 警告

- 電気製品の電源を ON にした状態で外部給電器に接続しない。
- 急速充電ポートと給電コネクターの間に、延長ケーブルなどを使用しない。
- ボディーカバーをかけたまま給電しない。
- 外部給電器を接続したまま洗車しない。
- 給電コネクターが車両に接続されているときは、セレクトレバーを操作しない。
- 給電中はボンネットを開けない。
- 所定の外部給電器以外のものを使用しない。

外部給電器および電気製品に付属する取扱説明書を参照し、注意事項を守る。
注意事項を守らずに給電すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器などの医療用機器を使用している方は、次のことを守る。
医療用機器の作動に影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 給電中は荷室を含む車内に入らない。
- 給電中は、車両、外部給電器、ケーブルに近付かない。

⚠ 注意

給電システムの故障を防ぐために、次のことをお守りください。

- 急速充電ポートキャップに強い衝撃を与えないでください。
- 給電コネクターを抜き挿しするときに、過度な力を加えないでください。
- 給電中は、給電コネクターや給電ケーブルに過度な負荷をかけないでください。
- 給電中に給電コネクターや給電ケーブルから異常な発熱を感じた場合は、すぐに使用を中止してください。
- 給電を停止する場合は、先に電気製品の電源を OFF にしてください。
- 充電機能を有する外部給電器もありますが、この車両では外部給電器を使って充電しないでください。

知識

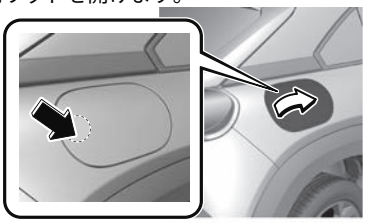
- 外気温が低いときは、外部給電器を起動できないことがあります。
- 外気温が低いときまたは高いときは、給電を停止することがあります。使用する電気製品を減らして再度給電してください。
- 給電コネクターが車両に接続されているときは、EV システムを始動できません。
- EV システムが作動しているときに給電コネクターを車両に接続すると、EV システムは自動的に停止します。
- 給電コネクターが車両に接続されているときは、セレクトレバーを P の位置から動かすことができません。
- 給電中は、車両から作動音がします。
- テレビやラジオなどの電気製品に給電する場合は、電気製品から雑音がすることがあります。

知識

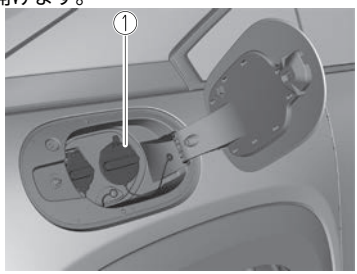
・大電流が瞬間的に流れる電気製品 (電動工具や電子レンジなど) を使用した場合は、車両または外部給電器の保護機能が働いて給電を停止することがあります。

給電を開始する

1. 風通しのよい、地面が平らな場所に駐車します。
2. セレクトレバーを P の位置にします。
3. パーキングブレーキをかけます。
4. 電源ポジションを OFF にします。
5. 図に示す箇所を押して、充電リッドを開けます。

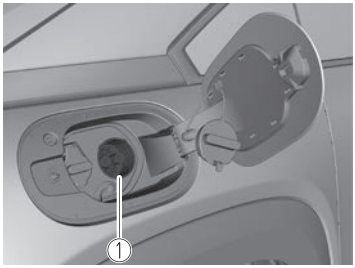


6. 急速充電ポートキャップを開けます。



1. 急速充電ポートキャップ

7. 外部給電器の取扱説明書に従って、給電コネクターを急速充電ポートに接続します。



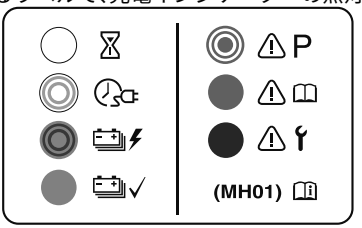
1. 急速充電ポート

8. 外部給電器の 12V 電源ケーブルを、電源ソケットに接続します。
→6-33 ページ 「電源ソケット」

9. 電源ポジションを ON にします。
10. 外部給電器の取扱説明書に従って、給電を開始します。

給電状態の表示

充電リッドに貼り付けられているラベルで、充電インジケーターの点灯/点滅パターンを確認できます。



充電インジケーターが給電状態を示します。

充電インジケーターの点灯/点滅パターン		内容
—	消灯	給電が可能な状態を示します。
(白)	点灯	給電の開始を待機しているときに点灯します。
(緑)	点滅	給電中に点滅します。
(橙)	点灯	給電コネクターを接続したとき、給電システムに異常があると点灯します。また、駆動用バッテリー容量低下により給電を停止したときも点灯します。 給電システムに異常がある場合は、時間を空けてから給電コネクターを再接続してください。
(橙)	点滅	給電コネクターを接続したとき、セレクトレバーが P 以外の位置あると点滅します。 セレクトレバーを P の位置にしてください。

充電インジケーターの点灯/点滅パターン		内容
● (赤)	点灯	給電システムが故障しているときに給電コネクターを接続すると点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。

給電を停止する

1. 接続している電気製品の電源を OFF にします。
2. 外部給電器の取扱説明書に従って、外部給電器を停止します。
3. 外部給電器の取扱説明書に従って、給電コネクターをはずします。
4. 急速充電ポートキャップを閉めます。
5. 充電リッドを閉めます。
6. 電源ポジションを OFF にします。

知識

12V バッテリーがあがるおそれがありますので、必ず電源ポジションを OFF にしてください。

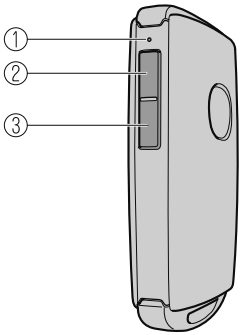
キーについて

▼ キー

知識

・キーは必ず運転者が携帯してください。
・**電池の寿命について**
電池の寿命は、約 1 年程度です。メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示された場合は、新しい電池と交換してください。
電池の消耗度合いによっては KEY 警告表示が表示されない場合もありますので、1 年を目安に電池の交換をおすすめします。

キー



1. 作動表示灯
2. ロックスイッチ (🔒)
3. アンロックスイッチ (🔓)

キーを携帯することにより、キーを取り出すことなく次のことができます。

・EV システムを始動する。

(アドバンストキーレス機能装備車)

・ドア、充電リッド、リアゲートを施錠/解錠する。
・リアゲートを開ける。

また、キーを使用してリモートコントロールをすることができます。
キーは 2 本あります。

節電機能

キーの節電機能を ON にすることで、アドバンストキーレスエントリー機能[*1] とキーを取り出すことなく EV システムを始動することができる機能が OFF となり、キーの電池消耗を抑えることができます。
節電機能が ON の状態でも、キーのスイッチ操作によるリモートコントロール機能は有効です。ただし、キーの作動表示灯は点灯/点滅しません。

節電機能を ON にするとき
次の操作によって節電機能を ON にしたとき、非常点滅灯とチャイム[*1] がそれぞれ 1 回作動します。
1. キーのロックスイッチを 3 秒以内に 4 回押して、作動表示灯を点灯させます。
2. 作動表示灯が点灯している間 (5 秒間) に、ロックスイッチを 1.5 秒以上押し続けます。
3. キーのいずれかのスイッチを押して、作動表示灯が点灯/点滅しないことを確認します。

節電機能を OFF にするとき
次の操作によって節電機能を OFF にしたとき、非常点滅灯とチャイム[*1] がそれぞれ 1 回作動します。
1. キーのいずれかのスイッチを押して、作動表示灯が点灯/点滅しないことを確認します。
2. キーのロックスイッチを 3 秒以内に 4 回押して、作動表示灯を点灯させます。
3. 作動表示灯が点灯している間 (5 秒間) に、ロックスイッチを 1.5 秒以上押し続けます。

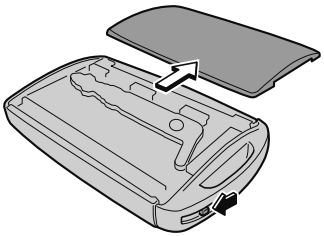
*1 アドバンストキーレス機能装備車

補助キー

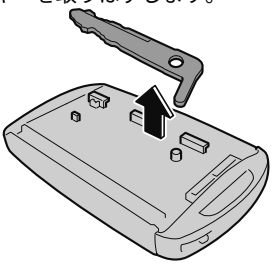
取りはずし可能な補助キーが、キー内部にあります。
補助キーは、運転席ドアの解錠に使用できます。

補助キーの取りはずしかた

1. ノブを矢印方向に押しながら、下側カバーを取りはずします。

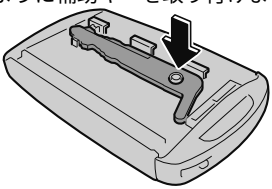


2. 補助キーを取りはずします。

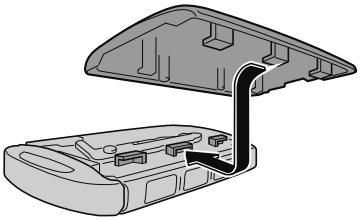


補助キーの取り付けかた

1. 図のように補助キーを取り付けます。



2. キーのスロットに下側カバーのツメを差し込むように、下側カバーを取り付けます。



キーナンバープレート

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーをもとに、マツダ販売店で補助キーを作ることができます。

- 車両以外の安全な場所にキーナンバープレートを保管してください。
- お客様以外の方にキーナンバーを知られないようにしてください。

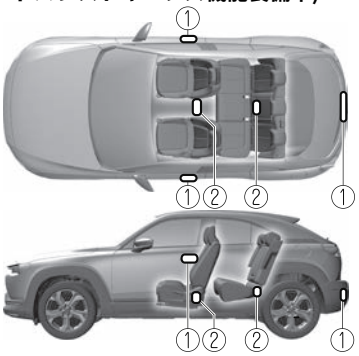


1. キーナンバープレート

キーの注意点

⚠ 警告

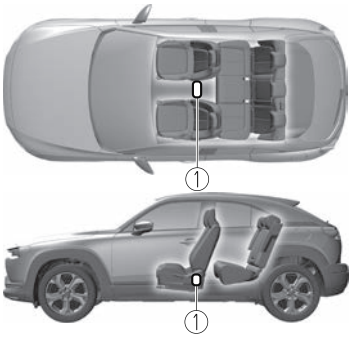
- **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の医療用機器を使用している方は、車内・車外のアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。**
  電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。
  (アドバンストキーレス機能装備車)



1. 車外のアンテナ
2. 車内のアンテナ

⚠ 警告

(アドバンストキーレス機能非装備車)



1. 車内のアンテナ

- **次にある以外の医療用機器を使用している方は、キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。**
  - 植え込み型心臓ペースメーカー
  - 植え込み型除細動器

  電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。
- キーを取り出すことなく EV システムを始動できる機能、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることもできます。
  ペースメーカーなどの医療用機器に悪影響をおよぼすおそれがあるため、キーを取り出すことなく EV システムの始動ができる機能を停止させることができます。 また、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることができます。
  詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- キーは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはキーが正常に作動しないことがあります。
  - 携帯電話などの通信機器と一緒に携帯しているとき
  - 金属製のものに接したり、おおわれたりしているとき
  - パソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - 純正品以外の電子機器を取り付けたとき
  - 近くに電波を発する設備があるとき
- キーは強い電波を受信すると、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。
- キーの故障を防ぐために次のことをお守りください。
  - 強い衝撃を与えたり、ぬらしたりしないでください。
  - 分解しないでください。
  - 重い物を上に置かないでください。
  - 直射日光があたる場所や高温になるところに放置しないでください。
  - 磁石や金属などの磁気を帯びた製品を近づけないでください。
  - システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。
- 航空機内ではキーを操作しないでください。
  キーを航空機内へ持ち込むことは可能ですが、操作すると航空機の運航に支障をおよぼすおそれがあります。また、かばんやポケットなどで保管する場合は、キーのスイッチが容易に押されないように注意してください。

知識

・次のような場合は、キーの作動範囲が狭くなったり、作動しなくなったりすることがあります。

・電池が消耗しているとき
・強い電波、ノイズを受けているとき

・次のような場所にキーを置くと、EV システムの始動ができない場合があります。

・インストルメントパネルの周辺
・グローブボックスや小物入れなど

・荷室は作動範囲外ですが、EV システムの始動が可能になることがあります。
車外からでも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、EV システムの始動が可能になることがありますが、EV システムの始動は必ず運転席で行なってください。

・次のような場所にキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては、キーが車内にあってもドアが施錠される場合があります。

・インストルメントパネルの周辺
・グローブボックスや小物入れなど
・携帯電話などの通信機器の近く

キーを追加するとき

別売りのキーをお求めいただけます。お手持ちのキーとあわせて、同じ車両で 6 個まで使用することができます。キーには特有の電子コードが含まれていますので、マツダ販売店以外でキーを追加することはできません。キーを追加するときは、マツダ販売店にご相談ください。

キーを紛失したとき

キーを紛失された場合は、盗難防止のため、登録されている電子コードをマツダ販売店で消去することをおすすめします。
電子コードを消去するときは、今後使用するキーを再登録する必要がありますので、お手持ちのすべてのキーをマツダ販売店に持参してください。登録されていないキーでは EV システムを始動することはできません。
キーを紛失したときのために、スペアのキーを保管しておいてください。

キーレスエントリーシステム機能を使っての操作

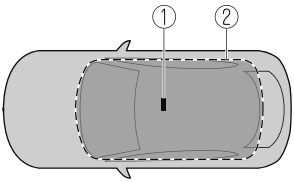
▼ キーレスエントリーシステムの機能を使っての操作*

キーレスエントリーシステムには、キーを取り出すことなく EV システムの始動ができる機能があります。
また、キーのスイッチを押すことにより、ドア、充電リッド、リアゲートの施錠/解錠ができるリモートコントロール機能があります。

機能の作動範囲

キーを携帯して作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

EV システムの始動



1. 車内のアンテナ
2. 作動範囲

アドバンストキーレスエントリーシステム

▼ アドバンストキーレスエントリーシステムの機能を使っての操作*

アドバンストキーレスエントリーシステムには、キーを取り出すことなく次のことができる機能があります。

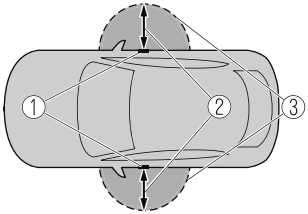
・EV システムを始動する。
・ドア、充電リッド、リアゲートを施錠/解錠する。
・リアゲートを開ける。

また、キーのスイッチを押すことにより、ドア、充電リッド、リアゲートの施錠/解錠ができるリモートコントロール機能があります。

機能の作動範囲

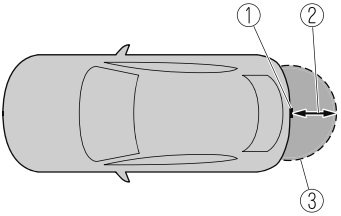
キーを携帯して作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

タッチセンサーによる施錠/解錠



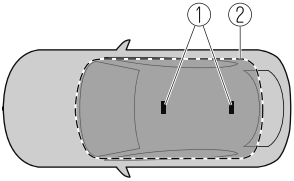
1. 車外のアンテナ
2. 80 cm
3. 作動範囲

電磁式リアゲートオープナーによる解錠/ロックスイッチによる施錠



1. 車外のアンテナ
2. 80 cm
3. 作動範囲

EV システムの始動



1. 車内のアンテナ
2. 作動範囲

 *グレード/仕様別装備

ドアの開閉

▼ ドアの開閉

⚠ 警告

- **半ドア警告灯/警告表示が点灯/表示したまま走行しない。**
  走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**
  ドアを急に開けると、後続車や歩行者がぶつかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **お子さまにドアの開閉をさせない。**
  手、足、首などをはさみ、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ドアを開閉するときは、強風や傾斜など周囲の状況を確認して開閉してください。指をはさんだり、ドアが通行人にあたったりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

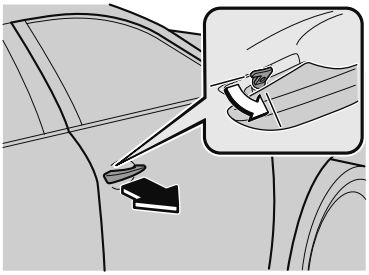
知識

・**衝撃感知ドアロック解除システム**
電源ポジションが ON のときに、エアバッグが展開するほどの強い衝撃を受けると、約 6 秒後にすべてのドア、リアゲートが自動的に解錠し、車外から乗員を救出できるようにします。
ただし、衝撃の加わり方や強さ、事故の状況によっては自動的に解錠されないことがあります。

▼ 補助キーによる解錠

補助キーを使うと、運転席ドアのみを解錠できます。
→3-26 ページ「キー」

運転席ドアのドアハンドルを引いたまま補助キーを差し込み、解錠側に補助キーをまわしてください。補助キーを抜くときは、もとの位置までもどしてから抜いてください。



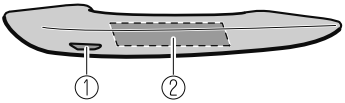
▼ キーによる施錠/解錠 (アドバンストキーレス機能装備車)

知識

・施錠/解錠するときにチャイムが鳴ります。
・チャイムの音量を変更したり、鳴らないようにしたりすることができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

タッチセンサー

タッチセンサーの感知エリアに触れることで、キーを取り出すことなく施錠/解錠できます。タッチセンサーには施錠用と解錠用の 2 つがあり、それぞれがフロントドアの外側ドアハンドルに内蔵されています。

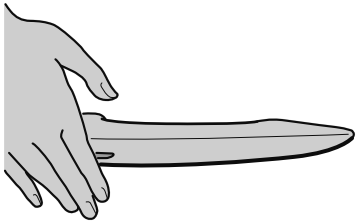


1. 施錠用タッチセンサーの感知エリア (ドアハンドルの外側のくぼみ)
2. 解錠用タッチセンサーの感知エリア (ドアハンドルの内側)

知識

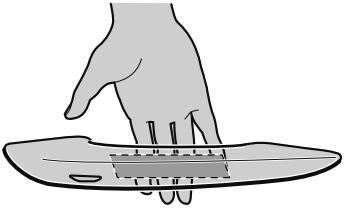
・施錠/解錠するときは、キーを携帯した状態で、次のようにタッチセンサーの感知エリアに確実に触れてください。

施錠

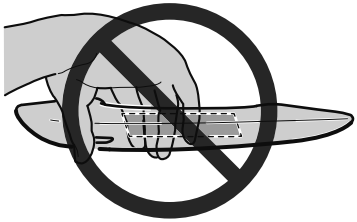


知識

解錠



・次のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。
  ・施錠用タッチセンサーの感知エリアと解錠用タッチセンサーの感知エリアに、同時に触れたとき



  ・手袋を着用してタッチセンサーの感知エリアに触れたとき
  ・タッチセンサーの感知エリアに、氷、雪、汚れなどの異物が付着しているとき
  ・タッチセンサーの感知エリアに触れてからすぐにドアハンドルを引いたとき
・キーが作動範囲内にある状態で、洗車や雨などでフロントドアの外側ドアハンドルに水がかかると、システムが作動することがあります。
・タッチセンサーの感知エリアに正しく触れても反応がないときは、いったん手を離してから再びタッチセンサーの感知エリアに触れてください。

施錠

施錠する場合は、次の条件をすべて満たして施錠用タッチセンサーの感知エリアに触れてください。

・キーを携帯しているとき
・電源ポジションが OFF のとき
・すべてのドアが閉まっているとき

施錠用タッチセンサーの感知エリアに触れると、次の箇所が施錠されます。

・すべてのドア
・充電リッド
・リアゲート

施錠が行なわれると、非常点滅灯とチャイムが1回作動します。

解錠

解錠する場合は、次の条件をすべて満たして解錠用タッチセンサーの感知エリアに触れてください。

・キーを携帯しているとき
・電源ポジションが OFF のとき
・運転席ドアが施錠されているとき
・施錠してから 3 秒以上経っているとき

解錠用タッチセンサーの感知エリアに触れると、次の箇所が解錠されます。

・すべてのドア
・充電リッド
・リアゲート

解錠が行なわれると、非常点滅灯とチャイムが2回作動します。

知識

・**オートリロック機能**
タッチセンサーの感知エリアに触れて解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合は、オートリロック機能により自動的に施錠されます。

・いずれかのドアまたはリアゲートを開ける。
・電源ポジションを OFF 以外にする。

自動的に施錠されるまでの時間を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

・**エリア離脱式オートロック機能**
タッチセンサーの感知エリアに触れなくても、エリア離脱式オートロック機能により自動的に施錠されるよう設定できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

知識

キーを携帯して、すべてのドア、リアゲートを閉めると、チャイムが 1 回鳴ります。そのまま作動範囲から出ると、すべてのドア、充電リッド、リアゲートが自動的に施錠されます (作動範囲から出なくても、約 30 秒後に自動的に施錠されます)。 ただし、次のようなときは施錠されません。

・車内に別のキーがあるとき
・運転席ドアが既に施錠されているとき
・いずれかのドアまたはリアゲートが開いているとき
・いずれかのドアまたはリアゲートを最後に閉めるときに、完全に閉まる前に作動範囲を出たとき

リモートコントロール機能

キーのスイッチを押すと、すべてのドア、充電リッド、リアゲートを施錠/解錠できます。

知識

・スイッチはゆっくりと確実に押してください。
・リモートコントロール機能の作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。

施錠

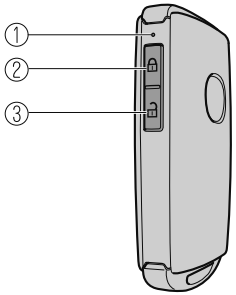
施錠する場合は、次の条件をすべて満たしてロックスイッチを押してください。

・電源ポジションが OFF のとき
・すべてのドアが閉まっているとき

施錠が行なわれると、非常点滅灯とチャイムが1回作動します。

解錠

電源ポジションが OFF の状態で、アンロックスイッチを押してください。
解錠が行なわれると、非常点滅灯とチャイムが 2 回作動します。



1. 作動表示灯
2. ロックスイッチ
3. アンロックスイッチ

知識

・スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。

・**オートリロック機能**
アンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合は、オートリロック機能により自動的に施錠されます。

・いずれかのドアまたはリアゲートを開ける。
・電源ポジションを OFF 以外にする。

自動的に施錠されるまでの時間を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ キーによる施錠/解錠 (アドバンストキーレス機能非装備車)

リモートコントロール機能

キーのスイッチを押すと、すべてのドア、充電リッド、リアゲートを施錠/解錠できます。

知識

・スイッチはゆっくりと確実に押してください。
・リモートコントロール機能の作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。

施錠

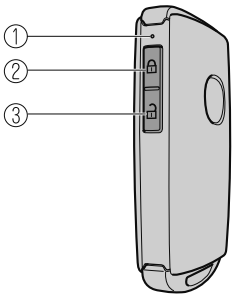
施錠する場合は、次の条件をすべて満たしてロックスイッチを押してください。

・電源ポジションが OFF のとき
・すべてのドアが閉まっているとき

施錠が行なわれると、非常点滅灯が 1 回作動します。

解錠

電源ポジションが OFF の状態で、アンロックスイッチを押してください。
解錠が行なわれると、非常点滅灯が 2 回作動します。



1. 作動表示灯
2. ロックスイッチ
3. アンロックスイッチ

知識

・スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。

・**オートリロック機能**
アンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合は、オートリロック機能により自動的に施錠されます。

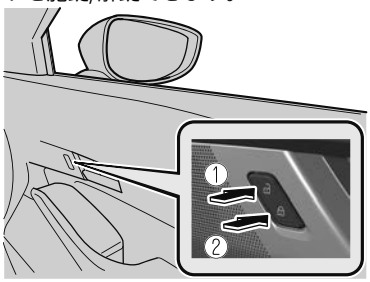
・いずれかのドアまたはリアゲートを開ける。
・電源ポジションを OFF 以外にする。

自動的に施錠されるまでの時間を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ ロックスイッチによる施錠/解錠

運転席ドアにあるロックスイッチ

すべてのドアが閉まっている状態でロックスイッチを押すと、すべてのドア、充電リッド、リアゲートを施錠/解錠できます。



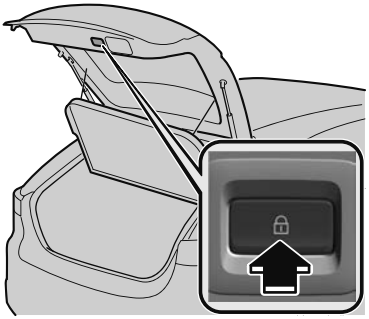
1. 解錠
2. 施錠

知識

・キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。
・ロックスイッチを押して施錠が行なわれた後、キーが車内にある状態でリアゲートが最後に閉まると、リアゲートのみが解錠されます。

リアゲートにあるロックスイッチ (アドバンストキーレス機能装備車)

ロックスイッチを押すと、すべてのドア、充電リッド、リアゲートを施錠できます。



ロックスイッチを使って施錠する場合は、次の条件をすべて満たしてロックスイッチを押した後、リアゲートを閉めてください。

・キーを携帯しているとき
・電源ポジションが OFF のとき
・すべてのドアが閉まっているとき

施錠が行なわれると、非常点滅灯とチャイムが 1 回作動します。

知識

・キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。
・ロックスイッチを押して施錠が行なわれた後、キーが車内にある状態でリアゲートが閉まると、リアゲートが解錠されます。

▼ 車速感応式オートドアロック

⚠ 警告

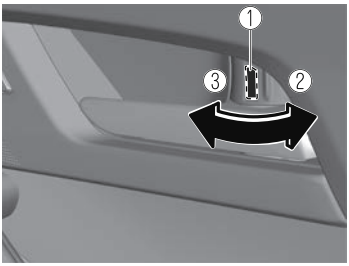
走行中に車内のドアハンドルを引かない。
不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

・車速が 20 km/h を超えると、すべてのドア、充電リッド、リアゲートが自動的に施錠されます。
・電源ポジションが ON の状態でセレクトレバーを P の位置にすると、すべてのドア、充電リッド、リアゲートが自動的に解錠されます。
・オート P (パーキングロック) 機能により、シフトポジションが P になるとすべてのドア、充電リッド、リアゲートが自動的に解錠されます。

この機能が作動しないように設定できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ ロックノブによる施錠/解錠

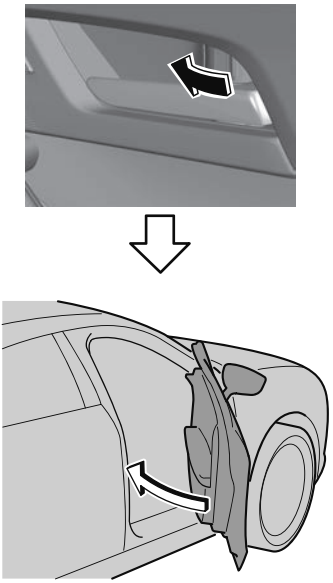
ロックノブを操作したドアを施錠/解錠できます。



1. 解錠時 : 赤色の表示
2. 解錠
3. 施錠

車外からロックノブを使って施錠するとき

ドアを開けた状態でロックノブを施錠側にした後、ドアを閉めると施錠できます。



知識

・キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。
・電源ポジションが ACC または ON のときに、いずれかのドアまたはリアゲートが開いている状態で運転席ドアのロックノブを施錠側にすると、キーの閉じ込めを防止するためにロックノブが解錠側にはね返ります。
・すべてのドアのノブをロック側に倒して、キーが車内にある状態で全てのドアが閉まると、すべてのドア、充電リッド、リアゲートが解錠されます。

▼ フリースタイルドア

フリースタイルドアはフロントドアとリアドアを観音開き式に開閉するドアです。

⚠ 注意

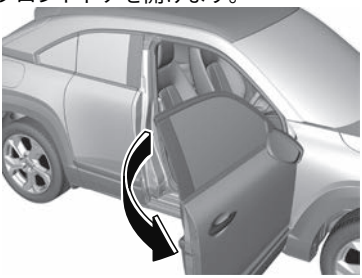
- フロントドアを先に閉めないでください。フロントドアを先に閉めた状態でリアドアを閉めるとフロントドアに傷がつくおそれがあります。
- リアドアを操作しているときは、フロントドアを閉めないでください。リアドアを操作しているときに、フロントドアを閉めると、乗り降りしている乗員がけがをするおそれがあります。
- リアドアを開けるときは、フロントドアに干渉しないことを確認してください。フロントドアの開き具合により、リアドアが干渉し傷がつくおそれがあります。

知識

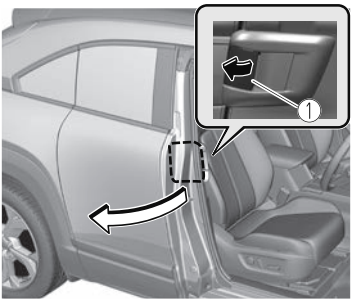
・リアドアのみを開けることができない構造のため、チャイルドプルーフ機構は装備されていません。
・リアドアを開ける前にフロントシートのシートベルトをはずしていることを確認してください。

開けるとき

1. フロントドアを開けます。



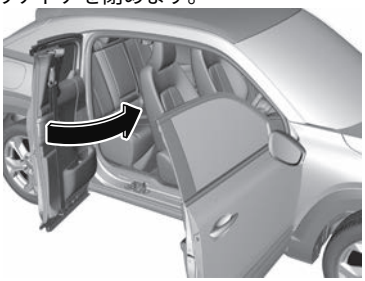
2. リアドアハンドルを引いて、リアドアを開けます。



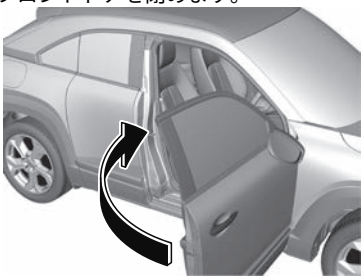
1. リアドアハンドル

閉めるとき

1. リアドアを閉めます。



2. フロントドアを閉めます。



リアゲートの開閉

▼ リアゲートの開閉

⚠ 警告

ラゲッジルーム内に人を乗せない。
急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

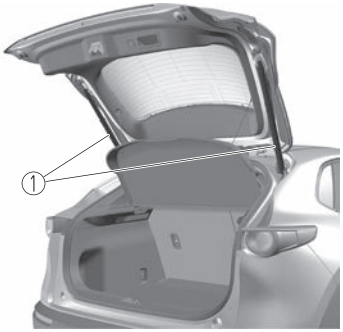
荷物を積むときはそのまま置いたり積み重ねたりせず、確実に固定する。
走行中に荷物が移動したりくずれたりしてけがや思わぬ事故につながるおそれがあります。また、シート背もたれの高さを越えないようにしてください。後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

⚠ 注意

- リアゲートを開ける前に、リアゲートから雪や氷などの付着物を取り除いてください。リアゲートを開けたときに、雪や氷などの重みでリアゲートが閉まり、けがをするおそれがあります。
- 強風時にリアゲートを開閉するときは、風にあおられないよう注意して開閉してください。リアゲートが急に閉まり、けがをするおそれがあります。
- リアゲートを開けるときは全開にして、リアゲートが止まることを確認してください。リアゲートを途中で止めると、振動や突風などでリアゲートが閉まり、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

- リアゲートのダンパーステーに手をかけるなどして過度の力を加えないでください。ダンパーステーが曲がり、リアゲートの作動に影響をおよぼすおそれがあります。

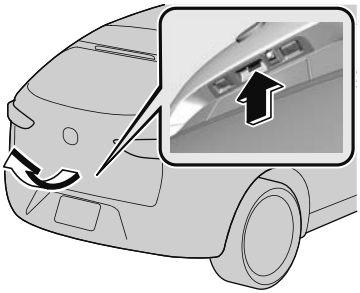


1. ダンパーステー

- リアゲートのダンパーステーを改造または交換しないでください。衝突などで変形または破損した場合や、異常を感じた場合はマツダ販売店へご相談ください。

リアゲートを開けるとき

ドアとリアゲートを解錠した状態で電磁式リアゲートオープナーを押し、リアゲートを持ち上げます。

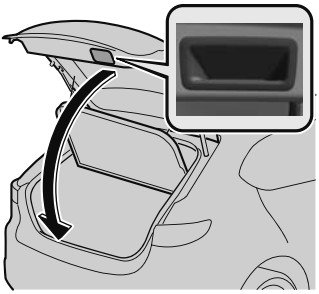


知識

・**(アドバンストキーレス機能装備車)**
  ・キーを携帯した状態で電磁式リアゲートオープナーを押すと、ドアとリアゲートが施錠されていてもリアゲートを開けることができます。
  ・ドアとリアゲートが施錠されている状態から、電磁式リアゲートオープナーを押してリアゲートを開けるときは、すぐに解錠されないことがあります。
  ・ドアが施錠されている状態で、車内にキーを入れたままリアゲートを閉めると、リアゲートは閉まりますが、施錠されません。電磁式リアゲートオープナーを押すことにより、リアゲートを開けることができます。この操作をしてもリアゲートを開けることができないときは、リアゲートを押さえつけるようにして完全に閉めてから、電磁式リアゲートオープナーを押して開けてください。
・電磁式リアゲートオープナーを押してリアゲートが少し浮いた後、そのままの状態で一定の時間が経過すると、リアゲートを開閉することができなくなります。その場合、もう一度電磁式リアゲートオープナーを押してリアゲートを開けてください。
・12V バッテリーあがりや電気系統の故障などで、リアゲートの解錠ができず開けられなくなったときは、応急処置を行なうとリアゲートを開けることができます。
→8-40 ページ「リアゲートが開けられなくなったとき」

リアゲートを閉めるとき

リアゲートをゆっくり下げて、押さえつけるように閉めてください。リアゲートリセスを使用すると便利です。



⚠ 警告

リアゲートを閉めた後は、リアゲートが確実に閉まっていることを確認する。
走行中にリアゲートが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

リアゲート開警告表示が表示したまま走行しない。
走行中にリアゲートが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

リアゲートを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

知識

リアゲートを閉めた後は、電磁式リアゲートオープナーを押さずにリアゲートを動かし、半ドアでないことを確認してください。

トノカバーの使いかた*

▼ トノカバーの使いかた

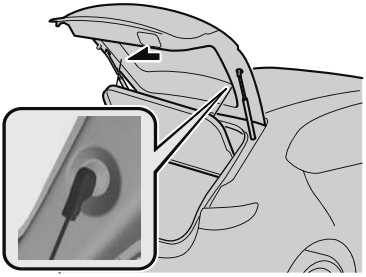
⚠ 警告

トノカバーの上には、荷物を置かない。
荷物を置いたまま走行すると、急ブレーキ時などに荷物が移動して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

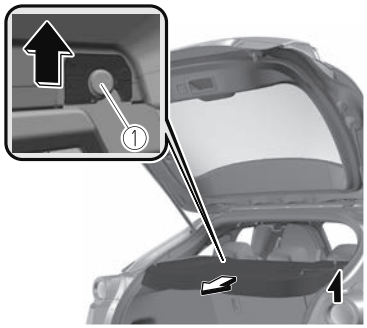
トノカバーが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないまま使用すると、走行中不意にトノカバーがはずれて、けがをするおそれがあります。

ストラップをリアゲートのフックにかけておくと、リアゲートと同時に開閉します。



▼ トノカバーを取りはずすとき

1. フックからストラップをはずします。
2. トノカバーのピンに近い部分を上方向に押して、トノカバーをピンからはずします。



1. ピン

3. トノカバーの前側を持ち上げ、トノカバーをはずします。

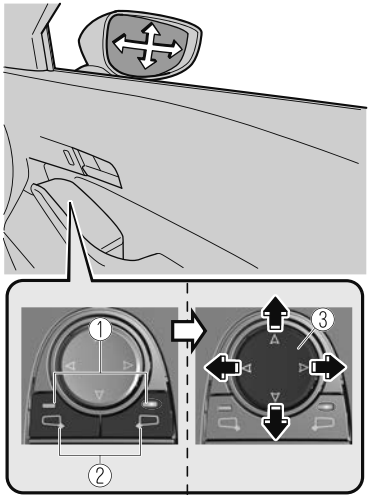
ミラーの操作

▼ ドアミラーの操作

ドアミラーの角度調節

電源ポジションが ACC または ON のときに、ドアミラーの角度を調節できます。

1. 調節するドアミラー側の選択スイッチを押して、表示灯を点灯させます。
2. 調節スイッチを操作して、ドアミラーの角度を調節します。



1. 表示灯
2. 選択スイッチ
3. 調節スイッチ

ドアミラーの角度を調節した後は、調節したドアミラー側の選択スイッチを押して、表示灯を消灯させてください。

知識

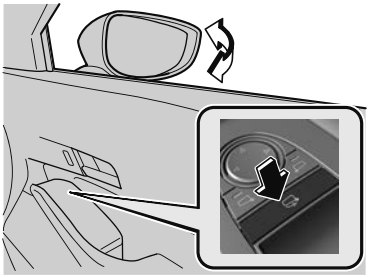
(パワーシート装備車)
ドライビングポジションメモリー機能に、ドアミラーの角度を記憶させることができます。
→2-7 ページ「ドライビングポジションメモリー機能」

ドアミラーの格納/展開

注意

ドアミラーは格納スイッチで操作してください。手動で操作すると、ドアミラーが固定されず後方確認ができなくなることがあります。

電源ポジションが ACC または ON のときに格納スイッチを押すと、ドアミラーが格納/展開されます。



自動格納機能

電源ポジションが OFF のときにドアを施錠/解錠すると、ドアミラーが自動的に格納/展開されます。
ドアミラーが格納されているときに、電源ポジションを ON または EV システムを始動すると、ドアミラーが自動的に展開されます。

知識

- 寒冷時には、ドアミラーが自動的に格納/展開されないことがあります。
  自動的に格納/展開されない場合は、氷や雪を取り除いてから格納スイッチを押し、ドアミラーを格納/展開してください。
- 自動格納機能の ON/OFF を切り替えることができます。
  →マツダコネクト取扱書 「設定」

知識

・次の場合は、ドアミラーが自動的に展開しなくなります。格納スイッチを押して、ドアミラーを展開してください。
  ・格納スイッチを押してドアミラーを格納したとき*1
  ・ドアミラーが自動で格納した後に、12Vバッテリー端子をはずしたとき

*1 ドアミラーを格納した後に、自動格納機能を OFF から ON に変更すると、ドアミラーが自動で展開するようになります。

キー OFF 後作動機能

電源ポジションを ON から OFF にした後でも、約 40 秒間はドアミラーの角度調節や格納/展開をすることができます。

リバース連動ドアミラー機能*

車両後退時に、ドアミラーを自動的に下向きにすることができます。後退を終えると、ドアミラーはもとの角度に戻ります。
1. 電源ポジションを ON にします。
2. 下向きにしたいドアミラー側の選択スイッチを押して、選択スイッチの表示灯を点灯させます。
3. セレクトレバーを R の位置にすると、選択スイッチを押した側のドアミラーが下向きになります。

知識

次のいずれかの条件を満たすと、ドアミラーがもとの角度にもどります。

・電源ポジションを ON 以外にしたとき
・セレクトレバーを R の位置以外にしたとき
・選択スイッチをもう一度押したとき

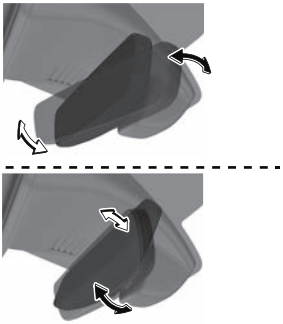
自動防眩機能*

オートタイプルームミラーの防眩機能と連動して、運転席側のドアミラーのみ後続車のヘッドランプの光を軽減します。

▼ ルームミラーの操作

ルームミラーの角度/高さ調節

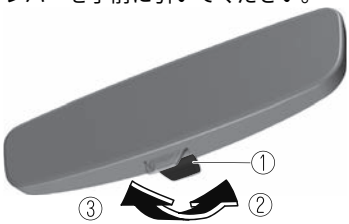
ミラー本体を動かして、後方を十分確認できるように調節してください。



防眩機能

マニュアルタイプ

通常はレバーを押した状態にしてください。
夜間などに後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引いてください。



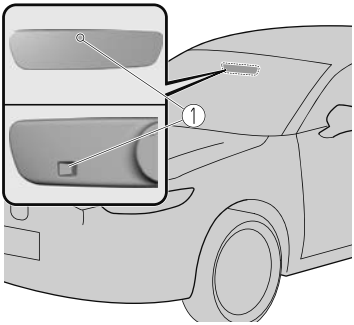
1. レバー
2. 昼間
3. 夜間

オートタイプ

電源ポジションが ON のとき、後続車のヘッドランプの光を自動的に軽減します。

知識

・**センサーについて**
センサーをガラスクリーナーでふいたり、ステッカーやカバーなどで覆ったりしないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。



1. センサー

・電源ポジションが ON のときにセレクトレバーを R の位置にすると、防眩機能は一時停止します。

窓ガラスの開閉

▼ 窓ガラスの開閉

⚠ 警告

窓ガラスを閉めるときは、同乗者の手や顔などをはさまないように注意する。
特にお子さまには十分気をつけてください。万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにパワーウインドースイッチを操作させない。
万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまが同乗しているときは、パワーウインドーロックスイッチをロックの位置にしておく。
お子さまが誤ってパワーウインドースイッチを操作したとき、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

窓から手や顔を出させない。
走行中にお子さまが窓から手や顔を出さないよう注意してください。車外の物にあたったり、急ブレーキを踏んだりしたとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

次の場合には、はさみ込み防止機構が作動しないことがあるため、指などをはさまないように注意してください。万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。

- 窓ガラスが閉まりきる直前
- スイッチを引き続けたままの状態

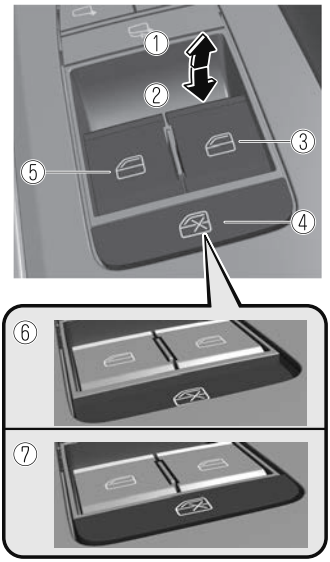
▼ 窓ガラスの開閉のしかた

電源ポジションが ON のときにパワーウインドースイッチを操作すると、窓ガラスを開閉できます。

パワーウインドースイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。

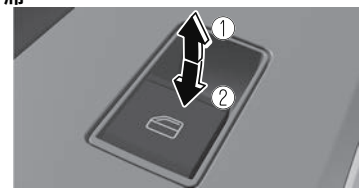
助手席の窓ガラスは、運転席ドアにあるパワーウインドーロックスイッチをアンロックの位置にしているときに開閉できます。

運転席



1. 閉める
2. 開ける
3. 運転席側スイッチ
4. パワーウインドーロックスイッチ
5. 助手席側スイッチ
6. ロック
7. アンロック

助手席



1. 閉める
2. 開ける

知識

パワーウインドースイッチを長時間操作し続けると、窓ガラスを開閉できなくなることがあります。
窓ガラスを開閉できないときは、しばらく待ってから再度スイッチを操作してください。

自動開閉機構

パワーウインドースイッチを操作し続けなくても、窓ガラスを全開/全閉できます。
パワーウインドースイッチを強く押すと自動で全開し、強く引き上げると自動で全閉します。
窓ガラスの開閉を途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作してください。

知識

自動開閉機構が作動しなくなったときは
窓ガラスが全閉していない状態でパワーウインドースイッチを何度も操作すると、自動開閉機構が作動しなくなることがあります。
次の操作で復帰させてください。
1. 電源ポジションを ON にします。
2. パワーウインドースイッチを押して窓ガラスを全開にします。
3. パワーウインドースイッチを引き上げて窓ガラスを全閉にし、そのまま約 2 秒間引き上げ続けます。

キー OFF 後作動機能

電源ポジションを ACC または OFF にした後でも、約 40 秒間は全席の窓ガラスを開閉できます。

▼ はさみ込み防止機構

窓ガラスが閉まる途中に、窓ガラスと窓枠との間に異物のはさみ込みを感知すると、窓ガラスが停止し、少し開きます。

知識

・次のようなときも、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
  ・窓ガラスが閉まる途中に強い衝撃を感知したとき
  ・極低温下で窓ガラスを閉めたとき
・**窓ガラスを閉められないときは**
はさみ込み防止機構が作動して窓ガラスを閉められないときは、窓枠の周囲に異物がないか確認してください。
窓枠の周囲に異物がなければ、次の操作で窓ガラスを強制的に閉めてください。
1. 電源ポジションを OFF にしてから、45 秒以上待ちます。
2. 電源ポジションを ON にします。
3. はさみ込み防止機構が作動して窓ガラスが止まるまで、窓ガラスを閉める方向にスイッチを操作します。この作業を計 5 回繰り返します。
4. スイッチを引き上げ続けて、窓ガラスを全閉にします。

イモビライザーシステム

▼ イモビライザーシステム

イモビライザーシステムは、あらかじめ登録されたキー以外では EV システムを始動できないようにする車両盗難防止装置です。
キーの電池が切れていたり、故障したりしているときは、電池切れ時の EV システム始動手順を行なうとイモビライザーシステムが解除され、EV システムを始動できます。

▼ システムの作動

電源ポジションを ON から ACC または OFF にすると、システムが作動してセキュリティ表示灯が点滅します。



▼ システムの解除

登録されたキーで電源ポジションを ON にすると、システムが解除されて EV システムを始動できます。このとき、セキュリティ表示灯は約 3 秒間点灯した後消灯します。

EV システムが始動しないときは

次のような場合は、EV システムの始動ができない場合があります。

- キーを (車内でも) 感知しにくい場所に置いている。
- 携帯電話、テレビ、ラジオ、トランシーバーなどからの電波でシステムが影響を受けている。

処置方法

一度、電源ポジションを OFF にもどし、キーを別の場所に置いて、再度 EV システムを始動してください。
セキュリティ表示灯を確認し、消灯しない場合は (点灯/点滅したままなど)、一度電源ポジションを OFF にもどし、しばらく待ってから再度 EV システムを始動してください。
3 回行なっても EV システムが始動しないときはシステムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

4 運転のアドバイス

安全なドライブのための運転のアドバイス

安全なドライブのために..... 4-2
お出かけ前に.....4-2
運転するとき.....4-2
こんなことにも注意.....4-3
駐停車するとき.....4-4
お子さまを乗せるとき..... 4-5

安全に運転をしていただくために 4-6
積雪、寒冷時の取り扱い..... 4-6

さまざまな状況での運転のときは 4-7
悪天候での運転.....4-7

環境保護のために..... 4-8
経済的な運転.....4-8

お出かけ前に

▼ ルーフの上に直接荷物を積まない

ルーフの上に直接荷物を積まないでください。荷くずれを起こすなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

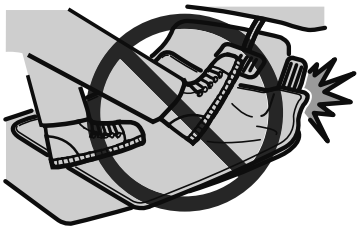
▼ 可燃物、危険物は積まない

燃料の入った容器やスプレー缶は積まないでください。爆発、火災につながるおそれがあり危険です。

▼ 運転席足元には物を置かない

運転席足元にあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると、ペダルを正しく操作できなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ フロアマットは車に合ったものを使用する



フロアマットは純正品を使用することをおすすめします。
フロアマットは車に合ったものを使用し、大きすぎるフロアマットを使用しないでください。

フロアマットを車に敷くときは次の点を守ってください。

・フロアマットは重ねて使用しない。
・フロアカーペットの上のフックでしっかり固定して使用する。

守られていないと、フロアマットがすべったり、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかったりなど、ペダル操作のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転するとき

▼ 坂道では回生ブレーキを使う

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、効きが悪くなることがあります。
下り坂ではフットブレーキと回生ブレーキを併用してください。

▼ 走行中はセレクトレバーをニュートラルの位置にしない

回生ブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。また、EV トランスアクスルの故障につながります。

▼ すべりやすい路面では慎重に運転する

ぬれた路面や凍結路、積雪路などのすべりやすい路面では、急加速や急ブレーキ、急ハンドルを避け、スピードをひかえめにして運転してください。ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態 (ハイドロプレーニング現象) になるおそれがあります。
タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、電気部品や電子部品のショートなど、車両に悪影響をおよぼします。万一、水中にひたってしまったときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

▼ 水たまり走行後や洗車後はブレーキの効きを確認する

水たまりを走行した後や洗車後は、ブレーキパッドがぬれているため、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方のブレーキだけが効いたりして、ハンドルをとられるおそれがあり危険です。ブレーキの効きが悪いときは、低速で走りながら、効きが回復するまでアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキを乾かしてください。

▼ 横風が強いときは慎重に運転する

横風が強く、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に落としてください。トンネルの出口、橋の上、山を削った切り通しなどは特に横風が発生しやすいので注意してください。走行安定性を失い、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ ブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください。

・ブレーキの部品が早く摩耗します。
・ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

▼ ブレーキ操作は右足で

・ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、適切な操作ができないおそれがあります。
・アクセルペダルの操作でブレーキペダルに靴が接触することがないように、運転に適した靴で運転してください。

こんなことにも注意

▼ 発進時には安全を十分確認する

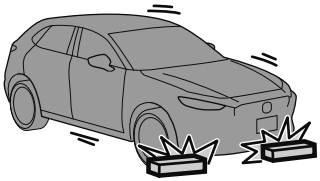
発進時は周囲の状況に十分注意してください。

・信号待ちなどで停車したときや、駐車後に発進するときは、周囲の安全を十分確認してから発進してください。
・後退するときに十分な視界を得られないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

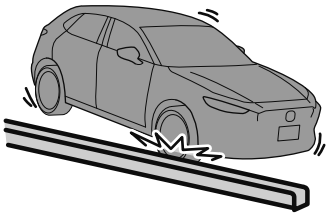
▼ 路面などと車両との干渉に注意する

次のようなとき、バンパーなど車体の下部を損傷するおそれがありますので、十分注意してください。

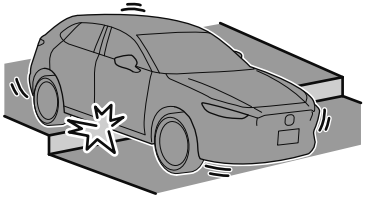
・車止めのある場所への駐車



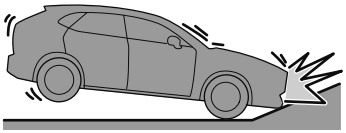
・路肩に沿っての駐車



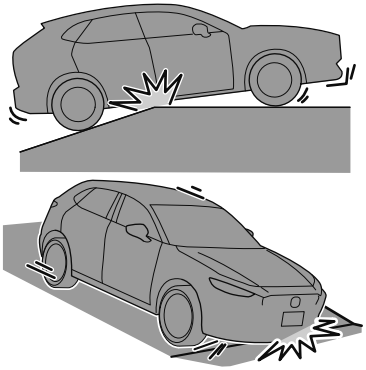
・路肩など段差のある場所への乗り降り



・駐車場など急な坂道への出入り



・凸凹やわだちのある道路の走行



▼ アクセサリーを取り付けない

フロントガラスや窓ガラス、また、その周辺にアクセサリーを取り付けると、運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、アクセサリーの吸盤が凸レンズの働きをして、火災につながるおそれがあります。

▼ ライターやメガネを車内に放置しない

炎天下に駐車するときは、車内にメガネやライターを放置しないでください。車内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こしたりすることがあります。

駐停車するとき

▼ 仮眠するときは EV システムを停止させる

EV システムを作動させた状態で仮眠しないでください。無意識にセレクトレバーを動かし、アクセルペダルを踏み込むと、車が発信して思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 坂道駐車はパーキングブレーキをかける

坂道での駐車は、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P の位置に入れてください。急な坂道ではさらに輪止めをしてください。輪止めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 車の移動は EV システムを始動させる

車を少し移動させるときでも、必ず EV システムを始動してください。下り坂などで傾斜を利用して移動させると、ハンドルがロックされたり、ブレーキの効きが悪いため思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

▼ ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けると、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

▼ 車から離れるときはパーキングブレーキをかけ、施錠する

車から離れるときは、EV システムを停止し、パーキングブレーキがかかっていることを確認して、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

お子さまを乗せるとき

▼ 車から離れるときはお子さまも一緒につれていく

車から離れるときはお子さまだけを車内に残さないでください。

・お子さまのいたずらにより、装置の作動、車の発進、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
・炎天下の車内は大変高温になり、お子さまが脱水症状を起こすおそれがあります。重症化すると、最悪の場合死に至るなどお子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

積雪、寒冷時の取り扱い

▼ お車に乗る前に

⚠ 注意

雪や霜を取り除くときは、ぬるま湯を使用してください。熱湯を使用するとガラスや車両装置が破損するおそれがあります。

ルーフに雪が積もっているときは

・走行中、ガラスに雪が落ちると視界のさまたげとなり危険です。
走行前に取り除いてください。

ガラスに雪や霜が付いているときは

・視界を確保するため、雪や霜を取り除いてください。
・プラスチックの板などを使用して取り除くことができます。
プラスチックの板などを使用するときはガラスに傷をつけないように注意して取り除いてください。

足まわりなどに雪や氷が付着しているときは

部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。

ドアなどが凍結しているときは

・ワイパー、パワーウインドー、電動ドアミラーなどが凍結して動かない場合は、雪などを取り除いたうえで操作してください。
無理に動かそうとすると故障の原因になります。
・ドアが凍結しているときは、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かしてから開けてください。
無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、周辺部を損傷したりするおそれがあります。
・ドアのキー穴部にはぬるま湯をかけないでください。凍結してキーが差し込めなくなるおそれがあります。
・ぬるま湯をかけた後は、すぐに水分をふき取ってください。

▼ お車に乗るときは

靴に付いた雪をよく落としてから乗車してください。
ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなるため窓ガラスが曇ったりすることがあります。

悪天候での運転

▼ 雨の日の運転

ガラスが曇るときは

湿度の高い日はガラスが曇りやすくなります。
このようなときは、吹き出し口を に設定します。吹き出し風が除湿されるため、効果的に曇りを取ることができます。

⚠ 警告

ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

冠水した道路は

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、電気部品や電子部品のショートなど、車両に悪影響をおよぼします。万一、水中にひたってしまったときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。

▼ 積雪、寒冷時の運転

すべりやすい路面を走行するときは

早めに冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。
→7-32 ページ「タイヤチェーンの取り付け」

- 急発進、急ハンドルや急ブレーキを避け、ひかえめな速度で運転してください。
- 日陰や橋の上、水たまりなど、凍結しやすい場所にさしかかる前では速度を落とし、注意して走行してください。

ハンドルの切れ具合に注意

走行中、フェンダーの裏側に雪が付着して氷になり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。
ときどき車を止めて点検し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に雪や氷が付着すると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
効きが悪いときは、低速で走りながらアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んで、効きが回復するまでブレーキを乾かしてください。

駐車するときは



- 寒冷時はパーキングブレーキをかけると凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキは使わず、セレクトレバーを P の位置に入れてタイヤに輪止めをしてください。
→5-49 ページ「電動パーキングブレーキ (EPB)」
- ワイパーアームは立てて駐車してください。寒冷時はワイパーゴムがガラスに凍りつくことがあります。

⚠ 注意

ワイパーアームを立てるときは、サービスポジションにしてワイパーアームを立ててください。
→7-11 ページ「ワイパーブレードの交換をするときは」
また、降ろすときはワイパーアームに手を添えながらゆっくりともどしてください。勢いよくもどすとワイパーアームやブレードが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じたりするおそれがあります。

寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムで覆ってあります。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

知識

高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなりますので、ワイパー使用時は速度を落として走行してください。

経済的な運転

▼ 経済的な運転

地球環境にやさしい、経済的な運転を心がけてください。

▼ 不要な荷物は積まない

荷物が多いほど、電力を多く消費します。不要な荷物は降ろして走行しましょう。

▼ エアコンの使用はひかえめに

エアコンの使用をひかえると、電力の節約になります。

▼ タイヤの空気圧を適正に

こまめに点検し、適正な空気圧に調整しましょう。

▼ ゆとりある走行を

急発進、急加速、急ブレーキは避けましょう。

▼ 経済的速度

一般道路で 40 km/h、高速道路で 80 km/h 程度の等速走行が経済的です。

▼ アクセルペダルの上手な踏みかた

下り坂に入るとき、減速を始めるとき

早めにアクセルペダルをもどすと、回生ブレーキが作動し、電力を駆動用バッテリーに充電することができます。

一定速度のとき

アクセルペダルの踏み加減を一定に保ちましょう。

5 運転するときに

運転するときに必要な操作と取り扱い

EV システムの始動と停止.....5-4
電源ポジション (パワースイッチ)..... 5-4
EV システムの始動.....5-5
EV システムの停止.....5-7

メーター、警告灯、表示灯の見方 5-9
メーター、表示.....5-9
メーター.....5-9
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)..... 5-25
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ..... 5-27

シフトシステム.....5-29
各位置の働き.....5-29
セレクトレバーの操作..... 5-31
シフトロック装置..... 5-35
電気自動車を運転するときに 5-35

スイッチの使いかた.....5-38
ヘッドランプスイッチ..... 5-38
方向指示器..... 5-41
フロントワイパー/ウォッシャースイッチ.....5-42
リアワイパー/ウォッシャースイッチ.....5-45
ヘッドランプウォッシャースイッチ*..... 5-46
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....5-46
ホーン.....5-48
非常点滅灯スイッチ.....5-48

ブレーキ..... 5-49
ブレーキの操作.....5-49
オートホールド.....5-52
エマージェンシーシグナルシステム (ESS).....5-56
ヒル・ローンチ・アシスト (HLA) とは.....5-56

ABS/TCS/DSC について..... 5-57
ABS とは.....5-57
TCS とは.....5-58
DSC とは..... 5-59

i-ACTIVSENSE について.....5-61
i-ACTIVSENSE とは..... 5-61
フォワードセンシングカメラ (FSC) について..... 5-64
フロントレーダーセンサーについて.....5-67
フロントサイドレーダーセンサーについて*.....5-69
リアサイドレーダーセンサーについて..... 5-70
フロント超音波センサーについて 5-71
リア超音波センサーについて 5-72
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ*..... 5-72
ドライバー・モニタリングカメラ*..... 5-73

ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) とは*.....5-74
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) とは*.....5-75
車線逸脱警報システムとは 5-77
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) とは..... 5-79
交通標識認識システム (TSR) とは*..... 5-83
ディスタンス&スピード・アラート (DSA) とは.....5-89
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) とは.....5-90
ドライバー・モニタリングとは*..... 5-91
前側方接近車両検知 (FCTA) とは*..... 5-93
後側方接近車両検知 (RCTA) とは 5-95
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは 5-98
クルージング & トラフィック・サポート (CTS) とは*.....5-103
レーンキープ・アシスト・システム (LAS) とは.....5-111
緊急時車線維持支援 (ELK) とは 5-114
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは.....5-120
AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは 5-129
AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは 5-133
360° ビュー・モニターとは*..... 5-135

クルーズコントロールについて 5-166
クルーズコントロールとは..... 5-166

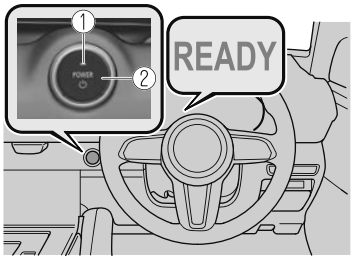
駐車支援システムについて..... 5-168
駐車支援システムとは.....5-168

MEMO

電源ポジション (パワースイッチ)

▼ 各位置の働き

ブレーキペダルを踏まない状態で、パワースイッチを押すごとに OFF、ACC、ON の順に電源ポジションが切り替わります。ON からもう一度、パワースイッチを押すと OFF へもどります。



1. 表示灯
2. パワースイッチ

電源ポジション (パワースイッチ)	働き
OFF	電源 OFF の状態。パワースイッチの表示灯 (橙) が、消灯します。この位置では、ハンドルがロックされています。
ACC	EV システム停止時 (READY 表示が非表示) に、オーディオなどの電装品が使用できる位置。パワースイッチの表示灯 (橙) が点灯します。
ON	EV システム停止中 (READY 表示が非表示) で、すべての電装品が使用できる位置。パワースイッチの表示灯 (橙) が点灯します。(EV システム作動中 (READY 表示が表示中) は、パワースイッチの表示灯は消灯します。)

知識

- ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んだ状態で、プッシュボタンスタートを押すと EV システムが始動します。電源ポジションの切り替えを行なう場合は、ペダルを踏まずにパワースイッチを押してください。
- EV システムを始動すると、メーター内の READY 表示が表示されます。EV システム作動中は、READY 表示が表示されたままです。



1. READY 表示

- ハンドルがロックされているときは、パワースイッチの表示灯 (緑) が点滅します。ハンドルを左右に動かしながら、パワースイッチを押して、ハンドルのロックを解除してください。
- 電源ポジションを ACC で放置した場合は、約 25 分間で電源ポジションが OFF になります。
- EV システム停止中にパワースイッチの表示灯が消灯していないときは、電源ポジションが OFF になっていません。車から離れるときは、必ず電源ポジションを OFF (パワースイッチの表示灯が消灯) にしてください。

EV システムの始動

▼ EV システムを始動する前に

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. セレクトレバーが P の位置にあることを確認します。

知識

セレクトレバーが P 以外の位置にあるときは、EV システムを始動することができません。
セレクトレバーを P の位置にしてください。

3. 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。

▼ EV システムを始動するとき

警告

次にある以外の医療用機器を使用している方は、キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。

- 植え込み型心臓ペースメーカー
- 植え込み型除細動器

電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

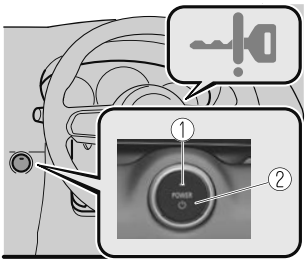
知識

- 電源ポジションの状態 (OFF、ACC、ON) に関係なく、EV システムを始動できます。
- キーは必ず運転者が携帯してください。
- キーを携帯するだけで EV システムを始動できる機能を無効にして、ペースメーカーまたはその他の医療機器を使用している方に悪影響がおよぶのを防ぐことができます。 詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

知識

- キーを携帯するだけで EV システムを始動できる機能が無効になっている場合は、キーが電池切れしたときの EV システム始動の手順で EV システムを始動してください。
- 充電ポートに充電コネクターが接続されているときは、EV システムを始動させることができません。
- メーター内の READY 表示が表示されているとき走行できます。

1. キーを携帯していることを確認します。
2. ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
3. パワースイッチの表示灯 (緑) とメーター内の KEY 表示灯 (緑) が点灯するのを確認します。
   パワースイッチの表示灯 (緑) が点滅するときは、キーの電池切れなどが考えられます。→5-6 ページ「キーが電池切れしたときの EV システム始動」



1. 表示灯
2. パワースイッチ

4. パワースイッチの表示灯 (緑) が点灯している状態でパワースイッチを押します。

注意

パワースイッチに異常があるときは、パワースイッチの表示灯 (橙) が点滅します。この場合でも EV システムを始動することができることがありますが、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

・次のようなときは、メーター内の KEY 警告灯 (赤) が点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示され、EV システムを始動することができません。



・キーの電池切れ
・キーが作動範囲内にない
・キーを車内でも感知しにくい場所に置いている
・キーに類似した他社のキーが作動範囲内にある

・パワースイッチの表示灯 (橙) が点滅しているときは、通常の操作では EV システムを始動することができない場合があります。
・ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、EV システムが完全に始動するまでパワースイッチを押し続けてください。EV システム始動後、パワースイッチの表示灯 (緑) は消灯し、電源ポジションは ON 状態になっています。
・セレクトレバーが P 以外の位置にある状態で EV システムを始動させようとすると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、セレクトレバーを P の位置にするよう運転者にお知らせします。
セレクトレバーを P の位置にしてから EV システムを始動してください。

5. メーター内に READY 表示が表示されたことを確認してください。

READY

▼ キーが電池切れしたときの EV システム始動

注意

キーの使用について
次のような状態にしないでください。車両がキーからの信号を正確に受信できず、EV システムが始動できない場合があります。

- キーに他のキーの金属部や金属製のものが接している



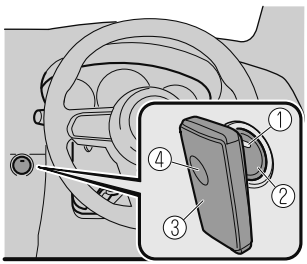
- キーにスペアのキーや他の車両の盗難防止システムキー (信号発信機内蔵のもの) が重なっている、または近くにある



- キーの近くに電子部品を含んだ製品やクレジットカードなどの磁気カードがある

キーの電池切れなどで、EV システムが始動できないときは、次の手順で EV システムを始動することができます。

1. ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
2. パワースイッチの表示灯 (緑) が点滅するのを確認します。
3. パワースイッチの表示灯 (緑) が点滅中に、キーのエンブレム中心をパワースイッチの中心にあわせて重ねます。



1. 表示灯
2. パワースイッチ

3. キー
4. エンブレム

4. パワースイッチの表示灯 (緑) が点灯に変わったら、パワースイッチを押します。

⚠ 注意

EV システムに異常があるときは、パワースイッチの表示灯 (橙) が点滅します。この場合でも EV システムを始動することができることがありますが、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

・ブレーキペダルをいっぱいに踏み込まないと EV システムが始動しません。
・パワースイッチの表示灯 (緑) が点灯しない場合は、最初から操作を行なってください。それでも点灯しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。
・電源ポジションの切り替えを行なう場合はパワースイッチの表示灯 (緑) が点灯に変わった後、ブレーキペダルを放してからパワースイッチを押してください。
・電源ポジションが ACC、ON、OFF の順に切り替わります。なお、電源ポジションが OFF になると、それ以降は電源ポジションの切り替えができませんので、EV システムを始動する場合は最初から操作を行なってください。

5. メーター内に READY 表示が表示されたことを確認してください。

READY

EV システムの停止

▼ EV システムを停止するとき

1. セレクトレバーを P の位置にします。
2. パワースイッチを押します。メーター内の READY 表示が非表示になるとともに EV システムが停止し、電源ポジションが OFF になります。

⚠ 警告

緊急時以外は、走行中に EV システムを停止しない。
走行中に EV システムを停止するとハンドルが重くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

車から離れるときは、電源ポジションが OFF (EV システム停止中 (READY 表示が非表示)) になっていることを確認してください。

知識

・**キーの電池容量について**
電源ポジションを ON から ACC または OFF にしたとき、キーの電池容量が少なくなっていることを感知したら、メーター内の KEY 表示灯 (緑) が点滅または、マルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示されます。新しい電池と交換してください。
・**セレクトレバーの位置について**
　・オート P (パーキングロック) 機能が作動するため、セレクトレバーが P 以外の位置でも電源ポジションを OFF にすることができますが、安全のためセレクトレバーを P の位置にして、電源ポジションを OFF にしてください。

知識

・セレクトレバーを P 以外の位置にした状態で電源ポジションを OFF にすると、警告音およびディスプレイの表示でセレクトレバーとシフトポジションが不一致になっていることをお知らせします。

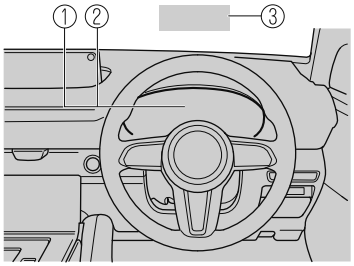
・**電源ポジションについて**
電源ポジションを OFF にせず車から離れる、または離れようとすると、KEY 警告灯 (赤) の点滅やディスプレイの表示、警告音で電源ポジションが OFF になっていないことをお知らせします。

▼ 緊急 EV システム停止

車両が停止していなくてもパワースイッチを押し続ける、または素早く何度も押すと EV システムが停止します。電源ポジションは ACC になります。

メーター、表示

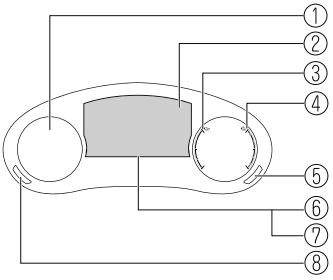
▼ メーター、表示



① メーター..... 5-9 ページ
② インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM).....5-25 ページ
③ アクティブ・ドライビング・ディスプレイ ..... 5-27 ページ

メーター

▼ メーター



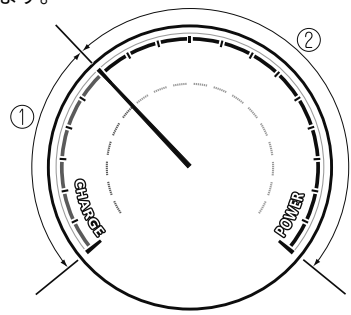
① パワーメーター.....5-9 ページ
② マルチインフォメーションディスプレイ ..... 5-11 ページ
③ 駆動用バッテリー残量計..... 5-14 ページ
④ 駆動用バッテリー温度計..... 5-13 ページ
⑤ パネルライトコントロールスイッチ ....5-14 ページ
⑥ スピードメーター.....5-9 ページ
⑦ インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM).....5-25 ページ
⑧ TRIP スイッチ.....5-13 ページ

▼ スピードメーター

走行速度を km/h で示します。

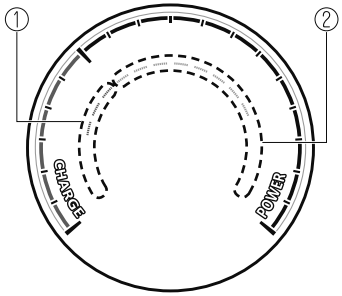
▼ パワーメーター

放充電の状態を示します。
回生状態で充電量が多いほど指針は CHARGE ゾーンを示し、アクセルを踏み込むなどモーターへの出力が多いほど指針は POWER ゾーンを示します。



1. CHARGE ゾーン
2. POWER ゾーン

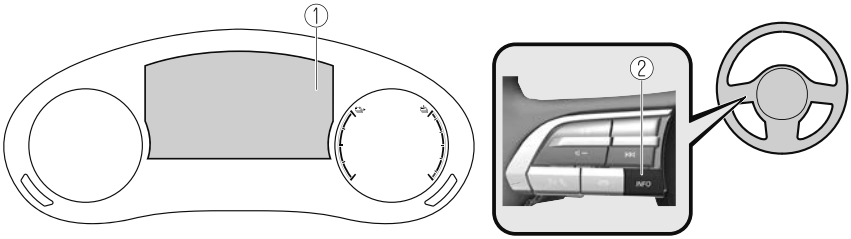
CHARGE インジケーターは、回生ブレーキで発電できる電力を示し、POWER インジケーターは、モーターの出力状態を示します。



1. CHARGE インジケーター
2. POWER インジケーター

CHARGE インジケーターは、駆動用バッテリーの充電量が多く、回生ブレーキで発電した電力を充電できないとき段階的に消灯します。
POWER インジケーターは、モーターの出力が制限されているときに段階的に消灯します。

▼ マルチインフォメーションディスプレイ



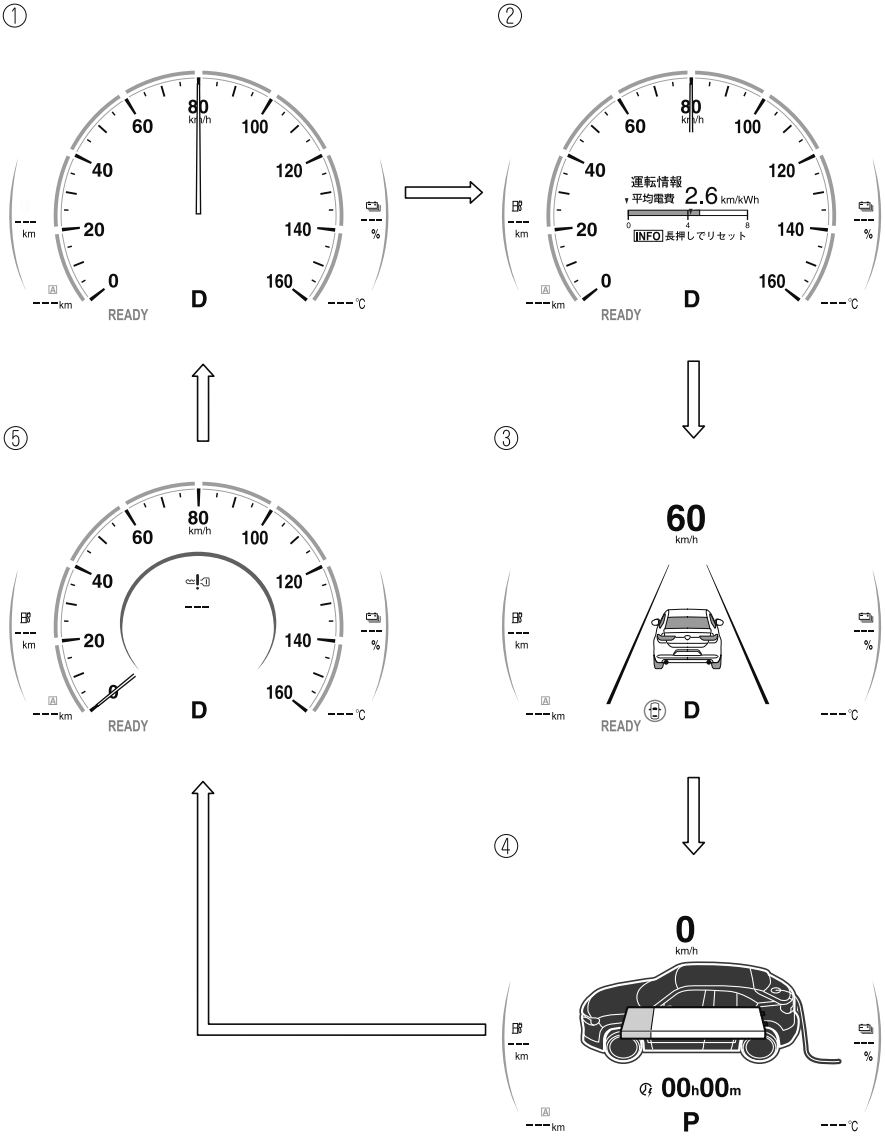
1. マルチインフォメーションディスプレイ
2. INFO スイッチ

マルチインフォメーションディスプレイは次の情報を表示します。

・スピードメーター
・オドメーター
・トリップメーター
・外気温
・駆動用バッテリー残量
・走行可能距離
・平均電力消費率
・瞬間電力消費率
・充電状態表示
・i-ACTIVSENSE 表示
・半ドア警告表示/リアゲート開警告表示*1
・メッセージ表示

*1　ドア/リアゲートが開いているときに表示します。

INFO スイッチを押すごとに表示が切り替わります。



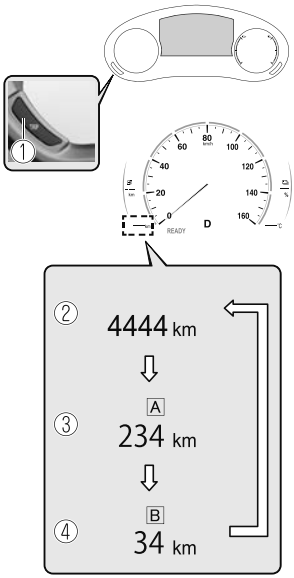
1. 基本画面
2. 運転情報画面
3. i-ACTIVSENSE 画面
4. 充電状態画面*1
5. メッセージ表示画面*2

*1　充電コネクターを接続しているときのみ表示します。
*2　メッセージ表示があるときのみ表示します。

マツダコネクトの「設定」で、瞬間電力消費率や走行可能距離の表示タイプを切り替えることができます。
→マツダコネクト取扱書 「画面表示」

▼ オドメーター/トリップメーター

TRIP スイッチを操作して、オドメーターとトリップメーターを切り替えることができます。



1. TRIP スイッチ
2. オドメーター表示
3. トリップメーター A 表示
4. トリップメーター B 表示

オドメーター

走行した総距離を km 単位で示します。

トリップメーター

一定区間の走行距離を km 単位で示します (右側の数字は 100 m 単位です)。2 種類 (トリップメーター A、トリップメーター B) の区間距離を計測することができます。

たとえば、トリップメーター A で充電してからの距離を測りながら、トリップメーター B で出発してからの距離を測ることができます。

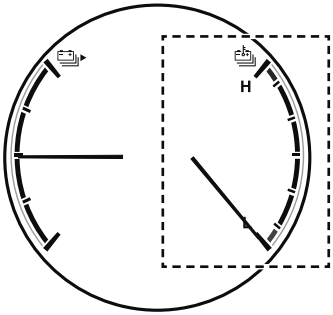
トリップメーターを“0”にもどすときは、トリップメーターが表示されているときに TRIP スイッチを 1.5 秒以上押します。

知識

車両整備などで 12V バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターの表示が“0”にもどります。

▼ 駆動用バッテリー温度計

駆動用バッテリーの温度を示します。青いゲージは駆動用バッテリーの温度が低いことを示し、赤いゲージは駆動用バッテリーの温度が高く、過熱していることを示します。

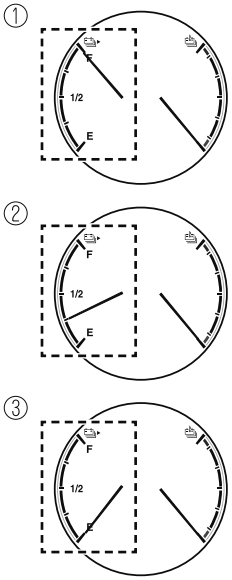


知識

駆動用バッテリーの温度が高いまたは低いときは、EV システム保護のため出力を制限することがあります。

▼ 駆動用バッテリー残量計

電源ポジションが ON のとき、駆動用バッテリーの残量を示します。
満充電のときは F を示し、少なくなるにつれ E に移行します。駆動用バッテリー残量計が 1/4 以下になった場合は充電をすることをおすすめします。



1. Full (満充電)
2. 1/4 Full (駆動用バッテリー残量 1/4)
3. Empty (駆動用バッテリー残量 0)

駆動用バッテリーの残量が少なくなると、出力制限がかかる場合があります。出力制限がかかった場合は、すみやかに充電してください。

知識

の矢印は充電口が右側にあることを示します。

▼ パネルライトコントロール

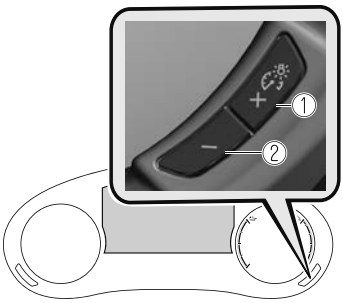
電源ポジションが ON で車幅灯が点灯しているときにパネルライトは減光されます。ただし、昼間にライトを点けたときなど、ライトセンサーが車両の周辺が明るいと感知した場合、パネルライトは減光されません。

知識

- 夕方や薄暗い場所で電源ポジションを ON にすると、ライトセンサーが周辺の明るさを感知するまでの数秒間パネルライトが減光され、明るさを感知した後に減光が解除される場合があります。
- 車幅灯が点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。
→5-38 ページ「ヘッドランプの点灯/消灯」

パネルライトコントロールスイッチを押すと、メーターおよびインストルメントパネルの明るさを調節できます。

・+スイッチを押すと明るくなります。
・−スイッチを押すと暗くなります。最も暗い状態でさらに−スイッチを押すと音が鳴り、最も暗い位置になっていることを知らせます。



1. +スイッチ
2. −スイッチ

減光解除機能

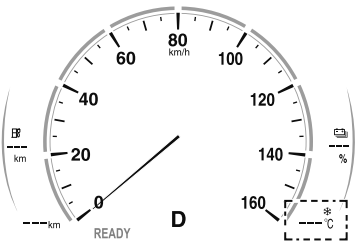
電源ポジションが ON でメーターが減光しているときに、パネルライトコントロールスイッチの+スイッチを押して最も明るい位置にすると減光を解除できます。メーターなどが見えにくい場合は減光を解除してください。
減光を解除した状態でさらに+スイッチを押すと音が鳴り、最も明るい位置になっていることを知らせます。

知識

・減光を解除しているときは、車幅灯が点灯しても、メーターは減光されません。
・減光を解除しているとき、センターディスプレイは常に昼画面になります。

▼ 外気温表示

電源ポジションが ON のとき、外気温を表示します。



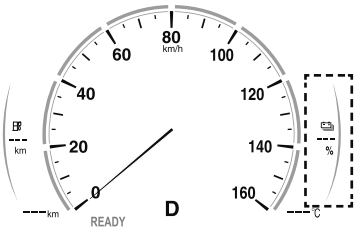
知識

次のようなとき、外気温表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

・著しく寒いとき、暑いとき
・外気温が急激に変化したとき
・停車時
・低速走行時

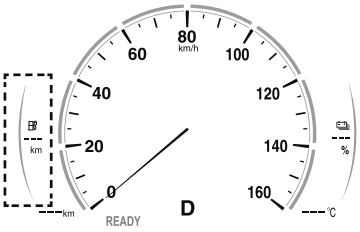
▼ 駆動用バッテリー残量表示

駆動用バッテリー残量を%で表示します。



▼ 走行可能距離表示

現在の駆動用バッテリーの残量と電力消費率から走行可能距離を算出して表示します。

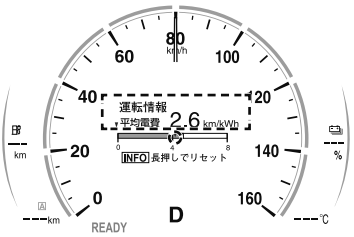


知識

・表示される走行可能距離は目安です。走行状態、周辺環境、エアコンの使用状況などにより走行可能距離は異なります。また、走行可能距離が十分走行できる数値であっても駆動用バッテリー残量計の指針がEに近づくか、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された場合は、すみやかに充電してください。
・お車を購入されたときや12Vバッテリー端子をはずした後など過去の電力消費率情報がないときは、実際に走行できる距離と異なる数値を表示することがあります。

▼ 平均電力消費率表示

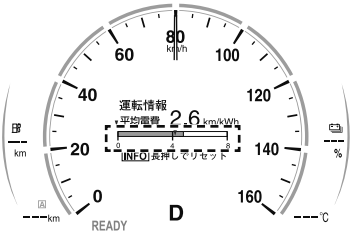
お車を購入されたとき、または過去のデータをリセットしたときからの累積走行距離と累積消費電力から、約30秒間ごとに平均電力消費率を算出して表示します。
瞬間電力消費率ゲージ上にも赤矢印で平均電力消費率を表示します。



表示されている平均電力消費率のデータをリセットするには、INFOスイッチを1.5秒以上押します。データをリセットすると、平均電力消費率を再算出して表示するまで“- - - km/kWh”を表示します。

▼ 瞬間電力消費率表示

走行中の瞬間電力消費率を消費電力から算出して表示します。

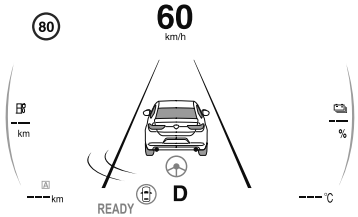


知識

・時速が約5 km/h以下になると0位置を表示します。
・メモリ上の赤矢印は、平均電力消費率を示します。

▼ i-ACTIVSENSE 表示

システムの作動状態を表示します。



→5-78 ページ「車線逸脱警報システム」
→5-81 ページ「ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)」
→5-87 ページ「交通標識認識システム (TSR)」
→5-89 ページ「ディスタンス&スピード・アラート (DSA)」
→5-91 ページ「ドライバー・アテンション・アラート (DAA)」
→5-92 ページ「ドライバー・モニタリング」
→5-93 ページ「前側方接近車両検知 (FCTA)」
→5-99 ページ 「マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))」
→5-105 ページ 「クルージング&トラフィック・サポート (CTS)」
→5-113 ページ 「 レーンキープ・アシスト・システム (LAS)」
→5-114 ページ 「緊急時車線維持支援 (ELK)」
→5-120 ページ 「スマート・ブレーキ・サポート (SBS)」
→5-132 ページ 「AT 誤発進抑制制御 [前進時]」
→5-135 ページ 「AT 誤発進抑制制御 [後退時]」

▼ メッセージ表示

システムの作動状態や故障・異常状態などを知らせるメッセージが表示されます。

メッセージと同時にメーター内の警告灯/表示灯が点灯/点滅、またはディスプレイにシンボルが表示されたとき

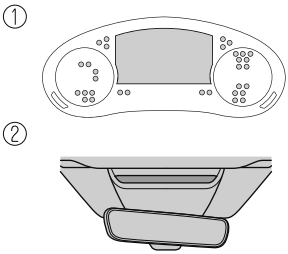
警告灯/表示灯、または表示されたシンボルの内容を確認してください。
→5-18 ページ「警告表示/警告灯」
→5-21 ページ「表示/表示灯」

ディスプレイにメッセージのみ表示されたとき

ディスプレイの指示に従ってください。表示の内容については次のページを参照ください。
→8-31 ページ 「マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは」

▼ 警告灯/表示灯配置

メーターはグレードや仕様により異なります。



1. メーター
2. 天井の前側中央

▼ 警告表示/警告灯

故障時などに表示/点灯します。

表示	名称	参照
BRAKE	ブレーキ警告表示/警告灯*1	8-24
	12 V 充電警告表示/警告灯*1	8-24
	EV システム異常警告表示/警告灯*1	8-25
	駆動用バッテリー温度警告表示	8-25
	駆動用バッテリー残量警告表示/警告灯*1	8-25
	充電警告表示/警告灯*1	8-25
	出力制限警告表示/警告灯*1	8-26
	電動パワーステアリング警告表示/警告灯*1	8-26

表示	名称	参照
	シフトシステム警告表示/警告灯*1	8-26
	ABS 警告表示/警告灯*1	8-27
	マスター警告表示	8-27
	ブレーキコントロールシステム警告表示/警告灯*1	8-27
	ブレーキ・オーバーライド警告表示	8-28
	エアバッグ/フロントプリテンショナー警告表示/警告灯*1	8-28
 (赤)	KEY 警告表示/警告灯*1	8-28
 (橙)	*ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 警告表示/警告灯*1	8-29
	*アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 警告表示/警告灯*1	8-29
	i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯*1	8-29
	エクステリアランプ警告表示/警告灯*1	8-29
	シートベルト警告灯 (フロントシート)	8-30
 (赤)	シートベルト警告灯 (リアシート)	8-30

表示	名称	参照
	*ウォッシャー液残量警告表示/警告灯	8-30
	半ドア警告表示	8-30
	リアゲート開警告表示	8-30
	半ドア警告灯	8-30

*1　作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、または EV システムが始動すると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。

▼ 表示/表示灯

システムが作動中または停止しているときに表示/点灯/点滅します。

表示	名称	参照
REAR (緑)	シートベルト表示灯 (リアシート)	2-23
	セキュリティ表示灯	イモビライザーシステム 3-46 故障したとき 8-29
(緑)	KEY 表示灯	5-5
	レンチ表示/表示灯*1	5-24
P	シフトポジション表示	5-30
	車幅灯表示/表示灯	5-38
	ヘッドランプ上向き表示灯	ヘッドランプが上向き(ハイビーム)のとき 5-40 パッシング合図 5-40

表示	名称	参照
	方向指示/非常点滅表示灯	方向指示灯 5-41
		非常点滅表示灯 5-48
	電動パーキングブレーキ (EPB) 表示/表示灯*1*2	8-27
HOLD	オートホールド作動表示灯*1	5-54
	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示灯	5-103
	*クルージング&トラフィック・サポート (CTS) 表示灯	5-111
	TCS/DSC 作動表示/表示灯*1	TCS 5-58
		DSC 5-60
		点灯 8-28
TCS OFF	TCS OFF 表示灯*1	5-58
READY	READY 表示	5-4

表示	名称	参照
 (白)	i-ACTIVSENSE 警報・リスク回避支援表示	5-63
 (緑)		
 (橙)		
	i-ACTIVSENSE 警報・リスク回避支援 OFF 表示	5-63
 (緑)	*ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 表示灯	5-74
	*アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 表示灯	5-76
 (白)	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) スタンバイ表示	5-100
	*クルージング&トラフィック・サポート (CTS) スタンバイ表示	5-107
 (緑)	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) セット表示	5-100
	*クルージング&トラフィック・サポート (CTS) セット表示	5-107
	スマート・ブレーキ・サポート (SBS) OFF 表示灯*1	5-128
	緊急時車線維持支援 (ELK) OFF 表示灯*1	5-119
 (白)	クルーズスタンバイ表示	5-166

表示	名称	参照
 (緑)	クルーズメイン表示	5-166

*1　作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、または EV システムが始動すると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。
*2　パーキングブレーキをかけているときは点灯し続けます。

▼ レンチ表示/表示灯

レンチ表示/表示灯は次の時期になると表示/点灯します。



・あらかじめ設定されたメンテナンス時期になったとき
マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

メンテナンス時期になったまま走行を続けないでください。メンテナンスを怠ると、車両性能の低下、さらには故障につながるおそれがあります。メンテナンス時期までに点検を受けてください。

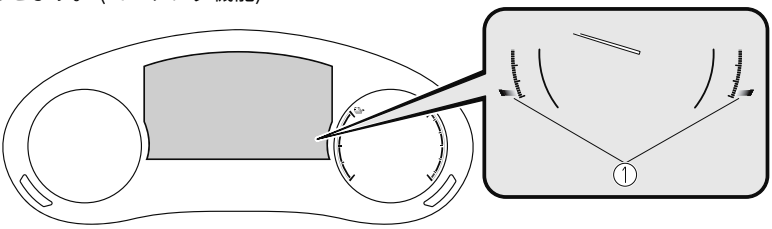
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)

▼ インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)

i-DM はマツダ車の「走る歓び」と「優れた環境安全性能」を十分に実感していただくためのドライビングサポートシステムです。運転者も同乗者も気持ちのよい「しなやかな運転」ができるようになる運転技術の習得/向上をサポートします。

▼ インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) ランプ

走行中の運転操作 (アクセル、ブレーキ、ハンドル) の状態を診断し、ランプの色で運転者に運転操作の状況を知らせます。 (コーチング機能)



① グリーンランプ/ブルーランプ/ホワイトランプ

グリーンランプ

次の運転のときはランプが緑で点灯します。

内容	運転のポイント
やさしい運転を示します。ゆっくりとした運転操作で、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行で燃費のよい運転です。	・加速をするとき/しないときに、アクセルペダルをゆっくり踏む/もどす ・減速をするとき/しないときに、ブレーキペダルをゆっくり踏む/もどす ・旋回をするとき/直進にもどすときに、ハンドルをゆっくり切る/もどす

ブルーランプ

次の運転のときはランプが青で点灯します。

内容	運転のポイント
しなやかな運転を示します。特に次の走行タイプのような運転者にとって爽快で気持ちのよい運転です。 **走行タイプ 1** 適度な加速度変化がありながら、なめらかな運転操作で車と乗員が一体となって動く、安定した走行です。 **走行タイプ 2** 加速および旋回を継続しているときに、加速度を一定に維持しており、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。	**走行タイプ 1 の場合** ・加速をするときに、最適な踏み込み量/速さでアクセルペダルを操作する ・減速をするときに、最適な踏み込み量/速さでブレーキペダルを操作する ・旋回をするときに、最適な切り込み量/速さでハンドルを操作する **走行タイプ 2 の場合** ・加速をするときに、一定の加速度を継続するようにアクセルペダルを操作する ・減速をするときに、一定の減速度を継続するようにブレーキペダルを操作する ・旋回をするときに、一定の横 G を維持するようにハンドルおよびアクセルペダルを操作する

ホワイトランプ

次の運転のときはランプが白で点灯します。

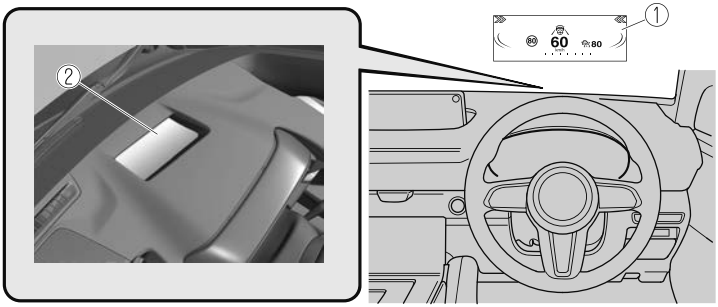
内容	運転のポイント
体が揺れる運転を示します。 やや急な運転操作により、乗員の体の揺れが大きく、不安定な走行で燃費のあまりよくない運転です。	・加速をするとき/しないときに、アクセルペダルをやや急に踏む/もどす ・減速をするとき/しないときに、ブレーキペダルをやや急に踏む/もどす ・旋回をするとき/直進にもどすときに、ハンドルをやや急に切る/もどす

知識

i-DM ランプの表示/非表示を変更、i-DM の作動状況をセンターディスプレイに表示させることができます。
→マツダコネクト取扱書 「i-DM」

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ

▼ アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1. ディスプレイ
2. 防塵シート

⚠ 警告

ディスプレイの明るさや位置の調節は必ず車両を停止した状態で行なう。
走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

アクティブ･ドライビング･ディスプレイの防塵シート付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が防塵シートにかかると装置の故障の原因となります。
表示のさまたげとなりますので、アクティブ･ドライビング･ディスプレイの上や防塵シートにものを置いたり、シールを貼ったりしないでください。

知識

- アクティブ･ドライビング･ディスプレイの特性上、偏光サングラスを着用すると視認性が低下します。
- 12 V バッテリーを脱着したとき、または 12 V バッテリーの電圧が低下してきたときは、調節した位置がずれることがあります。
- 気象条件 (雨、雪、光、温度など) によっては、表示が見づらかったり、一時的に影響を受けたりする場合があります。

アクティブ・ドライビング・ディスプレイは次の情報を表示します。

・車線逸脱警報システムの作動状態と警告
→5-77 ページ「車線逸脱警報システムとは」
・ブラインド・スポッド・モニタリング (BSM) の作動状態と警告
→5-79 ページ「ブラインド・スポッド・モニタリング (BSM) とは」
・交通標識認識システム (TSR) の警告
→5-83 ページ「交通標識認識システム (TSR) とは」
・ディスタンス &スピード・アラート (DSA) の作動状態と警告
→5-89 ページ「ディスタンス &スピード・アラート (DSA) とは」
・前側方接近車両検知 (FCTA) の警告
→5-93 ページ「前側方接近車両検知 (FCTA) とは」
・後側方接近車両検知 (RCTA) の警告
→5-95 ページ「後側方接近車両検知 (RCTA) とは」
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の作動状態と警告
→5-98 ページ「マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは」
・クルージング&トラフィック・サポート (CTS) の作動状態と警告
→5-103 ページ「クルージング&トラフィック・サポート (CTS) とは」
・緊急時車線維持支援 (ELK) の警告
→5-114 ページ「緊急時車線維持支援 (ELK) とは」
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の警告
→5-120 ページ「スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは」
・AT 誤発進抑制制御 (前進時) の警告
→5-129 ページ「AT 誤発進抑制制御 (前進時) とは」
・AT 誤発進抑制制御 [後退時] の警告
→5-133 ページ「AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは」
・クルーズコントロールの作動状態
→5-166 ページ「クルーズコントロール とは」
・ナビゲーションガイダンス (方向と距離)
・車速

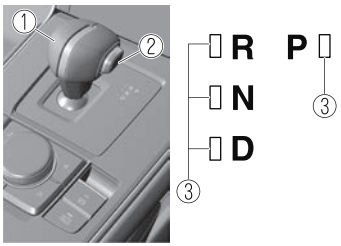
マツダコネクトの「設定」で、アクティブ・ドライビング・ディスプレイの設定 (表示位置、輝度、表示情報など)を変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「画面表示」

知識

・アクティブ・ドライビング・ディスプレイの設定 (表示位置、輝度、表示情報)を記憶させ、記憶させた位置にセットすることができます。
→2-7 ページ 「ドライビングポジションメモリー機能」

各位置の働き

▼ 各位置の働き



1. セレクトレバー
2. セレクトレバーボタン
3. シフトインジケーター

P (パーキング)
駐車および EV システムを始動する位置。

⚠ 警告

必ずセレクトレバーを P の位置にして、パーキングブレーキをかける
車両を駐車するとき、セレクトレバーを P の位置にするだけでは、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

12V バッテリーがあがったときは、セレクトレバーを P の位置にしても、パーキングロックが作動しません。

R (リバース)
車を後退させる位置。
チャイムが鳴り、シフトポジションを R にしていることを運転者に知らせます。
N (ニュートラル)
動力が伝わらない位置。

知識

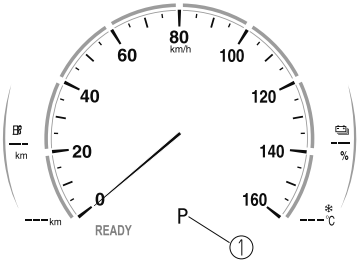
セレクトレバーを N の位置から操作するときは、車両が突然動き出すのを防止するため、ブレーキペダルを踏む、またはパーキングブレーキをかけてから操作してください。

D (ドライブ)
通常走行する位置。
シフトインジケーター
シフトポジションが点灯します。

知識

メーター内のシフトポジション表示と同じ位置のシフトインジケーターが点灯します。

▼ シフトポジション表示



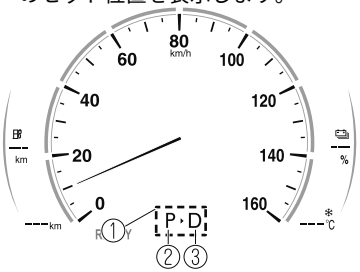
1. シフトポジション表示

電源ポジションが ON のとき、メーター内にシフトポジションを表示します。
次のときは、電源ポジションが ON 以外でもメーター内にシフトポジションを表示します。

・オート P (パーキングロック) 機能が作動しているとき
・ニュートラル保持モードが作動しているとき

シフト誘導表示

シフトポジションとセレクトレバーのセット位置が異なるとき、シフトポジションとセレクトレバーのセット位置を表示します。



1. シフト誘導表示
2. セレクトレバーセット位置
3. シフトポジション

次のときにシフト誘導表示が表示されます。

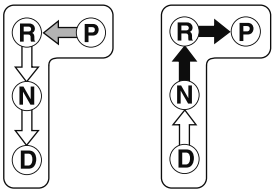
・セレクトレバーを D の位置で走行中 (時速約 5 km/h 以上) に、セレクトレバーを P の位置にしたとき
・セレクトレバーを D の位置で前進走行中 (時速約 10 km/h 以上) に、セレクトレバーを R の位置にしたとき
・セレクトレバーを R の位置で後退走行中 (時速約 10 km/h 以上) に、セレクトレバーを D の位置にしたとき
・オート P (パーキングロック) 機能が作動しているとき
・ニュートラル保持モードが作動しているときに、セレクトレバーを N の位置から D の位置、または R の位置にしたとき

知識

・次のときは、シフトポジションとセレクトレバーのセット位置が異なりますが、シフト誘導表示は表示されません。
  ・ブレーキペダルを踏まない状態で、セレクトレバーを N の位置から D の位置、または R の位置にしたとき
・オート P (パーキングロック) 機能が作動後に表示されるシフト誘導表示は、電源ポジションが ON または ACC から OFF になると、約 40 秒間表示したあと非表示になります。

セレクトレバーの操作

▼ セレクトレバーの操作



レバー操作	
⇨	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーボタンを押して操作します。
⇨	セレクトレバーボタンを押さずそのまま操作します。
➡	セレクトレバーボタンを押して操作します。

⚠ 警告

セレクトレバーを操作するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、車が完全に止まった状態で行なう。
車が動いている状態でセレクトレバーを操作すると、けがや思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

・**誤作動防止について**

⇨の操作は、誤作動防止のため、シフトポジションごとに止めて確実に行なってください。
操作後は、メーター内のシフトポジション表示でシフトポジションを確認してください。

・**先にブレーキペダルを踏んでからセレクトレバーを操作する**
セレクトレバーを P の位置から操作するとき、セレクトレバーボタンを押した状態でブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。ブレーキペダルを踏んでからセレクトレバーを操作してください。

オート P (パーキングロック) 機能

停車中、セレクトレバーが P 以外の位置にあるときに次の状態にすると、シフトポジションが自動で P に切り替わります。

・電源ポジションを ON から OFF にする。
・運転席シートベルトがはずれて、運転席ドアが開いた状態にする。

知識

オート P (パーキングロック) 機能が作動すると、シフトポジションのみを自動的に P に切り替えます。
セレクトレバーの位置は変わらないため、メーター内のシフトポジション表示とセレクトレバーの位置が異なる状態になります。
メーター内のシフトポジション表示を確認し、セレクトレバーを P の位置にしてください。

ニュートラル保持モード

ニュートラル保持モードにすると、電源ポジションが ACC、シフトポジションが N、およびパーキングブレーキが解除された状態を約 25 分維持します。
片側前後のタイヤをベルトコンベヤーに載せて車両を動かすタイプの自動洗車機など、パーキングブレーキを解除して、シフトポジションを N にする必要があるときに使用してください。

ニュートラル保持モードを作動させるとき

操作方法 1

1. ブレーキペダルを踏み込んだ状態でパワースイッチを押して、EV システムを始動します。
2. パーキングブレーキを解除します。
3. セレクトレバーを操作して、シフトポジションを N にします。
4. オートホールドを OFF にします。
5. 2 秒以上 (チャイムが鳴るまで)、電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを押し続けます。
6. 電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチから手を離し、チャイムが鳴ってから 5 秒以内にパワースイッチを押します。

操作方法 2

1. ブレーキペダルを踏み込んだ状態でパワースイッチを押して、EV システムを始動します。
2. パーキングブレーキを解除します。
3. セレクトレバーを操作して、シフトポジションを N にします。
4. オートホールドを OFF にします。
5. 電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを押したまま、ブレーキペダルを踏んでいない状態でパワースイッチを押します。

知識

ニュートラル保持モードが作動しているときに、セレクトレバーを N の位置から D の位置、または R の位置に操作するとマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、警告チャイムが鳴ります。

ニュートラル保持モードを解除するとき
次のいずれかの操作を行なうと、ニュートラル保持モードが解除されます。

・電源ポジションを ON にする。
・セレクトレバーを P の位置にする。

知識

ニュートラル保持モードが作動して、約 25 分経過すると自動でニュートラル保持モードが解除され、電源ポジションが OFF になります。
このとき、オート P (パーキングロック) 機能が作動し、シフトポジションが P になります。

シフトポジション制限

次の操作を行なうと、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

操作前のシフトポジション	操作/走行状態	セレクトレバーの操作	操作後のシフトポジション	対処のしかた
N	停車中、ブレーキペダルを踏んでいない 停車中、アクセルペダルを踏んでいる	R または D の位置にする	N*1	アクセルペダルから足を放し、ブレーキペダルを踏んでください。 シフトポジションが R または D に切り替わります。
R/D	走行中 (時速約 5 km/h 以上)	P の位置にする	N	**対処方法 1** ブレーキペダルを踏み、車速を約 5 km/h 未満にしてください。 シフトポジションが P に切り替わります。 **対処方法 2** セレクトレバーを操作前の位置 (R または D) にしてください。 セレクトレバーを操作する前のシフトポジションに切り替わります。

操作前のシフトポジション	操作/走行状態	セレクトレバーの操作	操作後のシフトポジション	対処のしかた
R	後退走行中 (時速約 10 km/h 以上)	D の位置にする	N	**対処方法 1** ブレーキペダルを踏み、車速を時速約 10 km/h 未満にしてください。 シフトポジションが D に切り替わります。 **対処方法 2** セレクトレバーを操作前の位置 (R) にしてください。 セレクトレバーを操作する前のシフトポジションに切り替わります。
D	前進走行中 (時速約 10 km/h 以上)	R の位置にする	N	**対処方法 1** ブレーキペダルを踏み、車速を時速約 10 km/h 未満にしてください。 シフトポジションが R に切り替わります。 **対処方法 2** セレクトレバーを操作前の位置 (D) にしてください。 セレクトレバーを操作する前のシフトポジションに切り替わります。

*1　自動でパーキングブレーキがかかります。

シフトロック装置

▼ シフトロック装置

シフトロック装置は、ブレーキペダルを踏まないとセレクトレバーを P の位置から操作できないようにする装置で、発進時の誤操作を防ぎます。

1. ブレーキペダルを踏み続けます。
2. パワースイッチを押して、EV システムを始動させます。
3. セレクトレバーボタンを押しながら、セレクトレバーを操作します。

知識

・電源ポジションが OFF、ACC または ON (EV システム停止中) のときは、セレクトレバーを P の位置から動かすことはできません。
・セレクトレバーが P の位置から操作できなくなったときは、12V バッテリーあがりの可能性があります。
→8-17 ページ 「12V バッテリーあがりについて」

電気自動車を運転するときに

▼ 電気自動車を運転するときに

発進または後退するとき

警告

セレクトレバーが P または N の位置のときは、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。
車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。セレクトレバーの操作は、ブレーキペダルを踏んだ状態で行なってください。

1. ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
   前進・・・D
   後退・・・R
2. メーター内のシフトポジション表示を確認します。
3. パーキングブレーキを解除します。
4. ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルを踏み発進します。

注意

後退時に車両後退を目視で確認するときは、体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。

知識

・電気自動車では、クリープ制御を行っているため、アクセルペダルを踏まなくても低速で走行します。渋滞や狭い場所での移動はクリープを利用すると、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節できます。
・シフトポジションが R のときにチャイムが鳴り、シフトポジションが R になっていることを運転者に知らせます。

知識

・少し後退したときなどは、セレクトレバーを R の位置にしたことを忘れてしまうことがあります。後退した後は、すぐにセレクトレバーを N または P の位置にし、発進時にはメーター内のシフトポジション表示を確認してください。

走行するとき

警告

走行中にセレクトレバーを N の位置にしない。
回生ブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。

通常走行

セレクトレバーを D の位置にして走行します。アクセルとブレーキの操作で加速/減速します。

急な上り坂での走行

アクセルペダルをゆっくり踏み込み、スピードを調節します。

下り坂での走行

長い下り坂や急な下り坂では、回生ブレーキレベル変更モードで回生ブレーキを強めてください。

注意

- 長い下り坂では、回生ブレーキとフットブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏んで減速を頻繁に繰り返すと、フットブレーキが過熱して効きが悪くなることがあります。
- 強い回生ブレーキのみ連続で使用し続けると、一時的に回生ブレーキが効かなくなることがあります。
- 回生ブレーキは、駆動用バッテリーが満充電に近いほど効きが弱くなり、満充電時には効かなくなります。この場合もフットブレーキは効きますので、ブレーキペダルを踏んで減速してください。

停車するとき

1. 車を完全に止め、ブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。
2. 必要に応じて、ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけます。
3. 停車時間が長くなりそうなときは、ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを P の位置にします。

警告

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない。
セレクトレバーを P、または N 以外の位置にしているときに、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車後、再発進するときは、メーター内のシフトポジション表示を確認する。
意に反して車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置にして、アクセルを踏みながら停車したりしないでください。モーターが過熱し、故障につながるおそれがあります。

駐車するとき

1. 車を完全に止め、ブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを P の位置にします。
3. メーター内のシフトポジション表示でシフトポジションが P になっていることを確認します。
4. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけます。
5. パワースイッチを押して、EV システムを停止します。

⚠ 注意

セレクトレバーを P の位置にするときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーを P の位置にすると、EV トランスアクスルに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。

そのほかに気をつけること

⚠ 警告

坂道などで、セレクトレバーを前進位置にしたまま後退したり、後退位置にしたまま前進したりしない。
モーターの出力が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

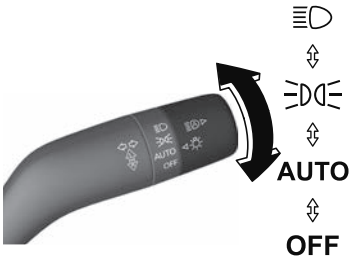
ヘッドランプスイッチ

▼ ヘッドランプの点灯/消灯

電源ポジションが ON のときに、周囲の明るさに応じてランプが自動で点灯/消灯します。ランプスイッチを操作することで、点灯/消灯させるランプを手動で切り替えることができます。
車幅灯、尾灯、番号灯のみ電源ポジションが ON 以外でも使用できます。

知識

・EV システムを停止しているときに、ランプを点灯させたままにしないでください。12V バッテリーがあがるおそれがあります。
・対向車がまぶしくないヘッドランプを採用しています。そのため、海外のような一時的な右側通行で使用するときでも、ヘッドランプの光軸を調整する必要はありません。



電源ポジション	ACC もしくは OFF				ON			
スイッチ位置	OFF*1	AUTO			OFF*1	AUTO		
ヘッドランプ	消灯				自動で点灯/消灯 *2*4		自動で点灯/消灯 *3*4	点灯
デイタイムランニングランプ*	消灯							消灯
車幅灯、尾灯、番号灯	消灯		点灯	消灯				点灯

*1　ランプスイッチは自動で AUTO の位置にもどります。
*2　昼間はデイタイムランニングランプが自動で点灯し、夜間はヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動で点灯します。
*3　昼間はデイタイムランニングランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動で点灯し、夜間はヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動で点灯します。
*4　停車中にランプスイッチを OFF の位置に切り替えると、点灯しているランプがすべて消灯します。
停車中にランプスイッチを  以外の位置から の位置に切り替えると、デイタイムランニングランプまたはヘッドランプが消灯します。消灯したランプは、車両を発進させると、再び点灯します。

車幅灯、尾灯、番号灯が点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。



知識

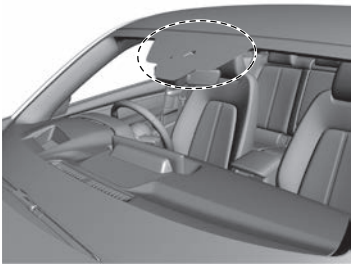
デイタイムランニングランプは、マツダコネクトの「設定」で無効にすることができます。
→マツダコネクト取扱書 「車両装備」

オートライト機能

電源ポジションが ON のとき、ライトセンサーで周囲の明るさを感知し、周囲の明るさに応じてランプが自動で点灯/消灯します。
電源ポジションを OFF にすると、自動的に消灯します。

注意

フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてライトセンサーを覆わないでください。
センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。

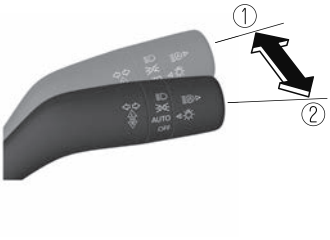


知識

・長いトンネルやトンネル内での渋滞、屋内駐車場など、周囲が暗い状態が数分間続くとライトセンサーが夜間と判断し、周囲が明るくなってもランプがすぐには消灯しない場合があります。
・車幅灯やヘッドランプを点灯させるタイミングをマツダコネクトの「設定」で変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「車両装備」

▼ ヘッドランプの切り替え

レバーを前後に操作すると、ヘッドランプの向きが切り替わります。



1. 上向き
2. 下向き

ヘッドランプが上向き (ハイビーム) で点灯しているときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。



▼ パッシング合図

電源ポジションが ON のとき使用できます。
ランプスイッチの位置に関係なく、レバーを引いている間ヘッドランプが上向き (ハイビーム) で点灯します。



1. OFF
2. パッシング合図

同時にメーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。



▼ カミング･ホーム･ライト

レバーを操作すると、ヘッドランプ (下向き) を点灯させるシステムです。

作動させるとき

電源ポジションが ACC または OFF のときに、レバーを引くとヘッドランプが下向き (ロービーム) で点灯します。すべてのドアを閉めてから一定時間経過すると消灯します。



知識

- すべてのドアを閉めてからヘッドランプが消灯するまでの時間をマツダコネクトの「設定」で変更することができます。
  →マツダコネクト取扱書 「車両装備」
- レバーを引いた後、何も操作しない状態が 3 分間続いた場合、ヘッドランプは消灯します。
- ヘッドランプが点灯中に、もう一度レバーを引くとヘッドランプは消灯します。

▼ リービング･ホーム･ライト

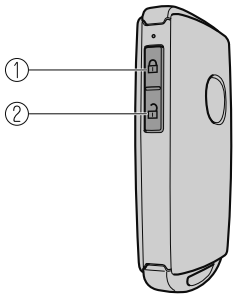
車両から離れているときにキーのアンロックスイッチを押すと、ランプを点灯させるシステムです。
リービング･ホーム･ライトを作動させると、次のランプが点灯します。
ヘッドランプの下向き (ロービーム)、車幅灯、尾灯、番号灯

作動させるとき

電源ポジションおよびランプスイッチが、次の状態のときにキーのアンロックスイッチを押し、車両がキーの信号を受信するとランプが点灯します。一定時間 (30 秒) 経過すると消灯します。

・電源ポジション: OFF

・ランプスイッチ:、、AUTO



1. ロックスイッチ
2. アンロックスイッチ

知識

・リービング･ホーム･ライトの作動/非作動をマツダコネクトの「設定」で変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「車両装備」
・キーのロックスイッチを押し、車両がキーの信号を受信すると消灯します。
・電源ポジションを ON にすると消灯します。
・ランプスイッチを OFF にすると消灯します。

▼ ヘッドランプレベリング

ヘッドランプを点灯したとき乗員や荷物の状況に応じてヘッドランプの照らす方向を上下方向へ自動で調節し、一定に保ちます。

▼ デイタイムランニングランプ*

電源ポジションを ON にすると、自動で点灯/消灯します。

知識

デイタイムランニングランプはマツダコネクトの「設定」で無効にすることができます。
→マツダコネクト取扱書 「車両装備」

方向指示器

▼ 方向指示器の操作

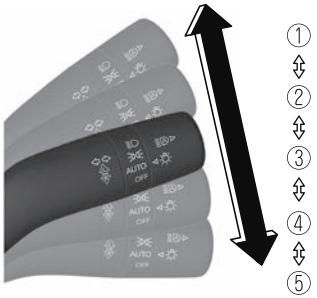
電源ポジションが ON のとき使用できます。

車線変更する場合

レバーを車線変更の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

左折、または右折する場合

レバーを左折または右折の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、ハンドルをもどすと、自動でもとの位置にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。



1. 左折
2. 左に車線変更
3. OFF
4. 右に車線変更
5. 右折

方向指示灯



知識

・方向指示灯が点滅せず点灯したまま、もしくは異常な点滅をするときは、方向指示灯の故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
・方向指示器のブザーの音量をマツダコネクトの「設定」で変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「車両装備」

▼ スリーフラッシュターンシグナル

レバーを車線変更の位置に操作し、すぐに手を離すと方向指示灯が 3 回点滅します。

知識

スリーフラッシュターンシグナルの作動/非作動をマツダコネクトの「設定」で変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「車両装備」

フロントワイパー/ウォッシャースイッチ

▼ フロントワイパー/ウォッシャースイッチ

電源ポジションが ON のとき使用できます。

⚠ 警告

寒冷地では不凍液が入ったウォッシャー液を使用する。また寒冷時にウォッシャー液を噴射するときは、ガラスを温めてから行なう。
寒冷時に不凍液が含まれないウォッシャー液を使用した場合、フロントガラス上で凍結し、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。ウォッシャー液を噴射する前に、デフロスターを使用してフロントガラスが十分に温まっていることを確認してください。

⚠ 注意

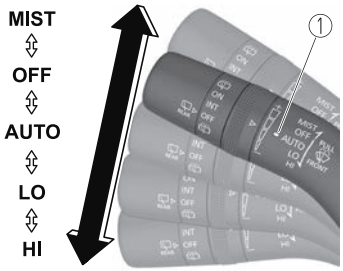
- 凍結時や長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに貼り付いていることがあります。ガラスに貼り付いた状態で作動させると、ワイパーゴムの損傷、ワイパーモーターの故障につながるおそれがあります。
- ガラスが乾いている状態でワイパーを作動させると、ガラスに傷がついたり、ワイパーゴムを損傷したりするおそれがあります。ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してください。
- ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを使用しないでください。ウォッシャー液が出ない状態で、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプの故障につながるおそれがあります。

知識

降雪時にワイパーを作動させていると、ワイパーの停止位置に雪が集まりワイパーが停止することがあります。積雪などでワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを OFF の位置にした後、集まった雪を取り除いてください。

▼ フロントワイパー

ワイパーレバーを操作すると、フロントワイパーが作動します。



1. 表示灯

レバー位置	作動状態
MIST	レバーを上に押し上げている間作動
OFF	停止
AUTO*1	オートワイパー機能
LO	低速作動
HI	高速作動

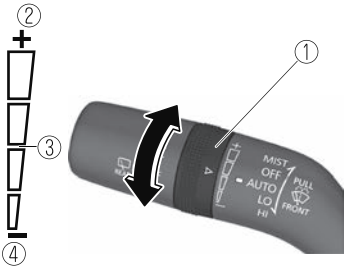
*1 ワイパーレバーを AUTO の位置にすると、表示灯が点灯します。

オートワイパー機能

レバーを AUTO の位置にしているとき、レインセンサーが雨を感知すると、雨量に応じて、ワイパーが自動で作動します。

雨量	作動状態
少ない	間欠作動
普通	低速作動
多い	高速作動

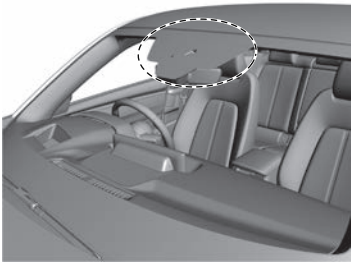
スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。



1. スイッチ
2. 雨に反応しやすい
3. 普通
4. 雨に反応しにくい

注意

- フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてレインセンサーを覆わないでください。センサーが周囲の雨量を感知できなくなり、オートワイパー機能が正常に作動しないことがあります。



- 電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、次のような場合はワイパーが自動で作動することがあります。

⚠ 注意

- フロントガラスのレインセンサー上部に触れたり、布などで拭いたとき。
- フロントガラスや車内のレインセンサー部に衝撃が加わったとき。

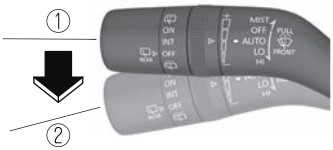
- 電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、フロントガラスやワイパーを触らないでください。ワイパーが自動で作動し、指を挟んだり、ワイパーが損傷するおそれがあります。
  氷や雪を除去する、またはフロントガラスを清掃するときは、確実にワイパーレバーが OFF の位置になっていることを確認してください。

知識

・レインセンサーの温度が-10°C以下、または 85°C以上のときはオートワイパーが作動しないことがあります。
・フロントガラスに純正品以外の撥水コーティングを使用すると、レインセンサーが雨量を正確に検知できず、オートワイパーが正常に作動しないことがあります。純正品以外の撥水コーティングは使用しないでください。
・フロントガラスのレインセンサー上部に泥や異物 (氷や塩水などを含むもの) が付着しているときや、フロントガラスが凍っているときに、ワイパーが自動で作動することがあります。ワイパーが数回作動してもセンサー上部の泥や異物、氷などを取り除けないときは、オートワイパーは作動を停止します。ワイパーレバーを LO または HI にしてワイパーを作動させるか、フロントガラスの泥や異物、氷などを取り除いてからオートワイパーを作動させてください。
・レインセンサーは光学センサーを使用しているため、強い光源、電磁波、赤外線などの影響により、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。雨天時以外はワイパーレバーを OFF の位置にして走行することをおすすめします。

▼ フロントウォッシャー

ワイパーレバーを手前に引くと、ワイパーが格納位置から反転位置に動いている間のみ、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。



1. 停止
2. ウォッシャーおよびワイパー作動

知識

ワイパーが反転位置から格納位置に動いているときにワイパーレバーを手前に引くと、次回ワイパーが格納位置から反転位置に動いている間、噴射されます。

ウォッシャー液が噴射されないときは、ウォッシャータンクの液量を確認してください。
ウォッシャー液を補充してもウォッシャー液が噴射されないときは、マツダ販売店にご相談ください。

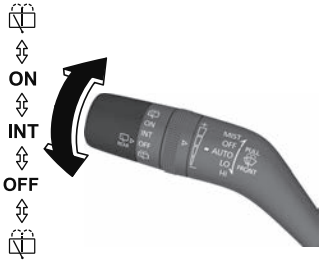
リアワイパー/ウォッシャースイッチ

▼ リアワイパー/ウォッシャースイッチ

電源ポジションが ON のとき使用できます。

▼ リアワイパー

リアワイパー/ウォッシャースイッチをまわすと、リアワイパーが作動します。



スイッチ位置	作動状態
	リアウォッシャーおよびリアワイパー作動
ON	連続作動
INT	間欠作動
OFF	停止
	リアウォッシャーおよびリアワイパー作動

▼ リアウォッシャー

ウォッシャー液を噴射させるときは、リアワイパー/ウォッシャースイッチを の位置にします。スイッチを離すとウォッシャー液の噴射が止まります。

知識

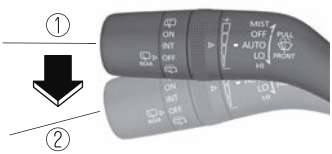
フロントウォッシャー作動中 (ワイパーレバーの操作を行なってからウォッシャー液の噴射が完了する間) は、スイッチを操作してもリアウォッシャーは噴射されません。

ウォッシャー液が噴射されないときは、ウォッシャータンクの液量を確認してください。
ウォッシャー液を補充してもウォッシャー液が噴射されないときは、マツダ販売店にご相談ください。

ヘッドランプウォッシャースイッチ*

▼ ヘッドランプウォッシャースイッチ

電源ポジションが ON でヘッドランプが点灯しているときに、レバーを手前に 2 回引くとヘッドランプウォッシャーが作動します。



1. 停止
2. ヘッドランプウォッシャー作動

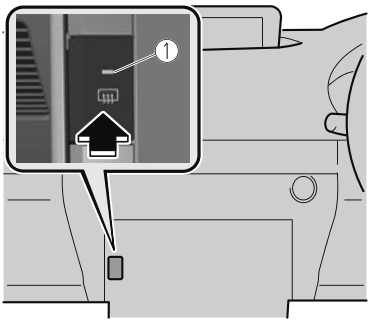
知識

ヘッドランプ点灯後、初めてフロントウォッシャーを作動させると、ヘッドランプウォッシャーが自動で作動します。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

▼ リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リアウインドーを熱線で温め、曇りを取ります。
電源ポジションが ON のとき使用できます。
スイッチを押すと約 15 分間作動します。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。



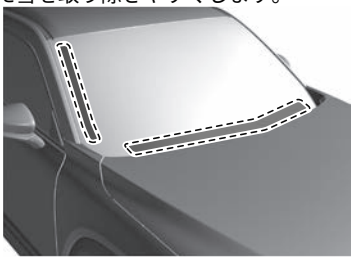
1. 表示灯

知識

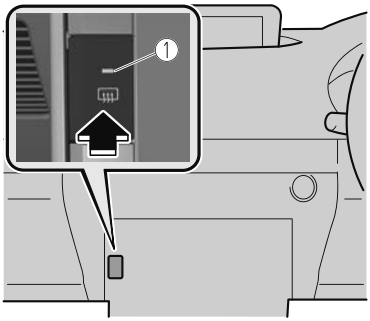
- EV システム作動中に使用してください。また、連続して長時間使用しないでください。12V バッテリーがあがるおそれがあります。
- リアウインドーデフォッガーの作動時間をマツダコネクトの「設定」で 15 分から連続作動に変更することができます。作動時間を連続作動に変更した場合、スイッチを押すと電源ポジションを OFF にするまでリアウインドーデフォッガーが作動し続けます。
- →マツダコネクト取扱書 「車両装備」

▼ ウインドーワイパーデアイサー*

次の位置の熱線を温め、フロント窓ガラスにたまった雪を取り除きやすくします。



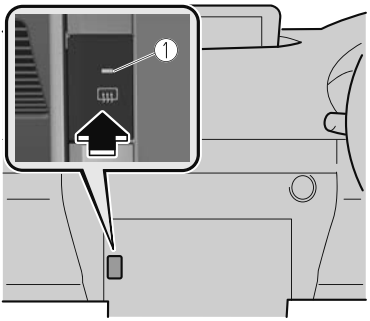
ウインドーワイパーデアイサーは、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) と連動して作動します。
電源ポジションを ON にして、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチを押すとウインドーワイパーデアイサーが作動します。



1. 表示灯

▼ ミラーの曇り取り*

ドアミラーの曇りを取ることができます。
ミラーの曇り取りは、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) と連動して作動します。
電源ポジションを ON にして、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチを押すとミラーの曇り取りが作動します。



1. 表示灯

ホーン

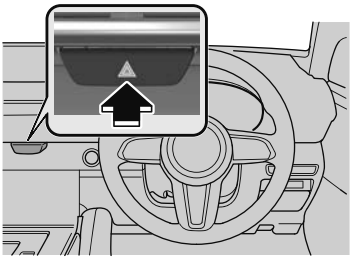
▼ ホーン

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

非常点滅灯スイッチ

▼ 非常点滅灯スイッチ

故障などでやむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。
スイッチを押すとすべての方向指示灯および、メーター内の非常点滅表示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



非常点滅表示灯



知識

・すべりやすい路面でブレーキを踏むと、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) が作動しすべての方向指示灯が点滅することがあります。
・エマージェンシーシグナルシステム (ESS) 作動中はすべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させ、後続車に注意を促します。

ブレーキの操作

▼ 電動パーキングブレーキ (EPB)

EPB とは、電気モーターでパーキングブレーキをかける装置です。自動での作動および手動での操作ができます。
EPB スイッチの表示灯は、パーキングブレーキをかけると点灯し、解除すると消灯します。



1. 表示灯

⚠ 警告

パーキングブレーキをかけたまま走行しない
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱しブレーキシステムが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
走行するときはパーキングブレーキを解除し、メーター内の EPB 表示灯が消灯していることを確認してください。

車から離れるときは、パーキングブレーキをかける
意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。車から離れるときはパーキングブレーキをかけ、メーター内の EPB 表示灯が点灯していることを確認してください。

知識

・12V バッテリーがあがったときは、パーキングブレーキをかけたり、解除したりすることはできません。

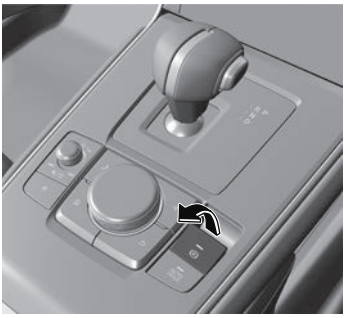
知識

・メーター内の充電警告灯が点灯しているときは、電源ポジションを OFF にした後、パーキングブレーキをかけることができません。電源ポジションを OFF にする前に、手動でパーキングブレーキをかけてください。
・パーキングブレーキをかけたり、解除したりしたときに、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
・EPB を長期間使用しない場合は、駐車中にシステムの自動点検を行ないます。作動音が聞こえますが、異常ではありません。
・パーキングブレーキをかけて電源ポジションを OFF にしたとき、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
・パーキングブレーキをかけたり、解除したりしたときに、ブレーキペダルが動くことがありますが、異常ではありません。
・走行中にブレーキシステム (フットブレーキ) が故障した場合、EPB スイッチを引き続けると、その間はブレーキがかかり、車両を減速・停止させることができます。ブレーキ作動中は、EPB 警告チャイムが鳴ります。また、スイッチから手を離すと、ブレーキは解除され、チャイムが停止します。
・電源ポジションが OFF または ACC のときにパーキングブレーキがかかっている場合は、メーター内の EPB 表示灯およびスイッチの表示灯が 15 秒間点灯することがあります。
・前輪を載せて車両を動かすタイプの自動洗車機を使用する場合は、車両を自動洗車機に入れる際に、パーキングブレーキの自動作動を停止する必要があります。詳細は「パーキングブレーキの自動作動を停止するとき」を参照してください。
・パーキングブレーキを解除して、シフトポジションを N にする必要がある自動洗車機をご使用する場合は、ニュートラル保持モードをご使用ください。
ニュートラル保持モードについては、「セレクトレバーの操作」を参照してください。
→5-31 ページ「セレクトレバーの操作」

手動で操作するとき

パーキングブレーキを手動でかけるとき

電源ポジションに関係なく、ブレーキペダルをしっかりと踏み込み、EPB スイッチを引き上げると、パーキングブレーキがかかります。パーキングブレーキがかかると、メーター内の EPB 表示灯および EPB スイッチの表示灯が点灯します。



EPB 表示灯



パーキングブレーキを手動で解除するとき

電源ポジションが ON または EV システム作動中にブレーキペダルをしっかりと踏み込み、EPB スイッチを押すと、パーキングブレーキが解除されます。パーキングブレーキを解除すると、メーター内の EPB 表示灯および EPB スイッチの表示灯が消灯します。



ブレーキペダルを踏み込まずに EPB スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブレーキペダルを踏み込むよう運転者にお知らせます。

自動で作動するとき

パーキングブレーキを自動でかけるとき

電源ポジションを ON から ACC または OFF にすると、パーキングブレーキが自動でかかります。パーキングブレーキがかかると、メーター内の EPB 表示灯および EPB スイッチの表示灯が点灯します。

知識

・電源ポジションが OFF のときに、パーキングブレーキを解除したい場合は、パーキングブレーキの自動作動を停止する必要があります。詳細は「パーキングブレーキの自動作動を停止するとき」を参照してください。

パーキングブレーキを自動で解除するとき

パーキングブレーキがかかっている状態で、次の条件をすべて満たしているときにアクセルペダルを踏むと、パーキングブレーキが自動で解除されます。パーキングブレーキを解除するとメーター内の EPB 表示灯および EPB スイッチの表示灯が消灯します。

・EV システム作動中のとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・セレクトレバーが D、R の位置のとき

知識

EV システム作動中でパーキングブレーキがかかっているときに、アクセルペダルに足などがあたると、パーキングブレーキを自動解除してしまう場合があります。ただちに発進しない場合は、セレクトレバーを P または N の位置にしてください。

パーキングブレーキの自動作動を停止するとき

次のいずれかの操作を行なうと、電源ポジションを ON から OFF にしたとき、パーキングブレーキが自動でかかる作動を停止することができます。

操作方法 1

1. 電源ポジションを ON にします。
2. パーキングブレーキを手動で解除します。
3. オートホールドを OFF にします。
4. 2 秒以上 (チャイムが鳴るまで)、EPB スイッチを押し続けます。
5. EPB スイッチから手を離し、チャイムが鳴ってから 5 秒以内に、電源ポジションを OFF にします。
   自動作動を停止すると、チャイムが 1 回鳴り、EPB スイッチの表示灯が、消灯から速い点滅に変わり、3 秒後に消灯します。

操作方法 2

1. 電源ポジションを ON にします。
2. パーキングブレーキを手動で解除します。
3. オートホールドを OFF にします。
4. EPB スイッチを押したまま、ブレーキペダルを踏んでいない状態でプッシュボタンスタートを押して、電源ポジションを OFF にします。
   自動作動を停止すると、チャイムが 1 回鳴り、EPB スイッチの表示灯が、通常の点滅から速い点滅に変わり、3 秒後に消灯します。

知識

・パーキングブレーキの自動作動を停止して駐車するときは、セレクトレバーを P の位置にしてタイヤに輪止めをしてください。
・急勾配のときは、自動作動を停止できないときがあります。

パーキングブレーキの自動作動は、電源ポジションを ON にすると復帰します。

▼ ブレーキ･オーバーライド･システム

ブレーキ･オーバーライド･システムとは、ブレーキとアクセルを同時に踏み込んだ際、安全のためにブレーキを優先して作動させるシステムです。

知識

ブレーキ･オーバーライド･システムを作動しないようにマツダコネクトの「設定」で変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

オートホールド

▼ オートホールド

停車中にブレーキペダルから足を放しても、ブレーキを制御して車両の停車状態を保持する機能です。信号待ちなどの停車時に運転者の負担を軽減します。

⚠ 警告

オートホールドを過信しない
オートホールドは、あくまでも停車時のブレーキ操作を補助する機能です。機能を過信してブレーキ操作を怠ると、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。道路状況や周囲の状況に応じて、適切にブレーキを操作してください。

停車中、急な坂道ではブレーキペダルから足を放さない
オートホールド機能による停車保持ができない可能性があるため、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

凍結路、積雪路および未舗装路などのすべりやすい路面では、オートホールドの使用をひかえる
オートホールド機能による停車保持が作動していても、車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要に応じてアクセルやブレーキ、ハンドルを適切に操作してください。

次のような場合は、ただちにブレーキペダルを踏み込む
オートホールド機能が強制解除されるため、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

- マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキペダルを踏んでください停止保持を継続できません」とメッセージが表示され、同時にブザーが鳴ったとき

駐車するとき、および車両から離れるときは、パーキングブレーキをかける
意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。駐車するとき、および車両から離れるときは、セレクトレバーを P の位置にして、パーキングブレーキをかけてください。

⚠ 注意

車両が発進する前にアクセル操作をやめた場合、停車状態を保持する力が弱まっている場合があります。ブレーキペダルをしっかり踏み込む、または発進するまでアクセルペダルを踏み込んでください。

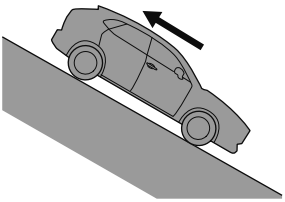
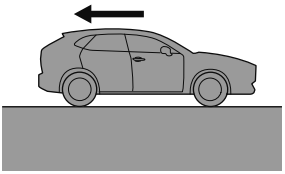
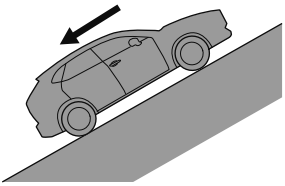
知識

・次のようなときは、オートホールドに不具合が発生しています。すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

・オートホールド作動中やオートホールドスイッチを操作したときに、約 5 秒間、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されてブザーが鳴る

・オートホールド作動中に電源ポジションを OFF にすると、自動的にパーキングブレーキがかかり、駐車するときに必要な運転者の操作を補助します。

・車両前上がりの状態、または平坦路でセレクトレバーを R の位置にすると、オートホールドが解除されます。必要に応じてブレーキを操作してください。

車両姿勢および路面勾配		オートホールド作動状態
車両前下がり		作動する
平坦路		作動しない、解除
車両前上がり		作動しない、解除

: 後退時 (セレクトレバーが R の位置)

▼ オートホールドを ON にするとき

オートホールドスイッチを押して、オートホールドスタンバイ表示灯が点灯すると、オートホールドが ON になります。



1. オートホールドスタンバイ表示灯

知識

・次のすべての条件を満たすと、オートホールドスイッチを押したときに、オートホールドスタンバイ表示灯が点灯して、オートホールドが ON になります。
  ・電源ポジションが ON (EV システム作動中) のとき
  ・運転席シートベルトを着用しているとき
  ・運転席ドアが閉まっているとき
  ・オートホールドが故障していないとき

オートホールドを作動させ、ブレーキを保持するには

1. ブレーキペダルを踏み、車両を停車させます。
2. メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯し、ブレーキが保持されます。

HOLD

3. ブレーキペダルから足を放すと、車両の停車状態が保持されます。

知識

・次のすべての条件を満たすと、オートホールドが作動して、ブレーキが保持されます。
  ・電源ポジションが ON (EV システム作動中) のとき
  ・車両が停止しているとき
  ・ブレーキペダルを踏んでいるとき
  ・オートホールドスタンバイ表示灯が点灯しているとき
  ・アクセルペダルを踏んでいないとき
  ・運転席シートベルトを着用しているとき
  ・運転席ドアが閉まっているとき
  ・オートホールドが故障していないとき
  ・パーキングブレーキが解除されているとき
  ・電動パーキングブレーキ (EPB) が故障していないとき
  ・セレクトレバーが R 以外の位置、または R の位置で車両が前下がりの状態のとき

オートホールドを解除させ、発進するには

・車両を発進させようとすると、ブレーキ保持が解除され、メーター内のオートホールド作動表示灯が消灯します。

知識

・オートホールドが作動しているときに、電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを引き上げると、パーキングブレーキがかかり、オートホールドが解除されます。また、この状態からパーキングブレーキを解除すると、オートホールドが作動して、ブレーキが保持されます。
・次のようなときは、パーキングブレーキが自動でかかり、オートホールドが解除されます。オートホールドが解除される前の状態にもどすと、オートホールドが復帰します。
  ・運転席シートベルトをはずしたとき
  ・運転席ドアを開けたとき

知識

・オートホールドが作動開始してから約 10 分以上経過すると、パーキングブレーキが自動でかかります。パーキングブレーキを解除すると、オートホールドが復帰するため、再度オートホールドでのブレーキ保持を開始します。
・オートホールド作動中に、アクセルペダルを約 1 秒いっぱいに踏み込むと、オートホールドを強制的に解除できます。システム故障などでオートホールドが通常操作で解除できないときや、緊急でオートホールドの解除が必要なときのみ使用してください。

▼ オートホールドを OFF にするとき

ブレーキペダルを踏み込み、オートホールドスイッチを押します。オートホールドが OFF になり、オートホールドスタンバイ表示灯が消灯します。



1. オートホールドスタンバイ表示灯

知識

・走行中などブレーキが保持されていないときは、オートホールドスイッチを押すだけでオートホールドを OFF にすることができます。
・オートホールドが作動しているとき (メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯中) に、ブレーキペダルを踏み込まずにオートホールドスイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに「解除するにはブレーキペダルを踏みスイッチを操作してください」とメッセージが表示され、ブレーキペダルを踏み込むように運転者に知らせます。
・オートホールドが作動しているとき (メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯中) に、次のような状況になると、パーキングブレーキが自動でかかり、オートホールドが OFF になります。電動パーキングブレーキ (EPB) の操作方法については、電動パーキングブレーキ (EPB) を参照してください。

・電源ポジションを OFF にしたとき
・オートホールドが故障したとき

エマージェンシーシグナルシステム (ESS)

▼ エマージェンシーシグナルシステム (ESS)

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は、急ブレーキをかけたときの車速が約 55 km/h 以上のときに、すべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させ、後続車に注意を促すシステムです。

知識

・**点滅について**
すべての方向指示灯が高速点滅中に停車した場合、すべての方向指示灯は通常の周期で点滅します。ブレーキペダルから足を放すと方向指示灯が消灯します。
・**作動について**
・ABS 作動時は、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) が作動しやすくなります。そのため、すべりやすい路面でブレーキを踏むと、すべての方向指示灯が点滅することがあります。
・非常点滅灯スイッチが操作されると、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は作動しません。

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) とは

▼ ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) とは

HLA とは、坂道発進を補助する機能です。坂道停車後の発進時、ブレーキペダルからアクセルペダルに踏みかえる際の車両のずり下がりを防ぎます。坂道を後退して上るときにも作動します。
急な坂道でブレーキペダルを放したときに自動でブレーキ力を保持します。
セレクトレバーが前進の位置のときは、車両前上がりの状態のとき作動し、R の位置のときは車両前下がりの状態のとき作動します。

⚠ 警告

HLA を過信しない。
HLA はあくまでも発進するときの補助機能です。システムが作動する時間は限られています (約 2 秒間) ので、アクセルやブレーキの適切な操作を怠ると、車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあるため危険です。発進時は周囲の安全を確認してください。積載やけん引の状態によって、車両が意図せず動き出す可能性がありますのでご注意ください。

知識

・緩勾配の坂道では HLA が作動しません。また、積載状態によって作動する勾配が若干変化します。
・パーキングブレーキがかかっているときや、車両が完全に停車していないときは HLA は作動しません。
・HLA 作動中にブレーキペダルが硬くなったり、ペダルが振動したりすることがありますが、異常ではありません。
・TCS/DSC 作動表示灯が点灯しているときは、HLA が作動しないことがあります。
・TCS を解除しても HLA は解除されません。

ABS とは

▼ ABS とは

ABS (アンチロックブレーキシステム) は、すべりやすい路面での制動時に起こる車輪のロックを防いで車の方向安定性を保ち、操縦性を確保する装置です。

⚠ 警告

ABS を過信せず安全運転に心がける。
ABS が作動した状態でも車の方向安定性や操縦性には限界があります。また、次のようなときには、速度をひかえめにし、車間距離を十分にとって運転してください。ABS が装備されていない車に比べて制動距離が長くなることがあるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ジャリ道、新雪道を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

⚠ 注意

前後輪とも必ず指定されたサイズや種類のタイヤを装着してください。指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると、ABS が正常に作動しないことがあります。

▼ ABS 装備車の取り扱い

急ブレーキを踏まなくてはいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけてください。万一の危険な状況では、次のようにしてください。

1. 危険を感じ急制動が必要なときは、ためらわずブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。
2. ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルから小刻みな振動を感じることがあります。これは ABS が正常に作動しているときの現象です。
3. 障害物を回避するときは、ブレーキペダルを踏みながらハンドルを操作してください。

知識

・ABS は低速 (約 10 km/h 以下) では作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。

TCS とは

▼ TCS とは

TCS (トラクションコントロールシステム) は、水にぬれた路面や雪道などのすべりやすい路面での発進や旋回加速時に起こる駆動輪の空転を防ぎ、適切な駆動力と操縦性を確保する装置です。

⚠ 警告

TCS を過信せず安全運転に心がける。
TCS が作動した状態でも駆動力の確保や車の操縦性には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- モーターの回転が高いときに TCS が作動すると、モーターの回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。
- TCS を解除するときは、TCS OFF スイッチを押して解除してください。

▼ TCS/DSC 作動表示灯



点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - 走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

▼ TCS OFF 表示灯

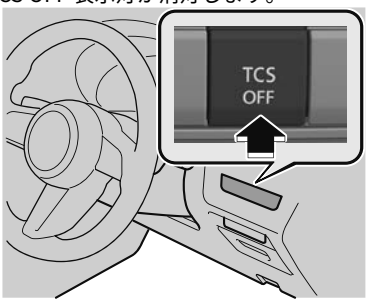


点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- TCS OFF スイッチを押して、TCS を停止すると点灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - TCS を停止していないのに点灯したとき。

▼ TCS OFF スイッチ

スイッチを押すと TCS が停止され、メーター内の TCS OFF 表示灯が点灯します。もう一度押すと TCS が作動可能な状態になり、メーター内の TCS OFF 表示灯が消灯します。



知識

- ぬかるみや新雪などからの脱出時に TCS が作動し、アクセルペダルを踏み込んでもモーターの出力が上がらず、脱出困難なときに TCS を停止します。
- TCS を停止した状態で EV システムを停止した場合、次に EV システムを始動すると TCS は作動可能な状態にもどります。
- TCS を停止したときは、TCS が装備されていない車と同じ走行性能になります。

知識

・TCS OFF スイッチを 10 秒以上押し続けると、その後 TCS OFF スイッチを押しても TCS を停止することができなくなります。
その場合、一度電源ポジションを OFF にして、再度電源ポジションを ON にすると、通常の TCS OFF スイッチの操作が可能になります。
・TCS を停止した状態でスマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動すると、TCS は自動的に作動可能な状態に復帰します。
・TCS を停止した状態でマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))/クルージング & トラフィック・サポート (CTS) を設定すると、TCS は自動的に作動可能な状態に復帰します。

DSC とは

▼ DSC とは

DSC (ダイナミック・スタビリティ・コントロール) は、すべりやすい路面での走行時や、緊急回避など急激なハンドル操作による車両の横すべりを抑えるため、ABS や TCS などにより、ブレーキやモーターの出力を自動的に制御して、車両の安定性を確保する装置です。
DSC は約 20 km/h 以上で作動可能な状態になります。
「ABS について」、「TCS について」もあわせてお読みください。

警告

DSC を過信せず安全運転に心がける。
DSC が作動した状態でも車両の安定性や操縦性には限界があるため、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。
特に TCS/DSC 作動表示灯が点滅しているときは、車両が横すべりしやすい状態になっています。慎重に運転してください。

注意

- DSC を正常に作動させるために次の点をお守りください。
  - 前後輪とも必ず指定されたサイズで、メーカー、銘柄、パターン (溝の模様) が同一のタイヤを装着してください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - 指定以外のサイズや、異なる種類、摩耗差の著しいタイヤを使用しないでください。
- タイヤチェーンや応急用スペアタイヤ装着時のように径の異なるタイヤを使用したときは、DSC が正常に作動しないことがあります。

知識

・電源ポジションを ON にした後、インストルメントパネルの奥からカチッと音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。
・DSC が故障したときは、ヒル・ローンチ・アシスト (HLA) が作動しないおそれがあります。

▼ TCS/DSC 作動表示灯



点灯するとき

・電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
・次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  ・電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  ・走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

i-ACTIVSENSE とは

▼ i-ACTIVSENSE とは

i-ACTIVSENSE (アイ・アクティブセンス) とは、フォワードセンシングカメラ (FSC) やレーダーセンサーなどの検知システムを利用したマツダの先進安全・運転支援システムの総称です。これらのシステムは、アクティブセーフティ技術とプリクラッシュセーフティ技術で構成されています。
これらのシステムはあくまで、ドライバーの安全運転を前提としたシステムであり、運転負荷や事故被害の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。

▼ アクティブセーフティ技術とは

アクティブセーフティ技術とは、安全・安心な運転を支援し、事故を未然に防止する技術です。

認知支援システム

夜間視界

アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) .....5-75 ページ
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC).....5-74 ページ

左右側面・後側方認知

車線逸脱警報システム.....5-77 ページ
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM).....5-79 ページ

標識認知

交通標識認識システム (TSR).....5-83 ページ

車間認知

ディスタンス & スピード・アラート (DSA)..... 5-89 ページ

交差点発進時前方認知

前側方接近車両検知 (FCTA).....5-93 ページ

駐車場発進時後方認知

後側方接近車両検知 (RCTA)..... 5-95 ページ

全周囲認知

360°ビュー・モニター..... 5-135 ページ

運転者疲労検知

ドライバー・アテンション・アラート (DAA)..... 5-90 ページ
ドライバー・モニタリング..... 5-91 ページ

運転支援システム

車間距離

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))..... 5-98 ページ

車線逸脱

レーンキープ・アシスト・システム (LAS) .....5-111 ページ

車線保持

緊急時車線維持支援 (ELK).....5-114 ページ

車間距離・車線保持

クルージング & トラフィック・サポート (CTS)..... 5-103 ページ

▼ プリクラッシュセーフティ技術とは

プリクラッシュセーフティ技術とは、事故が避けづらい状況での衝突回避、避けられず衝突した際の被害低減を図る技術です。

衝突回避支援・被害軽減

前進時

スマート・ブレーキ・サポート (SBS).....5-120 ページ
AT 誤発進抑制制御 [前進時].....5-129 ページ

後退時

スマート・ブレーキ・サポート (SBS).....5-120 ページ
AT 誤発進抑制制御 [後退時].....5-133 ページ

▼ カメラ、センサーについて

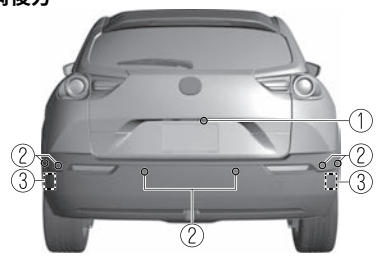
i-ACTIVSENSE は、次の検知システムを利用します。

車両前方



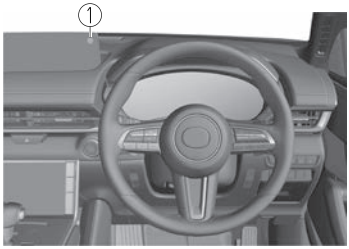
1. フォワードセンシングカメラ (FSC)
   →5-64 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
2. フロントカメラ
   →5-72 ページ「フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラについて」
3. サイドカメラ
   →5-72 ページ「フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラについて」
4. フロント超音波センサー
   →5-71 ページ「フロント超音波センサーについて」
5. フロントサイドレーダーセンサー
   →5-69 ページ「フロントサイドレーダーセンサーについて」
6. フロントレーダーセンサー
   →5-67 ページ「フロントレーダーセンサーについて」

車両後方



1. リアカメラ
   →5-72 ページ「フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラについて」
2. リア超音波センサー
   →5-72 ページ「リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーについて」
3. リアサイドレーダーセンサー
   →5-70 ページ「リアサイドレーダーセンサーについて」

車内



1. ドライバー・モニタリングカメラ
   →5-73 ページ「ドライバー・モニタリングカメラについて」

▼ 警報･リスク回避支援表示

次のシステムの状態を、警報･リスク回避支援表示の色または OFF 表示で運転者にお知らせします。

・車線逸脱警報システム
・ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)
・ディスタンス & スピード･アラート (DSA)
・前側方接近車両検知 (FCTA)
・後側方接近車両検知 (RCTA)
・レーンキープ･アシスト･システム (LAS)

警報･リスク回避支援表示 (白)



システム待機状態

すべてのシステムの作動条件を満たしていないとき、またはシステムに何らかの故障があるときは、警報･リスク回避支援表示 (白) を表示します。

知識

たとえば、ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) が正常に作動していても車線逸脱警報システムが故障しているときは、警報･リスク回避支援表示 (白) を表示します。

警報･リスク回避支援表示 (緑)



システム作動状態

いずれかのシステムが作動条件を満たしているときは、警報･リスク回避支援表示 (緑) を表示します。

知識

警報･リスク回避支援表示 (緑) が表示していても、作動条件を満たしていないシステムは作動しません。

警報･リスク回避支援表示 (橙)



システム警告状態

いずれかのシステムが警報しているときは、警報･リスク回避支援表示 (橙) を表示します。

警報・リスク回避支援 OFF 表示



システム停止状態

i-ACTIVSENSE OFF スイッチですべてのシステムを停止しているときは、警報･リスク回避支援 OFF 表示を表示します。

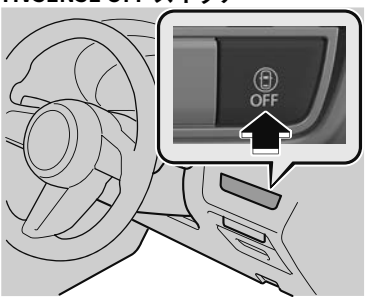
▼ i-ACTIVSENSE OFF スイッチ

i-ACTIVSENSE OFF スイッチを押すと、次のシステムの作動が停止し、メーター内に警報･リスク回避支援 OFF 表示が表示されます。

・車線逸脱警報システム
・ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)
・ディスタンス & スピード･アラート (DSA)
・前側方接近車両検知 (FCTA)
・後側方接近車両検知 (RCTA)
・レーンキープ･アシスト･システム (LAS)

もう一度 i-ACTIVSENSE OFF スイッチを押すと、もとの作動状態にもどって警報･リスク回避支援 OFF 表示が消えます。

i-ACTIVSENSE OFF スイッチ



警報･リスク回避支援 OFF 表示



i-ACTIVSENSE OFF スイッチでシステムを停止したまま電源ポジションを OFF にすると､次に電源ポジションを ON にしたときにシステムが自動復帰します。
ただし､マツダコネクトの「設定」でシステムを停止している場合は､自動復帰しません。

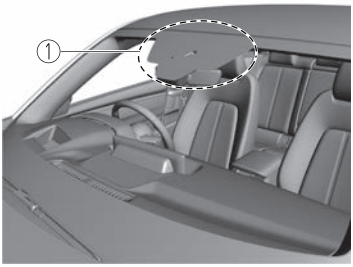
知識

マツダコネクトの「設定」で､停止するシステムを選択できます。ただし､スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の停止は､警報･リスク回避支援 OFF 表示が表示されている場合にのみ可能です。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

フォワードセンシングカメラ (FSC) について

▼ フォワードセンシングカメラ (FSC) について

この車両にはフォワードセンシングカメラ (FSC) が装備されています。



1. フォワードセンシングカメラ (FSC)

フォワードセンシングカメラ (FSC) は､次のシステムが共用しています。

- ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)
- アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)
- 車線逸脱警報システム
- 交通標識認識システム (TSR)
- ディスタンス & スピード･アラート (DSA)
- ドライバー･アテンション･アラート (DAA)
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
- クルージング & トラフィック･サポート (CTS)
- レーンキープ･アシスト･システム (LAS)
- 緊急時車線維持支援 (ELK)
- スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の前進時検知機能
- AT 誤発進抑制制御 [前進時]

フォワードセンシングカメラ (FSC) は､夜間走行時に前方の状況を判断したり､車線表示を検知したりしています。フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を認識できる距離は､周囲の状況により異なります。

⚠ 注意

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- フォワードセンシングカメラ (FSC) 本体やその周辺部に強い衝撃や力を加えないでください。万一、衝撃が加わった場合は、次のシステムの使用を中止してマツダ販売店にご相談ください。
  - HBC
  - ALH
  - 車線逸脱警報システム
  - TSR
  - DSA
  - DAA
  - MRCC (全車速追従機能付)
  - CTS
  - LAS
  - ELK
  - SBS の前進時検知機能
  - AT 誤発進抑制制御 [前進時]
- フォワードセンシングカメラ (FSC) のカバーをはずさないでください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズを汚したり、傷をつけたりしないでください。また、分解などもしないでください。故障や誤作動の原因になります。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) の向きは厳密に調整されていますので、フォワードセンシングカメラ (FSC) の取り付け位置を変更したり、取りはずしたりしないでください。故障や誤作動の原因になります。
- カメラのレンズの手入れは、マツダ販売店にご相談ください。
- インストルメントパネルの上に、光を反射するものを置かないでください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスに、アクセサリー、ステッカー、フィルムなどを貼らないでください。フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズの前方にさまたげとなるものがあると、それが透明であっても誤作動の原因となります。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスは、汚れたり曇ったりしないように常にきれいな状態にしてください。フロントガラスが曇ったときは、曇り取りスイッチを押してください。

⚠ 注意

- フォワードセンシングカメラ (FSC) は、フロントガラスの汚れを検知してお知らせする機能を備えていますが、ビニール袋、氷、雪などが付着した場合など、状況によっては検知できない場合があります。このようなときは前方車を正しく判断できず、正しい制御ができないおそれがあります。常に前方を注意して運転してください。
- フロントガラスの手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがフォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズに付着しないようにしてください。また、フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズには触れないでください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 前方のフロントガラス内側の清掃は、マツダ販売店にご相談ください。
- 飛び石などでフロントガラスに傷がついたときは、フロントガラスを必ず交換してください。フロントガラスを交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 本体周辺の修理を行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。
- ルームミラー周辺の修理を行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。
- タイヤは、4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンのものを使用してください。また、摩耗差の著しいタイヤや空気圧が著しく異なるタイヤを混ぜて使用しないでください。 (応急用スペアタイヤも含む)

知識

・フォワードセンシングカメラ (FSC) は、逆光や霧などで正常に作動できない場合に、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告表示/警告灯を点灯させますが、故障ではありません。

・HBC 警告表示/警告灯
・ALH 警告表示/警告灯
・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯

知識

・フォワードセンシングカメラ (FSC) は、高温で正常に機能できない場合に、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告表示/警告灯を点灯させますが、故障ではありません。エアコンを作動させるなどして、フォワードセンシングカメラ (FSC) 周辺の温度を下げてください。
  ・HBC 警告表示/警告灯
  ・ALH 警告表示/警告灯
  ・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯
・フォワードセンシングカメラ (FSC) が、フロントガラスの汚れや曇りを検知した場合に、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告表示/警告灯を点灯させますが、故障ではありません。フロントガラスの汚れを取り除く、または、曇り取りスイッチを押してください。
  ・HBC 警告表示/警告灯
  ・ALH 警告表示/警告灯
  ・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯

歩行者の検知について

フォワードセンシングカメラ (FSC) は、次の条件をすべて満たしているときに歩行者を検知します。

・歩行者の身長が、約 1 m～2 m のとき
・頭部、両肩、足など、歩行者の輪郭が判別できるとき

次の条件のいずれかを満たしているときは、フォワードセンシングカメラ (FSC) が歩行者を検知できないことがあります。

・歩行者が複数人いるとき
・歩行者が別の障害物の近くにいるとき
・歩行者がしゃがんでいる、横たわっている、前かがみになっているとき
・歩行者が急に飛び出してきたとき
・歩行者が何かを持っているとき (傘をさす、大きな荷物を持つなど)
・歩行者が背景に溶け込んでいるとき (夜間などに暗い場所にいる、背景と近い色の服を着ているなど)

物の検知について

次の条件のいずれかを満たしているときは、フォワードセンシングカメラ (FSC) が正確に対象物を検知できず、各システムが正常に作動しないことがあります。

・前方車の車高が低いとき
・前方車と同程度の速度で走行しているとき
・夜間やトンネル内などで、ヘッドランプを点灯していないとき

次の条件のいずれかを満たしているときは、フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できず、各システムが正常に作動しないことがあります。

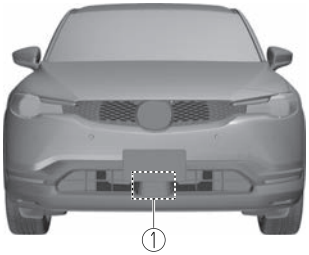
・対象物がフォワードセンシングカメラ (FSC) の死角にいるとき
・対象物が横から飛び出したり、目の前に割り込んだりしたとき
・対象物との距離が極端に近いとき
・自車が進路変更をして対象物に接近したとき
・前方車が特殊な形状のとき (キャリアカーなど)
・前方車が荷台の低いトラックのとき
・前方車の車高が極端に低いとき、または極端に高いとき
・前方車がヘッドランプの照射範囲外にいるとき
・前方車にテールランプが装備されていないとき
・前方車のテールランプが暗いとき、または消灯しているとき
・対向車のヘッドランプが暗いとき、または消灯しているとき
・天候が悪いとき (雨、霧、雪など)
・前方の視界状況が悪いとき (前方車が水、雪、砂などをまき上げて走行するなど)
・前方から強い光を受けたとき (逆光、ヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
・前方にたくさんの光を発するものがあるとき
・周囲が暗いとき (夜間、夕方、朝方、トンネル、屋内駐車場など)
・周囲に光源があるとき (街灯、電光掲示、信号機など)
・周囲に光を反射する物があるとき (反射板、標識など)
・周囲の明るさが急に変わるとき (トンネルの出入り口など)
・自車のヘッドランプの明るさが十分でないとき (ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき、ヘッドランプの光軸がずれているときなど)

・自車のタイヤが指定サイズと異なるとき (タイヤチェーン装着時、応急用タイヤ装着時など)
・自車のタイヤの偏摩耗が著しいとき
・フロントガラスに異物が付着しているとき (氷、曇り、雪、霜、雨滴、汚れ、ビニールなど)
・フロントガラスが汚れたり、曇ったりしているとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近に遮へい物があり、前方が見えないとき (ルーフレールを装着して長尺物を載せたときなど)
・ウォッシャーを使用しているとき
・降雨時にワイパーを使用していないとき
・自車が傾いているとき (荷室や後席に重い荷物を載せたときなど)
・他車をけん引しているとき
・急カーブ、急な上り坂、急な下り坂を走行しているとき
・カーブの多い道、起伏の激しい道を走行しているとき
・凸凹な道を走行しているとき
・模様のない壁の横を走行しているとき (フェンスや縦じま模様の壁を含む)
・路面に水たまりがあるとき
・路面が光っているとき

フロントレーダーセンサーについて

▼ フロントレーダーセンサーについて

この車両にはフロントレーダーセンサーが装備されています。



1. フロントレーダーセンサー

フロントレーダーセンサーは、次のシステムが共用しています。

・ディスタンス & スピード・アラート (DSA)
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
・クルージング & トラフィック・サポート (CTS)
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前進時検知機能

フロントレーダーセンサーは、フロントレーダーセンサーから送信される電波が前方車や障害物に反射し、もどってきた電波を検知することで制御しています。

⚠ 注意

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- フロントレーダーセンサーのカバーにステッカー (透明なものを含む) などを貼り付けたり、フロントレーダーセンサーのカバーを正規品以外の物に取り替えたりしないでください。
- フロントレーダーセンサーは、センサー前面の汚れを検知してお知らせする機能を備えていますが、ビニール袋や氷、雪などが付着した場合などは、検出に時間がかかったり、状況によっては検知できなかったりする場合があります。このようなときは、システムが正常に作動しなくなるおそれがありますので、センサーはいつもきれいにしておいてください。
- マルチインフォメーションディスプレイに“安全運転支援システム一時的に作動しません周囲の安全を確認して走行してください前方のレーダーが汚れています”が表示されたときは、フロントレーダーセンサー付近を清掃してください。
- グリルガードなどを取り付けないでください。
- 接触事故などでフロント部分を破損したときは、フロントレーダーセンサーの位置がずれることがあります。ただちにシステムの使用を中止し、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。
- 駐車スペースなどから車両を出すときに、他の車両や障害物をフロントバンパーで押さないでください。フロントレーダーセンサーに荷重が加わり、位置がずれる可能性があります。
- フロントレーダーセンサー付近を修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。
- タイヤは、4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンのものを使用してください。また、摩耗差の著しいタイヤや空気圧が著しく異なるタイヤを混ぜて使用しないでください。 (応急用スペアタイヤも含む)

知識

- 12 V バッテリーが弱ってきた場合は、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 交通量が少なく、フロントレーダーセンサーが検知する前方車が少ない道路を走行すると、ディスプレイに“安全運転支援システム一時的に作動しません周囲の安全を確認して走行してください前方のレーダーが汚れています”が一時的に表示されることがありますが異常ではありません。
- フロントレーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。フロントレーダーセンサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、製品を分解および改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用ください。

片側に高架が続いている道路を走行しているときに、フロントレーダーセンサーの機能が一時的に制限されることがあります。
次の条件のいずれかを満たしているときは、フロントレーダーセンサーが前方車や障害物を正確に検知できず、各システムが正常に作動しないことがあります。

- 前方車の後面が電波を反射しにくいとき (空荷のトレーラー、荷台を幌で囲った車両、樹脂製リアゲートの車両、丸い形状の車両など)
- 前方車の電波反射面積が小さいとき (車高の低い車両など)
- 天候が悪いとき (雨、霧、雪など)
- 前方の視界状況が悪いとき (前方車が水、雪、砂などをまき上げて走行するなど)
- フロントレーダーセンサーのカバーの表面に異物が付着しているとき (氷、雪、汚れなど)
- 自車が傾いているとき (荷室や後席に重い荷物を載せたときなど)
- 強力な電波を発生させる施設や物体などの近くを走行しているとき

次の条件のいずれかを満たしているときは、フロントレーダーセンサーが隣の車線の車両や周辺の障害物を検知したり、前方車や障害物を検知できなかったりして、各システムが正常に作動しないことがあります。

・前方車がフロントレーダーセンサーの死角にいるとき
・前方車との距離が極端に近いとき
・前方車が不安定な走行をしているとき
・割り込みなどで車両が急接近してきたとき
・カーブの始まりやカーブの終わりを走行しているとき
・カーブが連続する道路を走行しているとき
・上り坂と下り坂が繰り返される道路を走行しているとき
・車線幅の狭い道路を走行しているとき
・悪路や未舗装の道路を走行しているとき

フロントサイドレーダーセンサーについて*

▼ フロントサイドレーダーセンサーについて

この車両にはフロントサイドレーダーセンサーが装備されています。



1. フロントサイドレーダーセンサー

フロントサイドレーダーセンサーは、次のシステムが使用しています。

・前側方接近車両検知 (FCTA)

フロントサイドレーダーセンサーは、フロントサイドレーダーセンサーから送信される電波が前方からの接近車両や障害物に反射し、もどってきた電波を検知することで制御しています。

⚠ 注意

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- フロントサイドレーダーセンサー付近のフロントバンパー表面は、いつもきれいにしておいてください。またステッカーなども貼り付けないでください。
  →7-27 ページ「外装の手入れ」
- フロントバンパーに強い衝撃が加わったときは、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。ただちにシステムの使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。
- フロントサイドレーダーセンサーが接近車両を正しく検知するために、車両搭載状態でフロントサイドレーダーセンサーの向きを車両ごとに調整して出荷しています。フロントサイドレーダーセンサーの向きが何らかの原因でずれた場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

➢ フロントサイドレーダーセンサーの修理、交換をするときや、フロントサイドレーダーセンサー付近のバンパーの修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。

知識

フロントサイドレーダーセンサーは、日本国内の電波法の認可を受けています。日本国外で走行する際には、その国の認可を受ける必要があります。

次の条件のいずれかを満たしているときは、フロントサイドレーダーセンサーの検知性能が低下し、各システムが正常に作動しないことがあります。

・天候が悪いとき (雨、霧、雪など)
・フロントサイドレーダーセンサー付近のフロントバンパーが変形したとき
・フロントサイドレーダーセンサー付近のフロントバンパーに異物が付着しているとき (氷、雪、泥など)

フロントサイドレーダーセンサーは、次のような対象物を検知できないことがあります。

・小型の二輪車
・自転車
・歩行者
・動物
・ショッピングカート
・道路上および道路端の静止物体
・レーダーが反射しにくい形状の車両 (車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカーなど)

リアサイドレーダーセンサーについて

▼ リアサイドレーダーセンサーについて

この車両にはリアサイドレーダーセンサーが装備されています。



1. リアサイドレーダーセンサー

リアサイドレーダーセンサーは、次のシステムが共用しています。

・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)
・後側方接近車両検知 (RCTA)
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の後進時検知機能
・緊急時車線維持支援 (ELK)

リアサイドレーダーセンサーは、リアサイドレーダーセンサーから送信される電波が後方からの接近車両や障害物に反射し、もどってきた電波を検知することで制御しています。

⚠ 注意

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

➢ リアサイドレーダーセンサー付近のリアバンパー表面は、いつもきれいにしておいてください。またステッカーなども貼り付けないでください。
→7-27 ページ「外装の手入れ」
➢ リアバンパーに強い衝撃が加わったときは、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。ただちにシステムの使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

- リアサイドレーダーセンサーが接近車両を正しく検知するために、車両搭載状態でリアサイドレーダーセンサーの向きを車両ごとに調整して出荷しています。リアサイドレーダーセンサーの向きが何らかの原因でずれた場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
- リアサイドレーダーセンサーの修理、交換をするときや、リアサイドレーダーセンサー付近のバンパーの修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。

知識

リアサイドレーダーセンサーは、日本国内の電波法の認可を受けています。日本国外で走行する際には、その国の認可を受ける必要があります。

次の条件のいずれかを満たしているときは、リアサイドレーダーセンサーの検知性能が低下し、各システムが正常に作動しないことがあります。

・天候が悪いとき (雨、霧、雪など)
・リアサイドレーダーセンサー付近のリアバンパーが変形したとき
・リアサイドレーダーセンサー付近のリアバンパーに異物が付着しているとき (氷、雪、泥など)

リアサイドレーダーセンサーは、次のような対象物を検知できないことがあります。

・小型の二輪車
・自転車
・歩行者
・動物
・ショッピングカート
・道路上および道路端の静止物体
・レーダーが反射しにくい形状の車両 (車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカーなど)

フロント超音波センサーについて

▼ フロント超音波センサーについて

この車両にはフロント超音波センサーが装備されています。



1. フロント超音波センサー

フロント超音波センサーは、次のシステムが使用しています。

・AT 誤発進抑制制御 [前進時]

フロント超音波センサーは、フロント超音波センサーから送信される超音波が前方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。

リア超音波センサーについて

▼ リア超音波センサーについて

この車両にはリア超音波センサーが装備されています。



1. リア超音波センサー

リア超音波センサーは、次のシステムが共用しています。

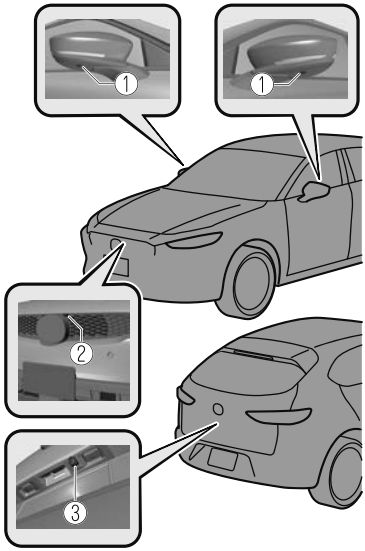
・AT 誤発進抑制制御 [後退時]
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の後進時検知機能

リア超音波センサーは、リア超音波センサーから送信される超音波が後方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。

フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ*

▼ フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ

この車両には、フロントカメラ、サイドカメラ、リアカメラが装備されています。



1. サイドカメラ
2. フロントカメラ
3. リアカメラ

各カメラは、次のシステムが使用しています。

・360°ビュー・モニター

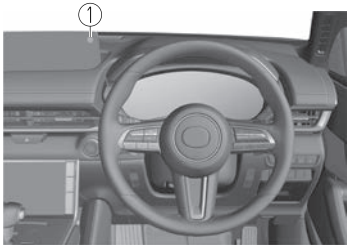
フロントカメラ、サイドカメラ、リアカメラは、車両周辺の映像を撮影します。

 *グレード/仕様別装備

ドライバー・モニタリングカメラ*

▼ ドライバー・モニタリングカメラ

この車両にはドライバー・モニタリングカメラが装備されています。



1. ドライバー・モニタリングカメラ

ドライバー・モニタリングカメラは、次のシステムが使用しています。

・ドライバー・モニタリング

ドライバー・モニタリングカメラは、顔の各部位の変化を検出し、運転者の疲労や眠気を推定します。

知識

・次の条件のいずれかを満たしているときは、ドライバー・モニタリングまたは早期の衝突警報が正常に作動しないことがあります。
  - ・ドライバー・モニタリングカメラを覆い隠したとき
  - ・ハンドルを覆うような姿勢で運転しているとき
  - ・メガネ、サングラスを着用しているとき
  - ・帽子、前髪などで目の一部が隠れたり、マスクなどで顔の一部が隠れたりしているとき
  - ・光環境条件が大きく変化したとき (西日などによる逆光、側光、順光および対向車のヘッドランプなど)
  - ・顔を (大きく) 横に傾けた姿勢で運転しているとき
  - ・運転者が大きく動いているとき
  - ・頻繁に顔の向きや視線を正面方向 (進行方向) 以外に向けているとき

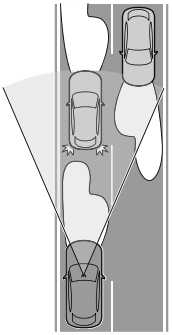
知識

・視線が動いているとき、動き終わった直後
・視線と顔の向きが大きく異なっているとき
・顔を大きく傾けて運転しているとき
・**フリー/オープンソース ソフトウェア情報**
この製品は、フリー/オープン ソースを含みます。ライセンスおよびソースコードについての情報は、次の Web サイトから入手することができます。
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/DMS_0201/

ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) とは*

▼ ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) とは

HBC は､フォワードセンシングカメラ (FSC) を使用することにより夜間走行時に前方の状況を判断し､ヘッドランプの上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を自動的に切り替えるシステムです。



⚠ 注意

- サスペンションの改造､ヘッドランプユニットの改造､カメラの取りはずしを行なわないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- システムを過信せず､必要に応じて上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を手動で切り替えてください。

知識

- HBC が対象物を認識できる距離は､周囲の状況により異なります。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できず､システムが正常に作動しないことがあります。
→5-64 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) ついて」

HBC は､次の条件のいずれかを満たしているときにヘッドランプを下向き (ロービーム) に切り替えます。

- 車速が約 20 km/h 未満のとき
- 前方車や対向車のランプ類を検知したとき
- 街灯が並んでいるエリアを走行しているときや､路面の明るい街中を走行しているとき

時速約 30 km/h 以上で走行中に前方車や対向車がいないときは､ヘッドランプが上向き (ハイビーム) に切り替わります。

▼ 作動させるとき

電源ポジションが ON の状態でランプスイッチが AUTO の位置のときに､ヘッドランプを下向き (ロービーム) にします。
周囲の明るさから HBC が夜と判断すると作動します。同時に､メーター内の HBC 表示灯 (緑) が点灯します。



知識

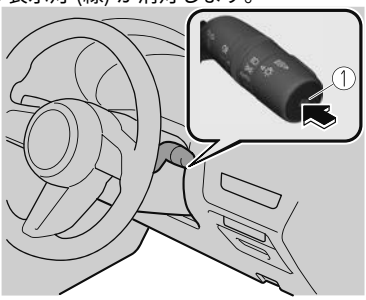
HBC を作動しないように変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

 *グレード/仕様別装備

▼ 手動で切り替えるとき

ヘッドランプを下向き (ロービーム) に切り替えるとき

ランプスイッチを≡Dの位置に切り替える、もしくは HBC スイッチを押します。
HBC 表示灯 (緑) が消灯します。



1. HBC スイッチ

HBC スイッチで HBC を停止した場合は、もう一度 HBC スイッチを押すと HBC が作動可能な状態にもどります。

ヘッドランプを上向き (ハイビーム) に切り替えるとき

レバーをハイビームの位置にします。
HBC 表示灯 (緑) が消灯し、ヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) とは*

▼ アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) とは

ALH は、フォワードセンシングカメラ (FSC) を使用することにより夜間走行時に前方の状況を判断し、ヘッドランプの照射範囲、照射部分、明るさを自動的に変化させるシステムです。

⚠ 注意

- サスペンションの改造、ヘッドランプユニットの改造、カメラの取りはずしを行なわないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- システムを過信せず、必要に応じて上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を手動で切り替えてください。

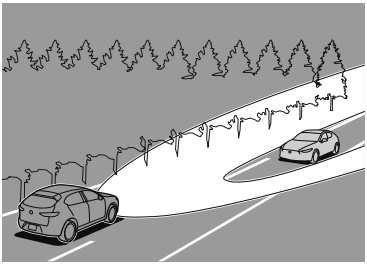
知識

・ALH が対象物を認識できる距離は、周囲の状況により異なります。
・フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できず、システムが正常に作動しないことがあります。
→5-64 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」

ALH は、ヘッドランプの上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を次のように制御し、前方車や対向車を眩惑することなく運転者の視界確保を支援します。

グレアフリー (防眩) ハイビーム

ヘッドランプ上向き (ハイビーム) の配光を前方車の部分だけ減光して照射します。
車速約 30 km/h 以上で走行中に、ヘッドランプ上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を切り替えます。また、車速が約 20 km/h 未満になると、ヘッドランプは下向き (ロービーム) に切り替わります。

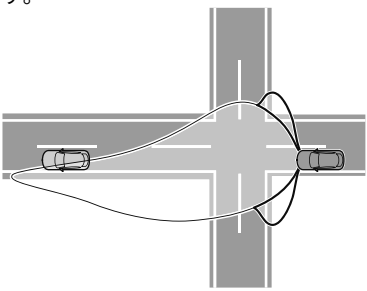


知識

ヘッドランプが上向き (ハイビーム) のときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

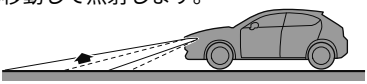
ワイド配光ロービーム

車速約 40 km/h 未満で走行中に、ヘッドランプ下向き (ロービーム) の照射範囲を拡大して照射します。



ハイウェイモード

高速走行中に、ヘッドランプの照射角度を上方向へ移動して照射します。



▼ 作動させるとき

電源ポジションが ON の状態でランプスイッチが AUTO の位置のときに、ヘッドランプを下向き (ロービーム) にします。
周囲の明るさから ALH が夜と判断すると作動します。同時に、メーター内の ALH 表示灯 (緑) が点灯します。



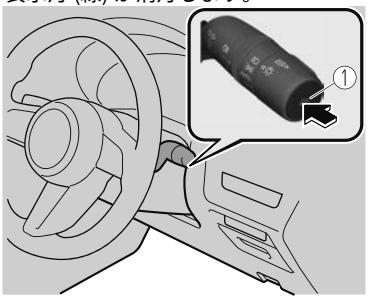
知識

ALH を作動しないように変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ 手動で切り替えるとき

ヘッドランプを下向き (ロービーム) に切り替えるとき

ランプスイッチを≡Dの位置に切り替える、もしくは ALH スイッチを押します。
ALH 表示灯 (緑) が消灯します。



1. ALH スイッチ

ALH スイッチで ALH を停止した場合は、もう一度 ALH スイッチを押すと ALH が作動可能な状態にもどります。

ヘッドランプを上向き (ハイビーム) に切り替えるとき

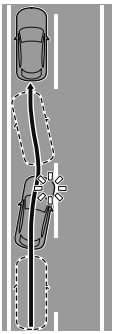
レバーをハイビームの位置にします。
ALH 表示灯 (緑) が消灯し、ヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

車線逸脱警報システムとは

▼ 車線逸脱警報システムとは

車線逸脱警報システムとは、自車が車線から逸脱する可能性があることを知らせるシステムです。
車線逸脱警報システムは、フォワードセンシングカメラ (FSC) で車線の白線 (黄線) を検知します。そして、自車が車線から逸脱する可能性があると、車線逸脱警報により運転者に知らせます。

白線 (黄線) の整備された道路でご使用ください。



⚠ 警告

車線逸脱警報システムを過信せず、安全運転を心がける。

- 車線逸脱警報システムは、前方不注意を補助するものではありません。システムを過信しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報システムの機能には限界があります。常にハンドルの操作で進路を修正してください。

⚠ 注意

車線逸脱警報システムを正常に作動させるために、次の点をお守りください。

- サスペンションの改造を行わないでください。

⚠ 注意

- 前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換など行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。

知識

次の条件のいずれかを満たしているときは、車線逸脱警報システムが正常に作動しないことがあります。

- フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できない条件を満たしているとき
  →5-64 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
- 白線 (黄線) が見えにくいとき (かすれ、汚れ、前方車で隠れるなど)
- 白線 (黄線) が複数引かれていたり、途切れたりしているとき
- 白線 (黄線) と紛らわしい線が見えるとき (道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど)
- ガードレールなどの影が、道路上の白線 (黄線) と平行して写っているとき
- 車線の幅が狭いとき
- 段差などにより車が大きく揺れたとき
- 工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行しているとき
- 分岐路や合流路を走行しているとき
- 交差点や環状交差点を走行しているとき

▼ 作動させるとき

電源ポジションを ON にすると、マルチインフォメーションディスプレイに警報・リスク回避支援表示 (白) が表示され、システムが待機状態となります。



知識

警報･リスク回避支援表示 (白) が表示されない場合は､i-ACTIVSENSE OFF スイッチまたはマツダコネクトの「設定」で､システムが停止されています。

作動条件

次の条件をすべて満たしているときは､マルチインフォメーションディスプレイの警報･リスク回避支援表示灯が白色から緑色に変わり､システム作動状態となります。

・電源ポジションが ON のとき
・車速が約 60 km/h 以上のとき
・車線の白線 (黄線) を検知しているとき



知識

左右どちらか一方の車線の白線 (黄線) が検知できていない場合､検知できていない方向への逸脱に対しては作動しません。

一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たしているときは､車線逸脱警報システムが待機状態になります。なお､車線逸脱警報システムが作動可能な状態になると､自動復帰します。

・白線 (黄線) を検知できないとき
・車速が約 60 km/h 未満になったとき
・方向指示器を操作したとき
・アクセル操作をしたとき
・ブレーキ操作をしたとき
・ハンドル操作をしたとき

システムが停止するとき

次の条件のいずれかを満たしているときは､車線逸脱警報システムが停止します。

・フォワードセンシングカメラ (FSC) 内部の温度が､高温または低温になったとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスが曇ったとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスに遮へい物があり､前方が見えないとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) に強い光 (太陽光や対向車のヘッドランプ (ハイビームなど)) を受けているとき

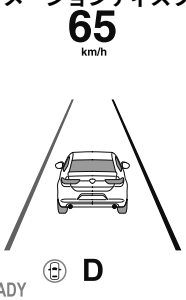
システム故障

システムに何らかの故障があるときは､警報･リスク回避支援表示 (白) および i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が表示/点灯し､メッセージが表示されます。
→8-29 ページ「i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯」

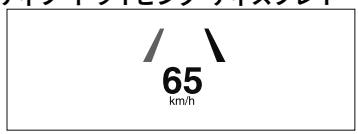
▼ 車線逸脱警報

車線から逸脱する可能性があると､警報 (警報音､ハンドルの振動) とともに､逸脱する可能性がある方向をマルチインフォメーションディスプレイとアクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



知識

・車線逸脱警報の種類を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」
・外部の騒音など状況によっては､車線逸脱警報システムの警報音が聞こえないことがあります。
・車線逸脱警報の種類をハンドル振動に設定しているときは､路面状況によっては振動を感じないことがあります。

▼ 解除するとき

車線逸脱警報システムを作動しないように変更できます。

- **(車線逸脱警報システムのみを OFF にする場合)**
  →マツダコネクト取扱書 「設定」
- **(i-ACTIVSENSE OFF スイッチの操作で車線逸脱警報システムを OFF にする場合)**
  →5-63 ページ 「i-ACTIVSENSE OFF スイッチ」

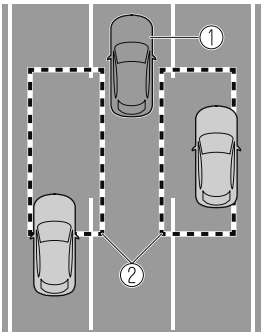
知識

i-ACTIVSENSE OFF スイッチでシステムを停止したまま電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときにシステムが自動復帰します。
ただし、マツダコネクトの「設定」でシステムを停止している場合は、自動復帰しません。

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) とは

▼ ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) とは

BSM は、自車の後方から接近する車両を運転者に知らせることにより、車線変更時の後方確認を支援するシステムです。
BSM は、車速が約 15 km/h 以上で前進しているときに後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてドアミラーに設置した BSM 接近表示灯を点灯させます。
BSM 接近表示灯が点灯した状態で、その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、BSM 接近表示灯の点滅、警告表示、警報チャイムにより、運転者に危険を知らせます。
BSM の検知エリアは、自車のフロントドア後端付近から自車の後方約 50 m までの隣接車線です。



1. 自車
2. 検知エリア

⚠ 警告

車線変更時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。
BSM は、車線変更時の後方確認を支援するシステムです。システムの作動には各種の制約があるため、隣接車線に車両が存在する場合でも BSM 接近表示灯が点滅しなかったり、点滅が遅れたりすることがあります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。

作動条件

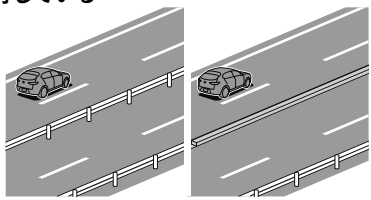
BSM は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

・電源ポジションが ON のとき
・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が消灯しているとき
・車速が約 15 km/h 以上のとき

知識

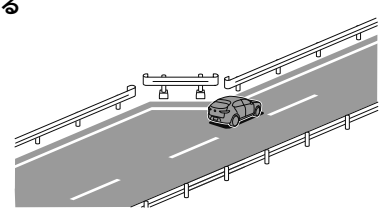
・次の条件のいずれかを満たしているときは、BSM が作動しません。
  ・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が消灯している場合でも、車速が約 10 km/h を下回ったとき
  ・セレクトレバーを R の位置にして後退中のとき
  ・回転半径が小さいとき (急カーブや交差点を曲がるときなど)
・次の条件のいずれかを満たしているときは、i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯を点灯させ、システムの作動を停止します。
  ・BSM 接近表示灯を含むシステムに、何らかの異常が認められるとき
  ・リアサイドレーダーセンサーの車両への搭載位置に大きなずれが生じたとき
  ・リアサイドレーダーセンサー付近に異物が付着しているとき (氷、雪、泥など)
  ・雪道を長時間走行したとき
  ・夏場に上り坂を長時間走行するなどして、リアサイドレーダーセンサー付近の温度が非常に高くなったとき
  ・12 V バッテリーの電圧が下がっているとき

  i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が点灯し続ける場合は、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。
・リアサイドレーダーセンサーは、次のような対象物を検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  ・対向車
  ・隣接した車両にレーダーセンサーが装着されており、電波干渉を受けたとき
  ・接近車両が次のような形状をしているとき
    a) 車両が非常に小さい
    b) 車高が非常に低い/高い
    c) 特殊車両など複雑な形状をしている
  ・隣接車線後方の検知エリアにいても、自車に接近してこない車両
  ・自車とほとんど速度差がなく、長い時間並走している車両
  ・自車が追い越そうとしている隣接車線の車両
  ・道路幅が極端に広い場合の隣接車線の車両 (リアサイドレーダーセンサーの検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります)
・次の条件のいずれかを満たしているときは、BSM 接近表示灯の点滅、警告表示、警報チャイムによる警告が遅れる、もしくは警告できないことがあります。
  ・車両が、2 つ離れた車線から隣接車線に車線変更してきたとき
  ・急勾配を走行しているとき
  ・峠を越えるとき
  ・自車線と隣接車線の高さに差があるとき
  ・BSM を作動可能な状態にした直後
  ・リアサイドレーダーセンサー付近のリアバンパーが変形しているとき
・道路幅が極端に狭い場合は、2 車線横の車両を検知することがあります。 (リアサイドレーダーセンサーの検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります)
・道路上および道路端の停止物 (ガードレール、トンネル、側壁、駐車車両など) に対して BSM 接近表示灯が点灯し、警告表示を表示することがあります。
  ガードレールやコンクリート壁などが並行している

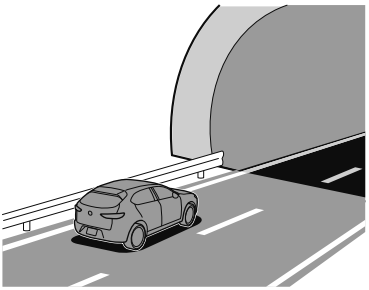


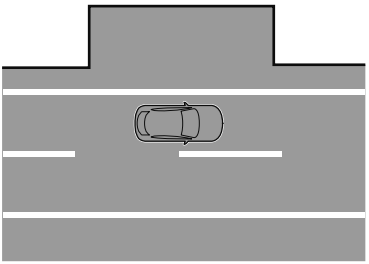
知識

ガードレールや側壁の幅が狭くなっている



トンネルの出入り口、トンネル内の側壁、待避所





・市街地の交差点を曲がるときなどに、BSM 接近表示灯の点滅、警告表示、警報チャイムによる警告が複数回起こることがあります。
・トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着したりするときは、BSM を解除してください。レーダーの電波がさえぎられるため、システムが正常に作動しない可能性があります。
・次のようなときは、ドアミラーに設置されている BSM 接近表示灯の点灯/点滅が見えにくいことがあります。

知識

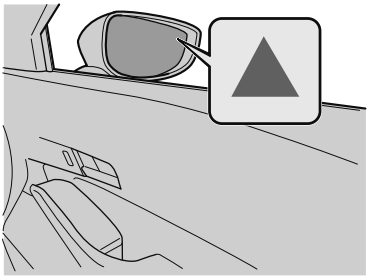
・ドアミラーに氷や雪が付着しているとき
・窓ガラスに、曇り、雪、汚れ、霜が付着しているとき
・セレクトレバーを R の位置にすると、後側方接近車両検知 (RCTA) に切り替わります。
→5-95 ページ「後側方接近車両検知 (RCTA) とは」

▼ ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯/ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示/ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警報チャイム

BSM 作動中は、BSM 接近表示灯、警告表示、警報チャイムで、隣接車線や自車後方に車両が存在することを知らせます。

BSM 接近表示灯

BSM 接近表示灯は、ドアミラーに設置されています。後方からの接近車両を検知すると点灯します。



電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。

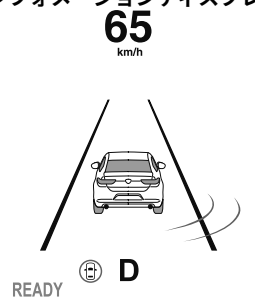
減光解除機能

車幅灯が点灯しているときに BSM 接近表示灯が点灯すると、点灯したときの明るさが減光されます。
雪道や霧での走行時など、周囲が明るく減光状態で BSM 接近表示灯が見えにくい場合には、パネルライトの減光を解除すると BSM 接近表示灯が明るくなります。
→5-14 ページ「パネルライトコントロール」

ディスプレイ表示

前進時に後方からの接近車両を検知すると、その接近状態に応じてマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警告表示を表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



接近車両を検知すると、検知した方向を検知表示 (白色) で表示します。また、検知した状態のまま検知した方向に方向指示器のレバーを操作すると、警告表示 (橙色) に表示が変わります。

BSM 警報チャイム

BSM 接近表示灯の点滅と同時に鳴ります。

▼ ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) を停止させるには

BSM を作動しないように変更できます。

- **(BSM のみを OFF にする場合)**
  →マツダコネクト取扱書 「設定」
- **(i-ACTIVSENSE OFF スイッチの操作で BSM を OFF にする場合)**
  →5-63 ページ 「i-ACTIVSENSE OFF スイッチ」

知識

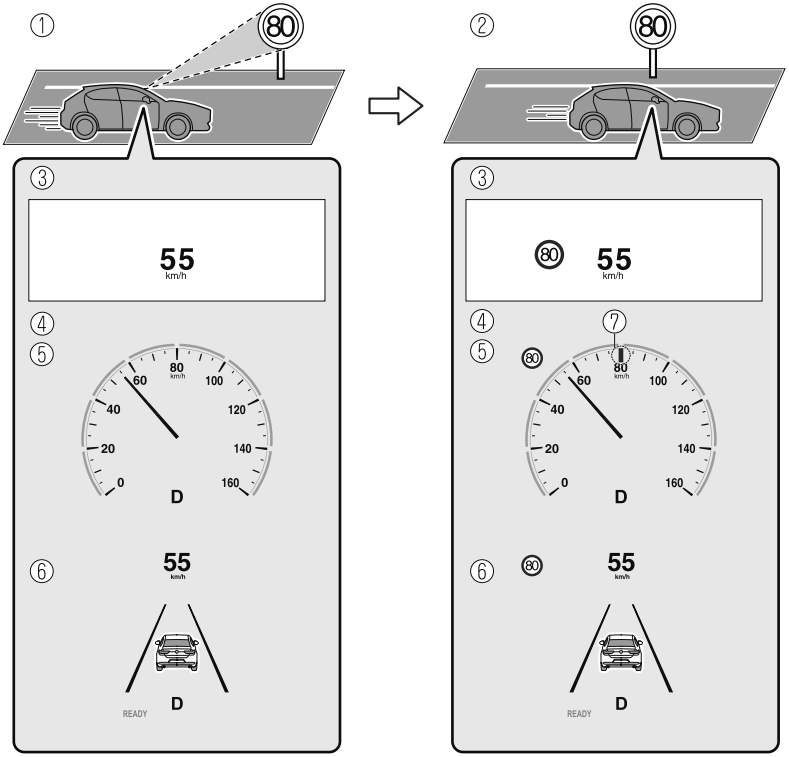
i-ACTIVSENSE OFF スイッチでシステムを停止したまま電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときにシステムが自動復帰します。
ただし、マツダコネクトの「設定」でシステムを停止している場合は、自動復帰しません。

交通標識認識システム (TSR) とは*

▼ 交通標識認識システム (TSR) とは

※TSR: Traffic Sign Recognition System
TSR は、フォワードセンシングカメラ (FSC) またはナビゲーションシステムが認識した交通標識をディスプレイに表示することで、交通標識の見落とし防止を図り、安全運転を支援するシステムです。
TSR は、最高速度標識 (補助標識も含む)、車両進入禁止標識、一時停止標識、および追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識の交通標識を表示します。
ディスプレイに表示されている最高速度標識の速度を自車の速度が超えているときは、警報音およびディスプレイの表示で運転者にお知らせします。

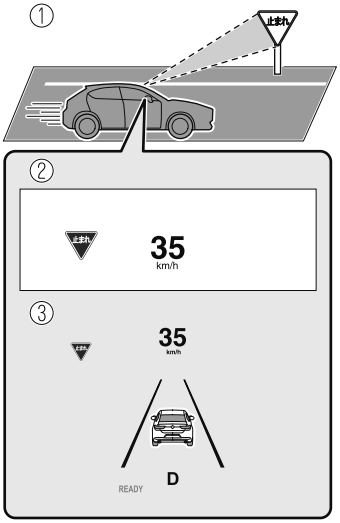
最高速度標識、車両進入禁止標識、追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識



1. 標識を認識
2. 標識を表示
3. アクティブ･ドライビング･ディスプレイの表示
4. メーターの表示
5. 通常画面
6. i-ACTIVSENSE 画面

7. 認識した最高速度にあわせて、目盛りの色が変わります

一時停止標識



1. 標識を認識と同時に表示
2. アクティブ･ドライビング･ディスプレイの表示
3. メーターの表示

⚠ 警告

走行中は、必ず目視にて交通標識を確認する。
TSR は、交通標識の見落とし防止を図り、安全運転を支援するシステムです。天候状況や交通標識の状況などによって、交通標識を認識できなかったり、実際とは異なる交通標識を表示したりすることがあります。交通標識の確認を怠ると思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ず、運転者の責任において実際の交通標識を確認してください。

知識

・フォワードセンシングカメラ (FSC) またはナビゲーションシステムに異常がある場合は、TSR が作動しません。
・TSR は、ナビゲーションシステムの SD カードが挿入されていない場合でも作動します。ただし、最高速度標識の認識性能が低下し、実際とは異なる交通標識を表示するおそれがあります。
・次の条件のいずれかを満たしているときは、TSR が正常に作動しないことがあります。
  ・フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できない条件を満たしているとき
  →5-64 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
  ・タイヤの空気圧が適正空気圧に調整されていないとき
  ・標準タイヤ以外のタイヤを装着しているとき

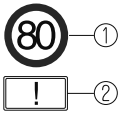
知識

・高速道路などの料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどの分岐路やその周辺を走行しているとき
・夜間やトンネル内などを走行中、交通標識が自車のヘッドランプの光を受けにくい位置にあるとき
・影などで交通標識の明るさが一部異なるとき
・交通標識が泥、雪などで汚れているとき
・交通標識が木の茂み、車などで隠れているとき
・交通標識が曲がっていたり、歪んだりしているとき
・交通標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
・交通標識が明るすぎたり、暗すぎたりするとき (電光標識を含む)
・交通標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
・読み取る交通標識の色、形などに似たものがあるとき (類似の交通標識、看板など)
・アクティブ･ドライビング･ディスプレイの TSR の表示を非表示にできます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ 交通標識ディスプレイ表示

次の交通標識を、アクティブ･ドライビング･ディスプレイおよびメーターに表示します。

最高速度標識 (補助標識も含む)



1. 最高速度標識
2. 補助標識

車両進入禁止標識



一時停止標識



追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識



追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識は、最高速度標識と同時に表示できます。



知識

最高速度標識 (補助標識も含む)

・約 1 km/h 以上で走行している場合に、次の条件のいずれかを満たすときは、最高速度標識を表示します。
  ・フォワードセンシングカメラ (FSC) が最高速度標識を自車対象標識として認識し、最高速度標識を通過したとき
  ・ナビゲーションシステムに保存されている最高速度標識を読み込んだとき
・**(ナビゲーションシステム非装備車)**
次の条件のいずれかを満たすときは、最高速度標識表示を終了します。
  ・最高速度標識を認識し、車両が最高速度標識を通過してから一定の距離を走行したとき
  ・自車が路線を変えたと判断したとき
  ・新たに、フォワードセンシングカメラ (FSC) が異なる最高速度標識を認識したとき (新しい最高速度標識を表示する)
  ・最高速度標識を表示してから、表示中の最高速度標識より約 30 km/h 以上速度超過している状態が一定時間経過したとき
・**(ナビゲーションシステム装備車)**
次の条件のいずれかを満たすときは、最高速度標識表示を終了します。

知識

・新たに、フォワードセンシングカメラ (FSC) が異なる最高速度標識を認識したとき (新しい最高速度標識を表示する)
・ナビゲーションシステムに記憶されている最高速度標識を一定時間読み込めなかったとき

車両進入禁止標識

・次の条件をすべて満たしているときは、車両進入禁止標識を表示します。
  ・車速が約 60 km/h 以下のとき
  ・フォワードセンシングカメラ (FSC) が車両進入禁止標識を自車対象標識として認識し、車両進入禁止標識を通過したとき
・車両進入禁止標識を認識し、車両が車両進入禁止標識を通過してから一定の時間が経過したときは、車両進入禁止標識表示を終了します。

一時停止標識

・次の条件をすべて満たしているときは、一時停止標識を表示します。
  ・車速が約 40 km/h 以下のとき
  ・フォワードセンシングカメラ (FSC) が一時停止標識を自車対象標識として認識したとき
・一時停止標識表示を開始してから一定の時間が経過したときは、一時停止標識表示を終了します。

追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識

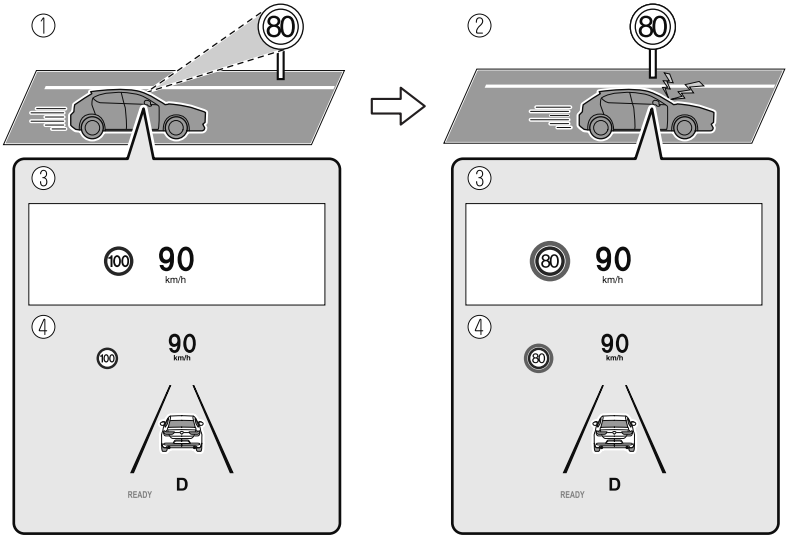
・次の条件をすべて満たしているときは、追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識を表示します。
  ・車速が約 1 km/h 以上のとき
  ・フォワードセンシングカメラ (FSC) が追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識を自車対象標識として認識し、追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識を通過したとき
・次の条件のいずれかを満たすときは、追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識表示を終了します。

知識

・追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識を認識し、車両が追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識を通過してから一定の距離を走行したとき
・自車が路線を変えたと判断したとき

▼ 速度超過警報

ディスプレイに表示されている最高速度標識の速度を自車の速度が超えると、表示されている最高速度標識のまわりが橙色に点滅し、同時に警報音が鳴ります。速度超過の状態が続くと、点灯に切り替わります。
周囲の状況を確認しながら、ブレーキペダルを踏むなどの操作をして、法定速度内に減速してください。
→8-39 ページ 「速度超過警告チャイム」



1. 90 km/h で走行中、80 km/h の最高速度標識を認識
2. 80 km/h の最高速度標識を超えて、車両が 90 km/h で走行し続けている
3. アクティブ･ドライビング･ディスプレイの表示
4. メーターの表示

速度超過警報は、初期設定で作動しないように設定されています。速度超過警報を作動させたいときは、マツダコネクトの「設定」で変更してください。
なお、警報パターンおよび警報タイミングは、設定内容によって異なります。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

速度標識警報

- Off: 速度超過警報は作動しません。
- 表示のみ: ディスプレイに表示されている最高速度標識のまわりが橙色に点滅し、速度超過の状態が続いていれば点灯に切り替わります。
- 表示+音: ディスプレイに表示されている最高速度標識のまわりが橙色に点滅し、同時に警報音が鳴ります。速度超過の状態が続いていれば点灯に切り替わります。最高速度標識よりも自車の速度が下回るまで警報音が鳴ります。

速度標識警報閾値

・+0 km/h: ディスプレイに表示されている最高速度標識を超えたときに、速度超過警報が作動します。
・+5 km/h: ディスプレイに表示されている最高速度標識を 5 km/h 超えたときに、速度超過警報が作動します。
・+10 km/h: ディスプレイに表示されている最高速度標識を 10 km/h 超えたときに、速度超過警報が作動します。

知識

・次の条件のいずれかを満たすときは、速度超過警報を終了します。
  ・自車の速度が、ディスプレイに表示されている最高速度標識未満になったとき (マツダコネクトの「設定」で速度超過警報の警報タイミングを変更している場合は、変更した車速未満になったときに速度超過警報が終了します)
  ・最高速度標識表示が更新され、更新された表示より自車の速度が低いとき
  ・最高速度標識表示を終了したとき
・補助標識付き最高速度標識を認識した場合でも表示することは可能ですが、補助標識の条件 (時間帯、右左折時、区間の終わりなど) を判断することはできません。
したがって、自車が補助標識の条件以外のときでも、ディスプレイに表示されている最高速度標識を超えたときは、速度超過警報が作動します。
・フォワードセンシングカメラ (FSC) またはナビゲーションシステムが最高速度標識を低い速度で誤認識した場合は、法定速度で走行しているときでも速度超過警報が作動します。

ディスタンス&スピード･アラート (DSA) とは

▼ ディスタンス&スピード･アラート (DSA) とは

DSA とは､前方車との車間距離が適正に保たれるように､ディスプレイ表示と加速抑制とで運転をアシストするシステムです。

⚠ 警告

DSA を過信せず､安全運転を心がける。
DSA は､前方車の種類や状態､天候状況､道路状況などによって､前方車を検知できないことがあります。また､前方車との車間を維持する機能ではありませんので､アクセルやブレーキの適切な操作を怠ると､思わぬ事故につながるおそれがあります。
周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど､前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

作動条件

DSA は､次の条件をすべて満たしているときに作動します。

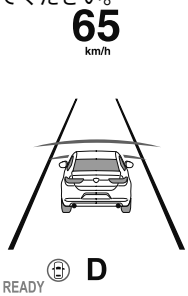
- 電源ポジションが ON のとき
- DSA が ON のとき
- セレクトレバーが R の位置以外のとき
- 車速が約 30 km/h 以上のとき
- 警報･リスク回避支援表示 (緑) が表示されているとき
- 前方車が四輪車両のとき

知識

- DSA は､バイクや自転車などにも作動することがあります。
- DSA は､次の対象物には作動しません。
  - 対向車
  - 歩行者
  - 静止物 (停車車両､障害物など)
- 前方車が極低速のときは､前方車を正しく検知できないことがあります。
- DSA を作動しないように変更できます。ただし､DSA を停止したまま電源ポジションを OFF にすると､次に電源ポジションを ON にしたときに DSA が自動復帰します。
  →マツダコネクト取扱書 「設定」
  →5-63 ページ 「i-ACTIVSENSE OFF スイッチ」

▼ ディスプレイ表示

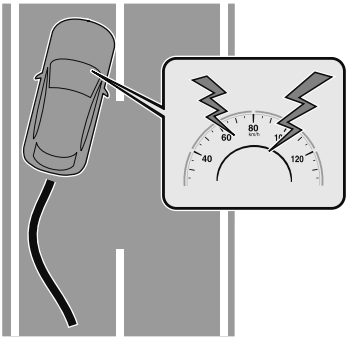
前方車との車間距離が近いと､警報･リスク回避支援表示が緑色から橙色に変わり､マルチインフォメーションディスプレイに警告表示が表示されます。
周囲の状況を確認して､前方車との車間距離を十分に確保してください。



ドライバー･アテンション･アラート (DAA) とは

▼ ドライバー･アテンション･アラート (DAA) とは

DAA は､運転者の疲労や注意力の低下を検知し､運転者に休憩を促すシステムです。
DAA は､車線内を車速が約 65 km/h 以上で走行しているときに､フォワードセンシングカメラ (FSC) や各種車両情報から運転者の疲労増加や注意力低下を推定して､警報チャイムおよびディスプレイの表示で運転者に休憩を促します。
高速道路や自動車専用道路などで DAA を使用してください。
→5-64 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」



⚠ 警告

DAA を過信せず､安全運転を心がける。
DAA は､運転者の疲労や注意力の低下を検知し､運転者に休憩を促すシステムです。ふらつきを防止するものではないため､システムを過信しすぎると思わぬ事故につながるおそれがあります。運転に集中し､適切にハンドルを操作してください。
また､道路状況や走行状況などによっては､運転者の疲労や注意力の低下を適切に検知できないことがあります。運転者は十分に休憩を取り､安全運転を心がけてください。

作動条件

DAA は､次の条件をすべて満たしているときに作動します。

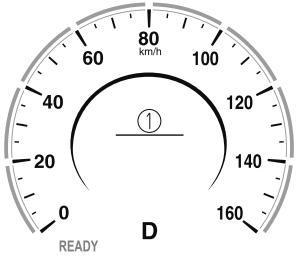
・車速が約 65 km/h 以上のとき
・車線の白線 (黄線) を検知しているとき
・運転者の走行データ学習が完了したとき
・運転開始後､1 時間経過したとき

知識

・次の条件のいずれかを満たしているときは､DAA が作動しません。
  ・車速が約 65 km/h を下回ったとき
  ・車線の白線 (黄線) を検知できないとき
  ・急カーブを走行しているとき
  ・車線変更したとき
・次の条件のいずれかを満たしているときは､DAA が正常に作動しないことがあります。
  ・車線の白線 (黄線) が見えにくいとき (かすれ､汚れなど)
  ・強風や悪路走行で車両が揺れ続けたとき
  ・スポーティーな走行をしているとき
  ・頻繁に車線変更を行なっているとき
・DAA は､車速が約 65 km/h 以上で約 20 分間走行したときの走行データをもとに､運転者の疲労や注意力の低下を検知します。次の条件のいずれかを満たすと､学習した走行データがリセットされます。
  ・15 分以上停車したとき
  ・車速が約 65 km/h 未満で約 30 分間走行したとき
  ・電源ポジションを OFF にしたとき
・DAA は､一度休憩を促すと 60 分間は次回休憩をお知らせしません。

▼ ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 表示

運転者の疲労や注意力の低下を検知すると、警報チャイムが鳴るとともにマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



1. “休憩をおすすめします”

▼ ドライバー･アテンション･アラート (DAA) を停止させるには

DAA を作動しないように変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

ドライバー･モニタリングとは*

▼ ドライバー･モニタリングとは

ドライバー･モニタリングは、運転者の疲労や眠気を検知し、運転者に休憩を促すシステムです。ドライバー･モニタリングは、車速が約 5 km/h 以上で走行しているときに、ドライバー･モニタリングカメラで顔の各部位の変化を検出することにより運転者の疲労や眠気を推定して、警報チャイムおよびディスプレイの表示で運転者に休憩を促します。
お知らせは運転者の状態を推定し、2 種類のパターンが設定されています。

- 疲労や眠気を検出した場合：警報パターン (注意)
- より強い疲労や眠気を検出した場合：警報パターン (警告)



⚠ 警告

ドライバー･モニタリングを過信せず、安全運転を心がける。
ドライバー･モニタリングは、運転者の疲労や眠気を検知し、運転者に休憩を促すシステムです。疲労や眠気を防止するものではないため、システムを過信しすぎると思わぬ事故につながるおそれがあります。運転に集中し、適切にハンドルを操作してください。
また、道路状況や走行状況などによっては、運転者の疲労や眠気を適切に検知できないことがあります。運転者は十分に休憩を取り、安全運転を心がけてください。

作動条件

ドライバー・モニタリングは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

・車速が約 5 km/h 以上のとき
・運転開始後、20 分経過したとき

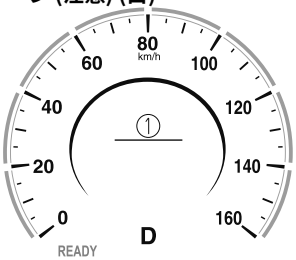
知識

・ドライバー・モニタリング作動状態から車速が約 5 km/h 未満になると、車速が約 5 km/h 以上になっても 6 分間は作動しません。
・ドライバー・モニタリングカメラが運転者を正しく認識していない場合は、ドライバー・モニタリングが正常に作動しないことがあります。
→5-73 ページ「ドライバー・モニタリングカメラについて」
・ドライバー・モニタリングは、一度休憩を促すと次の間は休憩をお知らせしません。
  ・警報パターン (注意) のお知らせ後、45 分間は次回の警報パターン (注意) をお知らせしません。
  ・警報パターン (警告) のお知らせ後、15 分間は次回の警報パターン (警告) をお知らせしません。
  ・警報パターン (警告) のお知らせ後、45 分間は次回の警報パターン (注意) をお知らせしません。

▼ ドライバー・モニタリング表示

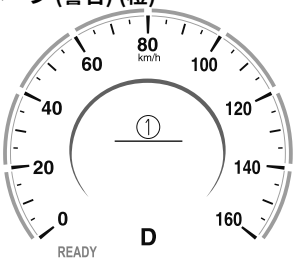
運転者の疲労や眠気を検知すると、警報チャイムが鳴るとともにマルチインフォメーションディスプレイに警報表示が表示されます。

警報パターン (注意) (白)



1. “休憩をおすすめします”

警報パターン (警告) (橙)



1. “休憩をおすすめします”

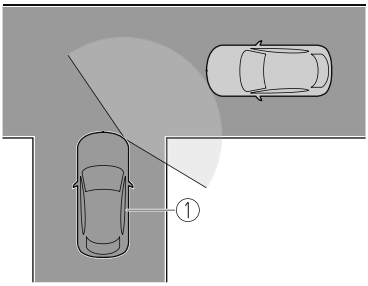
▼ ドライバー・モニタリングを停止させるには

ドライバー・モニタリングを作動しないように変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

前側方接近車両検知 (FCTA) とは*

▼ 前側方接近車両検知 (FCTA) とは

前側方接近車両検知 (FCTA) は、交差点などで自車が発進するときの左右確認を支援するシステムです。
前側方接近車両検知 (FCTA) は、交差点などで自車が発進するときに左右前方の死角から接近した車両を検知して、警報チャイムおよびディスプレイの警告表示で運転者に危険を知らせます。



1. 自車

⚠ 警告

必ず目視にて周辺状況を確認する。
前側方接近車両検知 (FCTA) の作動には各種の制約があるため、死角から接近する車両が存在する場合でも、警報チャイムおよびディスプレイの警告表示が遅れることがあります。必ず、運転者の責任において左右を確認してください。

作動条件

前側方接近車両検知 (FCTA) は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

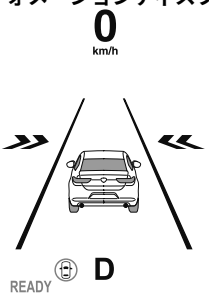
・車速が約 10 km/h 未満のとき
・セレクトレバーが D の位置にあるとき
・接近車両などが、自車前側方から約 5 km/h 以上で接近しているとき

前側方接近車両検知 (FCTA) 作動

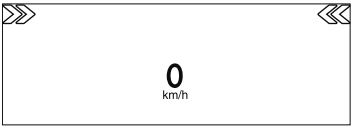
自車が停止している場合

車両が接近している場合は、次のディスプレイで車両の接近をお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



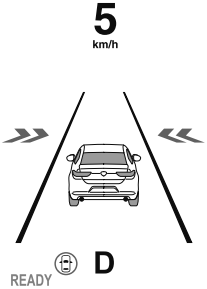
360°ビュー・モニター (360°ビュー・モニター装備車)



自車が動いている場合

車両が接近し、自車と衝突する可能性がある場合は、次のディスプレイに警告が表示されるとともに警報チャイムが鳴ります。

マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



360°ビュー･モニター (360°ビュー･モニター装備車)



知識

・次の条件のいずれかを満たしているときは､車両が接近していなくてもシステムが作動することがあります。

- ・自車のすぐ横に､駐車車両､ガードレール､壁など､レーダーを反射する路側物があるとき
- ・自車の前方または側方から接近している車両が､減速しているとき
- ・自車の前方または右側から接近している車両が､自車の直前で右左折したとき
- ・渋滞時など､自車周辺に車両が停止しているとき
- ・車両や歩行者が､自車周辺の駐車場や歩道などを移動しているとき
- ・自車が右左折した場合､右左折後の車線に対向車が走行しているとき
- ・対向車とすれ違うとき
- ・自車停車中に他車両に追い越されたとき
- ・テレビ塔､発電所など､強い電波や電気的なノイズが発生する可能性がある場所の近くにいるとき

・次の条件のいずれかを満たしているときは､フロントサイドレーダーセンサーが対象物を検知しない､もしくは検知しにくいことがあり､システムが正常に作動しないことがあります。

- ・隣接した壁や車両により､フロントサイドレーダーセンサーの検知エリアがさまたげられているとき
- ・システムを作動可能な状態にした直後
- ・隣接した車両にレーダーセンサーが装着されており､電波干渉を受けたとき
- ・接近車両が次のような形状をしているとき
  - a) 車両が非常に小さい
  - b) 車高が非常に低い/高い
  - c) 特殊車両など複雑な形状をしている

知識

- ・自車の前方または側方から検知エリアに突然車両などが進入したとき
- ・停止していた車両などが突然動き始めたとき
- ・複数の物体が同時に移動しているとき
- ・豪雨､霧､雪､砂嵐などの悪天候で運転しているとき
- ・急カーブや凸凹道路を走行しているとき
- ・自車のすぐ横に､駐車車両､ガードレール､壁など､レーダーを反射する路側物があるとき
- ・接近車両が旋回しながら接近してくるとき (環状交差点など)
- ・極低速で走行しているとき

・次の条件のいずれかを満たしているときは､i-ACTIVSENSE 警告灯を点灯させ､システムの作動を停止します。

- ・システムに何らかの異常が認められるとき
- ・フロントサイドレーダーセンサーの車両への搭載位置に大きなずれが生じたとき
- ・フロントサイドレーダーセンサー付近に､異物が多量に付着しているとき (氷､雪など)
- ・夏場に上り坂を長時間走行するなどして､フロントサイドレーダーセンサー付近の温度が非常に高くなったとき
- ・12 V バッテリーの電圧が下がっているとき

i-ACTIVSENSE 警告灯が点灯し続ける場合は､すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

▼ 前側方接近車両検知 (FCTA) を停止させるには

前側方接近車両検知 (FCTA) を作動しないように変更できます。

- **(前側方接近車両検知 (FCTA) のみを OFF にする場合)**
  →マツダコネクト取扱書 「設定」
- **(i-ACTIVSENSE OFF スイッチの操作で前側方接近車両検知 (FCTA) を OFF にする場合)**
  →5-63 ページ 「i-ACTIVSENSE OFF スイッチ」

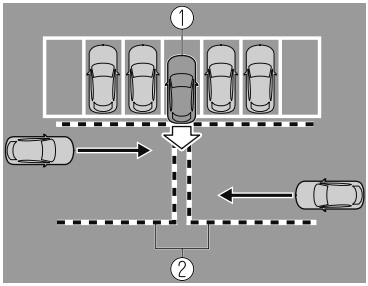
知識

i-ACTIVSENSE OFF スイッチでシステムを停止したまま電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときにシステムが自動復帰します。
ただし、マツダコネクトの「設定」でシステムを停止している場合は、自動復帰しません。

後側方接近車両検知 (RCTA) とは

▼ 後側方接近車両検知 (RCTA) とは

後側方接近車両検知 (RCTA) は、駐車場などで自車が後退するときの後方確認を支援するシステムです。
後側方接近車両検知 (RCTA) は、駐車場などで自車が後退するときに左右および後方に接近した車両を検知して、警報チャイムおよびブインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の点滅で運転者に危険を知らせます。



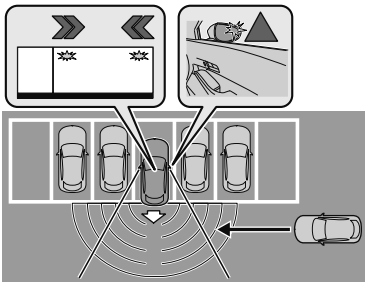
1. 自車
2. 検知エリア

警告

車両後退時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。
後側方接近車両検知 (RCTA) は、車両後退時の後方確認を支援するシステムです。システムの作動には各種の制約があるため、自車後方に車両が存在する場合でも BSM 接近表示灯が点滅しなかったり、点滅が遅れたりすることがあります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。

後側方接近車両検知 (RCTA) 作動

1. セレクトレバーを R の位置にすると、後側方接近車両検知 (RCTA) が作動します。
2. 車両が接近し、自車と衝突する可能性がある場合は、360°ビュー・モニター (360°ビュー・モニター装備車)/バックガイドモニター (バックガイドモニター装備車) に警告が表示され、BSM 接近表示灯の点滅とともに警報チャイムが鳴ります。



減光解除機能

車幅灯が点灯しているときに BSM 接近表示灯が点灯すると、点灯したときの明るさが減光されます。
雪道や霧での走行時など、周囲が明るく減光状態で BSM 接近表示灯が見えにくい場合には、パネルライトの減光を解除すると BSM 接近表示灯が明るくなります。
→5-14 ページ「パネルライトコントロール」

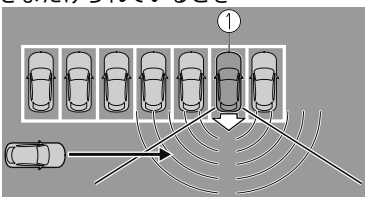
知識

- 次の条件のいずれかを満たしているときは、車両が接近していなくてもシステムが作動することがあります。
  - 自車のすぐ横に、駐車車両、ガードレール、壁など、レーダーを反射する路側物があるとき
  - 自車の後方または側方から接近している車両が、減速しているとき
  - 自車の後方または側方から接近している車両が、自車の直前で右左折したとき
  - 渋滞時など、自車周辺に車両が停止しているとき
  - テレビ塔、発電所など、強い電波や電気的なノイズが発生する可能性がある場所の近くにいるとき

知識

- 次の条件のいずれかを満たしているときは、i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯を点灯させ、システムの作動を停止します。
  - BSM 接近表示灯を含むシステムに、何らかの異常が認められるとき
  - リアサイドレーダーセンサーの車両への搭載位置に大きなずれが生じたとき
  - リアサイドレーダーセンサー付近に異物が付着しているとき (氷、雪、泥など)
  - 雪道を長時間走行したとき
  - 夏場に上り坂を長時間走行するなどして、リアサイドレーダーセンサー付近の温度が非常に高くなったとき
  - 12 V バッテリーの電圧が下がっているとき

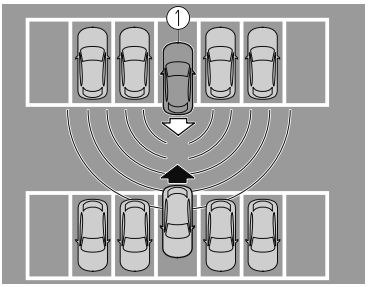
  i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が点灯し続ける場合は、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。
- 次の条件のいずれかを満たしているときは、リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  - 後退時の車速が約 10 km/h 以上のとき
  - 隣接した壁や駐車車両により、リアサイドレーダーセンサーの検知エリアがさまたげられているとき



1. 自車

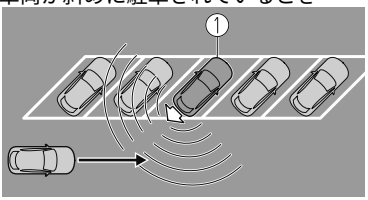
知識

・自車の真後ろから車両が接近してきたとき



1. 自車

・車両が斜めに駐車されているとき



1. 自車

・後側方接近車両検知 (RCTA) を作動可能な状態にした直後
・隣接した駐車車両にレーダーセンサーが装着されており、電波干渉を受けたとき
・リアサイドレーダーセンサー付近のリアバンパーが変形しているとき
・接近車両が次のような形状をしているとき
  a) 車両が非常に小さい
  b) 車高が非常に低い/高い
  c) 特殊車両など複雑な形状をしている
・トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着したりするときは、後側方接近車両検知 (RCTA) を解除してください。レーダーの電波がさえぎられるため、システムが正常に作動しない可能性があります。
・次のようなときは、ドアミラーに設置されている BSM 接近表示灯の点滅が見えにくいことがあります。

知識

・ドアミラーに氷や雪が付着しているとき
・窓ガラスに、曇り、雪、汚れ、霜が付着しているとき

▼ 後側方接近車両検知 (RCTA) を停止させるには

後側方接近車両検知 (RCTA) を作動しないように変更できます。

・**(後側方接近車両検知 (RCTA) のみを OFF にする場合)**
→マツダコネクト取扱書 「設定」
・**(i-ACTIVSENSE OFF スイッチの操作で後側方接近車両検知 (RCTA) を OFF にする場合)**
→5-63 ページ 「i-ACTIVSENSE OFF スイッチ」

知識

i-ACTIVSENSE OFF スイッチでシステムを停止したまま電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときにシステムが自動復帰します。
ただし、マツダコネクトの「設定」でシステムを停止している場合は、自動復帰しません。

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは

▼ マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは

MRCC (全車速追従機能付) とは、設定した速度での定速走行や、前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つ追従走行ができるシステムです。運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、システムが自動的に加速、減速、停止を行ないます。

MRCC (全車速追従機能付) を使用する前に、次の記載もあわせてお読みください。

・5-64 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
・5-67 ページ「フロントレーダーセンサーについて」

⚠ 警告

MRCC (全車速追従機能付) を過信せず、安全運転を心がける。
MRCC (全車速追従機能付) は、前方車の種類や状態、天候状況、道路状況などによって、前方車を検知できないことがあります。また、前方車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んできたときなどは、十分な減速ができず思わぬ事故につながるおそれがあります。
周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような状況では使用しない。

- 自動車専用道路以外を走行するとき
- 急なカーブや交通量が多く車間距離が十分にとれない道路を走行するとき
- 頻繁に加減速を繰り返すような道路を走行するとき
- 高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するなど、本線から出るとき
- 凍結路、積雪路、未舗装路など、すべりやすい路面を走行するとき

⚠ 警告

- 長い下り坂を走行するとき
- 勾配が急な坂を走行するとき
- バイクや自転車など、二輪車が前方を走行しているとき
- けん引されるとき、または他の車をけん引するとき
- 接近警報が頻繁に作動するとき

MRCC (全車速追従機能付) を使用しないときは、MRCC (全車速追従機能付) を OFF にする。
常に使用できる状態にしておくと、誤ってMRCC (全車速追従機能付) を作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

停止保持制御中に車両から離れない。
車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。車両から離れるときは、MRCC (全車速追従機能付) を OFF にしてセレクトレバーを P の位置にし、パーキングブレーキをかけてください。

知識

・MRCC (全車速追従機能付) は、次の対象物には作動しません。
  ・対向車
  ・歩行者
  ・静止物 (停車車両、障害物など)
・前方車が極低速のときは、前方車を正しく検知できないことがあります。
・MRCC (全車速追従機能付) 制御によるブレーキ作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
・MRCC (全車速追従機能付) 制御によるブレーキ作動中および停止保持制御中には、ブレーキランプが点灯します。
・マツダコネクトの「設定」で車間制御を無効にすると、MRCC (全車速追従機能付) がクルーズコントロールに切り替わります。
  →マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) ディスプレイ表示

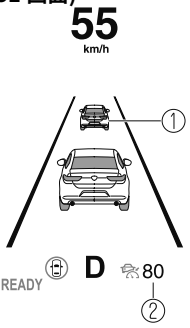
MRCC (全車速追従機能付) の設定状況および作動状況を、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイでお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)



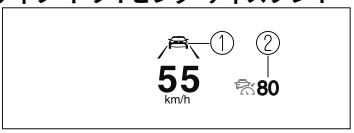
1. 前方車表示
2. MRCC (全車速追従機能付) 設定速度

マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 画面)



1. 前方車表示
2. MRCC (全車速追従機能付) 設定速度

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



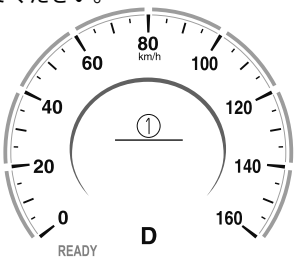
1. 前方車表示
2. MRCC (全車速追従機能付) 設定速度

MRCC (全車速追従機能付) が故障したときは、ディスプレイにメッセージが表示されます。故障内容を確認し、マツダ販売店で点検を受けてください。

→8-24 ページ「警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは」

▼ 接近警報

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) で追従走行中に前方車に接近したときは、警報音が鳴るとともにマルチインフォメーションディスプレイにブレーキ警告が表示されます。周囲の状況を確認して、前方車との車間距離を十分に確保してください。



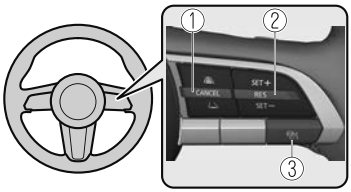
1. “ブレーキペダルを踏んでください”

⚠ 注意

- アクセルペダルを踏んでいるときは、前方車に接近しても警報やブレーキ制御が作動しません。
- 次のようなときは、前方車に接近しても警報やブレーキ制御が作動しないことがあります。
  - 前方車と同じぐらいの速度で走行しているとき
  - MRCC (全車速追従機能付) を設定した直後
  - アクセルペダルから足を離した直後
  - 他車が割り込んできたとき

▼ 設定するとき

操作スイッチ



1. CANCEL スイッチ
2. RES スイッチ
3. MRCC スイッチ

作動条件

MRCC (全車速追従機能付) は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

・MRCC (全車速追従機能付) が ON のとき
・セレクトレバーが D の位置にあるとき
・パーキングブレーキが解除されているとき
・すべてのドアが閉まっているとき
・運転席シートベルトを着用しているとき

知識

・次の条件のいずれかを満たしているときは、車速が 30 km/h 以下になると MRCC (全車速追従機能付) を使用できません。また、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイに“30km/h 以下で MRCC が作動しません”とメッセージが表示されます。

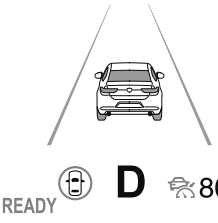
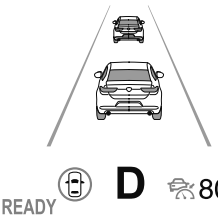
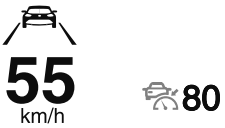
  ・フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できなくなったとき
  ・停車保持制御の機能が故障したとき
  ・電動パーキングブレーキ (EPB) が故障したとき

速度を設定する

1. MRCC スイッチを押して、システムを ON にする。
2. 設定したい速度までアクセルペダル操作で加速し、RES スイッチを押し上げ (SET+) または押し下げ (SET-) て速度を設定する。

知識

・システムを ON にすると MRCC スタンバイ表示 (白) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに MRCC ディスプレイ表示が表示されます。
・速度を設定するとディスプレイに設定速度が表示され、MRCC スタンバイ表示 (白) から MRCC セット表示 (緑) に変わります。
・設定速度の下限は 30 km/h です。

走行状態	マルチインフォメーションディスプレイ表示	アクティブ･ドライビング･ディスプレイ表示
定速走行時		
追従走行時		

車間距離を設定する

CANCEL スイッチを押し下げると車間距離を短く設定し、CANCEL スイッチを押し上げると車間距離を長く設定します。車間距離は長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。
車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	マルチインフォメーションディスプレイ表示	アクティブ･ドライビング･ディスプレイ表示*1
長 (約 50 m)		
中 (約 40 m)		

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	マルチインフォメーションディスプレイ表示	アクティブ･ドライビング･ディスプレイ表示*1
短 (約 30 m)		
極短 (約 25 m)		

*1　CANCEL スイッチを操作したときにポップアップで表示されます。

設定速度を変更する

RES スイッチで設定速度を変更するとき

RES スイッチを押し上げる (SET+) と加速し、RES スイッチを押し下げる (SET-) と減速します。

・短押し：1 km/h
・長押し：10 km/h

アクセルペダルで設定速度を変更するとき

アクセルペダルを踏んで希望の速度になったところで、RES スイッチを押し上げ (SET+) または押し下げ (SET-)、手を放します。

一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除されます。

・MRCC (全車速追従機能付) の作動条件を満たさなくなったとき
・CANCEL スイッチを押したとき
・ブレーキペダルを踏んだとき
・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できなくなったとき
・DSC が作動したとき
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動したとき
・MRCC (全車速追従機能付) 制御によるブレーキの作動頻度が高いとき
・システムに異常があるとき

制御を再開するとき

MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除された場合は、再度作動条件を満たしたときに RES スイッチを押すと、一時的に解除される前の設定速度で制御を再開します。

OFF にする

MRCC (全車速追従機能付) 作動中に MRCC スイッチを押すと、MRCC (全車速追従機能付) が OFF になります。

▼ 停車保持制御

MRCC (全車速追従機能付) で追従走行中に前方車が停車すると、追従して自車も停車します。停車して停車保持制御が作動すると、MRCC (全車速追従機能付) 表示灯が点灯します。



知識

・停車保持制御が 10 分以上経過した場合は、自動でパーキングブレーキがかかり、停車状態を維持します。このとき、MRCC (全車速追従機能付) は一時的に解除されます。

再発進するとき

停車保持制御中に前方車が発進し車間距離が開いたとき、次のいずれかの発進操作をすると、停車保持制御が解除されて車両が発進します。

・RES スイッチを押す
・アクセルペダルを踏み込む

知識

停車後約 3 秒以内に前方車が発進した場合は、発進操作をしなくても追従走行を継続します。

発進報知

停車保持制御中に前方車が発進した後、しばらく発進操作が行なわれないと、マルチインフォメーションディスプレイの前方車表示が点滅して運転者に発進を促します。それでも発進操作が行なわれないときは音が鳴り、運転者に発進を促します。

クルージング＆トラフィック･サポート (CTS) とは*

▼ クルージング＆トラフィック･サポート (CTS) とは

CTS とは、高速道路や自動車専用道路で渋滞が起きているときの運転疲労を軽減するシステムです。
CTS は、追従走行機能とステアリングアシスト機能とで構成されています。

追従走行機能
運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、設定した速度で前方車との車間距離を一定に保って走行します。

ステアリングアシスト機能
車線を検知しているときは、車線に沿って走行するように運転者のハンドル操作をアシストします。
車線を検知していないときは、前方車の走行軌跡に沿って走行するように運転者のハンドル操作をアシストします。

CTS を使用する前に、次の記載もあわせてお読みください。

・5-64 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
・5-67 ページ「フロントレーダーセンサーについて」

⚠ 警告

CTS を過信せず、安全運転を心がける。

- CTS は、自動運転システムではありません。そのため、機能には限界があります。システムを過信せず、常にハンドルの操作で進路を修正してください。
- 道路状況や環境に応じて、車速を制限速度内に設定してください。
- CTS は、前方車の種類や状態、天候状況、道路状況などによって、前方車を検知できないことがあります。また、前方車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んできたときなどは、十分な減速ができず思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような状況では使用しない。

- 高速道路以外または自動車専用道路以外を走行するとき
- 急なカーブや交通量が多く車間距離が十分にとれない道路を走行するとき
- 頻繁に加減速を繰り返すような道路を走行するとき
- 高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するなど、本線から出るとき
- 凍結路、積雪路、未舗装路など、すべりやすい路面を走行するとき
- 長い下り坂を走行するとき
- 勾配が急な坂を走行するとき
- バイクや自転車など、二輪車が前方を走行しているとき
- けん引されるとき、または他の車をけん引するとき
- 接近警報が頻繁に作動するとき
- 悪天候のとき (雨、霧、雪など)
- タイヤチェーン装着時、応急用タイヤ装着時など、指定されたサイズと異なるタイヤを使用しているとき
- タイヤの空気圧が適正空気圧に調整されていないとき

CTS を使用しないときは、CTS を OFF にする。
常に使用できる状態にしておくと、誤って CTS を作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

停止保持制御中に車両から離れない。
車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。車両から離れるときは、CTS を OFF にしてセレクトレバーを P の位置にし、パーキングブレーキをかけてください。

⚠ 注意

- CTS を正常に作動させるために、次の点をお守りください。
  - サスペンションの改造を行わないでください。

⚠ 注意

- 前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換など行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。

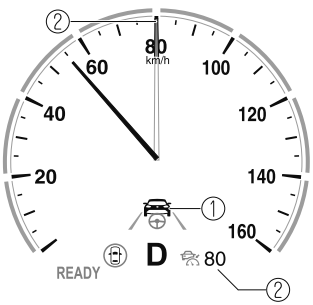
知識

・CTS は、次の対象物には作動しません。
  ・対向車
  ・歩行者
  ・静止物 (停車車両、障害物など)
・前方車が極低速のときは、前方車を正しく検知できないことがあります。
・CTS 制御によるブレーキ作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
・CTS 制御によるブレーキ作動中および停止保持制御中には、ブレーキランプが点灯します。
・次の条件のいずれかを満たしているときは、車線の白線 (黄線) や前方車を正しく検知できず、CTS が正常に作動しないことがあります。
  ・フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できない条件を満たしているとき
  5-64 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
  ・フォワードセンシングカメラ (FSC) が前方を認識できないとき
  ・白線 (黄線) が見えにくいとき
  ・白線 (黄線) が複数あるとき
  ・白線 (黄線) とまぎらわしい線があるとき
  ・前方車との車間距離が近いとき
  ・車線の幅が狭いとき、または広いとき
  ・前方車が蛇行しているとき
  ・前方車が自車の中心から大きくはずれて走行しているとき
  ・交差点、合流地点、分岐路などを走行しているとき

▼ クルージング＆トラフィック･サポート (CTS) ディスプレイ表示

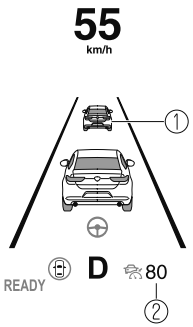
CTS の設定状況および作動状況を、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイでお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)



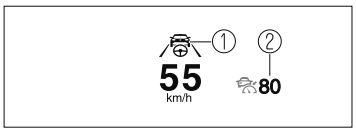
1. 前方車表示
2. CTS 設定速度

マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 表示)



1. 前方車表示
2. CTS 設定速度

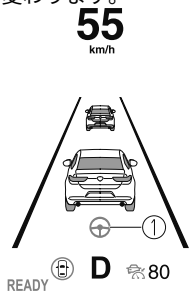
アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1. 前方車表示
2. CTS 設定速度

ステアリングアシスト機能表示

ステアリングアシスト機能が作動すると、ディスプレイのステアリングアシスト状態表示が白色から緑色に変わります。

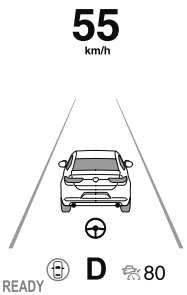


1. ステアリングアシスト状態表示

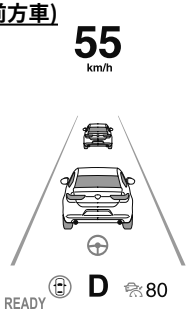
知識

ステアリングアシスト機能が車線または前方車のどちらに沿うかを、マルチインフォメーションディスプレイで確認できます。

待機状態

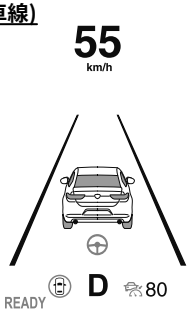


作動状態 (前方車)



知識

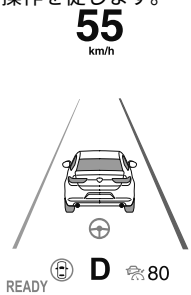
作動状態 (車線)



CTS が故障したときは、ディスプレイにメッセージが表示されます。故障内容を確認し、マツダ販売店で点検を受けてください。
→8-24 ページ「警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは」

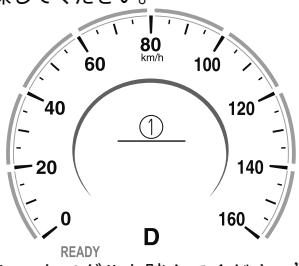
▼ ステアリングアシスト限界警報

ステアリングアシスト機能が車線に沿った走行を維持できないときは、警報音が鳴るとともに、限界を迎えている方向の車線がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、運転者にステアリング操作を促します。



▼ 接近警報

クルージング＆トラフィック･サポート (CTS) で追従走行中に前方車に接近したときは、警報音が鳴るとともにマルチインフォメーションディスプレイにブレーキ警告が表示されます。周囲の状況を確認して、前方車との車間距離を十分に確保してください。



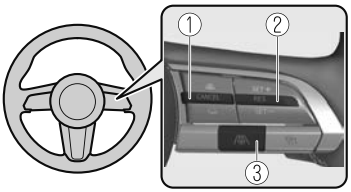
1. “ブレーキペダルを踏んでください”

注意

- アクセルペダルを踏んでいるときは、前方車に接近しても警報やブレーキ制御が作動しません。
- 次のようなときは、前方車に接近しても警報やブレーキ制御が作動しないことがあります。
  - 前方車と同じぐらいの速度で走行しているとき
  - CTS を設定した直後
  - アクセルペダルから足を離した直後
  - 他車が割り込んできたとき

▼ 設定するとき

操作スイッチ



1. CANCEL スイッチ
2. RES スイッチ
3. CTS スイッチ

作動条件

追従走行機能

追従走行機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

・CTS が ON のとき
・セレクトレバーが D の位置にあるとき
・パーキングブレーキが解除されているとき
・すべてのドアが閉まっているとき
・運転席シートベルトを着用しているとき

ステアリングアシスト機能

ステアリングアシスト機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

・追従走行機能が作動しているとき
・両側の白線 (黄線)を安定して検知している状態で車線の中央付近を走行しているとき、または車速が約 50 km/h 未満で前方車を自車の正面で安定して検知している状態のとき (前方車の走行軌跡に沿って走行するように運転者のハンドル操作をアシストする機能は、車速が約 50 km/h 以上では作動しません)
・ハンドルを大きく操作していないとき
・方向指示器を使用していないとき

知識

・走行車線内の中央付近を走行できるようにハンドル操作をアシストしますが、カーブの形状、路面の傾斜や起伏、車速などによっては、中央付近を走行できないことがあります。
・次の条件のいずれかを満たしているときは、車速が 30 km/h 以下になると CTS を使用できません。
  ・フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できなくなったとき
  ・停車保持制御の機能が故障したとき
  ・電動パーキングブレーキ (EPB) が故障したとき

速度を設定する

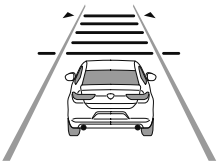
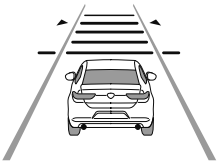
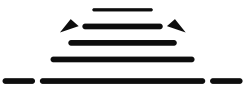
1. CTS スイッチを押して、システムを ON にする。
2. 設定したい速度までアクセルペダル操作で加速し、RES スイッチを押し上げ (SET+) または押し下げ (SET-) て速度を設定する。

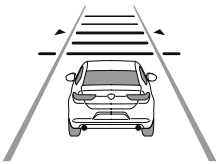
知識

・システムを ON にすると CTS スタンバイ表示 (白) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに CTS ディスプレイ表示が表示されます。
・速度を設定するとディスプレイに設定速度が表示され、CTS スタンバイ表示 (白) から CTS セット表示 (緑) に変わります。
・設定速度の下限は 30 km/h です。
・マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) が作動しているときに CTS スイッチを押すと、MRCC (全車速追従機能付) が CTS に切り替わります。また、CTS が作動しているときに MRCC スイッチを押すと、CTS が MRCC (全車速追従機能付) に切り替わります。

車間距離を設定する

CANCEL スイッチを押し下げると車間距離を短く設定し、CANCEL スイッチを押し上げると車間距離を長く設定します。車間距離は長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。
車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離の目安 (80 km/h 走行時)	ディスプレイ表示	
	マルチインフォメーションディスプレイ	アクティブ･ドライビング･ディスプレイ*1
長 (約 50 m)		
中 (約 40 m)		

車間距離の目安 (80 km/h 走行時)	ディスプレイ表示	
	マルチインフォメーションディスプレイ	アクティブ･ドライビング･ディスプレイ*1
短 (約 30 m)		
極短 (約 25 m)		

*1　CANCEL スイッチを操作したときにポップアップで表示されます。

設定速度を変更する

RES スイッチで設定速度を変更するとき

RES スイッチを押し上げる (SET+) と加速し、RES スイッチを押し下げる (SET-) と減速します。

・短押し：1 km/h
・長押し：10 km/h

アクセルペダルで設定速度を変更するとき

アクセルペダルを踏んで希望の速度になったところで、RES スイッチを押し上げ (SET+) または押し下げ (SET-)、手を放します。

一時的に解除されるとき

追従走行機能

次の条件のいずれかを満たすと、追従走行機能が一時的に解除されます。

・追従走行機能の作動条件を満たさなくなったとき
・CANCEL スイッチを押したとき
・ブレーキペダルを踏んだとき
・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できなくなったとき
・DSC が作動したとき
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動したとき
・CTS 制御によるブレーキの作動頻度が高いとき
・システムに異常があるとき

ステアリングアシスト機能

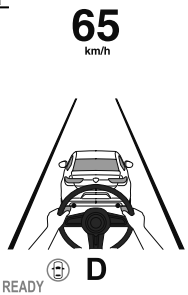
次の条件のいずれかを満たすと、ステアリングアシスト機能が一時的に解除されます。

・追従走行機能が解除されたとき
・レーンキープ･アシスト･システム (LAS) が作動したとき
・側方危険回避アシスト機能が作動したとき
・ロードキープアシスト機能が作動したとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) を使用できないとき
・白線 (黄線) を検知できない、または前方車を認識できないとき
・白線 (黄線)を検知できないかつ、車速が約 50 km/h 以上のとき (前方車の走行軌跡に沿って走行するように運転者のハンドル操作をアシストする機能は、車速が約 50 km/h 以上のとき解除されます)
・アクセルペダルを踏んだとき
・方向指示器を使用したとき
・急なハンドル操作をしたとき
・ハンドルから手を放したとき
・急なカーブを走行したとき
・車線をまたいで走行したとき
・車線の幅が狭いとき、または広いとき
・システムに異常があるとき

知識

運転者がハンドルをしっかりと保持していないときは、警報音が鳴るとともにマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警報が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



制御を再開するとき

CTS が一時的に解除された場合は、再度作動条件を満たしたときに RES スイッチを押すと、一時的に解除される前の設定速度で制御を再開します。

OFF にする

CTS 作動中に CTS スイッチを押すと、CTS が OFF になります。

▼ 停車保持制御

クルージング＆トラフィック･サポート (CTS) で追従走行中に前方車が停車すると､追従して自車も停車します。停車して停車保持制御が作動すると､CTS 表示灯が点灯します。

HOLD

知識

停車保持制御が 10 分以上経過した場合は、自動でパーキングブレーキがかかり､停車状態を維持します。このとき､CTS は一時的に解除されます。

再発進するとき

停車保持制御中に前方車が発進し車間距離が開いたとき､次のいずれかの発進操作をすると､停車保持制御が解除されて車両が発進します。

・RES スイッチを押す
・アクセルペダルを踏み込む

知識

停車後約 3 秒以内に前方車が発進した場合は､発進操作をしなくても追従走行を継続します。

発進報知

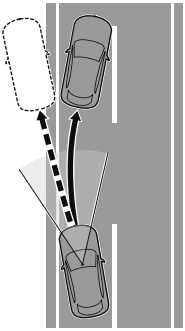
停車保持制御中に前方車が発進した後､しばらく発進操作が行なわれないと､マルチインフォメーションディスプレイの前方車表示が点滅して運転者に発進を促します。それでも発進操作が行なわれないときは音が鳴り､運転者に発進を促します。

レーンキープ･アシスト･システム (LAS) とは

▼ レーンキープ･アシスト･システム (LAS) とは

LAS とは､走行中の車線逸脱回避をアシストするシステムです。
LAS は､フォワードセンシングカメラ (FSC) で車線の白線 (黄線) を検知します。そして､自車が車線から逸脱する可能性があると､もとの車線に戻るようにハンドル操作をアシストします。
ハンドル操作アシストが作動すると､ディスプレイの表示で運転者に知らせます。

白線 (黄線) が整備された高速道路や自動車専用道路でご使用ください。



警告

LAS を過信せず､安全運転を心がける。

- LAS は､自動運転システムではありません。また､前方不注意を補助するものではないため､システムを過信しすぎると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- LAS の機能には限界があります。システムを過信せず､常にハンドルの操作で進路を修正してください。

思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような状況ではシステムを使用しない。

- 凍結路､積雪路､未舗装路など､すべりやすい路面を走行するとき

⚠ 警告

- タイヤチェーン装着時、応急用タイヤ装着時など、指定されたサイズと異なるタイヤを使用しているとき
- 十分な溝がないタイヤを使用しているとき
- タイヤの空気圧が適正空気圧に調整されていないとき
- キャンピングトレーラーやボートトレーラーなどをけん引しているとき
- 高速道路以外または自動車専用道路以外を走行するとき

⚠ 注意

- LAS を正常に作動させるために、次の点をお守りください。
  - サスペンションの改造を行わないでください。
  - 前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換など行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。

知識

次の条件のいずれかを満たしているときは、システムが正常に作動しないことがあります。

・フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できない条件を満たしているとき
→5-64 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
・白線 (黄線) が見えにくいとき (かすれ、汚れ、前方車で隠れるなど)
・白線 (黄線) が複数引かれていたり、途切れたりしているとき
・白線 (黄線) と紛らわしい線が見えるとき (道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど)
・車線の幅が狭いとき
・段差などにより、車が大きく揺れたとき
・工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行しているとき

知識

・分岐路や合流路を走行しているとき

▼ 作動させるとき

電源ポジションを ON にすると、マルチインフォメーションディスプレイに警報・リスク回避支援表示 (白) が表示され、システムが待機状態となります。



知識

警報・リスク回避支援表示 (白) が表示されない場合は、i-ACTIVSENSE OFF スイッチまたはマツダコネクトの「設定」で、システムが停止されています。

作動条件

次の条件をすべて満たしているときは、マルチインフォメーションディスプレイの警報・リスク回避支援表示が白色から緑色に変わり、システムが作動状態となります。

・車速が約 60 km/h 以上のとき
・直線または緩やかなカーブを走行しているとき
・車線の白線 (黄線) を検知しているとき



知識

左右どちらか一方の車線の白線 (黄線) が検知できていない場合、検知できていない方向への逸脱に対しては作動しません。

一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たしているときは、LAS が待機状態になります。なお、LAS が作動可能な状態になると、自動復帰します。

- 車速が約 60 km/h 未満のとき
- 白線 (黄線) を検知できないとき
- 方向指示器を操作したとき
- 急なアクセル操作をしたとき
- ブレーキ操作をしたとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- TCS/DSC が作動しているとき
- TCS/DSC を OFF にしたとき

システムが停止するとき

次の条件のいずれかを満たしているときは、LAS が停止します。

- フォワードセンシングカメラ (FSC) 内部の温度が、高温または低温になったとき
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスが曇ったとき
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスに遮へい物があり、前方が見えないとき
- システムに何らかの故障があるとき

システム故障

システムに何らかの故障があるときは、マルチインフォメーションディスプレイに警報・リスク回避支援表示(白)、i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。
→8-29 ページ「i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯」

▼ ハンドル操作アシスト

自車が車線から逸脱する可能性があると、ハンドル操作アシストが作動します。
ハンドル操作アシストが作動しているときは、システムがハンドル操作アシストをしていることを、マルチインフォメーションディスプレイとアクティブ・ドライビング・ディスプレイでお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)



マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 表示)



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



知識

- ハンドル操作アシストが作動しているときに運転者がハンドル操作をすると、ハンドル操作アシストが解除されます。

知識

・一定時間内に複数回ハンドル操作アシストが作動すると、警報チャイムが鳴ります。

▼ 停止するとき

LAS を作動しないように変更できます。

・**(LAS のみを OFF にする場合)**
→マツダコネクト取扱書 「設定」
・**(i-ACTIVSENSE OFF スイッチの操作で LAS を OFF にする場合)**
→5-63 ページ 「i-ACTIVSENSE OFF スイッチ」

知識

i-ACTIVSENSE OFF スイッチでシステムを停止したまま電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときにシステムが自動復帰します。
ただし、マツダコネクトの「設定」でシステムを停止している場合は、自動復帰しません。

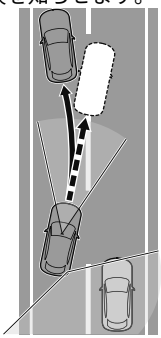
緊急時車線維持支援 (ELK) とは

▼ 緊急時車線維持支援 (ELK) とは

ELK とは、運転者のハンドル操作をアシストすることによって危険回避を図るシステムです。
ELK は、自車と隣接車線の車両が衝突することの回避を図る側方危険回避アシスト機能と、走行中に路外へ逸脱することの回避を図るロードキープアシスト機能で構成されています。
→5-114 ページ「側方危険回避アシスト機能」
→5-117 ページ「ロードキープアシスト機能」

▼ 側方危険回避アシスト機能*

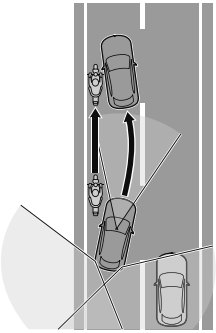
側方危険回避アシスト機能とは、隣接車線を走行する車両 (対向車を除く) との衝突回避をアシストする機能です。
側方危険回避アシスト機能は、フォワードセンシングカメラ (FSC) で車線の白線 (黄線) を検知し、リアサイドレーダーセンサーで隣接車線の車両を検知します。そして、自車の車線変更または車線逸脱によって隣接車線の車両と衝突する可能性があると、もとの車線に戻るようにハンドル操作をアシストします。
ハンドル操作アシストが作動すると、警報音およびディスプレイの警告表示で運転者に衝突の可能性を知らせます。さらに、衝突の可能性が高まったときは、警報音とディスプレイの表示で運転者に危険を知らせます。



⚠ 警告

側方危険回避アシスト機能を過信せず、安全運転を心がける。

- 側方危険回避アシスト機能には限界があります。システムを過信せず、常にハンドルの操作で進路を修正してください。
- 側方危険回避アシスト機能は、自動運転システムではありません。また、前方不注意を補助するものではないため、システムを過信しすぎると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- カメラおよびセンサーの検知エリアには限界があります。自車付近の二輪車などを検知できないままハンドル操作アシストが作動すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。



思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような状況ではシステムを使用しない。

- 凍結路、積雪路、未舗装路など、すべりやすい路面を走行するとき
- タイヤチェーン装着時、応急用タイヤ装着時など、指定されたサイズと異なるタイヤを使用しているとき
- キャンピングトレーラーやボートトレーラーなどをけん引しているとき
- 高速道路以外または自動車専用道路以外を走行するとき
- リアサイドレーダーセンサー付近のリアバンパーが変形しているとき

作動条件

次の条件をすべて満たしているときは、側方危険回避アシスト機能が作動可能な状態になります。

- 車速が約 60 km/h 以上のとき
- 直線または緩やかなカーブを走行しているとき
- 車線の両側の白線 (黄線) を検知しているとき
- 後側方に車両がいるとき

知識

- 次の条件のいずれかを満たしているときは、側方危険回避アシスト機能が正常に作動しないことがあります。
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できない条件を満たしているとき
    →5-64 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
  - 隣接車線の車両が見えにくいとき
  - 隣接車線の車両が高速走行で急接近してきたとき
  - 隣接車線の車両が次のような形状をしているとき
    - 車両が非常に小さい
    - 車高が非常に低い/高い
    - 特殊車両など複雑な形状をしている
  - 白線 (黄線) が見えにくいとき (かすれ、汚れ、前方車で隠れるなど)
  - 白線 (黄線) が複数引かれていたり、途切れたりしているとき
  - 白線 (黄線) と紛らわしい線が見えるとき (道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど)
  - 車線の幅が狭いとき、または広いとき
  - 段差などにより、自車が大きく揺れたとき
  - 工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行しているとき
  - 分岐路や合流路を走行しているとき
- ELK OFF 表示灯が点灯しているときは、マツダコネクトの「設定」でシステムが停止されています。

知識

→マツダコネクト取扱書 「設定」



一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たしているときは、側方危険回避アシスト機能が待機状態になります。なお、側方危険回避アシスト機能が作動可能な状態になると、自動復帰します。

- 車速が約 60 km/h 未満のとき
- 白線 (黄線) を検知できないとき
- 急なアクセル操作をしたとき
- ブレーキ操作をしたとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- TCS/DSC が作動しているとき
- TCS/DSC を OFF にしたとき
- 自車付近の検知エリアを、複数の車両が走行しているとき

機能が停止するとき

次の条件のいずれかを満たしているときは、側方危険回避アシスト機能が停止します。

- フォワードセンシングカメラ (FSC) 内部の温度が、高温または低温になったとき
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスが曇ったとき
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスに遮へい物があり、前方が見えないとき
- リアサイドレーダーセンサー付近に、雪、氷、泥などが付着しているとき
- リアサイドレーダーセンサー付近が高温なとき
- システムに何らかの故障があるとき

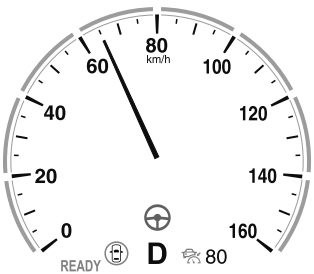
システム故障

システムに何らかの故障があるときは、i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。
→8-29 ページ「i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯」

ハンドル操作アシスト

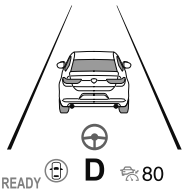
自車の車線変更または車線逸脱によって隣接車線の車両と衝突する可能性があると、ハンドル操作アシストが作動します。
ハンドル操作アシストが作動しているときは、システムがハンドル操作アシストをしていることを、警報音、マルチインフォメーションディスプレイ、アクティブ・ドライビング・ディスプレイでお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)



マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 表示)





アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



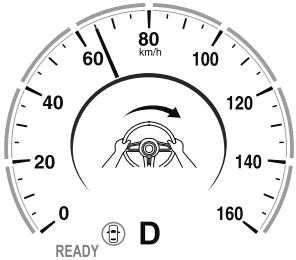
知識

・ハンドル操作アシストが作動しているときに運転者がハンドル操作をすると、ハンドル操作アシストが解除されます。
・一定時間内に複数回ハンドル操作アシストが作動すると、警報チャイムが鳴ります。

衝突警報

隣接車線の車両と衝突する可能性が高まったときは、警報音が鳴るとともに、衝突を回避するために必要なハンドル操作方向をマルチインフォメーションディスプレイとアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ

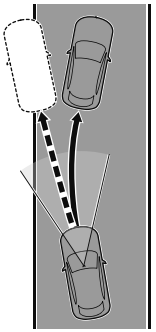


アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



▼ ロードキープアシスト機能

ロードキープアシスト機能とは、走行中に路外へ逸脱することの回避をアシストする機能です。
ロードキープアシスト機能は、フォワードセンシングカメラ (FSC) で路外を認識します。そして、自車が路外へ逸脱する可能性があると、路外への逸脱を回避するようにハンドル操作をアシストします。
ハンドル操作アシストが作動すると、ディスプレイの表示で運転者に逸脱の可能性を知らせます。さらに、逸脱の可能性が高まったときは、警報音とディスプレイの表示で運転者に危険を知らせます。



⚠ 警告

ロードキープアシスト機能を過信せず、安全運転を心がける。

- ロードキープアシスト機能には限界があります。システムを過信せず、常にハンドルの操作で進路を修正してください。
- ロードキープアシスト機能は、自動運転システムではありません。また、前方不注意を補助するものではないため、システムを過信しすぎると思わぬ事故につながるおそれがあります。

思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような状況ではシステムを使用しない。

- 凍結路、積雪路、未舗装路など、すべりやすい路面を走行するとき
- タイヤチェーン装着時、応急用タイヤ装着時など、指定されたサイズと異なるタイヤを使用しているとき
- キャンピングトレーラーやボートトレーラーなどをけん引しているとき

作動条件

次の条件のいずれかを満たしているときは、ロードキープアシスト機能が作動可能な状態になります。

・車速が約 60 km/h 以上のとき
・直線または緩やかなカーブを走行しているとき
・対象物 (砂利、芝生、側溝、縁石、ガードレール、側壁など) を検知することで、路外を認識しているとき

知識

・次の条件のいずれかを満たしているときは、ロードキープアシスト機能が正常に作動しないことがあります。
  ・フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できない条件を満たしているとき
  →5-64 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
  ・対象物が見えにくいとき (縁石が低い、路内と路外に明暗差がない、前方車で隠れるなど)
  ・対象物と紛らわしい線が見えるとき (道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど)
  ・道路の幅が狭いとき
  ・段差などにより、車が大きく揺れたとき
・ELK OFF 表示灯が点灯しているときは、マツダコネクトの「設定」でシステムが停止されています。
  →マツダコネクト取扱書 「設定」



・左右どちらか一方の対象物を検知できていない場合、検知できていない方向への逸脱に対しては作動しません。

一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たしているときは、ロードキープアシスト機能が待機状態になります。なお、ロードキープアシスト機能が作動可能な状態になると、自動復帰します。

・車速が約 60 km/h 未満のとき
・対象物を検知できないとき
・方向指示器を操作したとき
・急なアクセル操作をしたとき
・ブレーキ操作をしたとき
・急なハンドル操作をしたとき
・TCS/DSC が作動しているとき
・TCS/DSC を OFF にしたとき

機能が停止するとき

次の条件のいずれかを満たしているときは、ロードキープアシスト機能が停止します。

・フォワードセンシングカメラ (FSC) 内部の温度が、高温または低温になったとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスが曇ったとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスに遮へい物があり、前方が見えないとき
・システムに何らかの故障があるとき

システム故障

システムに何らかの故障があるときは、i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。
→8-29 ページ「i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯」

ハンドル操作アシスト

自車が路外へ逸脱する可能性があると、ハンドル操作アシストが作動します。
ハンドル操作アシストが作動しているときは、システムがハンドル操作アシストをしていることを、マルチインフォメーションディスプレイとアクティブ・ドライビング・ディスプレイでお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)



マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 表示)



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



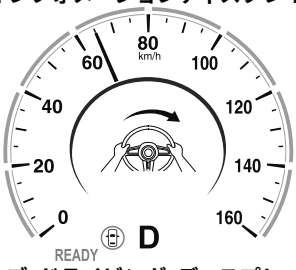
知識

- ハンドル操作アシストが作動しているときに運転者がハンドル操作をすると、ハンドル操作アシストが解除されます。
- 一定時間内に複数回ハンドル操作アシストが作動すると、警報チャイムが鳴ります。

路外逸脱警報

路外へ逸脱する可能性が高まったときは、警報音とともに、逸脱を回避するために必要なハンドル操作方向をマルチインフォメーションディスプレイとアクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



▼ 緊急時車線維持支援 (ELK) を停止させるには

ELK を作動しないように変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

ELK を停止すると、ELK OFF 表示灯が点灯します。



スマート･ブレーキ･サポート (SBS) とは

▼ スマート･ブレーキ･サポート (SBS) とは

SBS とは、車両に搭載されたセンサーやカメラで対象物を検知し、その対象物と自車とが衝突する可能性がある場合にブレーキ制御を行なうことで、衝突時の被害軽減を図るシステムです。
SBS には、自車が前進する際に機能を発揮するものと、自車が後退する際に機能を発揮するものとがあります。
→5-120 ページ「前進時検知機能」
→5-123 ページ「後進時検知機能」

▼ 前進時検知機能

自車が前進する際には、スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の次の機能がはたらきます。

・前方検知機能
・右直事故回避アシスト機能*

⚠ 警告

SBS を過信しない。
SBS は、衝突時の被害を軽減するシステムです。
対象物、天候状況、道路状況などの条件によっては、システムが正常に作動しないことがあります。システムを過信してアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

次のようなときは、誤作動を防ぐために SBS を停止してください。

➢ けん引されるとき、または他の車をけん引するとき
➢ 草の生い茂った場所やオフロードなど、悪路を走行するとき
→5-128 ページ「スマート･ブレーキ･サポート (SBS) を停止させるには」

前方検知機能

前方検知機能とは、前方の対象物と衝突した際の被害軽減を図る機能です。
前方検知機能は、フロントレーダーセンサーおよびフォワードセンシングカメラ (FSC) で、対象物 (前方車、歩行者、自転車) を検知します。
そして、自車が前方の対象物と衝突する可能性があると、警報音およびディスプレイの警告表示で運転者に危険を知らせます。
さらに、衝突の可能性が高まったときにはブレーキ制御を行なって、衝突時の被害を軽減します。また、運転者がブレーキペダルを踏んだときには、ブレーキが素早く確実にかかるようアシストします。

(ドライバー･モニタリング装備車)
運転者が正面を注視していないときに衝突する可能性があると、通常よりも早期に衝突警報を行ないます。

作動条件

前方検知機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

・電源ポジションが ON のとき
・SBS が ON のとき
・**(対象が前方車のとき)**
車速が約 4 km/h 以上のとき
・**(対象が自転車/歩行者のとき)**
車速が約 10 km/h から約 80 km/h のとき
・DSC が作動していないとき

知識

・次の条件のいずれかを満たしているときは、前方検知機能が作動しないことがあります。
  ・前方車や障害物と部分的な接触の可能性があるとき
  ・前方車と同程度の速度で走行しているとき
  ・運転者が意図的に運転操作 (アクセル操作、ハンドル操作) を行なったとき
  ・急なアクセルペダル操作をしているとき
  ・ブレーキペダルを踏んでいるとき
  ・ハンドルを操作しているとき
  ・セレクトレバーを操作しているとき
  ・方向指示器を操作しているとき

 *グレード/仕様別装備

知識

・フォワードセンシングカメラ (FSC) またはフロントレーダーセンサーに関する警告や汚れのメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されているとき
・次の条件のいずれかを満たしているときは、前方検知機能が作動することがあります。
・カーブ入り口に路側物があるとき (ガードレール、雪壁なども含む)
・カーブで対向車両とすれ違うとき
・低いゲート、狭いゲート、狭い鉄橋、洗車機、トンネルなどを通行するとき
・ETC ゲートを通過するとき
・地下駐車場の入り口などに進入するとき
・路面上に、金属物、段差、突起物などがあるとき
・前方車に急接近したとき
・動物、壁、立木を検知したとき
・システムが作動しているときは、運転者にマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイの表示で知らせます。
・故障を検知したときや、センサーやカメラの汚れなどでシステムが一時的に機能を停止しているときは、i-ACTIVSENSE 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
・システムがブレーキ制御を行なって車両が停止したときは、運転者の操作がない限りしばらく停車を保持します。

衝突警報

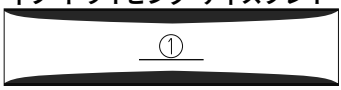
自車が前方の対象物と衝突する可能性があると、警報音が鳴り続けて、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに警報が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ



1. “ブレーキ！”

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



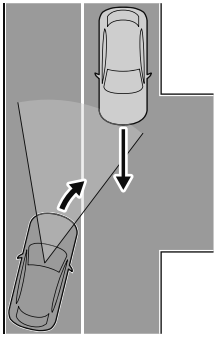
1. “ブレーキ！”

知識

・ブレーキ制御中およびブレーキアシスト作動中は、衝突警報音が断続的に鳴ります。
・衝突警報の作動距離や音量を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

右直事故回避アシスト機能*

右直事故回避アシスト機能とは、交差点右折時に対向車と衝突した際の被害軽減を図る機能です。
右直事故回避アシスト機能は、フロントレーダーセンサーおよびフォワードセンシングカメラ (FSC) で、対向車を検知します。そして、自車が交差点を右折する際に対向車と衝突する可能性があると、警報音およびディスプレイの警告表示で運転者に危険を知らせます。
さらに、衝突の可能性が高まったときにはブレーキ制御を行なって、衝突時の被害を軽減します。



作動条件

右直事故回避アシスト機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- 電源ポジションが ON のとき
- SBS が ON のとき
- 車速が約 4 km/h から約 20 km/h のとき
- 右ウインカーを点けて右折しているとき
- 自車と対向車との間の中央線を認識できているとき

知識

- 次の条件のいずれかを満たしているときは、右直事故回避アシスト機能が作動しないことがあります。
  - 意図的にアクセルペダル操作をしたとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - ハンドルが真っ直ぐのとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) またはフロントレーダーセンサーに関する警告や汚れのメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されているとき
  - 対向車が二輪車や自転車のとき
  - 対向車の一部、または全体が隠れるなどして、対向車を認識できないとき
  - 対向車の速度が遅すぎる、または速すぎるとき
  - 片側二車線以上の大きな交差点を右折するとき
- 走行する国によっては、システムが作動しないことがあります。
- 次の条件のいずれかを満たしているときは、右直事故回避アシスト機能が作動することがあります。
  - 対向車がいるときに、対向車線方向にハンドルを操作したとき
  - 対向車のすぐ後ろ、または前方を通過するとき
  - 対向車の急な右左折や減速などにより、移動を予測できないとき
- システムが作動しているときは、運転者にマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイの表示で知らせます。
- 故障を検知したときや、センサーやカメラの汚れなどでシステムが一時的に機能を停止しているときは、i-ACTIVSENSE 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- システムのブレーキ制御によって衝突の危険が去ると、すぐにブレーキが解除されます。

衝突警報

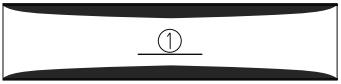
自車が交差点を右折する際に対向車と衝突する可能性があると、警報音が鳴り続けて、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに警報が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ



1. “ブレーキ！”

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



1. “ブレーキ！”

知識

・ブレーキ制御中は、衝突警報音が断続的に鳴ります。
・**(前方検知機能)**
衝突警報の作動距離や音量を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ 後進時検知機能

自車が後退する際には、スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の次の機能がはたらきます。

・後方検知機能
・後進時左右接近物検知機能

⚠ 警告

SBS を過信しない。

➢ SBS は、衝突時の被害を軽減するシステムです。システムを過信してアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

SBS を正しく作動させるために、次のことを守る。

➢ リアサイドレーダーセンサー周辺、リア超音波センサー周辺に、ステッカー (透明なものを含む) などを貼り付けないでください。リアサイドレーダーセンサー、リア超音波センサーが車両や障害物を正しく検知できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
➢ リアサイドレーダーセンサー周辺、リア超音波センサー周辺に傷などが認められるときは、ただちに SBS の使用を停止し、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。
→5-128 ページ「スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を停止させるには」
➢ リアバンパーを脱着する際は、マツダ販売店にご相談ください。

サスペンションを改造しない。
車高や車の傾きが変わると障害物を正しく検知できないため、SBS が正常に作動しないことがあります。

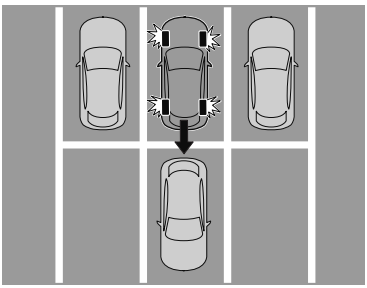
リアサイドレーダーセンサー、リア超音波センサーに強い衝撃を与えない。
洗車時にリアサイドレーダーセンサー、リア超音波センサーに強い水圧を与えたり、強くこすったりしないでください。また、荷物の出し入れなどでリアバンパーに強い衝撃を与えないでください。障害物を正しく検知できず、SBS が正常に作動しないことがあります。

⚠ 注意

- 次のようなときは、誤作動を防ぐために SBS を停止してください。
  - トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着したりするとき
  - 草の生い茂った場所やオフロードなど、悪路を走行するとき
    →5-128 ページ「スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を停止させるには」
- 4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、SBS が正常に作動しなくなるおそれがあります。

後方検知機能

後方検知機能とは、後退時に後方の対象物と衝突した際の被害軽減を図る機能です。
後方検知機能は、リア超音波センサーで障害物を検知します。そして、自車が後退する際に後方の対象物と衝突する可能性があると、警報音およびディスプレイの警告表示で運転者に危険を知らせます。
さらに、衝突の可能性が高まったときにはブレーキ制御を行なって、衝突時の被害を軽減します。



⚠ 警告

後退時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。
後方検知機能の作動には各種の制約があります。そのため、自車後方に対象物が存在する場合でも、作動しなかったり、作動が遅れたりすることがあります。必ず運転者の責任において後方を確認してください。

作動条件

後方検知機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- EV システムが作動中のとき
- SBS が ON のとき
- セレクトレバーを R の位置にしているとき
- 車速が約 2 km/h から約 8 km/h のとき
- DSC が故障していないとき
- 電動パーキングブレーキ (EPB) が作動していないとき

知識

- 次の条件のいずれかを満たしているときは、後方検知機能が作動しないことがあります。
  - EV システムを始動した直後
  - 低い壁、荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき
  - 荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき
  - 障害物が車両や壁のように大きくないとき
  - 標識のポールなど、障害物が細いとき
  - 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
  - 垂れ幕、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
  - 障害物が凹凸のある形状をしているとき
  - 障害物が極端に近いとき

知識

・次の条件のいずれかを満たしているときは、後方検知機能が正常に作動しないことがあります。
  ・リア超音波センサー付近に、雪、氷、泥などが付着しているとき
  ・ハンドル、アクセルペダル、ブレーキペダルの急な操作により、車両姿勢が不安定なとき
  ・障害物の周辺に他の障害物があるとき
  ・雨、霧、雪など、天候が悪いとき
  ・湿度が低いとき、または高いとき
  ・気温が低いとき、または高いとき
  ・風が強いとき
  ・走行路が平坦ではないとき
  ・荷室やリアシートなどに重い荷物を積んで、車両が傾いているとき
  ・リア超音波センサー付近に無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取り付けたとき
  ・衝突などで、リア超音波センサーの方向がずれたとき
  ・他車のホーン、エンジン音、リア超音波センサーなど、他の音波の影響を受けたとき
・次の条件のいずれかを満たしているときは、後方検知機能が作動することがあります。
  ・急な登坂路に向かって後退するとき
  ・グレーチング、輪留め、縁石、段差などがあるとき
  ・垂れ幕や踏切などのバーがあるとき
  ・草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して後退するとき
  ・草の生い茂った場所やオフロードなど、悪路を通行するとき
  ・低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネル、機械式駐車場などに後退で進入するとき
  ・トーイングバーやトレーラーを接続しているとき
・システムがブレーキ制御を行なって車両が停止したときは、運転者の操作がない限りしばらく停車を保持します。

衝突警報

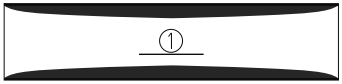
自車が後退する際に後方の対象物と衝突する可能性があると、警報音が鳴り続けて、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに警報が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ



1. “ブレーキ！”

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



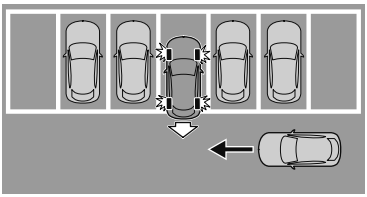
1. “ブレーキ！”

知識

ブレーキ制御中は、衝突警報音が断続的に鳴ります。

後進時左右接近物検知機能

後進時左右接近物検知機能とは、後退時に後側方から接近してくる車両と衝突した際の被害軽減を図る機能です。
後進時左右接近物検知機能は、リアサイドレーダーセンサーで接近してくる車両を検知します。そして、自車が後退する際に後側方から接近してくる車両と衝突する可能性があると、警報音およびディスプレイの警告表示で運転者に危険を知らせます。
さらに、衝突の可能性が高まったときにはブレーキ制御を行なって、衝突時の被害を軽減します。



⚠ 警告

後退時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。
後進時左右接近物検知機能の作動には各種の制約があります。そのため、自車後側方を通行する車両が存在する場合でも、作動しなかったり、作動が遅れたりすることがあります。必ず運転者の責任において後方を確認してください。

後進時左右接近物検知機能を過信しない。
後進時左右接近物検知機能は、車両に対して作動します。壁、歩行者、動物などには作動しません。

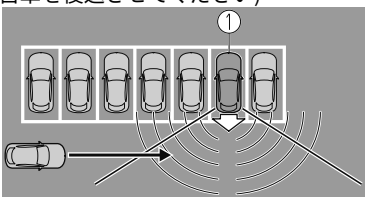
作動条件

後進時左右接近物検知機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

・EV システムが作動中のとき
・SBS が ON のとき
・セレクトレバーを R の位置にしているとき
・車速が約 10 km/h 以下のとき
・接近車両の車速が約 3 km/h 以上のとき
・DSC が故障していないとき

知識

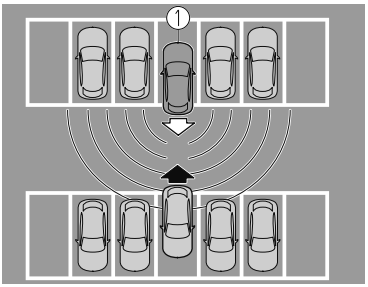
・次の条件のいずれかを満たしているときは、i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯を点灯させ、システムの作動を停止します。i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が点灯し続ける場合は、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  ・システムに何らかの異常が認められるとき
  ・リアサイドレーダーセンサーの車両への搭載位置に大きなずれが生じたとき
  ・リアサイドレーダーセンサー付近に、雪、氷、泥などが多量に付着しているとき
  ・リアサイドレーダーセンサー付近が高温なとき
  ・雪道を長時間走行したとき
  ・12 V バッテリーの電圧が下がっているとき
・次の条件のいずれかを満たしているときは、後進時左右接近物検知機能が接近車両を検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  ・隣接した壁や駐車車両により、リアサイドレーダーセンサーの検知がさまたげられているとき (レーダーセンサーの検知がさまたげられない位置まで、自車を後退させてください)



1. 自車

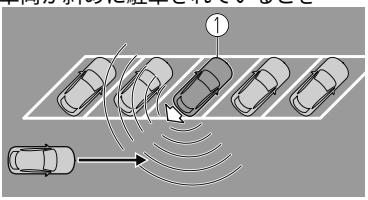
知識

・自車の真後ろから車両が接近してきたとき



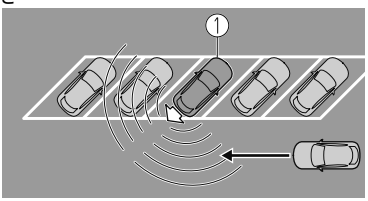
1. 自車

・車両が斜めに駐車されているとき



1. 自車

・角度が急な方向から車両が接近するとき



1. 自車

・EV システムを始動した直後
・マツダコネクトの「設定」で、SBS を作動可能な状態にした直後
・隣接した駐車車両にレーダーセンサーが装着されており、電波干渉を受けたとき

知識

・次の条件のいずれかを満たしているときは、後進時左右接近物検知機能が作動することがあります。
  ・垂れ幕や踏切などのバーがあるとき
  ・草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して後退するとき
  ・草の生い茂った場所やオフロードなど、悪路を通行するとき
  ・低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどに後退で進入するとき
  ・トーイングバーやトレーラーを接続しているとき
・システムがブレーキ制御を行なって車両が停止したときは、運転者の操作がない限りしばらく停車を保持します。

衝突警報

自車が後退する際に後側方から接近してくる車両と衝突する可能性があると、警報音が鳴り続けて、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警報が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ



1. “ブレーキ！”

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1. “ブレーキ！”

知識

ブレーキ制御中は、衝突警報音が断続的に鳴ります。

▼ スマート･ブレーキ･サポート (SBS) を停止させるには

SBS を作動しないように変更できます。
i-ACTIVSENSE OFF スイッチを押して警報･リスク回避支援 OFF 表示が表示された後に、マツダコネクトの「設定」で SBS を停止させてください。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

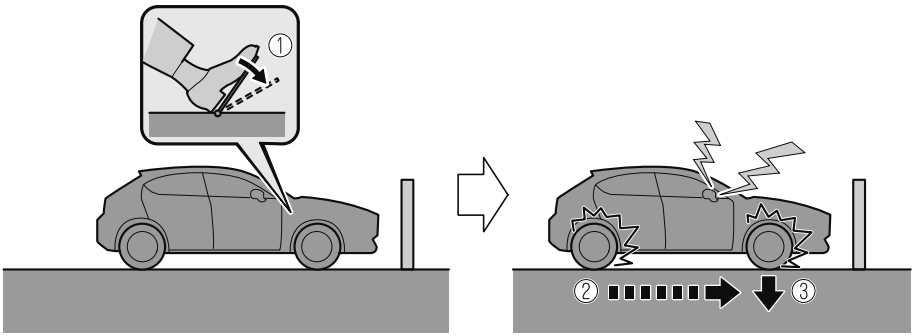
SBS を停止させると、SBS OFF 表示灯が点灯します。



AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは

▼ AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは

AT 誤発進抑制制御 [前進時] は車両が徐行中 (約 15 km/h 以下) や停車時、フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサーにより、前方に車や壁などの障害物を検知しているにも関わらず、必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたときに、アクセルペダルを踏み間違えたと判断し、モーター出力を抑制します。さらに衝突を回避できないと判断したときに、AT 誤発進抑制制御 [前進時] によるブレーキが作動することで衝突時の被害を軽減します。
システム作動中は、AT 誤発進抑制制御 [前進時] 表示で作動中をお知らせすると同時に、警報音で運転者に警告します。



1. アクセル 踏み間違い
2. モーター出力抑制
3. ブレーキ

⚠ 警告

AT 誤発進抑制制御 [前進時] を過信せず、安全運転を心がける
AT 誤発進抑制制御 [前進時] は、ペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。発進時はシフトやペダルの位置を十分に確認して操作してください。シフト、アクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない
停車状態を保ったり、発進を緩やかにしたりするものではありません。また、障害物の近くで故意にアクセルを踏み込まないでください。意に反して車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 踏切内に閉じ込められた場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) が遮断機を障害物と判断し、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合、あわてずにアクセルを踏み続ける、または踏み直して脱出してください。脱出の際、車両が急加速することがありますので注意して運転してください。
- システムがブレーキ制御を行なって車両が停止したときは、運転者の操作がない限りしばらく停車を保持します。
- 次のときは誤って作動しないよう、システムを OFF にしてください。
  - けん引されるとき、または他の車をけん引するとき
  - 草の生い茂った場所やオフロードなど、悪路を走行するとき

📖 知識

・AT 誤発進抑制制御 [前進時] は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

・EV システムが作動中のとき
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前進時検知機能を停止していないとき
・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が消灯しているとき
・セレクトレバーが D の位置にあるとき

・次の条件のいずれかを満たしているときは、システムが作動しないことがあります。

・運転者が意図的に運転操作 (アクセル操作、ハンドル操作) を行なったとき
・ブレーキペダルを踏んでいるとき
・ハンドルを操作しているとき
・セレクトレバーを操作しているとき
・アクセルペダルを素早く 3 回以上踏んだとき

・次の条件のいずれかを満たしているときは、フォワードセンシングカメラ (FSC) およびフロント超音波センサーが障害物を正しく検知できず、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動しないことがあります。

・フロントガラスまたはフロントバンパーに、氷、雨滴、曇り、雪、霜、汚れ、ビニール袋などの異物が付着しているとき
・ウォッシャー使用中や降雨時にワイパーを使用していないとき
・障害物の高さが低いとき (低い壁、低いガードレール、トレーラーの後部など)
・障害物が小さいとき
・障害物が細いとき (標識の支柱や電柱など)
・障害物が自車の中心からはずれた位置にあるとき
・障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
・障害物がやわらかいとき (垂れ幕、雪が付着した車両など)
・障害物が凹凸のある形状をしているとき
・障害物が、荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両、極端に車高の高い車両などのとき
・障害物が特殊な形状をした車両のとき (キャリアカーなど)
・障害物が極端に近いとき
・障害物が鋭利な形を持つもの
・障害物が複数あるとき
・カーブや坂道のとき
・ハンドルを大きく切っているとき
・ボンネットの上に雪などの障害物があるとき
・天候が悪いとき (雨、霧、雪など)

知識

・湿度が低いとき、または高いとき
・気温が低いとき、または高いとき
・風が強いとき
・走行路が平坦ではないとき
・前方車の排気ガス、砂や雪、マンホールやグレーチングなどからの水蒸気などによる煙、水しぶきが巻きあがっているとき
・自車が傾いているとき (荷室や後席に重い荷物を載せたときなど)
・障害物などと部分的な接触の可能性があるとき
・ルーフレールなどを装着してフォワードセンシングカメラ (FSC) およびフロント超音波センサーを覆うような長尺物を装着したとき
・フロント超音波センサー付近に、無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取り付けたとき
・車両が横から割り込んできたとき
・朝方、夕方の薄暗いとき、夜間や屋内駐車場など、周囲が暗いとき
・前方から強い光を受けたとき (逆光、ヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
・自車が進路変更を行ない、障害物のすぐ後ろに接近したとき
・衝突などで、フロント超音波センサーの方向がずれたとき
・他車のホーン、エンジン音、超音波センサーなど、他の音波の影響を受けたとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき

・次の条件のいずれかを満たしているときは、フォワードセンシングカメラ (FSC) およびフロント超音波センサーが障害物と判断し、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動することがあります。

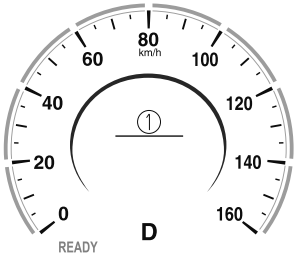
・急な登坂路があるとき
・輪留めがあるとき
・ETC や踏切などバーがあるとき
・草木、垣根、車両、壁、フェンスを感知しているとき
・草の生い茂った場所やオフロードなど、悪路を走行するとき
・低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
・路面上に金属物、段差または突起物があるとき
・ビニールカーテン、旗などを潜って通行するとき
・パイロンなどのプラスチック類
・完全に開いていない遮断機を通行しているとき
・キャリアカーに積載するとき
・前方車に接近して走行するとき
・カーブや交差点の先に障害物があるとき
・障害物に接近して通過するとき

・システムの故障を検知したときやセンサーの汚れなどでシステムが一時的に機能を停止しているとき、i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が表示/点灯します
→8-29 ページ「i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯」

▼ AT 誤発進抑制制御 [前進時] 表示

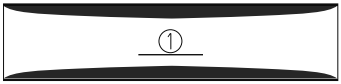
AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動中に、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ



1. “アクセルを踏んでいます”

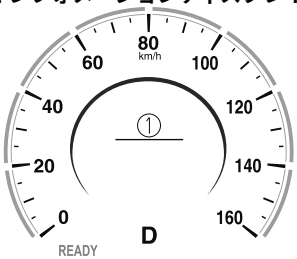
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



1. “アクセルを踏んでいます”

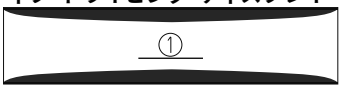
AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動中に、アクセルペダルを踏み込むと警報音が鳴り続け、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに警報が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ



1. “ブレーキ！”

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



1. “ブレーキ！”

▼ AT 誤発進抑制制御 [前進時] を停止させるには

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前進時検知機能を停止させると、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が停止します。

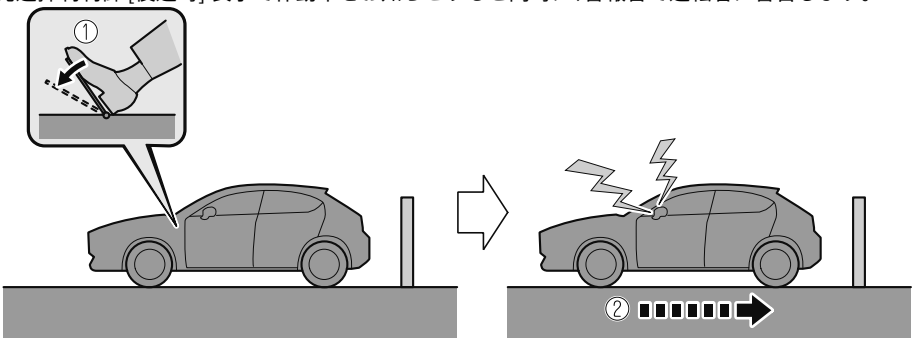
作動を停止させるときは次のページを参照してください。

→5-128 ページ「スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を停止させるには」

AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは

▼ AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは

AT 誤発進抑制制御 [後退時] は車両が徐行中 (約 10 km/h 以下) や停車時、後方に車や壁などの障害物があるにも関わらず、必要以上にアクセルペダルが踏み込まれた (アクセルペダルを踏み間違えたと判断した) ときに、モーター出力を抑制することで、衝突時の被害を軽減します。システム作動中は、AT 誤発進抑制制御 [後退時] 表示で作動中をお知らせすると同時に、警報音で運転者に警告します。



1. アクセル 踏み間違い
2. モーター出力抑制

⚠ 警告

AT 誤発進抑制制御 [後退時] を過信せず、安全運転を心がける。
AT 誤発進抑制制御 [後退時] は、ペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。発進時はシフトやペダルの位置を十分に確認して操作してください。アクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない。
停車状態を保ったり、発進を緩やかにしたりするものではありません。また、障害物の近くで故意にアクセルを踏み込まないでください。意に反して車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

次のときは誤って作動しないようにシステムを OFF にしてください。

- けん引されるとき、または、他の車をけん引するとき
- 草の生い茂った場所やオフロードなど、悪路を走行するとき

知識

・AT 誤発進抑制制御 [後退時] は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

・EV システムが作動中のとき
・セレクトレバーを R の位置にしているとき
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の後進時検知機能を停止していないとき
・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が表示/点灯していないとき
・電動パーキングブレーキ (EPB) が作動していないとき

・次の条件のいずれかを満たしているときは、リア超音波センサーが障害物を検知できず、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動しないことがあります。

・低い壁、荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき
・荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき
・障害物が車両や壁のように大きくないとき
・標識のポールやフェンスなど、障害物が細いとき
・障害物が自車の車幅からはずれた位置にあるとき
・障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
・垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
・障害物が凹凸のある形状をしているとき
・障害物が極端に近いとき

・次の条件のいずれかを満たしているときは、リア超音波センサーが障害物を正しく検知できず、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が正常に作動しないことがあります。

・リア超音波センサー付近に何か付着したりしているとき
・ハンドルを大きく切ったり、急ブレーキなどの操作を行なったりして車両姿勢が不安定なとき
・障害物の周辺に他の障害物があるとき
・雨、霧、雪など天候が悪いとき
・湿度が低いとき、高いとき
・気温が低いとき、高いとき
・風が強いとき
・走行路が平坦ではないとき
・荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき
・リア超音波センサー付近に無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取り付けたとき
・衝突などで、リア超音波センサーの方向がずれたとき
・他車のホーン、エンジン音、リア超音波センサーなど、他の音波の影響を受けたとき
・EV システムを始動した直後のとき
・セレクトレバーを R 位置にした直後のとき
・リアカメラに太陽光など明るい光源が写り込むとき
・周囲が暗いとき

・次の条件のいずれかを満たしているときは、リア超音波センサーが障害物と判断し、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動することがあります。

・急な登坂路に向かって後退するとき
・グレーチング、輪留め、縁石、段差などがあるとき
・垂れ幕や踏切などのバーがあるとき
・草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して後退するとき
・草の生い茂った場所やオフロードなど、悪路を走行しているとき
・低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネル、機械式駐車場などに後退で進入するとき
・トーイングバーやトレーラーを接続しているとき
・可動式シャッターの前で停車し、シャッターを開けた後にシャッターがあったところへ車両を後退させるとき

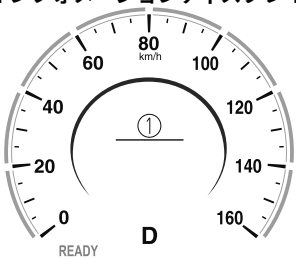
知識

・システムが故障しているときは、i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が表示/点灯します。
→8-29 ページ「i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯」

▼ AT 誤発進抑制制御 [後退時] 表示

AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動中に、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ



1. “アクセルを踏んでいます”

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



1. “アクセルを踏んでいます”

▼ AT 誤発進抑制制御 [後退時] を停止させるには

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の後進時検知機能を停止させると、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が停止します。
作動を停止させるときは次のページを参照してください。
→5-128 ページ「スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を停止させるには」

360° ビュー・モニターとは*

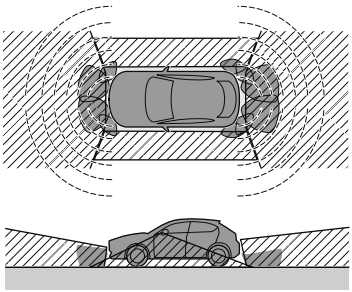
▼ 360° ビュー・モニターとは

360°ビュー・モニターは次のシステムで構成されており、センターディスプレイの表示や各種警報により、低速走行時や駐車時に車両周辺の確認を支援するシステムです。

・**トップビュー**
車両の前後左右にある 4 つのカメラの映像を組み合わせ、車両を真上から見たイメージをセンターディスプレイに表示します。トップビューは、フロントビュー/フロントワイドビュー、またはリアビュー/リアワイドビュー画面を表示しているときに、画面左側に表示します。車両の前進時、または後退時に車両周辺の確認を補助するシステムです。
・**フロントビュー/フロントワイドビュー**
センターディスプレイに車両前方の映像を表示します。
表示した車両前方の映像上にガイド線を映し出すことで、車両前方の確認を補助するシステムです。
・**サイドビュー**
センターディスプレイに車両左右前側面の映像を表示します。
表示した車両左右前側面の映像上にガイド線を映し出すことで、車両側面の確認を補助するシステムです。
・**リアビュー/リアワイドビュー**
センターディスプレイに車両後方の映像を表示します。
表示した車両後方の映像上にガイド線を映し出すことで、車両後方の確認を補助するシステムです。
・**パーキングセンサー**
トップビュー/サイドビュー表示中、車両周辺に障害物がある場合、センターディスプレイに検知表示を表示します。
車庫入れや縦列駐車などの低速走行時に、車両周辺の障害物を超音波センサーで検出し、おおよその距離をブザーおよび検知表示により運転者に知らせるシステムです。
→5-182 ページ「パーキングセンサー」

・**前側方接近車両検知 (FCTA)**
フロントビュー/フロントワイドビュー/サイドビュー表示中、車両が接近し、自車と衝突の可能性がある場合、センターディスプレイに警告を表示します。
前側方接近車両検知 (FCTA) は、交差点などで自車が発進するときの左右確認を支援するシステムです。
→5-93 ページ「前側方接近車両検知 (FCTA) とは」
・**後側方接近車両検知 (RCTA)**
リアビュー/リアワイドビュー表示中、車両が接近し、自車と衝突の可能性がある場合、センターディスプレイに警告を表示します。
後側方接近車両検知 (RCTA) は、自車の後左右から接近する車両の存在をリアサイドレーダーセンサーで検知し、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の点滅および警報チャイムで知らせることにより、車両後退時の後方確認を支援するシステムです。
→5-95 ページ「後側方接近車両検知 (RCTA) とは」

360°ビュー・モニター範囲



①▨ ②■ ③

1. カメラ
2. 超音波センサー
3. レーダーセンサー

⚠ 警告

必ず車両周辺の安全をミラーや目視で直接確認しながら運転する。
360°ビュー・モニターはあくまでも車両周辺の安全を確認するための補助装置です。

⚠ 警告

カメラの撮影範囲やセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラの映像のつなぎ目は死角となり対象物が映らない場合があります。また、車幅延長線および予想進路線などはあくまで目安であり、画面に映し出されている映像は、実際の状況とは異なる場合があります。

⚠ 注意

- 次のような状況では危険ですので、360°ビュー・モニターを使用しないでください。
  - 凍結したすべりやすい路面や雪道
  - タイヤチェーン、応急用スペアタイヤを使用しているとき
  - フロントドアやリアドアが完全に閉まっていないとき
  - 坂道などの平坦でない道路
  - ドアミラーを格納しているとき
- フロント/リアカメラ部、フロント/リアゲート、ドアミラーに強い衝撃を与えないでください。カメラの位置や取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラのカバーは樹脂ですので、油膜取り剤、有機溶剤、ワックス、ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。
- カメラのレンズを強くこすったり、研磨剤や硬いブラシなどでみがいたりしないでください。カメラのレンズが傷つき、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。
- フロント/リアカメラ部、フロント/リアゲート、ドアミラー付近を修理、塗装、交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。
- 360°ビュー・モニターを正常に作動させるために次の点をお守りください。
  - 前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- ディスプレイが冷えているときは、映像が尾を引いたり、画面が通常よりも暗くなったり、車両周辺の状況を確認しにくくなる場合があります。必ず前方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 360°ビュー・モニターを使って駐・停車する方法は、道路事情、路面状況、自車の状況によって違います。ハンドル操作のタイミング、操作量は状況によって異なりますので、周囲を直接確認しながら状況にあわせた操作を行なってください。また、操作を行なう前は、必ず駐・停車スペースに車両が駐・停車できるかを確認してください。

知識

- サイドカメラとセンターディスプレイは保安基準適合部品です。サイドカメラまたはセンターディスプレイが故障したときは速やかにマツダ販売店にご相談ください。
- カメラのレンズに水滴や雪、泥などがついているときは、やわらかい布などでふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。
- 接触事故などでフロント/リアゲート、ドアミラーなどカメラ取り付け位置周辺に衝撃が加わったときは、カメラ (位置、取り付け角度) がずれているおそれがあります。必ずマツダ販売店で確認を行なってください。
- 寒いときにお湯をかけるなど、カメラ部に急激な温度変化を与えると 360°ビュー・モニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 寒冷時に走行してカメラ部の温度が下がると、トップビューおよびサイドビューが見えにくくなることがありますが、故障ではありません。しばらく停車するなどしてカメラ部の温度が上がると、正常な状態にもどります。
- 12 V バッテリーの電圧が低いときは画面が見えにくくなることがありますが、異常ではありません。

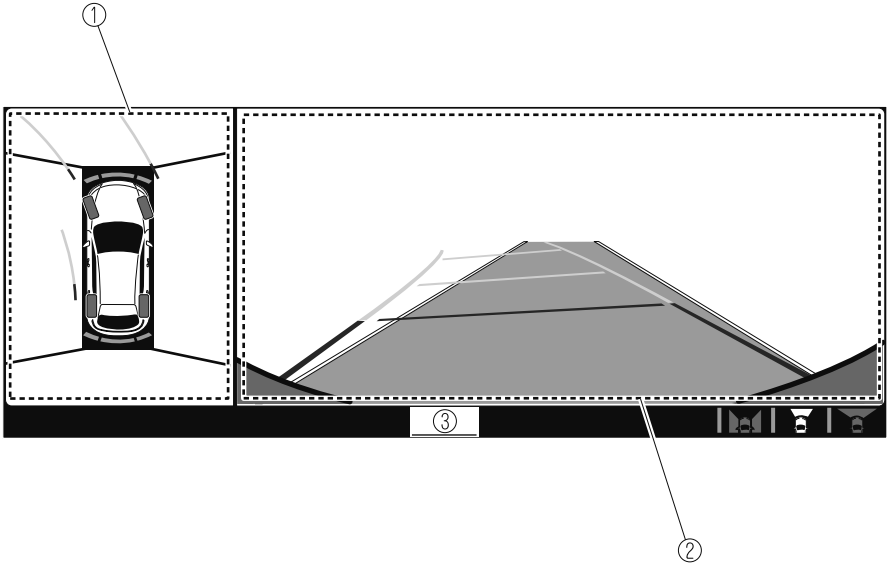
知識

- 360°ビュー・モニターには限界があります。バンパーの下にあるものやバンパーの両端付近は映りません。
- カメラの映像範囲よりも上にある障害物については表示されません。
- 次のような状況では、画面が見えにくくなることがありますが、故障ではありません。
  - レンズ付近の温度が高い/低いとき
  - 雨天時など、カメラに水滴がついたときや湿度が高いとき
  - カメラ付近に泥などの異物がついたとき
  - 太陽やヘッドランプなど高輝度な光がカメラのレンズに直接当たったとき
  - 周囲が車両のライト、蛍光灯の光または、LED の光で照らされているとき (ディスプレイがちらつくことがあります)
  - 極小の黒い点または極小の白い点が画面に含まれているとき (点がちらつくことがあります)
- 360°ビュー・モニターのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離間隔は実際の距離とは異なります。
- 360°ビュー・モニターは鏡面画像になっています。
- 人や障害物などが実際とは異なって表示されることがあります。 (倒れているように表示されたり、実際より長く、または大きく表示されたりすることがあります)
- カメラやその周辺にステッカーを貼り付けたり、アクセサリー用品、字光式ナンバープレートなどを取り付けたりしないでください。カメラが周囲の状況を正確に映し出さなくなります。
- **フリー/オープンソース ソフトウェア情報**
  この製品は、フリー/オープン ソースを含みます。ライセンスおよびソースコードについての情報は、次の Web サイトから入手することができます。
  https://www.denso.com/global/en/opensource/svss/mazda/

▼ 画面に表示できる映像の種類

トップビュー/フロントビュー

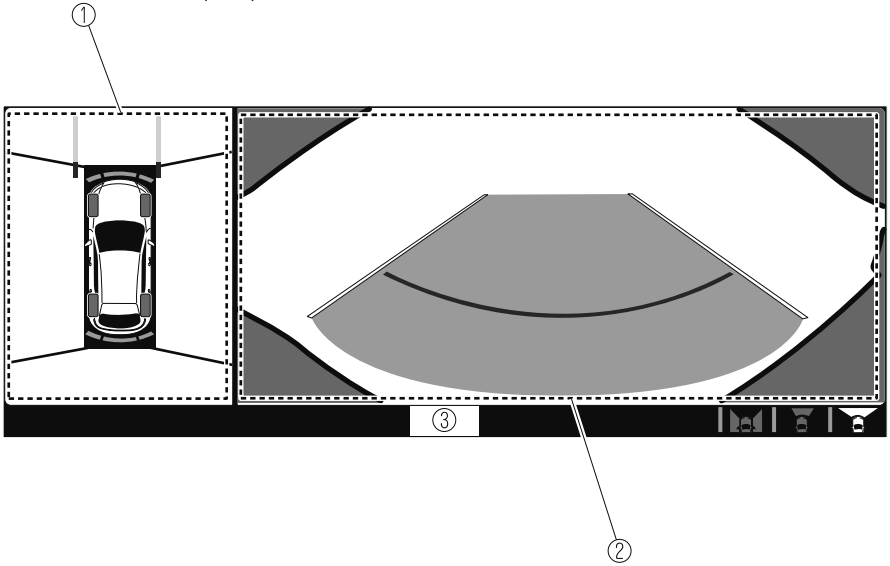
車両周辺および車両前方の映像を表示します。



1. トップビュー画面
2. フロントビュー画面
3. “周囲の安全を確認してください”

トップビュー/フロントワイドビュー

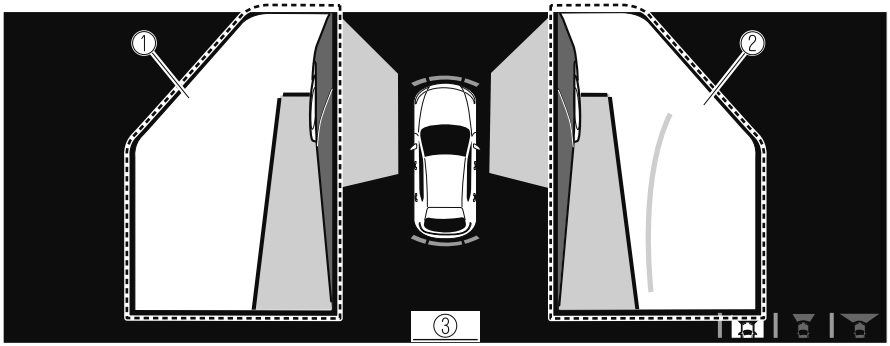
車両周辺および車両前方 (広域) の映像を表示します。



1. トップビュー画面
2. フロントワイドビュー画面
3. “周囲の安全を確認してください”

サイドビュー

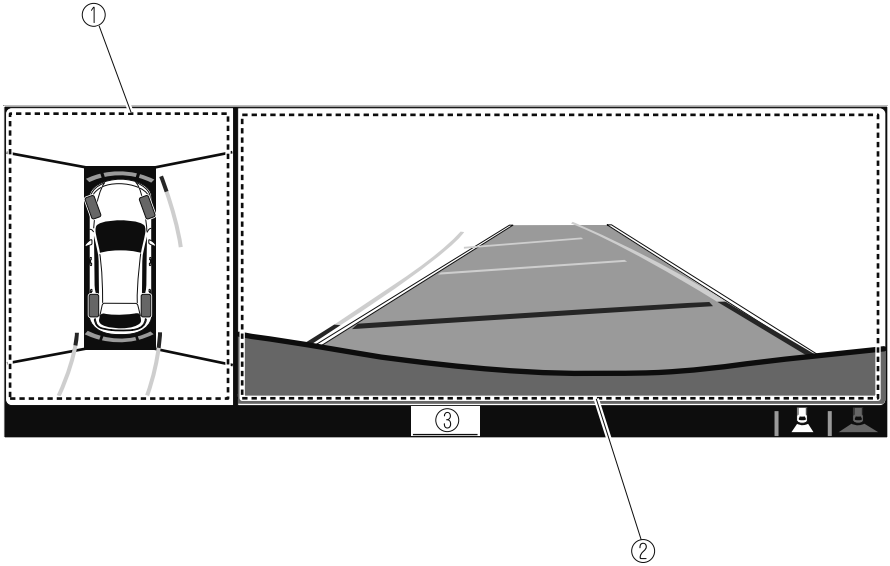
車両左右前側面の映像を表示します。



1. 左前側面画面
2. 右前側面画面
3. “周囲の安全を確認してください”

トップビュー/リアビュー

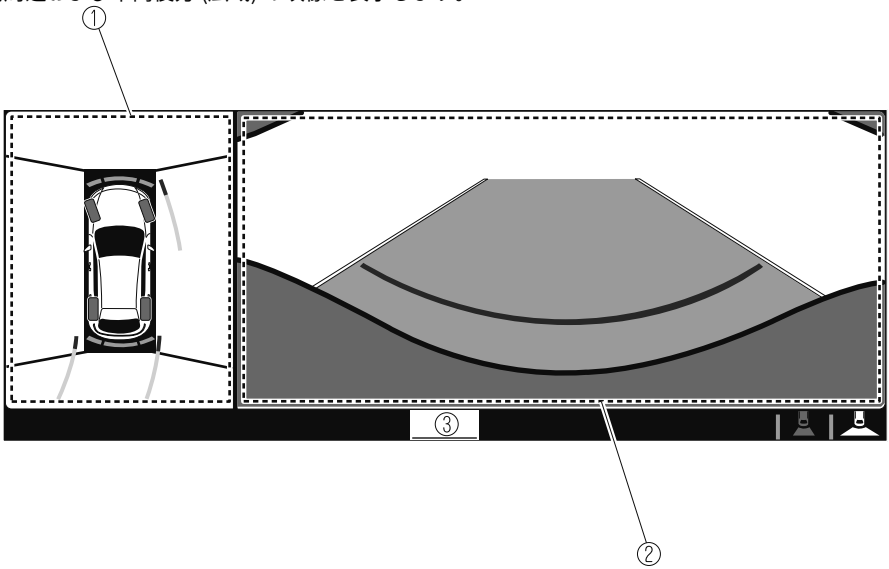
車両周辺および車両後方の映像を表示します。



1. トップビュー画面
2. リアビュー画面
3. “周囲の安全を確認してください”

トップビュー/リアワイドビュー

車両周辺および車両後方 (広域) の映像を表示します。



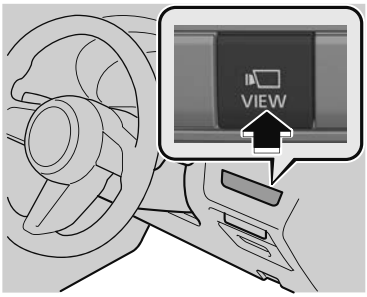
1. トップビュー画面
2. リアワイドビュー画面
3. “周囲の安全を確認してください”

▼ 使用するとき

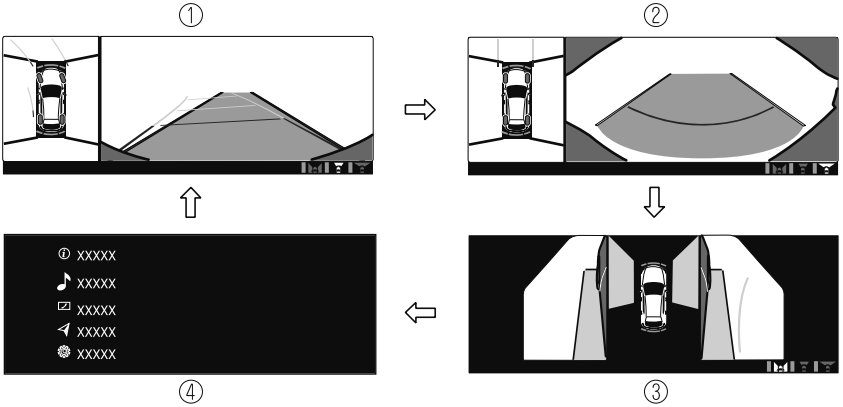
トップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、サイドビュー

表示
次の条件をすべて満たしているときに 360°ビュー・モニター・スイッチを押すと画面に映像を表示します。

・電源ポジションが ON のとき
・セレクトレバーを R の位置以外にしているとき



表示の切り替え
表示される画面を 360°ビュー・モニタースイッチを押すたびに変更できます。



1. トップビュー/フロントビュー
2. トップビュー/フロントワイドビュー
3. サイドビュー
4. ホームスクリーン

知識

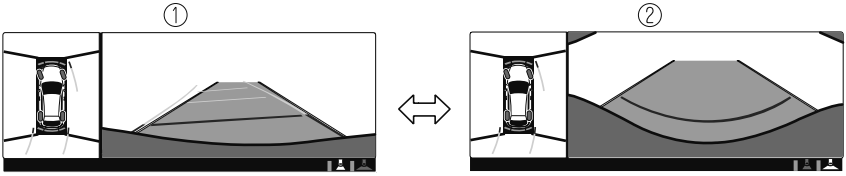
・セレクトレバーが R の位置のときは、トップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、およびサイドビューに切り替わりません。
・表示条件を満たしていても、次のいずれかの場合はトップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、サイドビューの表示を終了します。
  ・コマンダーノブ周囲のスイッチを押したとき
  ・セレクトレバーを P の位置にしたとき (セレクトレバーが P の位置以外のときに表示させた場合)
  ・**(車速が 15 km/h 未満のときに表示させた場合)**
    ・4 分 30 秒経過したとき
    ・車速が約 15 km/h 以上になったとき
  ・**(車速が約 15 km/h 以上のときに表示させた場合)**
    ・360°ビュー・モニター・スイッチを操作して 8 秒経過したときに、車速が約 15 km/h 以上のとき
    ・360°ビュー・モニター・スイッチを操作して 8 秒経過したときに、車速が 15 km/h 未満のときは、その時点から 4 分 22 秒経過したとき
・360°ビュー・モニターの設定を次のように変更することができます。
  →マツダコネクト取扱書 「設定」
  ・超音波センサーが障害物を検知したときの 360°ビュー・モニター自動表示
  ・電源ポジションを ON にしたときの 360°ビュー・モニター自動表示
  ・システム起動時の優先画面表示

トップビュー/リアビュー、トップビュー/リアワイドビュー

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

・電源ポジションが ON のとき
・セレクトレバーを R の位置にしているとき

表示の切り替え
表示される画面を 360°ビュー・モニタースイッチを押すたびに変更できます。

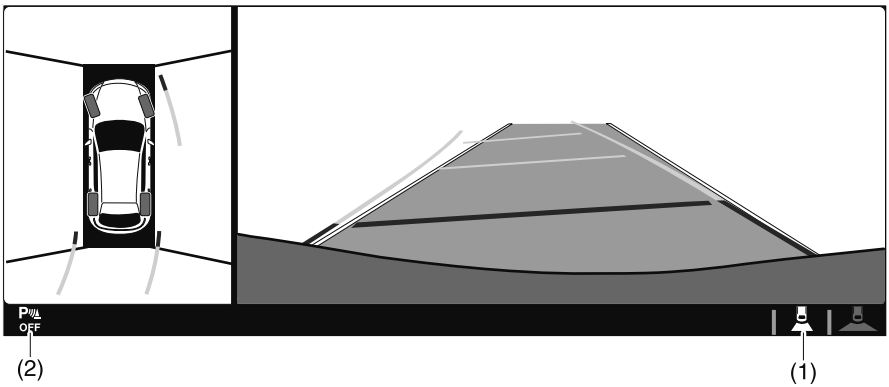


1. トップビュー/リアビュー
2. トップビュー/リアワイドビュー

知識

・トップビュー/リアビュー、トップビュー/リアワイドビューは、360°ビュー・モニター・スイッチの ON/OFF にかかわらず、セレクトレバーを R の位置にすると自動的に表示されます。
・縦列駐車時などに、360°ビュー・モニター・スイッチを操作しなくても、前方の確認ができるよう、後退から前進へシフトチェンジしたとき、トップビュー/フロントビューを表示するように設定を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

画面操作/アイコン

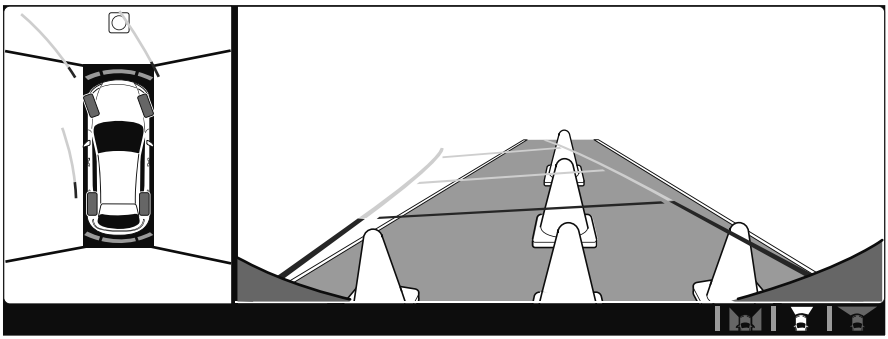


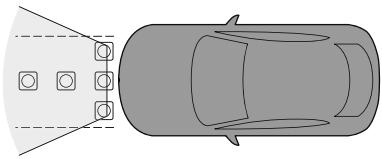
	表示/アイコン	内容
(1)	ビューステータスアイコン	フロントビュー/フロントワイドビュー/サイドビュー/リアビュー/リアワイドビューのうち、どの映像を表示しているかを示します。
(2)	パーキングセンサーステータスアイコン	パーキングセンサーに異常があるとき、または OFF であることを示します。

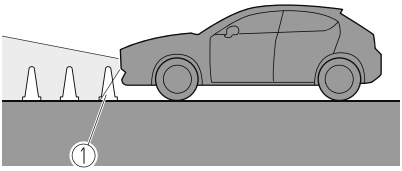
▼ トップビュー/フロントビュー

発進時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

表示範囲







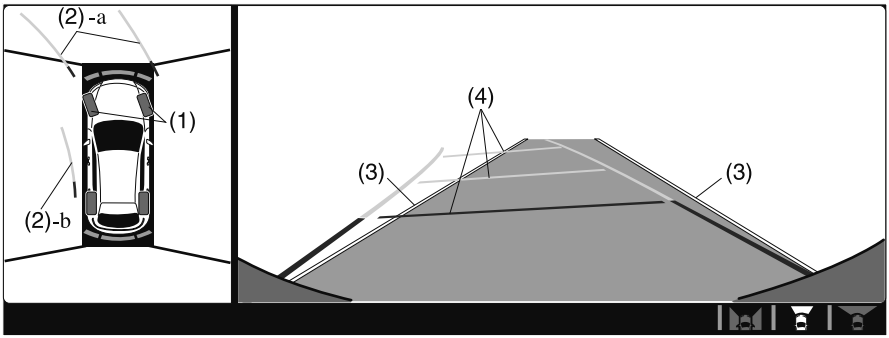
1. 対象物

知識

・トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。
・トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。

・いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲映すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります
・フロントビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
・車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
・路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
・いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方



	表示/アイコン	内容
(1)	タイヤアイコン	タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
(2)	予想進路線 (黄色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) フロントバンパーの端が通過する目安を示すライン b) 車両の内側が通過する目安を示すライン
(3)	車幅延長線 (青色)	車幅の延長の目安を示します。
(4)	予想進路距離目安線 (赤色/黄色)	車両前方の距離 (バンパー前端から) を示します。 ・赤色のラインはフロントバンパー前端から約 0.5 m 先を示します。 ・黄色のラインはフロントバンパー前端から約 1 m と約 2 m 先を示します。

⚠ 注意

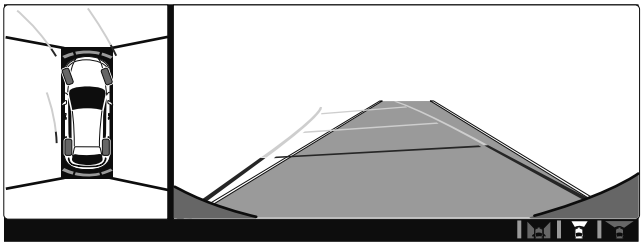
パーキングセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、側方から近づく障害物や背の低いものなどは検出できないことがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。
→5-182 ページ 「パーキングセンサーとは」

知識

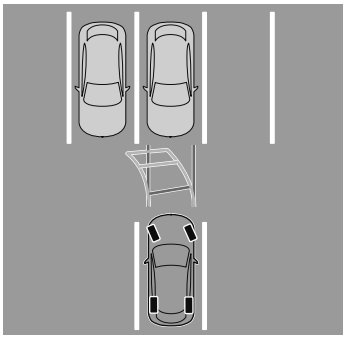
予想進路線を表示させないように設定を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

予想進路線の使用方法

①



②



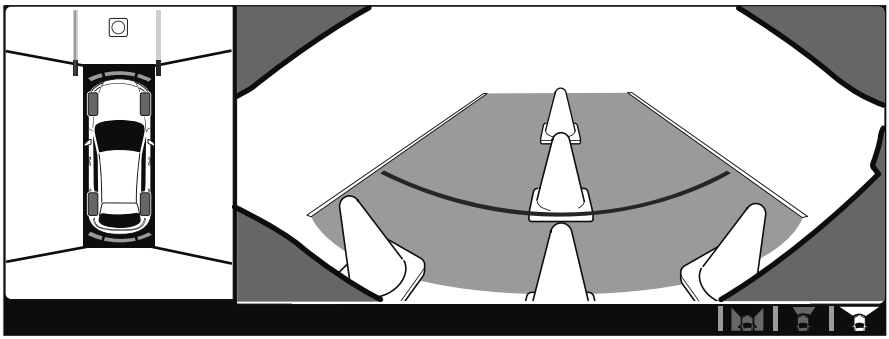
1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

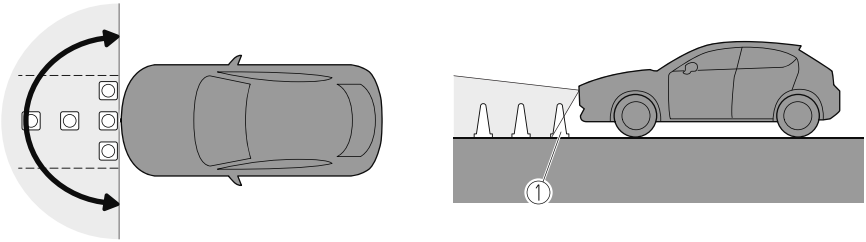
予想進路線が障害物にかかっていないことを確認します。
予想進路線が障害物にかからないようハンドルを操作して前進します。

▼ フロントワイドビュー

発進時、または丁字路や交差点への進入時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

表示範囲



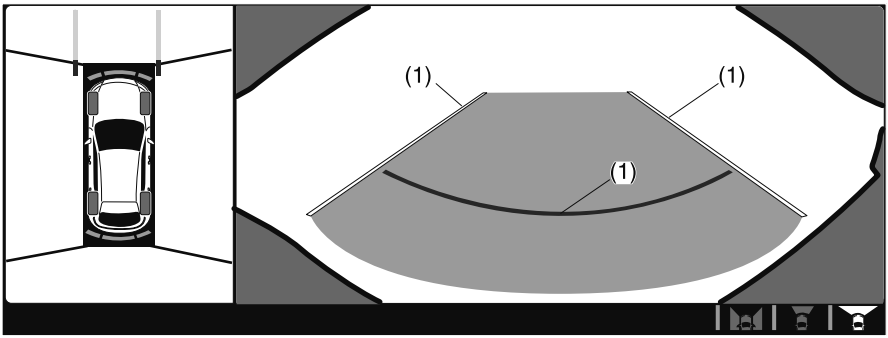


1. 対象物

知識

- トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。
- トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。
  - いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲写すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります。
  - フロントビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
  - 車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
  - 路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
  - いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方



	表示/アイコン	内容
(1)	車幅延長線、距離目安線 (赤色/青色)	車幅の延長の目安、車両前方の距離 (バンパー前端から) を示します。 ・赤色のラインはフロントバンパー前端から約 0.5 m 先までを示します。 ・青色のラインはフロントバンパー前端の約 0.5 m 先から約 2 m 先までを示します。

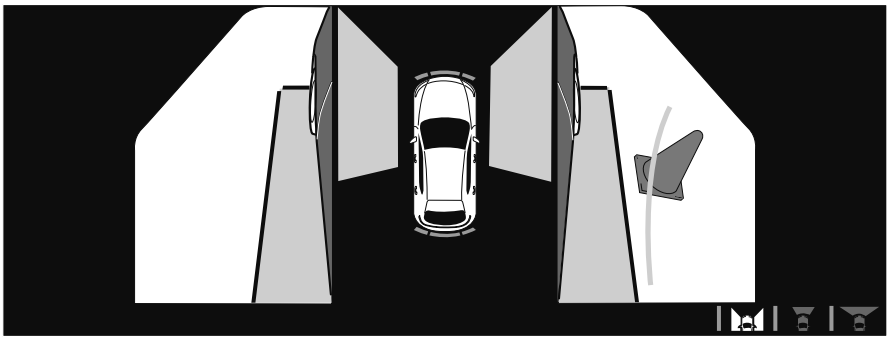
知識

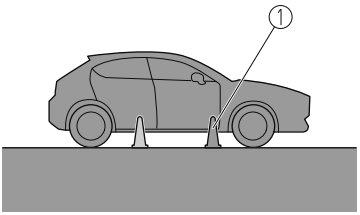
フロントワイドビュー画面は、車両の前方を広角にとらえて表示し、側方から接近する対象物を発見しやすくする目的で映像を補正しています。そのため、実際の見え方とは異なります。

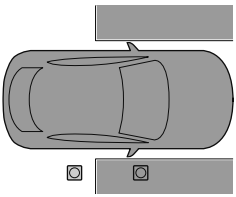
▼ サイドビュー

発進時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

表示範囲

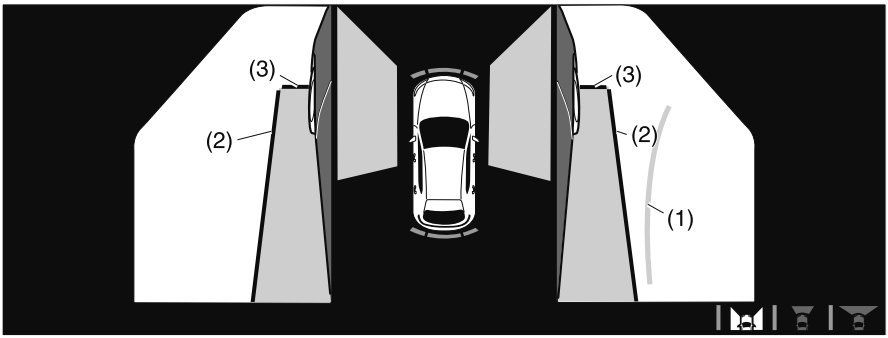






1. 対象物

画面の見方



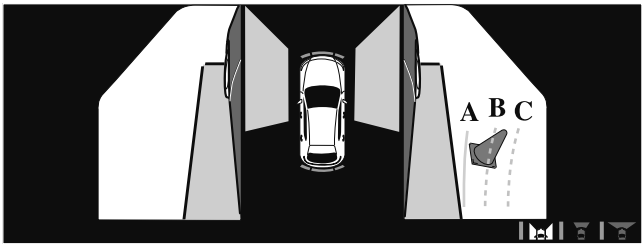
	表示/アイコン	内容
(1)	予想進路線 (黄色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 予想進路線 (黄色) は車両の内側が通過する目安を示すラインです。
(2)	車両平行線 (青色)	ドアミラーを含んだ車幅の目安を示します。
(3)	車両前端線 (青色)	車両の最前端 (バンパー先端) から約 0.25 m 先を示します。

知識

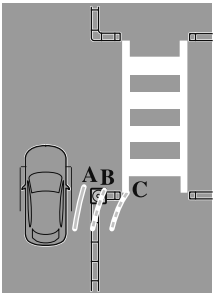
予想進路線を表示させないように設定を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

予想進路線の使用方法

①



②



1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

予想進路線が障害物にかかっていないことを確認します。
予想進路線が障害物の内側 (A) になるハンドル操作量を保持して車両が障害物を通り過ぎるまで前進します。
予想進路線が障害物上にあるとき (B) や障害物の外側 (C) にあるときは、小回りをすると障害物に触れる可能性があります。

⚠ 注意

- パーキングセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、側方から近づく障害物や背の低いものなどは検出できないことがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
  詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。
  →5-182 ページ「パーキングセンサーとは」
- サイドビューの映像から障害物が見えなくなっても車両が障害物を通り過ぎるまでハンドルを切り足さないでください。ハンドルを切り足すと小回りすることになり障害物に接触する可能性があります。

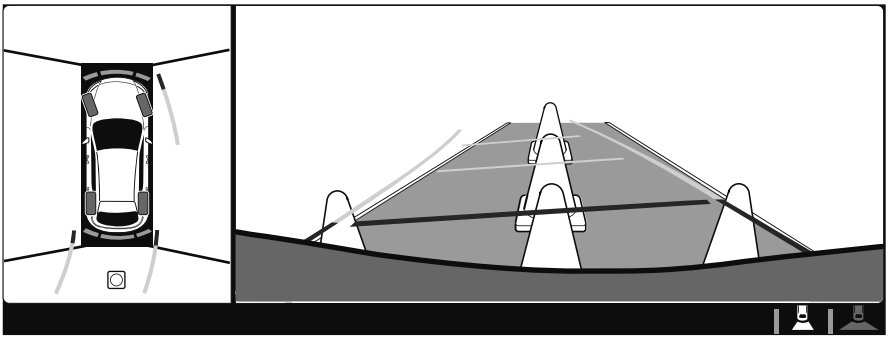
知識

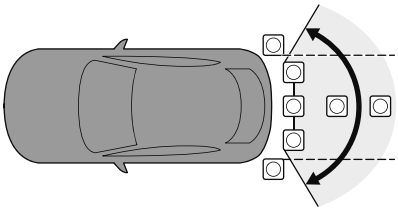
・画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ずミラーや目視で周囲の安全を確認しながら運転してください。
・画面に映し出されている路肩の縁石や駐車スペースの区画線などの目標物と車両平行線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。

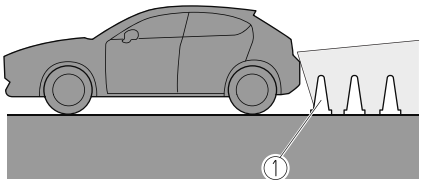
▼ トップビュー/リアビュー

後退時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

画面に映し出される範囲





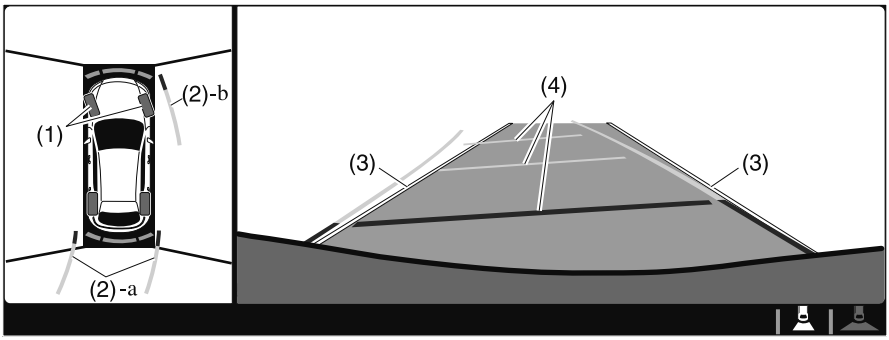


1. 対象物

知識

・トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。
・トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。
  ・いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲写すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります。
  ・リアビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
  ・車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
  ・路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
  ・いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方



	表示/アイコン	内容
(1)	タイヤアイコン	タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
(2)	予想進路線 (黄色/赤色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) 後輪が通過する目安を示すライン b) 車両の外側が通過する目安を示すライン
(3)	車幅延長線 (青色)	車幅の延長の目安を示します。
(4)	予想進路距離目安線 (黄色/赤色)	車両後方の距離 (バンパー後端から) を示します。 ・赤色のラインはリアバンパー後端から約 0.5 m 先を示します。 ・黄色のラインはリアバンパー後端から約 1 m と約 2 m 先を示します。

知識

予想進路線を表示させないように設定を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

予想進路線の使用方法

注意

- 後退時にハンドル操作を行なうと、車両の先端が外側に大きく振れます。車両と障害物の間は十分な間隔を保ってください。
- パーキングセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、側方から近づく障害物や背の低いものなどは検出できないことがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
  詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。
  →5-182 ページ「パーキングセンサーとは」

知識

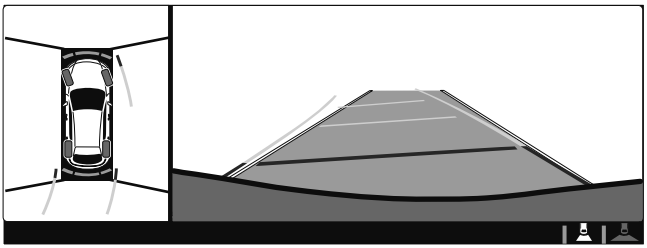
・駐車するときは、次のように画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

  ・画面に映し出される駐車スペース (車庫など) の後端と距離目安線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。
  ・駐車場の区画線が片側しかないときは、区画線と車幅延長線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。

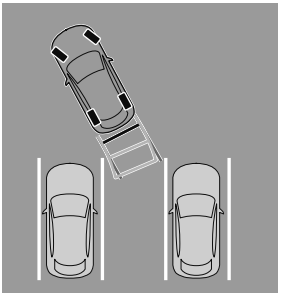
・次に示す状況は、ハンドルを左側にまわして後退し、駐車する例を示しています。逆方向から後退し駐車するときは、左右が逆になります。

1. 車両が駐車スペースの中に入るようにハンドル操作を行ない後退します。

①



②

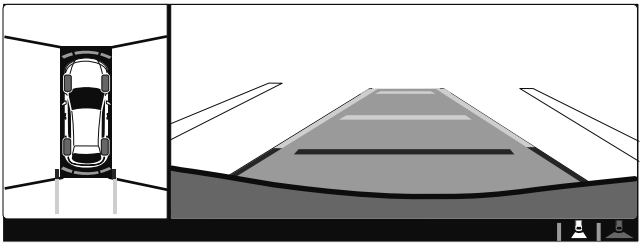


1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

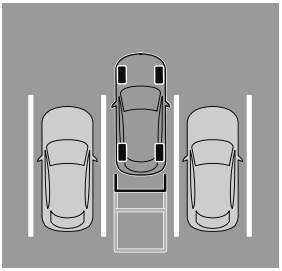
2. 車両が駐車スペース内に入ったら、車幅延長線と駐車スペース左右の間隔が、車両付近の位置で同じくらいになるようにハンドルを操作して、ゆっくり後退します。

3. 車幅延長線と駐車スペースが平行になったら、ハンドルを直進状態にして、ゆっくり後退します。周囲の状況を十分に確認し、最適な位置で停止します。 (駐車スペースに区画線がある場合は区画線と車幅延長線が平行になったとき)

①



②

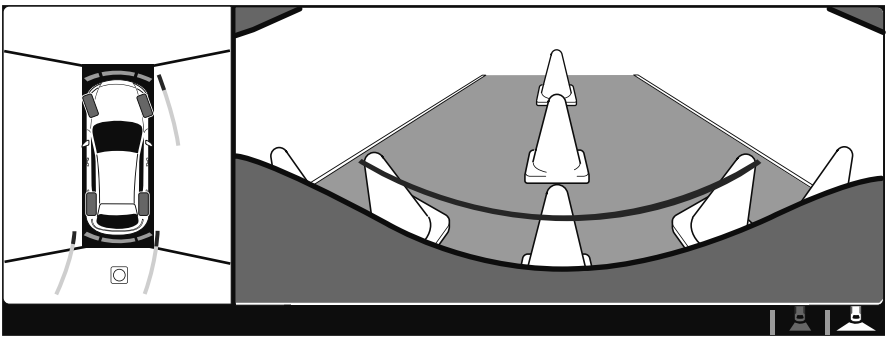


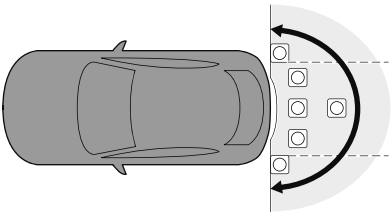
1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

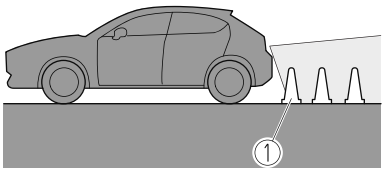
▼ トップビュー/リアワイドビュー

後退時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

画面に映し出される範囲





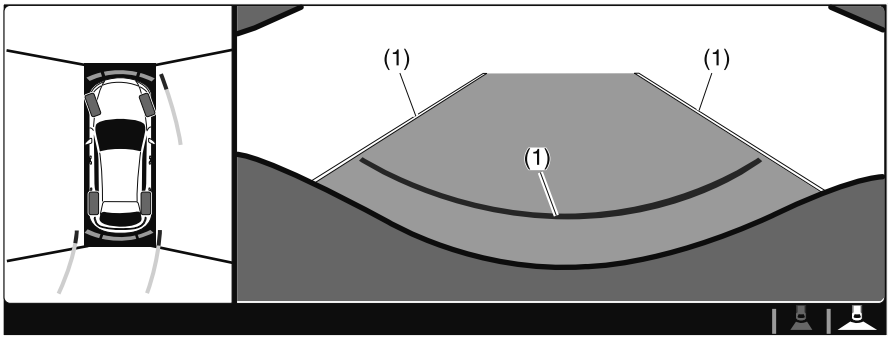


1. 対象物

知識

- トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。
- トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。
  - いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲写すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります。
  - フロントビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
  - 車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
  - 路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
  - いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方



	表示/アイコン	内容
(1)	車幅延長線、距離目安線 (赤色/青色)	車幅の延長の目安、車両後方の距離 (バンパー後端から) を示します。 ・赤色のラインはリアバンパー後端から約 0.5 m 先までを示します。 ・青色のラインはリアバンパー後端の約 0.5 m 先から約 2 m 先までを示します。

知識

リアワイドビュー画面は、車両の後方を広角にとらえて表示し、側方から接近する対象物を発見しやすくする目的で映像を補正しています。そのため、実際の見え方とは異なります。

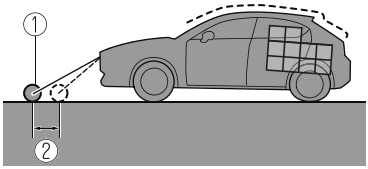
▼ 画面上の路面と実際の路面の誤差

画面上の路面と実際の路面とでは誤差が生じます。距離感の誤差は事故につながるおそれがありますので、次のような、誤差の起こりやすい状況を確認しておいてください。

人や荷物の重みで車が傾いているとき

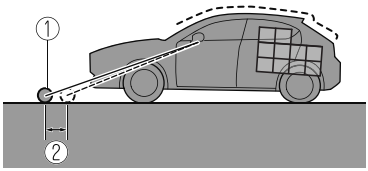
車両が傾いているときは、カメラに映る障害物は車体からの距離が実際の位置と違って見えます。

フロントカメラ



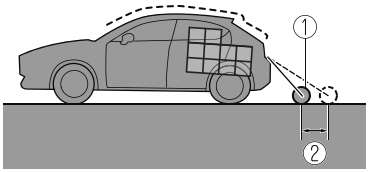
1. 障害物
2. 誤差

サイドカメラ



1. 障害物
2. 誤差

リアカメラ

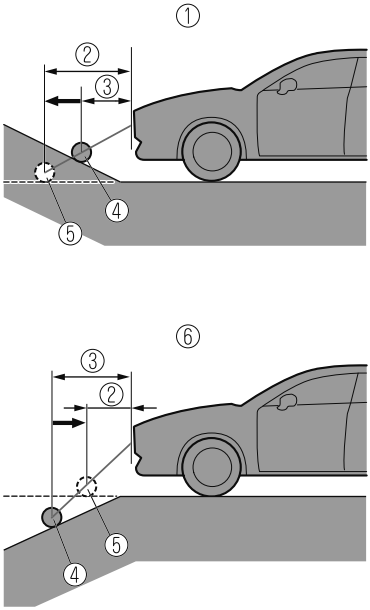


1. 障害物
2. 誤差

車両前方、または後方に勾配の急な上り坂や下り坂があるとき

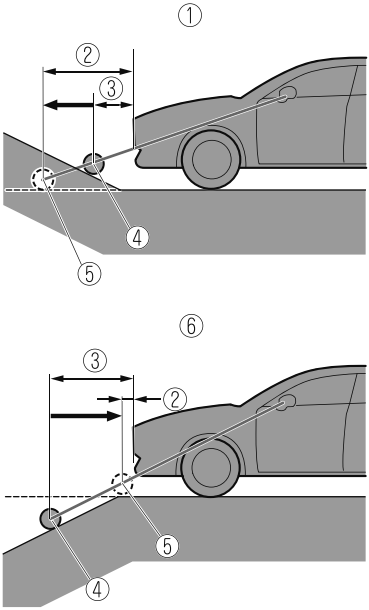
車両前方、または後方に勾配の急な上り坂 (下り坂) があるときは、カメラに映る障害物は車体からの距離が実際よりも遠く (近く) にあるように見えます。

フロントカメラ



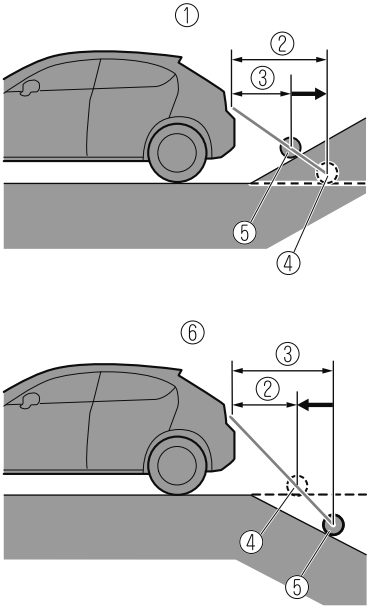
1. 実際よりも遠くに見える
2. 画面で見える車体から障害物の距離
3. 車体から障害物の実際の距離離
4. 実際の障害物
5. 画面上での障害物
6. 実際よりも近くに見える

サイドカメラ



1. 実際よりも遠くに見える
2. 画面で見える車体から障害物の距離
3. 車体から障害物の実際の距離離
4. 実際の障害物
5. 画面上での障害物
6. 実際よりも近くに見える

リアカメラ



1. 実際よりも遠くに見える
2. 画面で見える車体から障害物の距離
3. 車体から障害物の実際の距離離
4. 画面上での障害物
5. 実際の障害物
6. 実際よりも近くに見える

知識

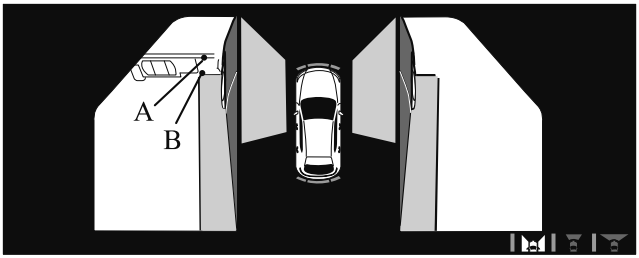
車両が坂にある場合でも同じように誤差が生じます。

車両前方、または後方に立体物があるとき

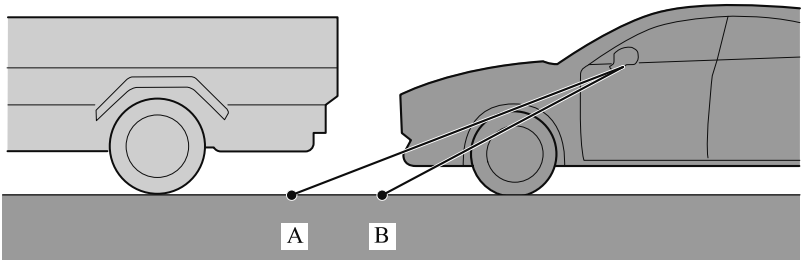
車両前端線 (サイドカメラ)、または距離目安線 (リアカメラ) は水平な路面を基準に表示されているため、画面に映っている立体物との距離は実際とは異なります。

サイドカメラ

①

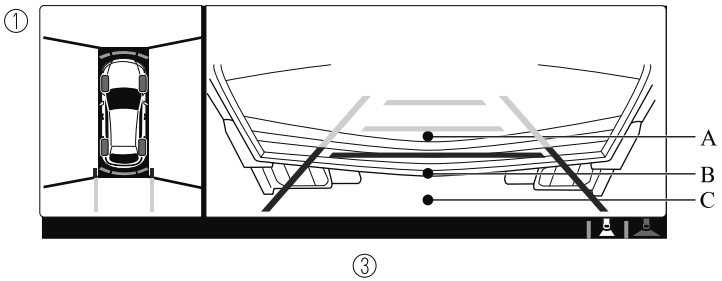


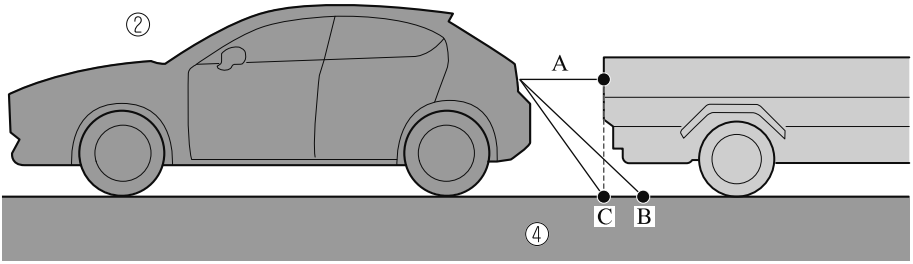
②



1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

リアカメラ





1. (画面の状況)
2. (実際の状況)
3. 画面上の距離感 A>B>C
4. 実際の距離 B>C=A

▼ こんなときは

センターディスプレイの表示	原因	処置方法
“カメラ映像信号がありません”と表示される。	制御ユニットの故障が考えられます。	マツダ販売店で点検を受けてください。
画面が真っ暗で何も映らない。	カメラなどの故障が考えられます。	

クルーズコントロールとは

▼ クルーズコントロールとは

アクセルペダルを踏まなくても設定した速度で定速走行ができるシステムです。

⚠ 警告

次のような場所では使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 自動車専用道路以外の道路
- 急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分にとれない道路 (道路状況に合わせた走行はできません)
- 急な下り坂 (回生ブレーキが十分に効かず、セット速度を超えることがあります)
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面 (タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります)

クルーズコントロールを使用しないときは、必ず OFF にする。
常に使用できる状態にしておくと、誤ってクルーズコントロールを作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

マツダコネクトの「設定」で車間制御を無効にすると、クルーズコントロールに切り替わります。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

知識

車間制御を無効にした状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON したとき、車間制御は有効になります。

▼ 表示

クルーズスタンバイ表示 (白)

クルーズコントロールシステムが作動したときに表示 (白) が表示されます。



クルーズセット表示 (緑)

設定速度を設定したときに表示 (緑) が表示されます。



▼ 設定するとき

1. クルーズコントロールスイッチを押して、システムを ON にします。
   システムが ON になると、クルーズスタンバイ表示 (白) が表示されます。
2. 設定したい速度までアクセルペダル操作で加速し、RES スイッチを押し上げ (SET+) または押し下げ (SET-) て速度を設定します。
   速度を設定するとディスプレイに設定速度が表示され、クルーズスタンバイ表示 (白) からクルーズセット表示 (緑) に変わります。

知識

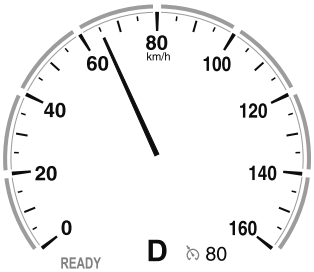
・クルーズコントロールは、次の条件をすべて満たしているときに設定できます。
  ・シフトポジションが D のとき
  ・パーキングブレーキが解除されているとき
  ・すべてのドアが閉まっているとき
  ・運転席シートベルトを着用しているとき

知識

・急な上り坂または下り坂など、走行条件によっては設定速度を一定に保てない場合があります。
・設定速度の下限は 30 km/h です。
・車速が 25 km/h～30 km/h の間で設定すると設定速度は 30 km/h になります。

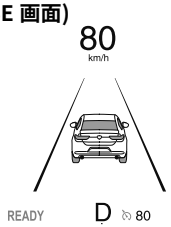
クルーズコントロールの設定状況および作動状況をマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイでお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)



1. 設定速度

マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 画面)



1. 設定速度

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1. 設定速度

▼ 設定速度を変更するとき

RES スイッチで設定速度を変更するとき

希望の速度がマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示されるまで、RES スイッチを押し上げる (SET+) 、または RES スイッチを押し下げ (SET-) ます。

・短押し：1 km/h
・長押し：10 km/h

アクセルペダルで設定速度を変更するとき

アクセルペダルを踏んで希望の速度になったところで、RES スイッチを押し上げ (SET+) または押し下げ (SET-) 、手を放します。

一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、クルーズコントロールが一時的に解除されます。

・クルーズコントロールを設定できる条件を満たさなくなったとき
・CANCEL スイッチを押したとき
・ブレーキペダルを踏んだとき
・DSC が作動したとき
・システムに異常があるとき

知識

車速が 20 km/h 未満になると、クルーズコントロールが解除されます。この場合、車速を 30 km/h 以上にして RES スイッチを押しても、もとの設定速度にはもどりません。クルーズコントロールを設定し直してください。

制御を再開するとき

クルーズコントロールが一時的に解除された場合は、再度作動条件を満たしたときに RES スイッチを押すと、一時的に解除される前の設定速度で制御を再開します。

OFF にする

クルーズコントロールが作動中にクルーズコントロールスイッチ押すと、クルーズコントロールが OFF になります。

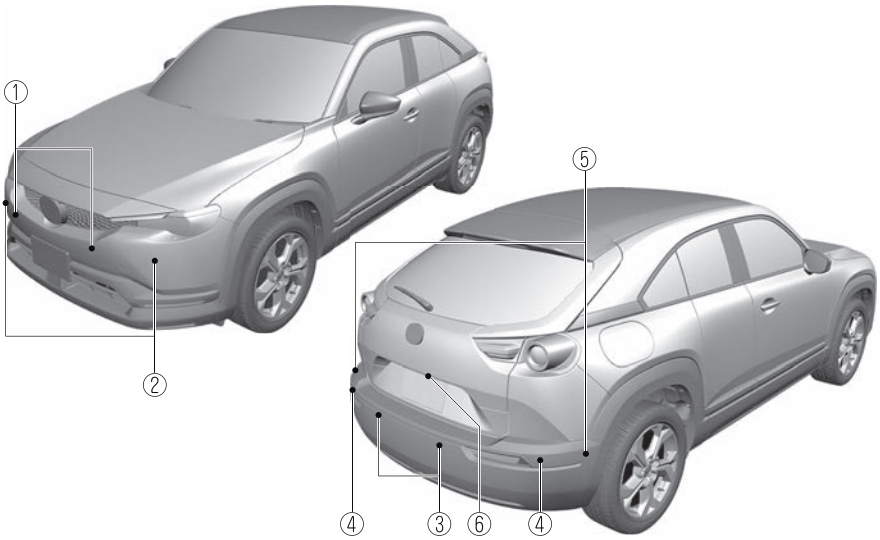
駐車支援システムとは

▼ 駐車支援システムとは

駐車支援システムとは、カメラとセンサーを使用して、周囲の安全確認を補助するシステムです。
駐車支援システムは次のシステムで構成されています。

・バックガイドモニター*
・パーキングセンサー

カメラとセンサーの取り付け位置



1. フロント超音波センサー
2. フロントコーナー超音波センサー
3. リア超音波センサー
4. リアコーナー超音波センサー
5. リアサイド超音波センサー
6. カメラ*

▼ バックガイドモニターとは*

バックガイドモニターは、車両後方の映像上に映し出したガイド線で、車の後退を補助するシステムです。

⚠ 警告

必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転する。
バックガイドモニターはあくまでも車の後退操作を行なうための補助装置です。画面に映し出されている映像は実際の状況とは異なることがあります。バックガイドモニターを過信して後退すると、障害物に接触するなどの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 次のような状況では危険ですので、バックガイドモニターを使用しないでください。
  - 凍結した滑りやすい路面や雪道
  - タイヤチェーンまたは応急用タイヤを使用しているとき
  - リアゲートが完全に閉まっていないとき
  - 坂道などの平坦でない道路
- ディスプレイが冷えていると、映像が尾を引いたり、画面が通常よりも暗くなったりして、車両周辺の状況を確認しにくくなる場合があります。必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- カメラ部に強い衝撃を与えないでください。カメラの位置や取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部は防水構造となっていますので、分解、改造、取りはずしをしないでください。
- カメラのカバーは樹脂ですので、油膜取り剤、有機溶剤、ワックス、ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。
- カメラのカバーまたはレンズを強くこすったり、研磨剤や硬いブラシなどでみがいたりしないでください。カバーまたはレンズが傷つき、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。

知識

- カメラのレンズに水滴や雪、泥などが付いているときは、やわらかい布などでふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。
- 車両後部を接触させたときは、カメラ (位置、取り付け角度) がずれているおそれがあります。必ずマツダ販売店で確認を行なってください。
- 寒いときにお湯をかけるなど、カメラ部に急激な温度変化を与えるとバックガイドモニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- バッテリーの電圧が低いときや、アイドリングストップが再始動するときに画面が見えにくくなることがありますが、異常ではありません。
- ディスプレイに「映像信号を受信できません。」と表示されたときは、カメラなどの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

バックガイドモニター表示位置

センターディスプレイに表示します。

知識

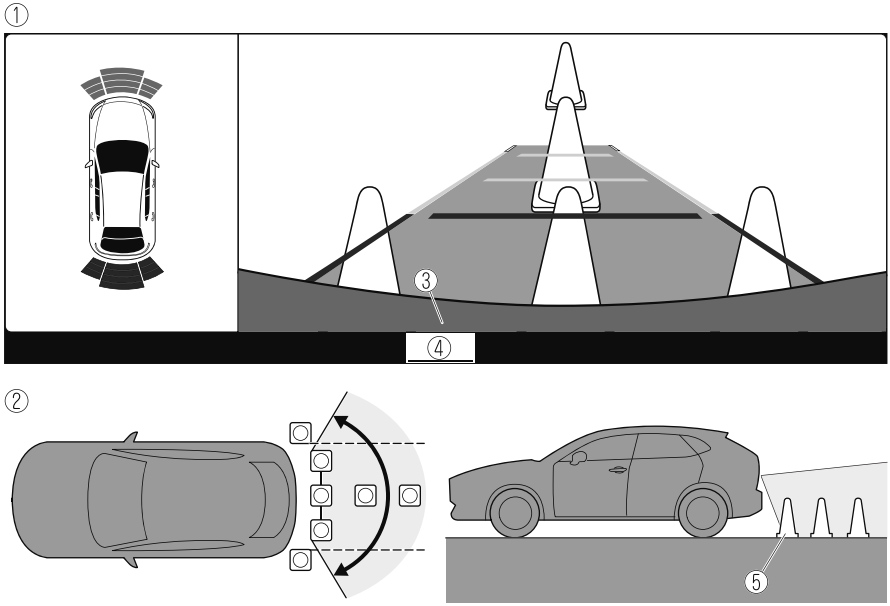
モニターの明るさは自動で調整されます。

バックガイドモニターに切り替えるには

電源ポジションが ON のとき、セレクトレバーを R の位置にするとバックガイドモニターに切り替わります。

画面に映し出される範囲

車両後方の映像を映し出して駐車または停車時に障害物や車間距離を確認するときの補助としてご使用ください。
車両後部に設置されたカメラから、ほぼ水平に映し出します。



1. (画面の状況)
2. (実際の状況)
3. バンパー
4. “周囲の安全を確認してください”
5. 対象物

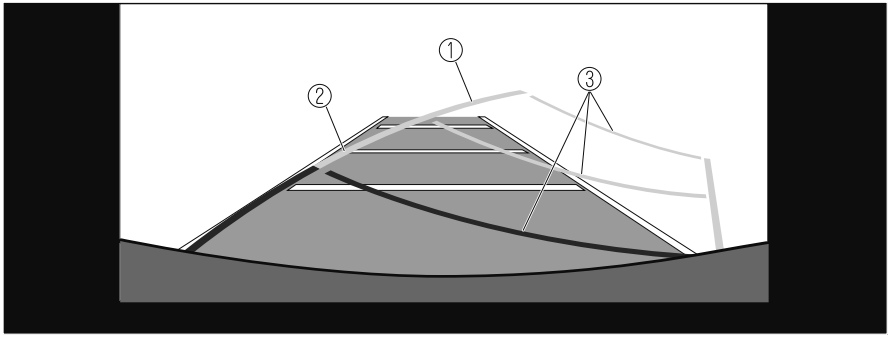
知識

・自車の状況や路面状況により、映し出される範囲は異なります。
・カメラが映す範囲には限界があります。バンパーの下にあるものやバンパーの両端付近は映りません。
・バックガイドモニターのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離間隔は実際の距離とは異なります。
・バックガイドモニターは鏡面画像になっています。
・装備によってはカメラに写り込む場合があります。カメラの視野に影響をおよぼすもの (視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできたものなど)は取り付けないでください。
・次のような状況では、画面が見づらくなることがありますが、故障ではありません。

  ・夜間など暗いところ
  ・レンズ付近の温度が高い/低いとき
  ・雨天時など、カメラに水滴が付いたときや湿度が高いとき
  ・カメラ付近に泥などの異物が付いたとき
  ・太陽やヘッドランプなどの光がカメラのレンズに直接あたったとき
  ・周囲が車両のライト、蛍光灯の光または、LED の光で照らされているとき (ディスプレイがちらつくことがあります)
  ・極小の黒い点または極小の白い点が画面に含まれているとき (点がちらつくことがあります)

画面の見方

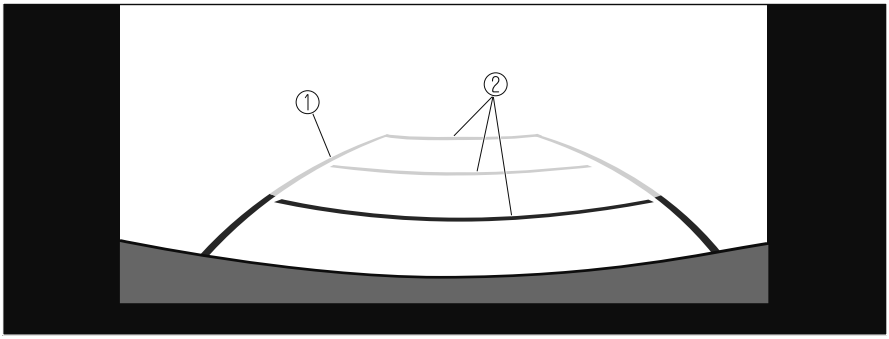
タイプ A



1. 予想進路線
   車両の予想進路の目安を示すライン
   ハンドルを操作すると、予想進路線が連動して動きます。
2. 車幅延長線 (青色)
   車幅の延長の目安を示すライン
   ハンドルが直進状態のときは、表示されません。
3. 距離目安線
   車両後方の距離 (バンパー後端から) を示すライン

   ・青色のラインは約 0.5 m 先を示します。
   ・ハンドル操作と連動する赤色と黄色のラインは、それぞれの中心位置で、約 0.5 m 先 (赤色)、約 1 m 先 (黄色) 、約 2 m 先 (黄色) を示します。
   ・ハンドルが直進状態でないときは、誤差が生じます。
   ・画面では、距離目安線が示す実際の距離 (赤色：約 0.5 m 先、黄色：約 1 m 先、約 2 m 先) より、右側は近くの位置に、左側は遠くの位置に表示されます。

タイプ B



1. 車幅延長線
   車幅の延長の目安を示すライン
2. 距離目安線
   車両後方の距離 (バンパー後端から) を示すライン

・赤色のラインは約 0.5 m 先を示します。
・黄色のラインは約 1 m 先と約 2 m 先を示します。

⚠ 注意

バックガイドモニターを使って駐車する方法は、駐車時の道路事情、路面状況、自車の状況によって違います。ハンドル操作のタイミング、操作量は状況によって異なりますので、周囲を直接確認しながら状況にあわせた操作を行なってください。また、操作を行なう前は、必ず駐車スペースに車両が駐車できるかを確認してください。

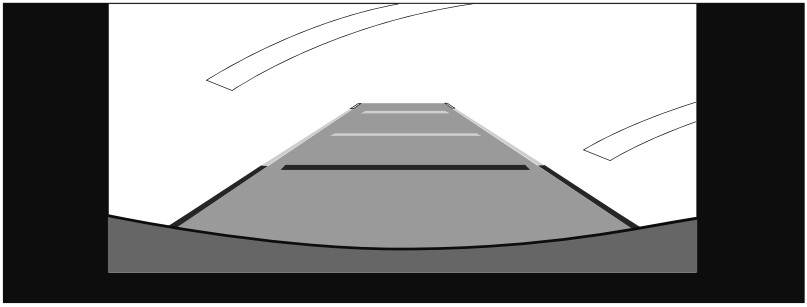
知識

次に示す状況は、ハンドルを右側にまわして後退し、駐車する例を示しています。逆方向から後退し駐車するときは、左右が逆になります。

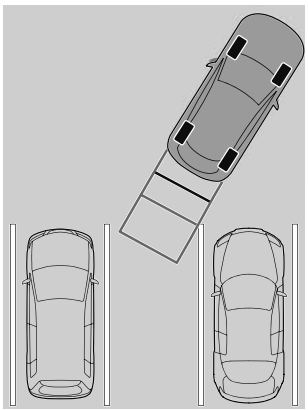
タイプ A

1. セレクトレバーを R の位置にし、バックガイドモニターを表示します。
2. 車両が駐車スペースの中に入るようにハンドル操作を行ない後退します。

①

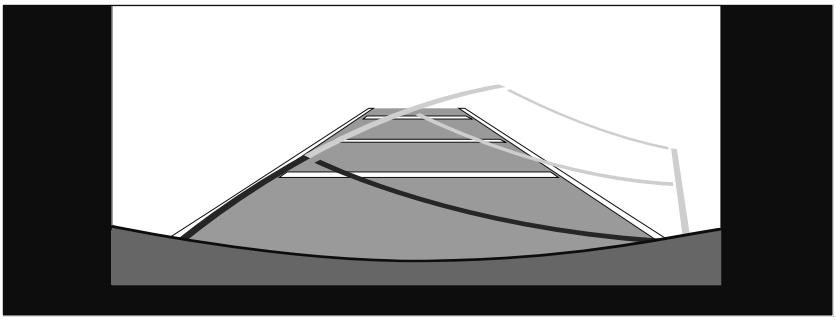


②

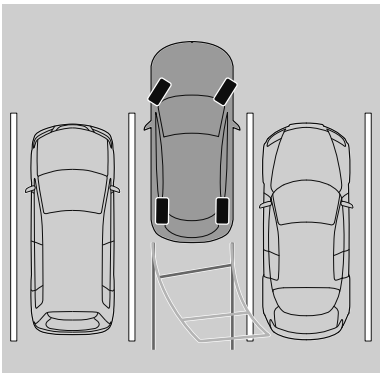


3. 車両が駐車スペース内に入ったら、車幅延長線と駐車スペース左右の間隔が、車両付近の位置で同じくらいになるようにハンドルを操作して、ゆっくり後退します。

①



②

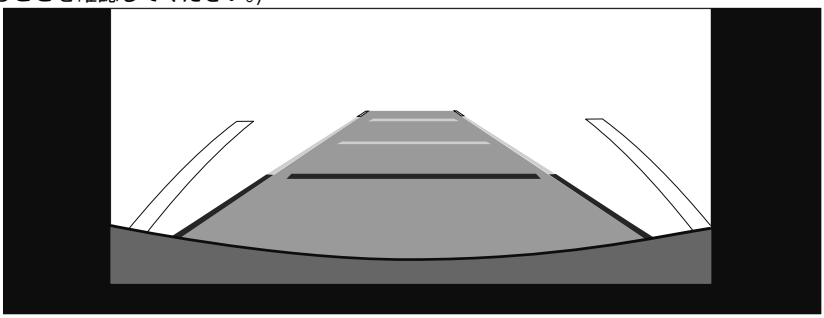


1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

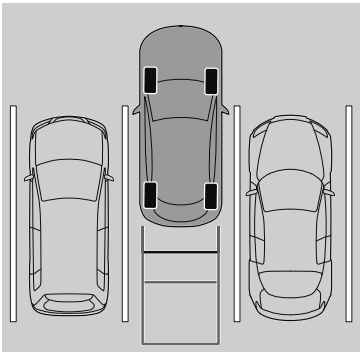
4. 車幅延長線と駐車スペースが平行になるようにハンドルを操作します。

5. 平行になったら、ハンドルを直進状態にして、ゆっくり後退します。周囲の状況を十分に確認し、最適な位置で停止します。(駐車スペースに区画線がある場合は、区画線と車軸延長線が平行になっていることを確認してください。)

①



②

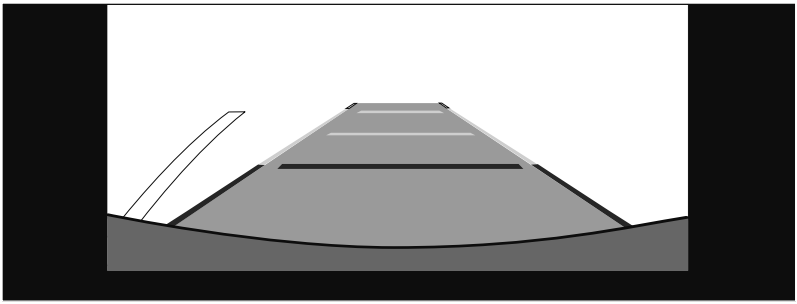


1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

6. セレクトレバーを R 以外の位置にすると、バックガイドモニターを表示する前の画面にもどります。

知識

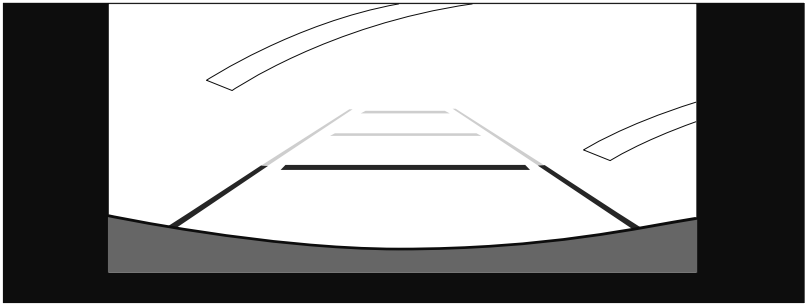
・駐車スペースに区画線がある場合は、区画線と車幅延長線が平行になったら、ハンドルを直進状態にしてください。
・駐車するときは、次のように画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
  ・画面に映し出される駐車スペース (車庫など) の後端と距離目安線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。
  ・駐車場の区画線が片側しかないときは、区画線と車幅延長線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。



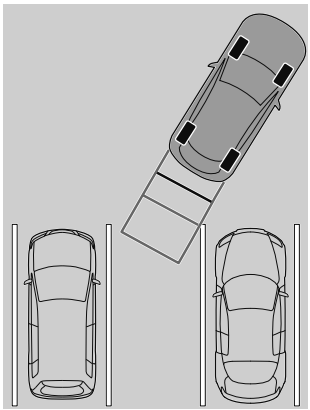
タイプ B

1. セレクトレバーを R の位置にし、バックガイドモニターを表示します。
2. 周囲の状況を確認し、後退します。

①



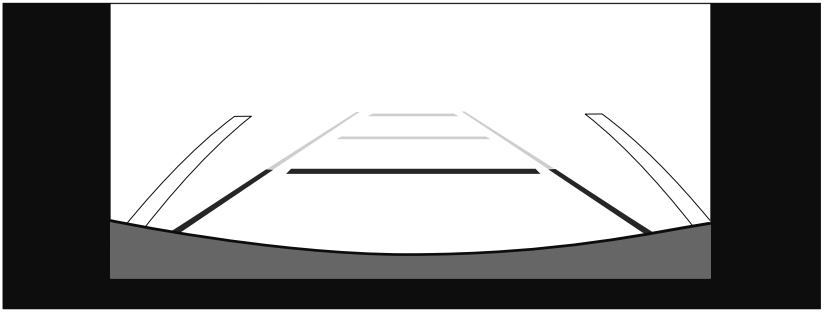
②



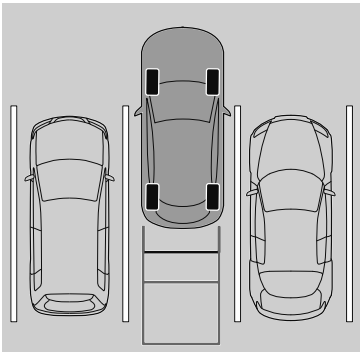
3. 車両が駐車スペース内に入ったら、車幅延長線と駐車スペース左右の間隔が、車両付近の位置で同じくらいになるようにハンドルを操作して、ゆっくり後退します。
4. 車幅延長線と駐車スペースが平行になるようにハンドルを操作します。

5. 平行になったら、ハンドルを直進状態にして、ゆっくり後退します。周囲の状況を十分に確認し、最適な位置で停止します。(駐車スペースに区画線がある場合は、区画線と車軸延長線が平行になっていることを確認してください。)

①



②

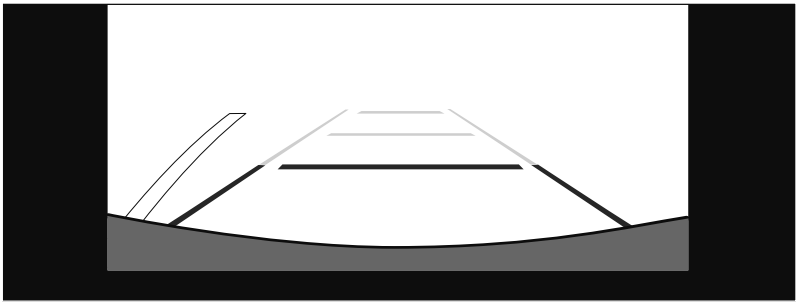


1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

6. セレクトレバーを R 以外の位置にすると、バックガイドモニターを表示する前の画面にもどります。

知識

・駐車スペースに区画線がある場合は、区画線と車幅延長線が平行になったら、ハンドルを直進状態にしてください。
・駐車するときは、次のように画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
  ・画面に映し出される駐車スペース (車庫など) の後端と距離目安線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。
  ・駐車場の区画線が片側しかないときは、区画線と車幅延長線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。

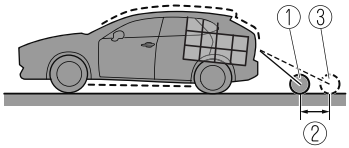


実際の画面と路面の誤差

実際の路面と画面上の路面とでは距離に誤差が生じます。距離感の誤差は事故につながるおそれがありますので、次のような、誤差の起こりやすい状況を確認しておいてください。

人や荷物の重みで車が傾いているとき

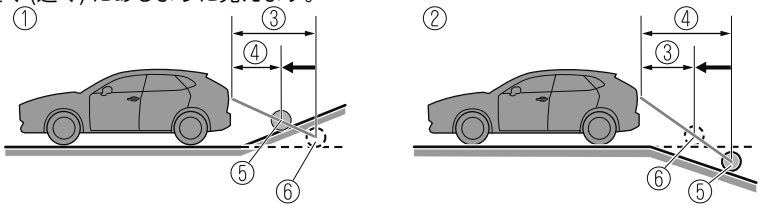
車両が傾いて後部が下がっているときは、カメラに映る障害物は車体後部からの距離が実際よりも遠くにあるように見えます。



1. 障害物
2. 誤差
3. 画面上での障害物

車両後方に勾配の急な上り坂や下り坂があるとき

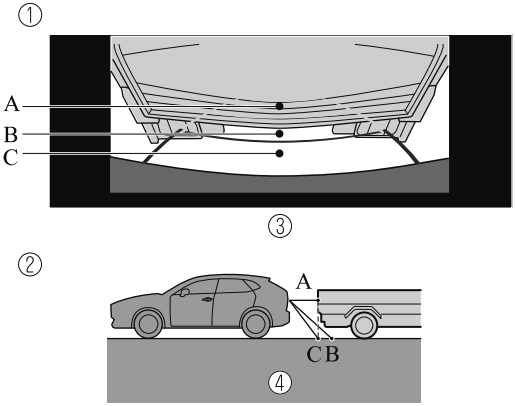
車両後方に勾配の急な上り坂 (下り坂) があるときは、カメラに映る障害物は車体後部からの距離が実際よりも遠く (近く) にあるように見えます。



1. 実際よりも遠くに見える
2. 実際よりも近くに見える
3. 画面で見える車体から障害物までの距離
4. 車体から障害物までの実際の距離
5. 実際の障害物
6. 画面上での障害物

車両後方に立体物があるとき

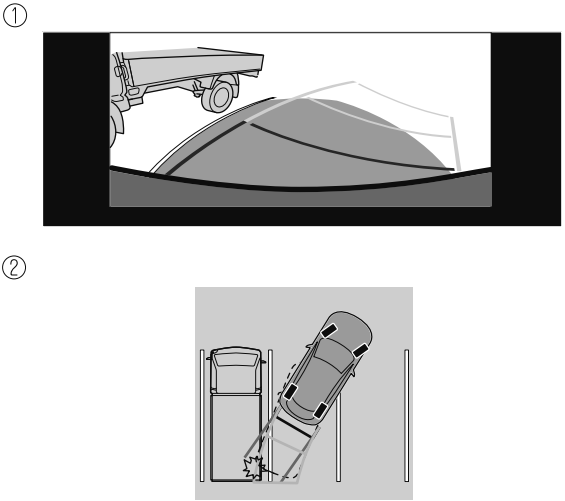
距離目安線は水平な路面を基準に表示されているため、画面に映っている立体物との距離は実際とは異なります。



1. (画面の状況)
2. (実際の状況)
3. 画面上の距離感 A>B>C
4. 実際の距離 B>C=A

立体物が近くにあるところを後退するとき (タイプ B)

張り出しのある立体物 (車や障害物) の近くを後退するとき、予想進路線では立体物に当たらないように見えても、実際にはぶつかることがあります。画面上の予想進路線は水平な路面を基準に表示されているため画面に映っている立体物の位置は実際とは異なります。張り出しのある立体物の近くを通るときは、後方および周辺を直接確認してください。



1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

▼ パーキングセンサーとは

パーキングセンサーは、車庫入れや縦列駐車などの低速走行時に、車両周辺の障害物を超音波センサーで検出し、おおよその距離をブザーおよび検知表示により運転者に知らせます。

⚠ 警告

必ず前方/後方および周囲の安全を直接確認しながら運転する。
パーキングセンサーはあくまでも前進および後退するときの補助装置です。また、センサーの検出範囲は限られていますので、システムを過信して前進/後退すると、障害物に接触するなどの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- センサーの検出範囲内にアクセサリー用品などを取り付けないでください。システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 障害物の種類や周囲の条件によっては、センサーが障害物を検出できる距離が短くなったり、障害物を検出できなかったりする場合があります。必ず前方/後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

📖 知識

・電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、パーキングセンサーが ON の状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたとき、パーキングセンサーは ON の状態のままです。
・次のようなときは、システムが正常に作動しない場合があります。

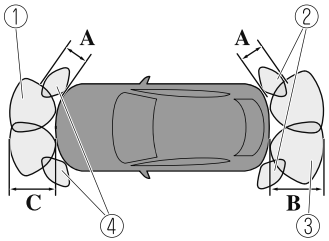
・センサー部に氷、雪、泥などが付着したとき (取り除けば正常に復帰します。)
・センサー部が凍結したとき (溶ければ正常に復帰します。)
・センサーを手でふさいだとき
・センサー付近に強い衝撃が加わったとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・炎天下や寒冷時
・凹凸道、坂道、砂利道、草むら、グレーチングなどを走行しているとき
・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近づいたとき
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・市販のフェンダーポール、無線機用アンテナを車に取り付けたとき
・背の高い縁石、直角の縁石、急な坂道に向かって進んだとき
・障害物がセンサーに近づきすぎているとき
・凹凸のある壁、階段に向かって進んだとき
・複数の障害物があるとき
・天井の低い場所を走行しているとき

知識

・次のような障害物は、パーキングセンサーが検出しない、もしくは検出しにくいことがあります。
  ・針金、ロープ、ポールなどの細いもの
  ・綿、雪などの音波を吸収しやすいもの
  ・鋭角的な形を持つもの
  ・背が高く上部が張り出しているもの
  ・背の低いもの
・バンパーの真下付近は感知しません。センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
・接触事故などでバンパーへ衝撃が加わったときは、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。センサーの位置がずれると障害物を正常に検出できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
・パーキングセンサー OFF スイッチを押して、パーキングセンサーの作動を停止させても、パーキングセンサー OFF スイッチの表示灯が点灯しない場合は、システムの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
・パーキングセンサー OFF スイッチを押して、パーキングセンサーを作動可能な状態にしても、ブザーが鳴らない、または検知表示が表示されない場合は、システムの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
・システムの異常を示すメッセージがマルチインフォメーションディスプレイやセンターディスプレイに表示された場合は、システムの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
・低温時やセンサー部に泥や氷、雪などが付着した場合に、システムの異常を示すメッセージがマルチインフォメーションディスプレイやセンターディスプレイに表示されることがあります。センサー部に付着した異物を取り除いてください。

センサーの検出可能範囲

センサーは、次に示す範囲の障害物を検出します。

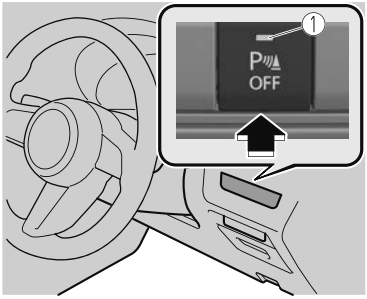


1. フロント超音波センサー検知範囲
2. リアコーナー超音波センサー/リアサイド超音波センサー検知範囲
3. リア超音波センサー検知範囲
4. フロントコーナー超音波センサー検知範囲

A:約 55 cm
B:約 150 cm
C:約 100 cm

パーキングセンサー OFF スイッチ

電源ポジションが ON の状態でスイッチを押すと、パーキングセンサーが停止され、表示灯が点灯します。
もう一度押すとパーキングセンサーが作動可能な状態になり、表示灯が消灯します。



1. 表示灯

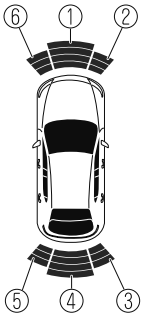
知識

次のときは、ブザーや検知表示が作動しません。

・シフトポジションが P のとき
・パーキングブレーキをかけているとき

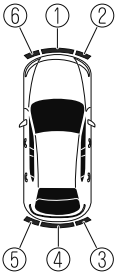
検知表示

360° ビュー・モニター非装備車



1. フロント超音波センサー
2. 右フロントコーナー超音波センサー
3. 右リアコーナー超音波センサー/右リアサイド超音波センサー
4. リア超音波センサー
5. 左リアコーナー超音波センサー/左リアサイド超音波センサー
6. 左フロントコーナー超音波センサー

360° ビュー･モニター装備車

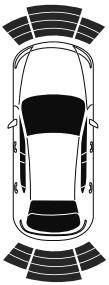
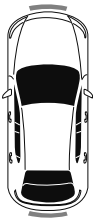
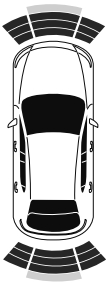
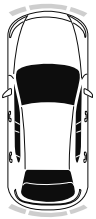


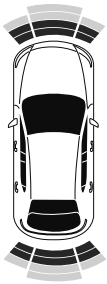
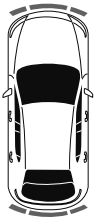
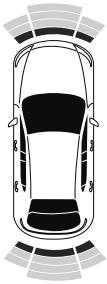
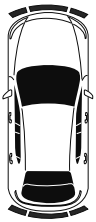
1. フロント超音波センサー
2. 右フロントコーナー超音波センサー
3. 右リアコーナー超音波センサー/右リアサイド超音波センサー
4. リア超音波センサー
5. 左リアコーナー超音波センサー/左リアサイド超音波センサー
6. 左フロントコーナー超音波センサー

知識

検知表示の表示/非表示やブザーの音量をマツダコネクトの「設定」で変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」
(360° ビュー･モニター装備車)
検知表示を「表示」に設定しているときは､360°ビュー・モニターを表示していない状態でも､フロント超音波センサーまたはフロントコーナー超音波センサーが障害物を検知すると､360°ビュー・モニターの表示に自動で切り替わります。障害物を検知しなくなったときは､障害物を検知する前の表示に切り替わります。 ただし､360°ビュー･モニターを表示しているときは､障害物の検知有無に関わらず､360°ビュー・モニターを表示し続けます。

距離表示の見方

表示		車両と障害物の距離	
360°ビュー･モニター非装備車	**360°ビュー･モニター装備車**	**フロント超音波センサー/フロントコーナー超音波センサー**	**リア超音波センサー/リアコーナー超音波センサー/リアサイド超音波センサー**
	緑色 	フロント超音波センサー: 約 100～60 cm	リア超音波センサー: 約 150～60 cm
	黄色 	フロント超音波センサー: 約 60～45 cm フロントコーナー超音波センサー: 約 55～38 cm	リア超音波センサー: 約 60～45 cm リアコーナー超音波センサー/リアサイド超音波センサー: 約 55～38 cm

表示		車両と障害物の距離	
360°ビュー･モニター非装備車	360°ビュー･モニター装備車	フロント超音波センサー/フロントコーナー超音波センサー	リア超音波センサー/リアコーナー超音波センサー/リアサイド超音波センサー
	橙色 	フロント超音波センサー: 約 45～35 cm フロントコーナー超音波センサー: 約 38～25 cm	リア超音波センサー: 約 45～35 cm リアコーナー超音波センサー/リアサイド超音波センサー: 約 38～25 cm
	赤色 	フロント超音波センサー: 約 35 cm 以内 フロントコーナー超音波センサー: 約 25 cm 以内	リア超音波センサー: 約 35 cm 以内 リアコーナー超音波センサー/リアサイド超音波センサー: 約 25 cm 以内

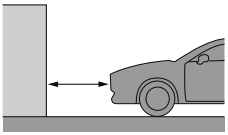
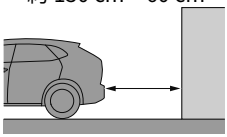
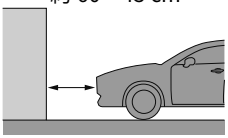
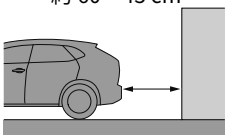
こんなときは

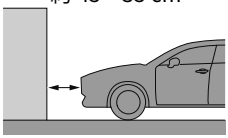
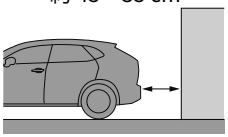
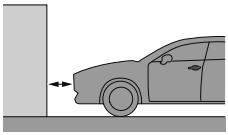
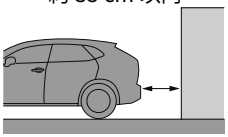
異常が発生した場合は､次の表示により異常が発生したことをお知らせします。

	検知表示		解決方法
	360°ビュー・モニター 非装備車	360°ビュー・モニター 装備車	
システム異常			マツダ販売店で点検を受けてください。

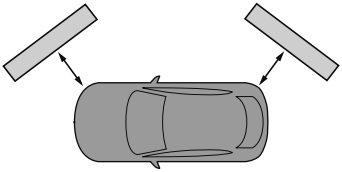
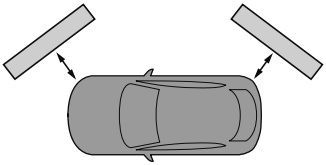
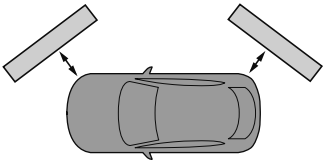
ブザー

障害物との距離に応じた鳴りかたで、障害物とのおよその距離を運転者に知らせます。複数箇所の障害物を検知した場合は、最も近い障害物との距離に応じて吹鳴します。
システム作動中は、ブザーが次のように作動します。
フロント超音波センサー、リア超音波センサー

検知距離	車両と障害物の距離		ブザーの鳴りかた
	フロント超音波センサー	リア超音波センサー	
一番遠い距離	約 100 cm～60 cm 	約 150 cm～60 cm 	遅い継続音
遠い距離	約 60～45 cm 	約 60～45 cm 	継続音

検知距離	車両と障害物の距離		ブザーの鳴りかた
	フロント超音波センサー	リア超音波センサー	
中距離	約 45～35 cm 	約 45～35 cm 	早い継続音
近い距離	約 35 cm 以内 	約 35 cm 以内 	連続音

フロントコーナー超音波センサー、リアコーナー超音波センサー、リアサイド超音波センサー

検知距離	車両と障害物の距離	ブザーの鳴りかた
遠い距離	約 55 cm～38 cm 	継続音
中距離	約 38～25 cm 	早い継続音
近い距離	約 25 cm 以内 	連続音

知識

・最も近いエリアを除き、6 秒以上同じエリアで障害物を検知し続けている場合は、吹鳴のみを停止します。(検知表示は表示します) 近い側へエリアが変わった場合は、吹鳴を再開します。(遠い側へエリアが変わった場合は、吹鳴は停止したままです)
・ブザー音量をマツダコネクトの「設定」で変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

こんなときは

次のようなとき、表示のしかたで異常を知らせます。

表示	確認すること
システム故障やセンサー故障がディスプレイに表示されます。	システムの異常が考えられます。早めにマツダ販売店で点検を受けてください。
センサーの汚れがディスプレイに表示されます。	センサー部に異物が付着していないか確認してください。直らない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
特定の検知表示が表示し続ける。	検知表示に対応するセンサー部に異物が付着していないか確認をしてください。直らない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

6 快適装備の使いかた

ドライブをより快適にする装備の操作と取り扱い

空調.....6-2
快適に使用していただくために 6-2
エアコンの操作部について 6-3
エアコンの基本的な使いかた 6-7
エアコンの便利な使いかた 6-10

マツダコネクト.....6-13
マツダコネクトとは?..... 6-13
マツダコネクトの基本操作 6-17

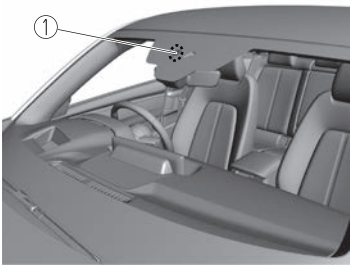
室内装備.....6-30
サンバイザー.....6-30
室内照明.....6-31
電源ソケット.....6-33
アジャスター機能付カップホルダー..... 6-34
ボトルホルダー..... 6-35
アシストグリップ.....6-35
リアコートフック..... 6-36
収納..... 6-36

快適に使用していただくために

▼ 快適に使用していただくために

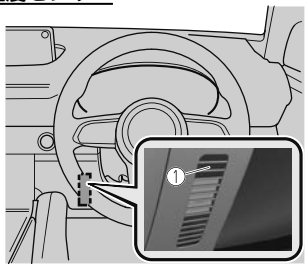
・炎天下に駐車した後は、室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。
・日射センサー/室内温度センサーをふさがないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。

日射センサー



1. 日射センサー

室内温度センサー



1. 室内温度センサー

・フロントガラスとボンネットの間にある外気取り入れ口が、雪や落ち葉などでふさがっているときは取り除いてください。外気が導入できないため、車内の換気が十分できなくなるおそれがあります。
・長期間エアコンを使用しないときでも、内部のオイル循環のため、1 か月に 1 回程度エアコンを作動させてください。
・エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると、冷房性能が低下します。夏になる前にマツダ販売店で点検を受けておいてください。冷媒の仕様は、モータ・ルームに貼ってあるラベルに記載してあります。
・花粉やほこりなどの集じん機能を持った、エアフィルターを装備しています。エアフィルターを定期的に交換してください。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

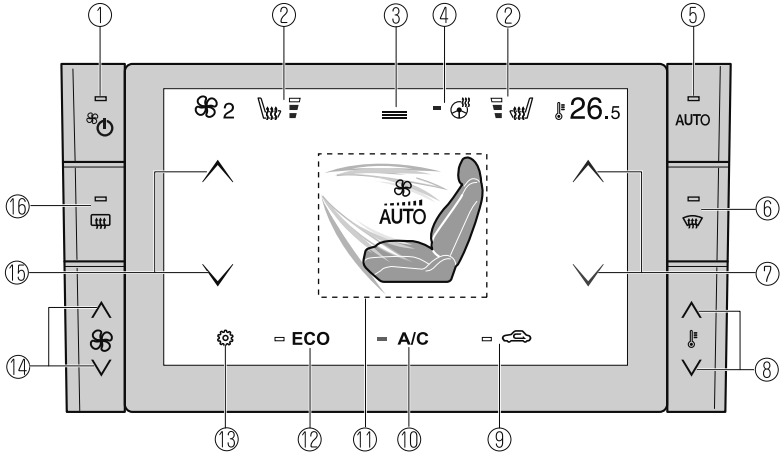
知識

・エアコンの風量が著しく減少したときは、エアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。
・大都市・寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区の場合は、エアフィルターの寿命が短くなり、早めの交換が必要になることがあります。

エアコンの操作部について

▼ エアコンのスイッチ/アイコン一覧

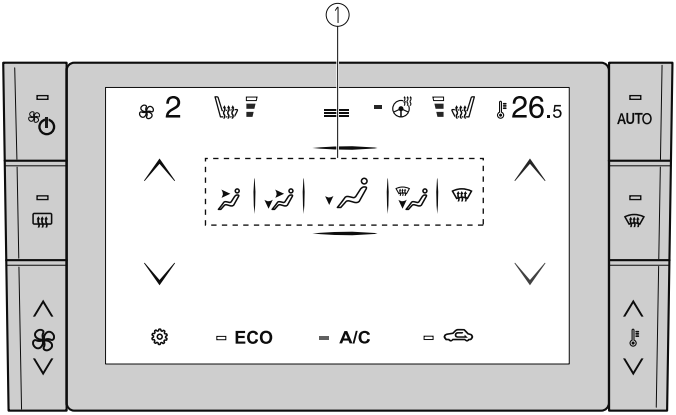
オート操作画面



① エアコン電源スイッチ.....6-4 ページ
② シートヒーターアイコン*.....2-16 ページ
③ シートヒーター設定アイコン*.....2-16 ページ
ステアリングヒーター設定アイコン*.....2-18 ページ
④ ステアリングヒーターアイコン*.....2-18 ページ
⑤ AUTO スイッチ.....6-5 ページ
⑥ 曇り取りスイッチ.....6-5 ページ
⑦ 温度設定アイコン.....6-5 ページ
⑧ 温度設定スイッチ.....6-5 ページ
⑨ 内外気切り替えアイコン.....6-5 ページ
⑩ エアコンアイコン.....6-5 ページ
⑪ オート/マニュアル操作画面切り替えアイコン.....6-6 ページ
⑫ ECO アイコン.....6-6 ページ
⑬ ディスプレイ設定アイコン.....6-6 ページ
⑭ ファンスイッチ.....6-6 ページ
⑮ ファンアイコン.....6-6 ページ
⑯ リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....6-6 ページ

*グレード/仕様別装備

マニュアル操作画面



① 吹き出し口切り替えアイコン.....6-6 ページ

知識

フリー/オープンソースソフトウェア情報
この製品は、フリー/オープンソースを含みます。ライセンスおよびソースコードについての情報は、次の Web サイトから入手することができます。
https://www.alpine.com/m/oss/download/

▼ タッチパネルの基本操作

注意

画面部分を指で強く押したり、先のとがったものなどで触れたりしないでください。画面に傷がついたり、損傷したりするおそれがあります。

タッチパネルの操作について

タッチパネルは、タッチ、長押し、フリックの 3 つの操作を行なうことができます。

オート/マニュアル操作画面の切り替え方法

オート操作画面からマニュアル操作画面に切り替えるには、画面中心のシート表示をタッチします。マニュアル操作画面からオート操作画面に切り替えるには、AUTO スイッチを押します。

▼ エアコン電源スイッチ

エアコン電源スイッチを押すごとに、エアコンの ON/OFF が切り替わります。

▼ 温度設定スイッチ/アイコン

温度設定スイッチを押す/∧(赤)、∨(青)をタッチすると、設定温度を Lo (18.0) から Hi (32.0) の間で、0.5℃ずつ調節できます。また、長押しすると、素早く設定温度を調節できます。

知識

- Lo (18.0) に設定すると最大冷房、Hi (32.0) に設定すると最大暖房に固定されます。
- ∧(赤)、∨(青)を上下にフリックすると、3.0℃ずつ設定温度を調節できます。
- 空調システムの消費電力低減のため、外気温度が約 25.0℃以上のとき温風が出ないことがありますが異常ではありません。

▼ AUTO スイッチ

AUTO スイッチを押すと、設定温度にあわせて次の機能が自動制御されます。

- 吹き出し風の温度調節
- 吹き出し風量調節
- 吹き出し口の切り替え
- 内気循環/外気導入の切り替え
- エアコン (冷房・除湿機能) の作動/停止
- *シートヒーターの設定温度*1
- *ステアリングヒーターの作動/停止*1

*1　マツダコネクトの「設定」で、オートモードを有効にしているときに作動します。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

知識

AUTO スイッチの表示灯について

- 点灯
  オート作動中に点灯します。
- 消灯
  オート作動中に、、、、、、∧、∨、ファンスイッチ、曇り取りスイッチのいずれかのスイッチ/アイコンを操作したときに消灯します。このとき、操作した箇所以外の機能は自動で作動します。

▼ 曇り取りスイッチ

曇り取りスイッチを押すと、フロントガラス、フロント窓ガラスの曇りを取ることができます。

知識

をタッチすることでも、曇り取りを使用できます。

▼ 内外気切り替えアイコン

をタッチするごとに、内気循環 (外気を遮断する) と外気導入 (外気を室内に入れる) が切り替わります。

知識

寒いときや湿度が高いときは、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環 (横の表示灯点灯)
  トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに使用します。
- 外気導入 (横の表示灯消灯)
  外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

▼ エアコンアイコン

A/C をタッチするごとに、エアコン (冷房・除湿機能) の作動と停止が切り替わります。
エアコン作動中は A/C 横の表示灯が点灯します。

知識

- エアコンが作動しているときは、ガラスの曇りが取れやすく、停止すると曇りやすくなります。
- 外気温が 0 ℃近くまで下がると、システム保護のためエアコンが作動しない場合があります。

▼ オート/マニュアル操作画面切り替えアイコン

画面中心のシート表示をタッチすると、マニュアル操作画面に切り替わります。
、、、、、を操作できます。

▼ ECO アイコン

ECO をタッチするごとに、ECO モードのON/OFF が切り替わります。
ECO モードは、通常モードよりもエアコンの作動頻度が少なくなり、経済的な運転になります。

▼ ディスプレイ設定アイコン

をタッチすると、ディスプレイの設定画面を表示します。
明るさを調節 (41 段階)、画面を自動/昼/夜から選択、操作音量 (消音または 3 段階の音量) を調節できます。
をタッチすると、画面を閉じます。

知識

安全のため、走行中は設定画面が表示されません。

▼ リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチを押すと、リアウインドーの曇りを取ることができます。
曇り取りを作動させると、ドアミラーの曇り取り*とウインドーワイパーデアイサー*が連動して作動します。

▼ 吹き出し口切り替えアイコン

、、、、、をタッチすると、使用目的にあわせて吹き出し口を選択できます。

知識

- オート操作画面のときは、画面中心のシート表示をタッチすると、、、、、が表示されます。
- 、、、、、を左右にフリックすると、2 段階ずつ切り替えることができます。

▼ ファンスイッチ/アイコン

風量は 7 段階に調節できます。をタッチすると風量を下げ、をタッチすると風量を上げることができます。また、長押しすると、素早く風量を調節できます。

知識

- 、を上下にフリックすると、3 段階ずつ風量を調節できます。

エアコンの基本的な使いかた

▼ エアコンの基本操作

エアコン (冷房･暖房･除湿機能) は､EV システムを作動させた状態で使用してください。
充電中は､電源ポジションを ON にすると使用することができます。また､プリエアコンは電源ポジションを OFF にすると使用することができます。

知識

電源ポジションが ON のときに充電が終了すると､エアコン (冷房･暖房･除湿機能) も自動で停止します。

1. AUTO スイッチを押します。吹き出し口、内外気切り替え､吹き出し風量が自動的に調節されます。
2. 温度設定スイッチ/∧ (赤)、∨ (青) を操作して希望温度にあわせます。

知識

- 推奨設定温度は 25.0℃です。
- 設定温度を極端に低く (高く) しても､希望の温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- エアコンの消費電力は､設定温度と外気温により変動します。設定温度が低すぎたり､高すぎたりすると走行可能距離が短くなります。

3. 作動を停止したいときは､エアコン電源スイッチを押します。

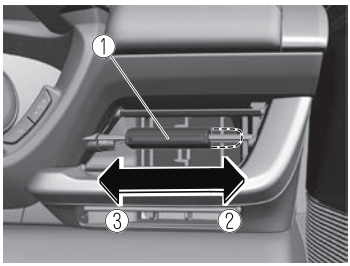
▼ 吹き出し口の調節

知識

ノブを操作することにより､吹き出し口の全開と全閉を切り替えることができます。

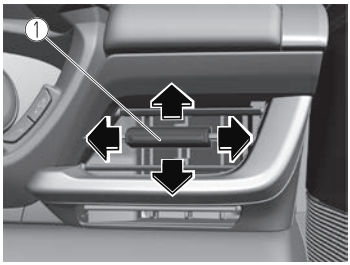
側面吹き出し口

吹き出し口の開閉



1. ノブ
2. 全閉
3. 全開

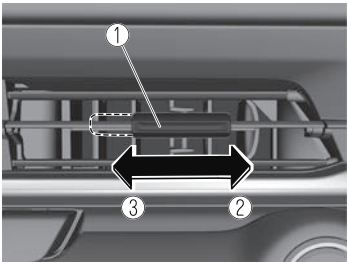
風向きの調節



1. ノブ

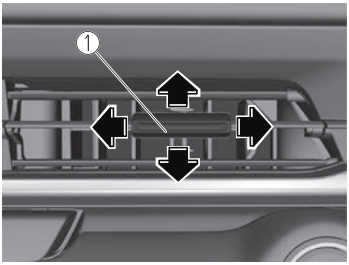
中央吹き出し口

吹き出し口の開閉



1. ノブ
2. 全開
3. 全閉

風向きの調節



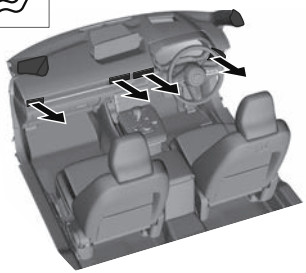
1. ノブ

▼ 吹き出し口の選択

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

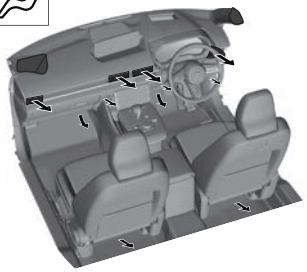
上半身に送風するとき





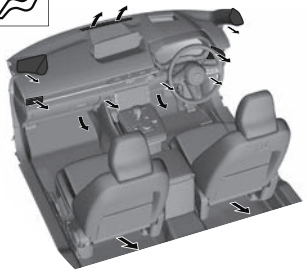
上半身、足元に送風するとき





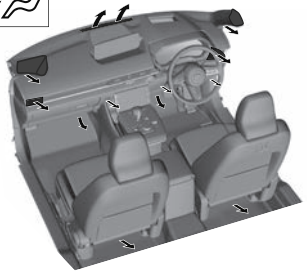
主に足元に送風するとき





足元への送風とガラスの曇りを取るとき





ガラスの曇りを取るとき



知識

吹き出し口の開閉状態により、風が出る位置や風量が変化する場合があります。

▼ ガラスの曇りをとるとき

警告

ガラスの曇りを取るときは、設定温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

曇り取りスイッチを押す、または をタッチします。
自動的に外気導入に切り替わります。また、エアコンが自動的に作動し、除湿された吹き出し風がフロントガラス、フロント窓ガラスに送風されます。吹き出し風量も多くなります。

知識

・次のいずれかの操作をすると、ガラスが曇りやすくなります。
　・内気循環に切り替える
　・エアコン (冷房・除湿機能) の作動を停止する
・次のいずれか操作をすると、より早くガラスの曇りが取れます。
　・ファンスイッチ/へを操作して、風量を増す
　・温度設定スイッチ/へ (赤) を操作して、吹き出し風の温度を上げる
・ガラスが曇ったときなど、必要な場合のみ使用してください。エアコンの消費電力を抑え経済的な運転になります。

エアコンの便利な使いかた

▼ プリエアコンに関する注意

プリエアコンとは、タイマーエアコンとリモートエアコンの総称です。出発時刻をあらかじめ設定する (タイマーエアコン)、またはお手持ちのスマートフォンで遠隔操作する (リモートエアコン) ことで、車に乗る前に、冷暖房やガラスの曇り取りを作動することができます。

⚠ 警告

人やペットを車内に残したまま、プリエアコンを作動させない。
プリエアコンは、車両の状態や周辺環境により自動停止する場合があります。エアコンが停止し、車内の温度が高温または低温になると、熱中症や脱水症状などの重大な障害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 次のいずれかの条件を満たすときは、プリエアコンが作動しません。また、作動中の場合は作動を停止します。ただし、作動中にリアゲートを開けた場合は、停止しません。
  - 駆動用バッテリーもしくは 12V バッテリーの充電量が少ないとき
  - ドア/リアゲートが開いているとき
  - 電源ポジションが OFF 以外のとき
  - 車両に異常があるとき
- 次のいずれかの条件を満たすときは、エアコンの効きが悪くなり、車内の温度を設定した温度にできない場合があります。
  - 電力消費量が多いとき
  - 極端に暑い、または寒いとき
- 出発時刻に設定温度になるようにエアコンが作動し、出発時刻になると停止します。設定した出発時刻よりも早く、または遅れて車に乗ると、車内の温度が設定した温度になっていない場合があります。
- 充電中にプリエアコンを作動させると、充電に必要な時間が長くなることがあります。
- プリエアコン作動時に、冷却ファンやコンプレッサー、室内ファンが作動しますが、故障ではありません。
- エアコンの使用できる機能は、電源ポジションによって異なります。

機能	電源ポジション			
	OFF	ACC	ON (EV システム停止中)	ON (EV システム作動中)
送風	—	—	○	○
冷房/暖房	—	—	○*1	○

⚠ 注意

機能	電源ポジション			
	OFF	ACC	ON (EV システム停止中)	ON (EV システム作動中)
タイマーエアコン	○	—	—	—
リモートエアコン	○	—	—	—

○: 可能
—: 不可能
*1　冷房/暖房機能は充電中のみ使用できます。

知識

- 推奨設定温度は 25.0 ℃です。極端に暑い、または寒い温度に設定すると、消費電力があがり、充電時間が長くなります。
- 充電コネクターを接続した状態で、プリエアコンを作動させると、駆動用バッテリーの電力消費量を軽減できます。充電コネクターを接続しなくても、プリエアコンを作動させることができますが、駆動用バッテリーの電力量が低下します。
- プリエアコンが作動しているときは、エアコン電源スイッチの表示灯が点灯します。
- プリエアコン作動中に急速充電を開始するとプリエアコンが停止します。
- プリエアコンは 30 分間作動します。タイマーエアコンで出発時刻を設定する場合は、現在時刻から 30 分後以降を設定し、複数設定する場合は 30 分以上の間隔を開けて設定してください。
- デフロスタを有効に設定することで、窓の氷・雪の除去をサポートします。デフロスタ設定時の推奨設定温度は 25.0 ℃ 以上です。設定温度によって、デフロスタの性能が変わります。
- 12 V バッテリー脱着直後や一度も GPS を受信していないときは、タイマーエアコンは作動しません。GPS を受信するとタイマーエアコンが作動可能になります。

▼ タイマー予約でエアコンをつけるとき (タイマーエアコン)

マツダコネクトで出発時刻を設定することで、出発時刻までにエアコンが作動し、車内温度を調節します。
出発時刻、曜日、設定温度、デフロスタの作動/非作動をカスタマイズでき、あらかじめ 7 種類のパターンを登録しておくことができます。
タイマーエアコンの作動中は、スマートフォンで設定状態を確認することができます。
タイマーエアコンを作動させるには、電源ポジションを OFF にしてください。

知識

- リモートエアコンが作動しているときは、タイマーエアコンは作動しません。
- タイマーエアコンの停止は、スマートフォンの遠隔操作で行なうこともできます。
- 曜日を登録した場合、次の週にも継続されるため、毎回設定する必要はありません。

タイマーエアコンの設定のしかた

知識

項目にチェックボックスがある機能は、チェックを入れる (☑) と有効、チェックを外す (☐) と無効になります。

1. マツダコネクトのホーム画面から、“設定” を選択します。
2. 設定画面から、“EV システム” を選択します。
3. “タイマーエアコン設定” を選択します。
4. 表示された内容から、設定を変更したい項目を選択します。

タイマーエアコン設定

おでかけ前に車室内を快適な温度にしておくことができます。

機能	変更内容	
1 ---	有効、無効*1	編集、削除*2
2 ---		
3 ---		
4 ---		
5 ---		
6 ---		
7 ---		

*1 カーソルで選択している項目の設定がされている場合は有効/無効を切り替えることができます。
*2 カーソルで選択している項目から右スライドすると “編集”/“削除” が選択できます。

編集

タイマーエアコンの設定が編集できます。

機能	変更内容
出発時刻	時刻 (10 分間隔)
繰り返し*1	月曜日 — 日曜日
温度	18.5°C ～ 31.5°C
デフロスタ（フロント）	有効/無効
デフロスタ（リア）	有効/無効

*1 繰り返しの曜日を一つも設定していない場合、設定している時刻で一度だけタイマーエアコンが作動します。

▼ 離れた場所からエアコンをつけるとき (リモートエアコン)

お手持ちのスマートフォンを使用して、出発前にエアコンを遠隔操作で作動させることができます。リモートエアコンの作動中は、スマートフォンで設定状態を確認することができます。リモートエアコンを作動させるには、電源ポジションを OFF にしてください。
詳しくはコネクティッドサービス取扱説明書をご確認ください。

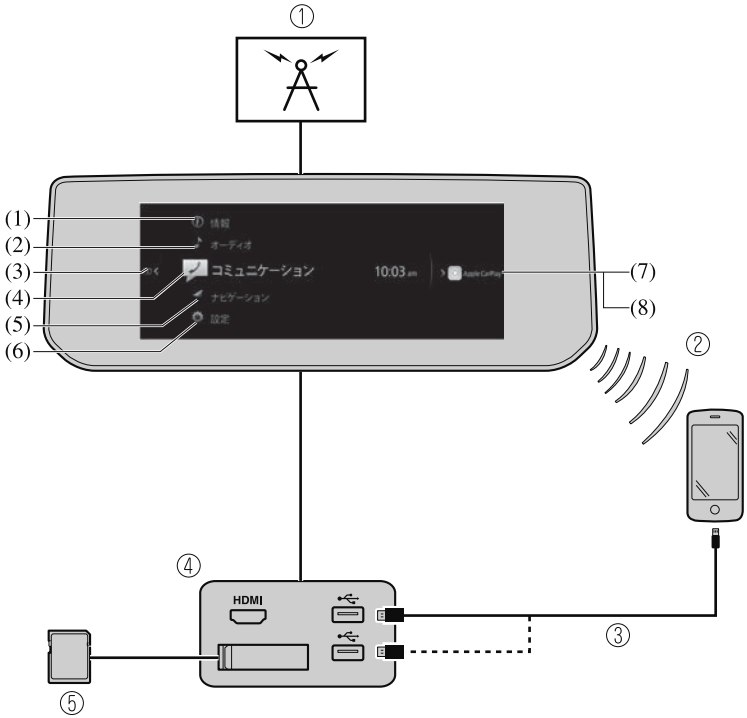
注意

- リモートエアコンを利用するには、コネクティッドサービスに申し込む必要があります。
- お手持ちのスマートフォンが、コネクティッドサービスにより車両と接続されているときに、リモートエアコンを使用できます。
- ご利用のスマートフォンの機種によっては、リモートエアコンを利用できない場合がありますので、事前にご確認ください。

マツダコネクトとは?

▼ マツダコネクトとは?

本書では、マツダコネクトの一部取り扱い情報のみ記載しています。詳細は、マツダサイトから、ウェブ取扱説明書をご確認ください。



1. ラジオ/テレビ
2. Bluetooth®オーディオ/Bluetooth®ハンズフリー/SMS (Short Message Service)
3. USB オーディオ/USB ビデオ
4. USB ポート*1/SD カードスロット*2/HDMI ポート
5. SD カード (ナビゲーションシステム)*

*1 USB ポートの位置は仕様により異なります。
*2 SD カードスロットは、ナビゲーションシステム用です。ナビゲーションシステム用の SD カード (マツダ純正品) を差し込んで使用します。

No.	メニュー	内容
(1)	情報	**i-DM:** i-DM のスコアや運転操作傾向が確認できます。 **電費履歴:** 走行中の電費履歴が確認できます。 電費は、電力消費率の略称です。 **バッテリーモニター:** バッテリーの詳細情報を確認できます。 **車両ステータスモニター:** 車両ステータス情報が確認できます。
(2)	オーディオ	FM Bluetooth USB1 Audio/USB2 Audio USB1 Video/USB2 Video スマートフォン連携/Apple CarPlay/Android Auto TV HDMI オーディオ OFF
(3)	通知一覧	車両からのおしらせを表示します。件数を表示し、100 件以上あるときは、「99+」と表示します。重大故障が発生しているときは、背景が橙色または赤色になります。
(4)	コミュニケーション	スマートフォンなどの携帯機器とマツダコネクトを Bluetooth®で接続することで、ハンズフリー通話やショートメッセージ機能をご利用いただけます。
(5)	ナビゲーション	ナビゲーションシステム用 SD カードが差し込まれている場合に、ナビゲーションシステムが使用できます (ナビゲーションシステム装備車)。 ナビゲーションシステム用 SD カードが差し込まれていない場合は、車両の進行方向を示すコンパスが表示されます。コンパスは、車両停車時、または低速走行時には、正しい方位を示さない場合があります。 ナビゲーションシステムの操作については、ナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。

No.	メニュー	内容
(6)	設定	マツダコネクトの画面/サウンド設定や車両機能の設定を変更できます。 **EV システム:** タイマー充電やタイマーエアコンなどの EV 特有機能の設定をします。 **画面表示:** ディスプレイの明るさや表示内容の設定をします。 **サウンド:** オーディオや警報音などの設定をします。 **安全装備:** i-ACTIVSENSE の設定をします。 **車両装備:** ライトやドアロックなど車両装備の設定をします。 **通信:** Bluetooth などの設定をします。 **システム:** 言語や操作などの一般的な設定をします。
(7)	Apple CarPlay	Apple CarPlay に対応した iPhone を USB スロットに接続することにより、Apple CarPlay を利用することができます。
(8)	Android Auto	Android Auto™に対応した Android™スマートフォンを USB スロットに接続することにより、Android Auto™を利用することができます。

⚠ 警告

オーディオは、車を止めてから操作する。
走行中の操作は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

USB/HDMI 端子に接続したコードが、セレクトレバーに絡まないようにする。
運転操作がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転中にポータブルオーディオ機器などを調節しない。
走行中に調節すると前方不注意で重大な事故につながるおそれがあります。ポータブルオーディオ機器などの調節は必ず車両を停止した状態で行なってください。

⚠ 注意

安全運転をさまたげないように、運転中は車外の音が聞こえる程度の音量で使用してください。

知識

・EV システムを停止した状態で、マツダコネクトを長時間使用しないでください。12V バッテリーがあがるおそれがあります。
・車内、または車の近くで携帯電話や無線機を使用すると、ノイズ (雑音) が発生することがありますが故障ではありません。

マツダコネクトの基本操作

▼ マツダコネクトの基本操作

知識

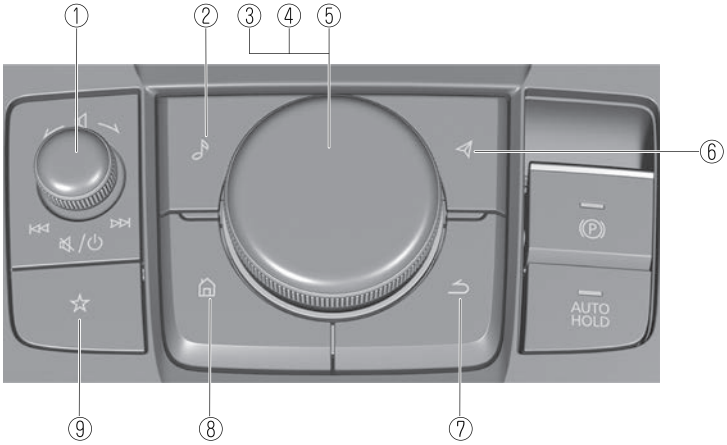
本書に記載されている機能の説明、画面やボタンの文字および形状などは、実際と異なる場合があります。
また、これらのコンテンツは、今後のソフトアップデートに応じて、予告なしに順次変更される可能性があります。

▼ コマンダースイッチによる操作

各画面へのスイッチ操作と、コマンダー操作ができます。
コマンダースイッチに包み込むように持つと各画面へのスイッチに指がかかります。
手元を見なくても、各画面に切り替えることができます。

知識

安全のため、走行中は一部の操作をすることができません。



スイッチの形状は仕様により異なります。

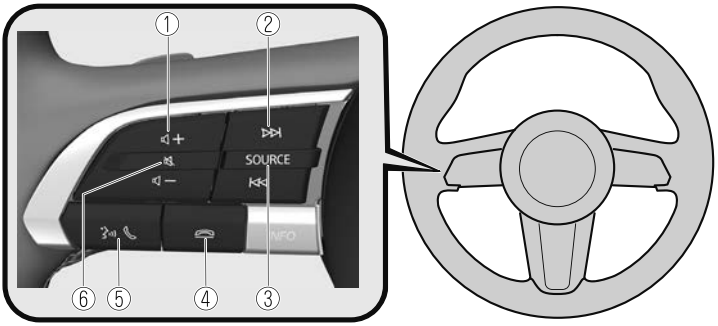
No.	アイテム	説明
1		**<u>音量ノブ:</u>** **音量調節** 音量ノブをまわして音量を調節します。 音声ガイダンスされているときに音量調節すると、音声ガイダンスの音量変更となります。 ハンズフリーで通話しているときに音量調節すると、通話音量の変更になります。 音量ノブを押すと消音できます。もう一度音量ノブを押すと、消音が解除されます。 **電源 OFF/ON** 長押しすると、マツダコネクトの電源が OFF になり、画面が消えます。 もう一度長押しすると、マツダコネクトの電源が ON になります。 **知識** Apple CarPlay、USB オーディオ、Bluetooth®オーディオなど一時停止が可能なオーディオソースを再生中に音量ノブを押して消音すると、音楽は一時停止します。もう一度音量ノブを押すと消音が解除され、同時に一時停止も解除されます。 **選局** **(ラジオ)** ラジオを聞いているときに音量ノブを左右にスライドさせて、お気に入りに登録している放送局を呼び出すことができます。放送局は、音量ノブをスライドさせるたびに切り替わります。 また、ピッと音がするまで長押しすると自動選局を始めます。放送を受信すると止まります。 **(テレビ)** テレビを視聴しているときに音量ノブを左右にスライドさせて、チャンネルリスト順に放送局を呼び出すことができます。放送局は、音量ノブをスライドさせるたびに切り替わります。 **頭出し** オーディオやビデオを再生中にボタンを操作すると、曲やビデオファイルの頭出しをすることができます。 音量ノブを右にスライドさせると次の曲の頭に進み、左にスライドさせると前の曲の頭に戻ります (曲順は選択しているファイルリスト順です)。

No.	アイテム	説明
2		**オーディオボタン:** 最後に再生されたオーディオソース画面が表示されます。 **(Apple CarPlay/Android Auto™音楽再生中)** Apple CarPlay/Android Auto™の再生画面を表示します。
3		**コマンダーノブ (選択):** コマンダーノブをまわす、または、スライドさせて使いたい機能を選択します。
4		**コマンダーノブ (決定):** コマンダーノブを押して使いたい機能を決定します。
5		**タッチパッド (選択):** 文字入力画面とナビゲーションシステムの地図上の移動、拡大、縮小に使用できます。
6		**マップボタン:** ナビゲーション画面を表示します (ナビゲーションシステム装備車)。 ナビゲーションシステムを機能させるには、ナビゲーションシステム用 SD カードが必要となります。 ナビゲーションシステム用 SD カードが差し込まれていない場合は、車両の進行方向を示すコンパスが表示されます。 ナビゲーションシステムの操作については、ナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。 **(Apple CarPlay/Android Auto™ルート案内中)** Apple CarPlay/Android Auto™のマップ画面を表示します。
7		**バックボタン:** 前の画面に戻ります。
8		**ホームボタン:** ホーム画面を表示します。 **(Apple CarPlay/Android Auto™表示中)** Apple CarPlay/Android Auto™のホーム画面を表示します。 **(Apple CarPlay/Android Auto™接続中)** マツダコネクトの画面を表示しているときに長押しすると、Apple CarPlay または Android Auto™の画面に切り替わります。また Apple CarPlay または Android Auto™の画面を表示しているときに長押しすると、マツダコネクトの画面に切り替わります。

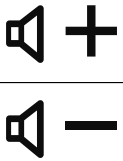
No.	アイテム	説明
9	☆	**お気に入りボタン:** お気に入り画面を表示します。 長押しすると、そのとき画面に表示している連絡先や放送局、ナビゲーションの地点などをお気に入りに登録できます。

▼ オーディオリモートコントロールスイッチによる操作

ハンドルの左側にあります。手元でオーディオの操作ができます。



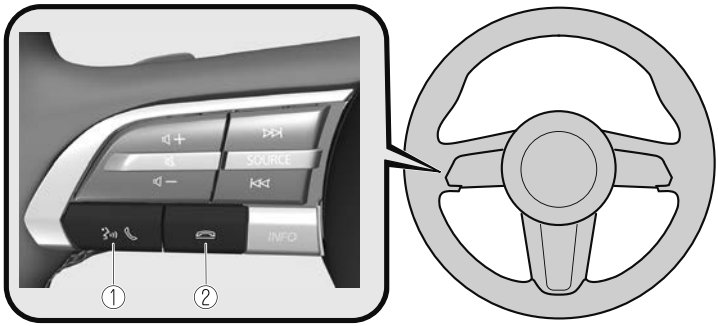
スイッチの形状は仕様により異なります。

No.	アイテム	説明
1		**<u>音量調節ボタン:</u>** +、-ボタンを操作して、音量を調節します。 音声ガイダンスされているときに音量調節すると、音声ガイダンスの音量変更となります。 ハンズフリーで通話しているときに音量調節すると、通話音量の変更になります。
2	 	**<u>選局ボタン:</u>** **選局** **(ラジオ)** ラジオを聞いているときにボタンを押して、お気に入りに登録している放送局を呼び出すことができます。放送局は、ボタンを押すたびに切り替わります。 また、ピッと音がするまで長押しすると自動選局を始めます。放送を受信すると止まります。 **(テレビ)** テレビを視聴しているときにボタンを押して、チャンネルリスト順に放送局を呼び出すことができます。放送局は、ボタンを押すたび切り替わります。 **頭出し** オーディオやビデオを再生中にボタンを操作すると、曲やビデオファイルの頭出しをすることができます。  を押すと次の曲の頭に進み、  を押すと前の曲の頭に戻ります (曲順は選択しているファイルリスト順です)。
3	**SOURCE**	**<u>ソースボタン:</u>** ボタンを押すごとにオーディオのソースを切り替えることができます。 また、長押しすると再生中のオーディオが OFF になり、オーディオソースの選択画面を表示します。 **(Apple CarPlay/Android Auto™再生時)** ボタンを長押しすると再生中のオーディオが OFF になります。
4		**<u>ハングアップボタン*1：</u>** **(通話中)** ボタンを押すと、通話を終了します。 **(電話を着信中)** ボタンを押すと、応答保留になります。

No.	アイテム	説明
5		**トーク/ピックアップボタン*1：** **(電話を着信中)** ボタンを押すと、電話に応答します。
6		**ミュートボタン:** ボタンを押すと消音します。 もう一度押すと、消音が解除されます。 **知識** Apple CarPlay、USB オーディオ、Bluetooth®オーディオなど一時停止が可能なオーディオソースを再生中にミュートボタンを押して消音すると、音楽は一時停止します。もう一度ミュートボタンを押すと消音が解除され、同時に一時停止も解除されます。

*1　トーク/ピックアップボタンとハングアップボタンは音声認識の操作でも使用します。
→6-23 ページ 「音声認識機能による操作」

▼ 音声認識機能による操作



スイッチの形状は仕様により異なります。

No.	アイテム	説明
1		**トーク/ピックアップボタン：** ボタンを押すと音声認識のトップ画面が表示され、音声認識が起動します。 **(音声ガイダンスが流れているとき)** ボタンを押すと、音声ガイダンスをスキップできます。
2		**ハングアップボタン:** ボタンを押すと、音声認識が終了します。

音声認識の起動

オーディオリモートコントロールスイッチのトーク/ピックアップボタンを押すと、音声認識のトップ画面が表示されます。

知識

Apple CarPlay または Android Auto™を接続中は、マツダコネクトの音声認識は起動せず、Siri または Android Auto™の音声認識が起動します。

常に使用できるコマンド

「ヘルプ」 - 使用可能な音声コマンドを確認できます。
「戻る」 - 前の画面に戻ります。電話番号、または住所入力画面で発話したときは、直前に入力した内容を削除します。
「キャンセル」 - 音声認識が終了します。

音声認識を終了する

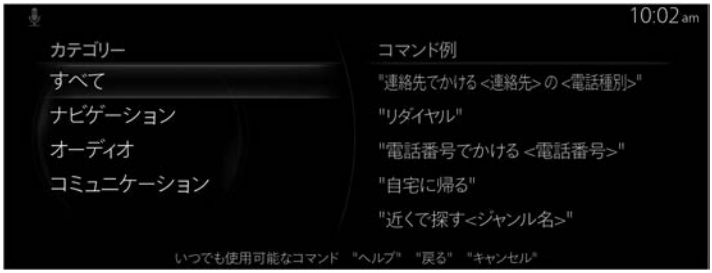
次の操作のいずれかを行ないます:

・ハングアップボタンを押す。

・トーク/ピックアップボタンを長押しする。
・発話:「キャンセル」

音声認識機能の便利な使いかた

音声認識のトップ画面では、それぞれのカテゴリーにおいて有効な音声コマンドの例がディスプレイに表示されます。
使用できる音声コマンドをあらかじめ知っておくと便利です。



知識

・本書に記載しているコマンドは、使用可能なコマンドの一例です。仕様により使用できないコマンドもあります。
・バージインの設定が ON のときは、音声ガイダンスが流れている間でも音声コマンドを発話して操作することができます。バージイン設定については、マツダコネクト取扱書の「システム」を参照ください。
→マツダコネクト取扱書 「システム」
・ナビゲーション画面で使用できる音声コマンドの詳細は、ナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。

音声認識を失敗しないようにするために、次のポイントに注意してください:

・Bluetooth®で接続されている電話があるときに、電話関連のコマンドが利用可能になります。音声認識で電話を操作する前に電話を Bluetooth®に接続してください。
・少し大きめの声で発話すると認識されやすくなりますが、過度に大声を出す必要はありません。同乗者に話しかけるよりも少し大きめの声が目安です。
・必要以上にゆっくりしゃべらず、通常話す時の速さで発話してください。
・機器側の電話帳にふりがな情報が未登録の場合、音声認識で電話帳を呼びだすことができません。
・機器側の電話帳の人物を音声認識で呼びだす場合、登録されている名前が長いほど認識率は向上します (「はは」、「いえ」、「つま」 などのように短い場合、認識に失敗するときがあります)。
・単語や数字の間で区切らないように発音してください。
・指定された音声コマンド以外は、認識することができません。指定された音声コマンドを発話してください。
・マイクの方に向いたり近づいたりする必要はありません。安全運転中の姿勢のまま音声コマンドを発話してください。
・Bluetooth®ハンズフリーを使用するときは、窓を閉めてください。窓が開いていると、車外の雑音やエアコンの気流の乱れにより、音声が正しく認識されないことがあります。
・エアコンの風がマイクに当たっていないことを確認してください。
・音声ガイダンス中に音声コマンドを発話するときは、少し大きめの声で発話してください。ただし過度に大声を出す必要はありません。
・ガイダンス音量を大音量に設定すると、音声が正しく認識されないことがあります。その場合は、バージインの設定を OFF にしてください。

音声認識機能に対応しているコマンドの一例

{}内には、指定する名前や数字が入ります。

共通

・戻る
・ヘルプ (画面ごとのヘルプガイダンスを聞くことができます。)
・{行番号} (画面の何番目かを選択できます。)
・次のページ
・前のページ
・キャンセル

メニュー

・すべて
・ナビゲーション
・オーディオ
・コミュニケーション

設定

・音声認識設定画面
・ディスプレイ OFF

音楽

・アーティストで再生 (“アーティストで再生 {アーティスト名}” も利用できます。)
・アルバムで再生 (“アルバムで再生 {アルバム名}” も利用できます。)
・プレイリストで再生 (“プレイリストで再生 {プレイリスト名}” も利用できます。)
・曲で再生 (“曲で再生 {曲名}” も利用できます。)
・オーディオブックで再生 (“オーディオブックで再生 {オーディオブック名}” も利用できます。)
・ポッドキャストで再生 (“ポッドキャストで再生 {ポッドキャスト名}” も利用できます。)

ラジオ

・{FM 放送局名}

ソース

・オーディオ切替え (“オーディオ切替え USB”*1 や“USB”*1 も利用できます。)
・オーディオ OFF (“オーディオ切替え オーディオ OFF” も利用できます。)

電話

・電話番号でかける (“電話番号でかける {電話番号}” も利用できます。)
・電話履歴
・連絡先でかける (“連絡先でかける {連絡先}”や“連絡先でかける {連絡先}の{番号種別}” も利用できます。)
・リダイヤル

*1 :“USB”以外にも次のオーディオソース名が利用できます: Bluetooth/FM/USB1 Audio/USB2 Audio/USB1 Video/USB2 Video/TV/HDMI

知識

・いくつかのコマンドは装備により使用できません。
・機器の接続状況や使用状況によっては、使用できないコマンドがあります。

▼ マツダコネクトをご使用の前に

Gracenote® データベース

USB オーディオ、Bluetooth®オーディオを再生した場合、車両に収録されているデータベースの中からアルバムアートを検索し、情報がデータベースに収録されていると、情報を自動で付与します。本機に収録されているデータベース情報は、Gracenote®音楽認識サービスのデータベース情報を使用しています。

テレビ

⚠ 注意

- 本機は、ARIB (電波産業会) 規格に基いた商品仕様になっております。将来規格変更があった場合は、商品仕様を変更する場合があります。
- 各社の商標および製品商標に対しては、特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。
- 本機に搭載されているソフトウェア、またはその一部につき、改変、翻訳、翻案、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルを行ったりそれに関与してはいけません。
- 本機を、法令により許されている場合を除き、日本国外に持ち出してはいけません。

コンテンツ権利保護専用方式について

本機は、コンテンツ権利保護専用方式 (ソフトウェア方式) を採用しています。そのため、B-CAS カードは不要です。
→マツダコネクト取扱書 「TV」

Apple CarPlay

⚠ 注意

- 適用法によって認められる最大の範囲で Apple Carplay (以下「アプリケーション」) 及びその情報は、瑕疵 (かし) の有無を問わずかつ一切の保証を伴わない「現状有姿」かつ「利用可能な限り」提供され、お客様の責任の下で使用されるものとします。
  アプリケーションの商品性、満足すべき品質、特定目的への適合性、正確性、平穏享有、第三者の権利の非侵害性に関する明示的、黙示的または法的な保証を含め、マツダは一切の保証はしません。適用法により禁止されない限り、アプリケーションとその使用または使用不能に起因/関連する、人身傷害または付随、特別、間接もしくは派生損害等について、いかなる場合もマツダおよびマツダ関連会社は一切の責任を負いません。
  なお、当該損害等には以下のものを含みます。
  - 逸失利益
  - データの破損または損失
  - 事業の中断またはその他のいかなる商業的損害もしくは損失等
- Apple CarPlay を使用するときは、運転に集中して周囲の状況を十分に確認し、運転者の責任において Apple CarPlay を使用してください。

知識

・Apple CarPlay は Apple 社によって提供されています。使用するには Apple iOS 利用規約および Apple CarPlay 利用規約に同意していることを条件としています。
・Apple CarPlay 使用中は、場所や速度などの車両データが iPhone に転送されます。詳しくは Apple プライバシーポリシーを参照ください。

Android Auto™

注意

- 適用法によって認められる最大の範囲で Android Auto™ (以下「アプリケーション」) 及びその情報は、瑕疵 (かし) の有無を問わずかつ一切の保証を伴わない「現状有姿」かつ「利用可能な限り」提供され、お客様の責任の下で使用されるものとします。
  アプリケーションの商品性、満足すべき品質、特定目的への適合性、正確性、平穏享有、第三者の権利の非侵害性に関する明示的、黙示的または法的な保証を含め、マツダは一切の保証はしません。
  適用法により禁止されない限り、アプリケーションとその使用または使用不能に起因/関連する、人身傷害または付随、特別、間接もしくは派生損害等について、いかなる場合もマツダおよびマツダ関連会社は一切の責任を負いません。
  なお、当該損害等には以下のものを含みます。
  - 逸失利益
  - データの破損または損失
  - 事業の中断またはその他のいかなる商業的損害もしくは損失等
- Android Auto™を使用するときは、運転に集中して周囲の状況を十分に確認し、運転者の責任において Android Auto™を使用してください。

知識

・Android Auto™は Google 社によって提供されています。使用するには Android Auto™利用規約に同意していることを条件としています。
・Android Auto™使用中は、場所や速度などの車両データが Android™スマートフォンに転送されます。詳しくは Google プライバシーポリシーを参照ください。

商標について

・iPhone, iPod touch, iPod nano, Siri and Apple Music are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.
・The trademark “iPhone” is used in Japan with a license from Aiphone K.K.
・Apple CarPlay is trademarks of Apple Inc.
・iOS is a trademark or registered trademark of Cisco in the U.S. and other countries and is used under license.
・“Made for iPhone” and “Made for iPod” mean that an accessory has been designed to connect specifically to iPhone or iPod, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards.

Please note that the use of this accessory with iPhone or iPod may affect wireless performance.

Made for
iPhone 11 Pro Max
iPhone 11 Pro
iPhone 11
iPhone XS Max
iPhone XS
iPhone XR
iPhone X
iPhone 8 Plus
iPhone 8
iPhone 7 Plus
iPhone 7
iPhone SE
iPhone 6s Plus
iPhone 6s
iPhone 6 Plus
iPhone 6
iPhone 5s
iPod touch (7th generation)
iPod touch (6th generation)

Made for iPhone | iPod

・Google, Android, Android Auto and other related marks are trademarks of Google LLC.
・AUDIOPILOT は、ボーズコーポレーションの登録商標です。
・Centerpoint は、ボーズコーポレーションの登録商標です。
・Windows Media and Microsoft are registered trademarks of Microsoft Corporation U.S. in the United States and other countries.
本製品は、Microsoft Corporation と複数のサードパーティの一定の知的財産権によって保護されています。
本製品以外での前述の技術の利用もしくは配布は、Microsoft もしくは権限を有する Microsoft の子会社とサードパーティによるライセンスがない限り禁止されています。
・Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、パナソニック(株)はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

Bluetooth®

・SDHC Logo is a trademark of SD-3C, LLC.

SDHC™

・HDMI、High-Definition Multimedia Interface、および HDMI ロゴは、米国およびその他の国における HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または、登録商標です。

・Gracenote 及び Gracenote ロゴとロゴタイプは、米国およびその他の国における Gracenote Inc.の登録商標または商標です。



オーディオアンプのライセンスについて (ボーズオーディオ付車は除く)

License for CMSIS-RTOS RTX Implementation

Copyright (c) 1999-2009 KEIL, 2009-2015 ARM Germany GmbH, 2013-2016 ARM Ltd All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

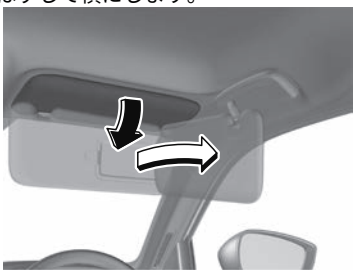
- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of ARM nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

サンバイザー

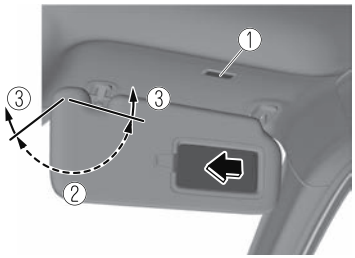
▼ サンバイザー

前からの光をさえぎるときは、下げます。
横からの光をさえぎるときは、下げた後フックからはずして横にします。



▼ バニティミラー (化粧鏡)

バニティミラーは、サンバイザーの裏側にあります。
ランプ装備車はフタを開けるとランプが点灯します。
サンバイザーの傾きが点灯範囲内のときのみランプが点灯します。



1. バニティミラーランプ
2. 点灯範囲
3. 消灯範囲

知識

12V バッテリーあがりを防止するため、電源ポジションが OFF でバニティミラーランプが点灯したままのときは自動的に消灯します。
バニティミラーランプは、次の操作により、再度点灯することができます。

- いずれかのドアを開閉する。
- いずれかのドアを解錠する。
- 電源ポジションを ACC または ON にする。
- ルームランプまたはフロントマップランプを点灯させる。

室内照明

▼ 室内照明

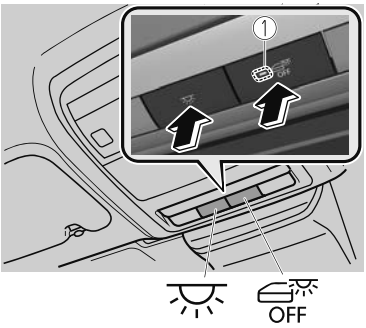
知識

EV システムを停止しているとき、ランプを長時間点灯させたままにしないでください。12V バッテリーがあがるおそれがあります。

ルームランプ

電源ポジションに関係なく使用できます。

フロント

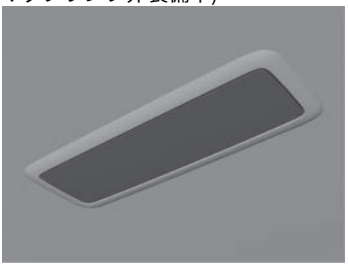


1. 表示灯

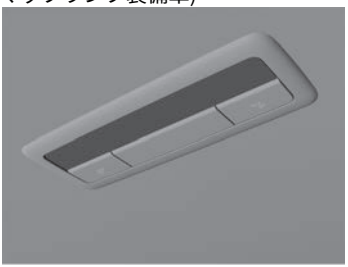
スイッチ	ルームランプ
ON/OFF	常時点灯/常時消灯
OFF DOOR OFF	ドア連動の ON/OFF を切り替えます。ドア連動 OFF の場合は、スイッチ内の表示灯が点灯します。 **ドア連動 ON(スイッチ内の表示灯消灯)** ・いずれかのドアを開けるとランプが点灯します。 ・イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯/消灯します。

リア

(リアマップランプ非装備車)



(リアマップランプ装備車)



知識

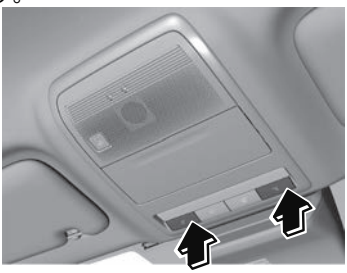
フロントルームランプのスイッチの操作に連動してリアルームランプも点灯/消灯します。

マップランプ

電源ポジションに関係なく使用できます。

フロント

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

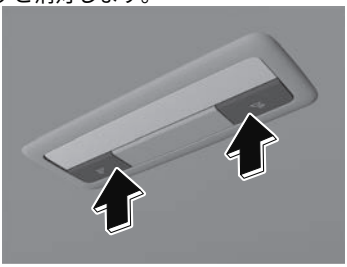


知識

・次のときはスイッチを押しても消灯しません。
  ・ルームランプの ON/OFF スイッチ( )を操作して、ランプを点灯させているとき。
  ・ドアの開閉に連動して、ランプが点灯しているとき。
  ・イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

リア*

ルームランプの ON/OFF スイッチ( )がOFF のとき、スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

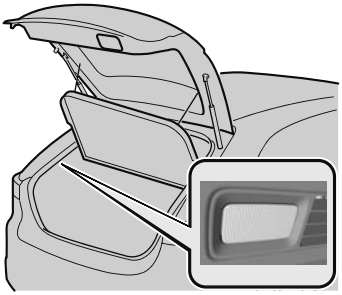


知識

・リアマップランプが消灯しているときは、ルームランプのスイッチの操作に連動して点灯/消灯します。
・次のときはスイッチを押しても消灯しません。
  ・ルームランプの ON/OFF スイッチ( )を操作して、ランプを点灯させているとき。
  ・ドアの開閉に連動して、ランプが点灯しているとき。
  ・イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

ラゲッジルームランプ

リアゲートを開けるとラゲッジルームランプが点灯し、閉めると消灯します。



知識

EV システムが停止しているときに、リアゲートを長時間開けたままにしないでください。 12V バッテリーがあがるおそれがあります。

▼ イルミネーテッドエントリーシステム

ルームランプスイッチが DOOR 連動 ON の位置で、次のような操作をすると、ルームランプが点灯します。

・電源ポジションが OFF で、運転席ドアを解錠したとき。
・すべてのドアが閉まっている状態で、電源ポジションを OFF にしたとき。

知識

・点灯時間は操作によって異なります。
・12V バッテリーあがりを防止するため、電源ポジションが OFF で室内照明が点灯したままのときは、一定時間経過後に自動的に消灯します。
・イルミネーテッドエントリーシステムの作動時間を変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」
・ルームランプの ON/OFF スイッチを操作してルームランプを点灯させているときは、イルミネーテッドエントリーシステムは連動しません。

電源ソケット

▼ 電源ソケット

電源ポジションが ACC または ON のとき、電気製品の電源として使用します。
最大消費電力 120W (DC12V―10A) 以下の電気製品を使用してください。

接続のしかた

1. フタを開けます。



2. コード先端のプラグを電源ソケットに接続します。



1.プラグ

⚠ 注意

- 使用しないときは、必ずフタを閉めておいてください。ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障につながるおそれがあります。
- 電気製品のプラグはソケットに確実に差し込んでください。プラグが確実に差し込まれていないと、異常に発熱することがあり、ヒューズが切れるおそれがあります。
- 消費電力が 120W (DC12V―10A) を超える電気製品は使用しないでください。故障につながるおそれがあります。
- 電源ソケットに接続される機器によってはオーディオにノイズが発生することがあります。
- 電源ソケットに接続される製品によっては、警告灯が点灯するなど車両のシステムに影響をおよぼすおそれがあります。接続されている機器をはずし、問題が改善されるか確認してください。改善された場合、機器をソケットからはずした後、電源ポジションを OFF にしてください。問題が継続する場合、マツダ販売店にご相談ください。

知識

- EV システムを停止しているときに長時間使用すると、12V バッテリーがあがることがあります。
- シガーライターを差し込まないでください。

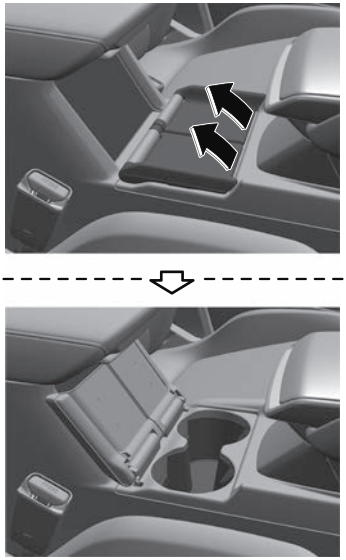
アジャスター機能付カップホルダー

▼ アジャスター機能付カップホルダー

⚠ 注意

走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると、やけどをするおそれがあります。

フロント



リア



ボトルホルダー

▼ ボトルホルダー

ペットボトルなどを置くことができます。



1. ボトルホルダー

⚠ 注意

フタのないペットボトルなどは置かないでください。走行中やドアを開閉するときにペットボトルなどの中身がこぼれるおそれがあります。

アシストグリップ

▼ アシストグリップ

⚠ 警告

アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。
服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しない。
アシストグリップに過度の負荷がかかると破損し、けがをするおそれがあります。

アシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



リアコートフック

▼ リアコートフック

⚠ 警告

アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。
服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

コートやジャケットなどをかけることができます。



収納

▼ 収納

⚠ 警告

荷物を積むときは確実に固定する。
荷物を確実に固定しないと、走行中や急ブレーキ時などに荷物が移動したりくずれたりして、けがや思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 走行中は、グローブボックスなどのフタを必ず閉めてください。急ブレーキ時や衝突時に収納ボックスのフタや内部の物でけがをするおそれがあります。
- フタのついていない収納スペースに物を入れるときは、収納のしかたに注意してください。収納の状態により、急ブレーキや急旋回時、急加速時などに内部の物が飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、収納ボックス内にメガネやライターを放置しないでください。収納ボックス内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こしたりすることがあります。

▼ オーバーヘッドコンソール

メガネやサングラスなどを入れることができます。



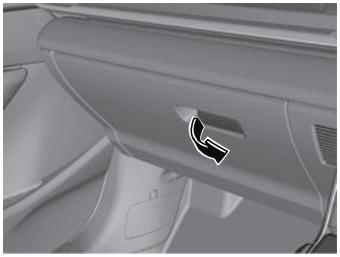
▼ コインボックス

使用するときは、フタを開けます。



▼ グローブボックス

開けるときは、ノブを手前に引きます。
閉めるときは、カチッと音がするまでフタを確実に押さえます。



▼ コンソールボックス

フタを開けるときは、フタをいちばん後ろまでスライドさせ、レバーを引いて上に引き上げます。



⚠ 注意

フタを使用するときは、フタの動く部品周辺に手や指を置かないでください。手や指などをはさんで、けがをするおそれがあります。

知識

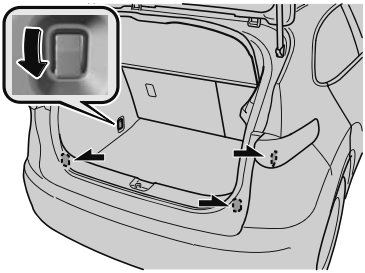
フタを前後にスライドさせることができます。



▼ ラゲッジルーム

ラゲッジフック

ロープやネットで荷物を固定するときに使用します。
フックの引っ張り荷重は 20 kg です。ロープを掛けて強く引っ張らないでください。



サブトランクボックス

サブトランクボックスはラゲッジマットの下にあります。
小物などを収納することができます。
ラゲッジマットを開きます。



1. ラゲッジマット

7 お手入れのしかた

手入れの方法、真冬の取り扱いなど

車と上手につきあうために..... 7-2
必ず守る.....7-2
お車に触れるときはけがに注意する.....7-3

点検、整備..... 7-4
点検整備について..... 7-4
定期点検.....7-5
ボンネット..... 7-5
日常点検.....7-7
ウォッシャー液の補充..... 7-10
ワイパーブレードの交換.....7-10
12V バッテリーの点検..... 7-14
キーの電池を交換するときは 7-15
タイヤの点検.....7-16

ヒューズ切れ、電球切れのとき 7-19
ヒューズの受け持つ装置.....7-19
ランプ類、電気装置が作動しないとき.....7-25

車の手入れ.....7-27
外装の手入れ.....7-27
内装の手入れ.....7-29

季節の準備.....7-32
冬に備えて..... 7-32

環境保護のために.....7-34
環境保護のために..... 7-34

必ず守る

▼ 違法改造はしない

車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自分で EV システムの改造や配線などをしたりしないでください。故障や、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、国土交通省に届け出た部品以外を装着すると違法改造になることがあります。部品を装着するときは、マツダ販売店にご相談ください。

▼ ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

ナンバープレートを取りはずしたり、位置を変えたりしないでください。ナンバープレートは正しい位置に確実に取り付けることが義務付けられています。

▼ タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

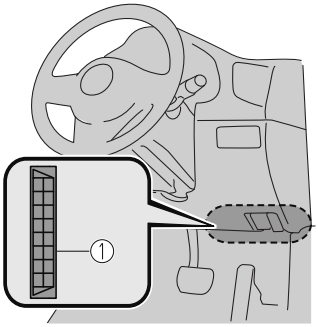
タイヤ、ホイール、ホイールナットはマツダが推奨するサイズを使用してください。推奨以外のサイズを使用すると走行に悪影響を及ぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、違法改造になることがあります。詳しくは車両スペックのページをご確認ください。

▼ 部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

電話、無線、オーディオなど電気部品や電子部品を取り付けるときは、電子機器類に悪影響がでるおそれがありますので、マツダ販売店にご相談ください。
また、不適当な部品を取り付けたり、取り付け方法を誤ったりすると、ブレーキ、エアバッグの誤作動、EV システム不調、車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 故障診断コネクターに点検整備用の故障診断機以外を接続しない

故障診断コネクターは、専用の機器を接続することで故障などを自己診断するためのコネクターです。
故障診断コネクターには、点検整備用の故障診断機以外を接続しないでください。故障診断機以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、12V バッテリーがあがったりするなど、思わぬ故障につながるおそれがあります。



1. 故障診断コネクター

お車に触れるときはけがに注意する

▼ 手入れをするとき

日常点検やタイヤ交換などの作業、洗車など手入れをするときは、けがをしないように注意してください。

▼ 見えにくい箇所へ触れるとき

手にけがをするおそれがありますので、軍手など厚手の手袋を使用して点検や作業などを行なってください。

点検整備について

▼ 点検整備について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
安心してお車に乗っていただくために、また、大きなトラブルを防ぐ意味からも、定期的に点検整備を実施してください。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。
いつもと違う点に気づいたら、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。
使用済み 12V バッテリーやタイヤを処分するときは、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

点検は平らな場所で、車に輪止めをしてから行なう。
車が不意に動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

モータールームの点検時は工具や布を置き忘れず、高電圧部位、高温部位に注意する。
EV システムの損傷や感電など重大な障害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- シャシーローラーを使用するときは、シャシーローラー上を走行中にシステムが誤作動することを防ぐため、次のシステムを OFF にしてください。
  - マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
  - クルージング & トラフィック・サポート (CTS)
  - スマート・ブレーキ・サポート (SBS)
  - AT 誤発進抑制制御 [前進時]
  - AT 誤発進抑制制御 [後退時]

知識

無料点検について
新車登録後 1 か月 (または走行距離 1,000 km)、6 か月 (または走行距離 5,000 km) は無料で点検が受けられます。
点検結果について
定期点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「定期点検整備記録簿および定期点検整備の記録」に記入してください。
日常点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

定期点検

▼ 定期点検

1 年点検、2 年点検はマツダ販売店で受けてください。

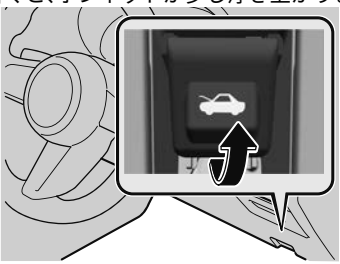
知識

・**シビアコンディションについて**
一般的な使用よりも厳しい使われかたをした車はシビアコンディションとして早めに点検整備をする必要があります。詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

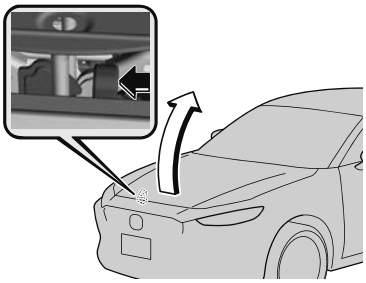
ボンネット

▼ ボンネットの開けかた

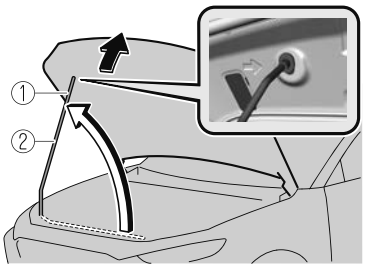
1. 運転席右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



2. ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを矢印の方向に倒したままボンネットを持ち上げます。



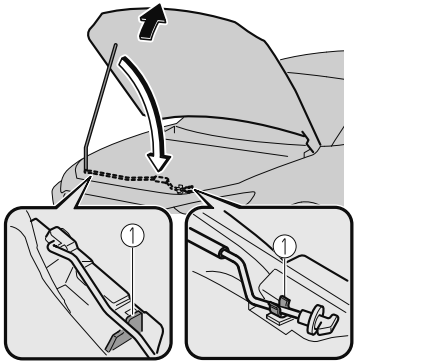
3. パッド部を持ってステーを起こし、矢印で示すボンネットのステー穴に差し込んで固定します。



1. パッド部
2. ステー

▼ ボンネットの閉めかた

1. モータールームに工具などが残されていないことを確認します。
2. ボンネットを手で支えてステーをはずし、パッド部を持って、クリップに固定します。



1. クリップ

3. ボンネットをゆっくりおろし、約 20 cm の高さから静かに落として閉めます。

⚠ 警告

ボンネットが確実に閉まっていることを確認する。
走行中にボンネットが開くと視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さえつけないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

日常点検

▼ 日常点検

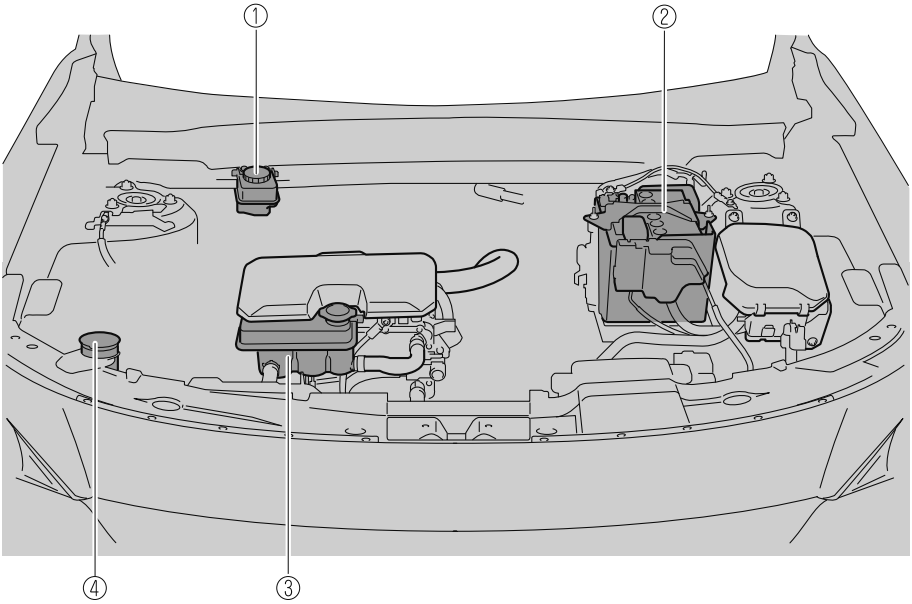
お客様のお車の使用状況に応じて、お客様自身の判断で適切な時期に実施していただく点検です。
日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。
「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

▼ 点検項目と点検箇所

運行において異常が見られた箇所

前回の運転中に異常を認めた箇所について運転に支障がないかを点検します。
点検要領については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

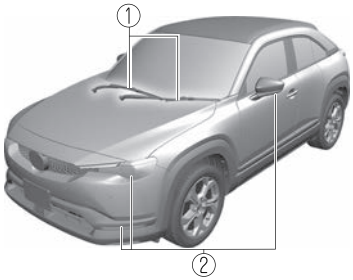
モータールームをのぞいて



1. ブレーキ液の量
2. 12V バッテリー液の量
3. 冷却水の量
4. ウォッシャー液の量

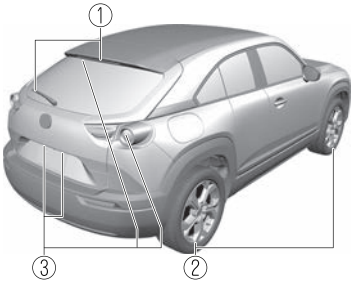
全体を見まわして

フロント



1. ウォッシャー液の噴射状態、ワイパーの払拭状態
2. 灯火装置の点灯、方向指示灯の点滅具合および汚れ、損傷

リア



1. ウォッシャー液の噴射状態、ワイパーの払拭状態
2. タイヤの空気圧、き裂、損傷、異常摩耗、溝の深さなど
3. 灯火装置の点灯、方向指示灯の点滅具合および汚れ、損傷

運転席に座って

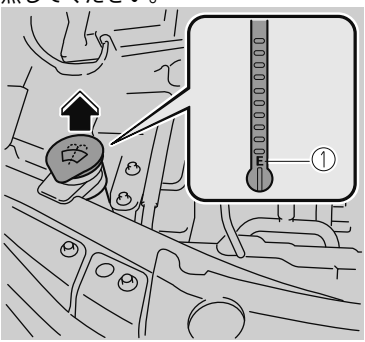


1. ブレーキペダルの踏みしろ(踏み込んだときのフロアマットとのすき間)、ブレーキの効き

ウォッシャー液の補充

▼ ウォッシャー液の補充

補充要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。



1. E (下限)

⚠ 注意

EV システムが作動しているときはウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液が EV システムなどにかかると、感電や破損するおそれがあります。

知識

ウォッシャータンクについて
ウォッシャータンクは、フロントワイパー用、リアワイパー用、ヘッドランプウォッシャー用で兼用しています。

ワイパーブレードの交換

▼ ワイパーブレード

⚠ 注意

- 自動洗車機でワックスが塗布されると、ワイパーが作動することがあります。
- ワイパーブレードの損傷を防ぐため、ワイパーブレードの上またはその付近でガソリン、灯油、シンナーまたはその他の溶剤を使用しないでください。
- 電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、次のような場合はワイパーが自動で作動することがあります。けがやワイパーの故障につながるおそれがあるため、手や指を挟まないように注意してください。洗車や整備を行なうときは、ワイパーレバーが OFF の位置になっていることを確認してください。
  - フロントガラスのレインセンサー上部に触れたとき
  - フロントガラスのレインセンサー上部を布などで拭いたとき
  - フロントガラスが手またはその他の物でたたかれたとき
  - レインセンサーが車両の中から手またはその他の物でたたかれたとき
- ワイパーを立てるときは、ワイパーをサービスポジションに動かす必要があります。正しい手順で行なってください。手順については 7-11 ページをお読みください。
  正しい手順で行なわないと、ワイパーブレード、ワイパーアーム、またはボンネットに傷がつくおそれがあります。

フロントガラスまたはブレードは異物または汚染物質により、ワイパーの効力を低減するおそれがあります。 共通の原因は、昆虫、樹液、市販の車用洗剤などです。

▼ フロントワイパーブレードの交換をするときは

ワイパーブレードが摩耗したりき裂が生じたりすると、ワイパーのふき取りが悪くなるおそれがあります。
ワイパーブレードを交換してください。

⚠ 注意

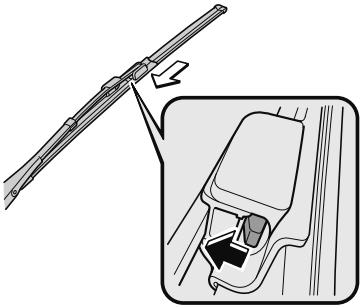
- マツダ純正品のワイパーブレードに交換してください。マツダ純正品以外のワイパーブレードに交換すると、ふき取り性能が低下するおそれがあります。
- ワイパーアームやその他の部品を破損するおそれがあるため、手でワイパーアームを掃除しないようにしてください。
- ワイパーゴムを交換するときは、必要以上にワイパーゴムを曲げないでください。ワイパーブレード内にある金属部分が変形し、ワイパーのふき取りが悪くなるおそれがあります。
- ワイパーアームを立てるときに、ワイパーブレードの先端を持たないでください。ワイパーブレードの先端を持つと、部品が変形してふき取り性能が低下するおそれがあります。
- 立てたワイパーを勢いよくもどすとワイパーアームやブレードが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じたりするおそれがあります。
- ワイパーブレード、ワイパーアーム、またはボンネットに傷がつくおそれがあるため、正しい手順で交換を行なってください。
  ワイパーを立てるときは、ワイパーをサービスポジションに動かす必要があります。
  ワイパーをおろすときは、電源ポジションを ON にしてワイパーを操作する前に、ワイパーブレードがサービスポジションにあることを確認してください。

知識

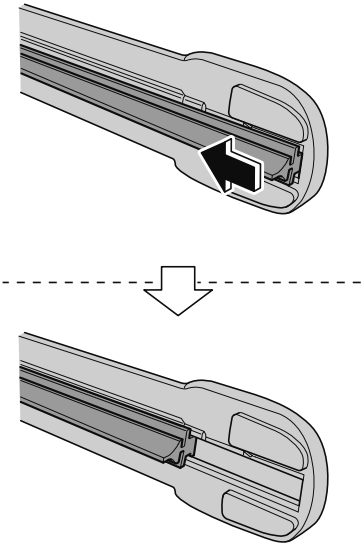
ワイパーブレードはお客様自身で交換できますが、ワイパーアームを交換することはできません。
ワイパーアームを交換するときはマツダ販売店にご相談ください。

次の手順でワイパーブレードの交換をしてください。

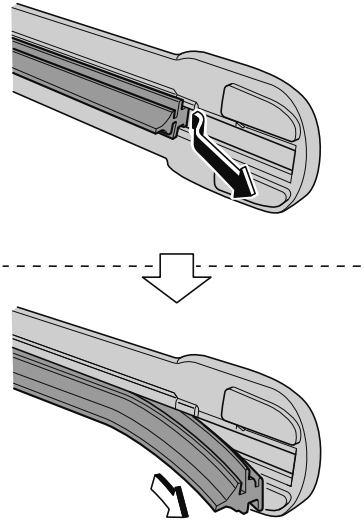
1. 次の手順で、ワイパーをサービスポジションまで動かします。
   a) 電源ポジションを ON にします。
   b) 電源ポジションを OFF にします。
   c) 電源ポジションを OFF にしてから 30 秒以内に、ワイパースイッチを MIST の位置まで 2 回押し上げます。
   手順が完了するとワイパーが作動し、サービスポジションで止まります。
2. ワイパーアームを立てます。
3. ワイパーアームのタブを押しながらブレード部品を矢印の方向にスライドさせ、ワイパーアームからブレード部品を取りはずします。



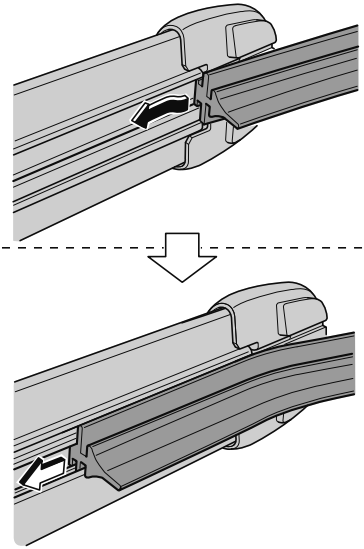
4. ブレードゴムを矢印の方向に引っ張り、ブレードホルダーの溝が確認できる位置までブレードゴムをスライドさせます。



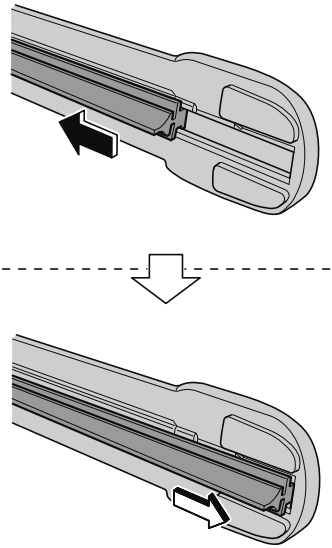
5. ブレードホルダーの溝から、ブレードゴムの先端を矢印の方向に引き、ブレードホルダーからブレードゴムを取りはずします。



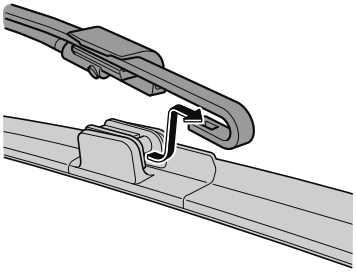
6. ブレードホルダーの溝から、新しいブレードゴムの先端を挿入し、ブレードホルダーの端にあたるまで、ブレードゴムをスライドさせます。



7. ブレードゴムを矢印の方向へ引っ張り、ブレードホルダーの溝が確認できる位置までブレードゴムをスライドさせた後、ブレードゴムの先端を逆方向にスライドさせます。



8. ブレードホルダーにブレードゴムが正しく取り付けられているか確認します。
9. ブレード部品をスライドさせてワイパーアームに取り付けます。



10. ワイパーアームをゆっくりとフロントガラスにおろします。

⚠ 注意

ワイパーアームはゆっくりおろしてください。ワイパーアームがフロントガラスに強くあたると、フロントガラスが破損するおそれがあります。

11. 次の手順で、ワイパーを初期位置まで動かします。
    a) ワイパーがフロントガラスの上におろされていることを確認します。
    b) 電源ポジションを ON にします。
    c) ワイパースイッチを MIST の位置まで 1 回押し上げます。
    手順が完了するとワイパーが作動し、初期位置で止まります。

▼ リアワイパーブレードの交換をするときは

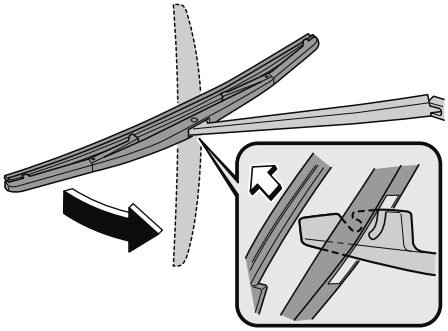
ワイパーブレードが摩耗したりき裂が生じたりすると、ワイパーのふき取りが悪くなるおそれがあります。
ワイパーブレードを交換してください。

⚠ 注意

ワイパーアームやその他の部品を破損するおそれがあるため、手でワイパーアームを動かさないようにしてください。

次の手順でワイパーブレードの交換をしてください。

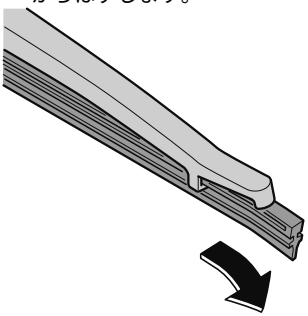
1. ワイパーアームを立てて、ワイパーブレードのロックがはずれるまで右に回し、ワイパーブレードを取りはずします。



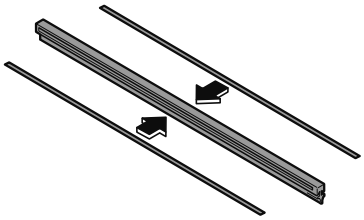
⚠ 注意

ワイパーアームはゆっくりおろしてください。ワイパーアームがリアガラスに強くあたると、リアガラスが破損するおそれがあります。

2. ブレードゴムを下に引っ張り、ブレードホルダーからはずします。



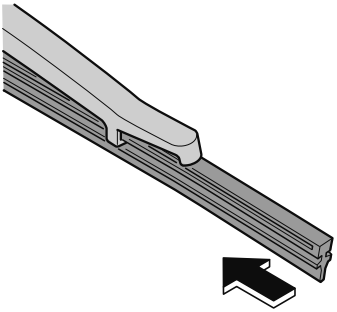
3. ブレード部品からブレードラバーを取りはずし、新しいブレードに取り付けます。



⚠ 注意

ブレード部品を曲げたり廃棄したりしないでください。再度使用する必要があります。

4. 慎重に新品のブレードラバーを取り付けてください。はずした手順と逆の手順でブレード部品を取り付けます。



12V バッテリーの点検

▼ 12V バッテリーの点検

12V バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態で EV システムを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。12V バッテリー液が不足しているときは、EV システム始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。
→8-17 ページ「12V バッテリーあがりについて」

- 点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートを参照してください。
- 交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。

キーの電池を交換するときは

▼ キーの電池を交換するときは

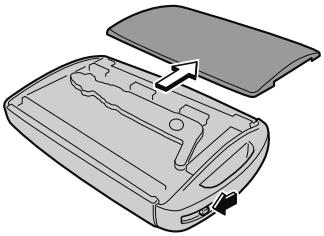
次のようなときは、電池残量が少なくなっていることが考えられます。

・メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示された
・キーの作動表示灯が点灯しない
・どのスイッチを押しても作動しない
・作動範囲が狭く不安定になる

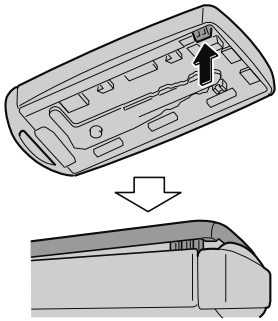
電池交換の作業を誤るとキーが傷つくおそれがあるため、マツダ販売店での電池交換をおすすめします。お客様自身で電池の交換をする場合は、次の手順で交換してください。

電池の規格: リチウム電池 CR2032

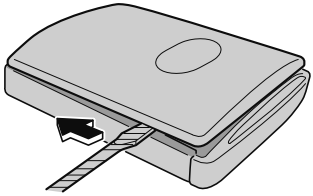
1. ノブを矢印方向に押しながら、下側カバーを取りはずします。



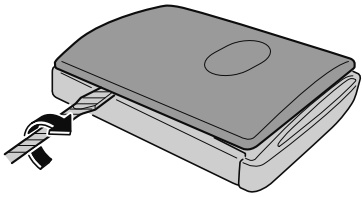
2. ツメを押し込んで、上側カバーのロックを解除します。



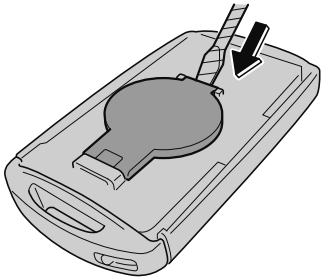
3. 保護テープを巻いたマイナスドライバーをすき間に差し込み、マイナスドライバーを矢印方向にスライドさせます。



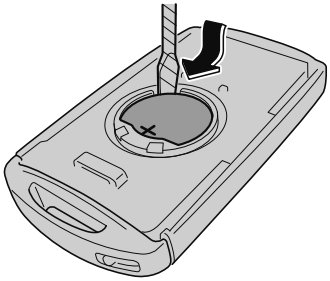
4. マイナスドライバーを矢印方向にまわして、上側カバーを取りはずします。



5. 保護テープを巻いたマイナスドライバーを使って、キャップを取りはずします。

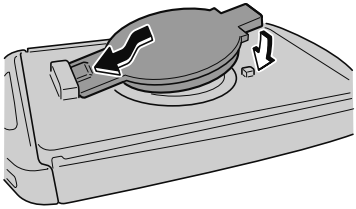


6. 保護テープを巻いたマイナスドライバーを使って、電池を取りはずします。

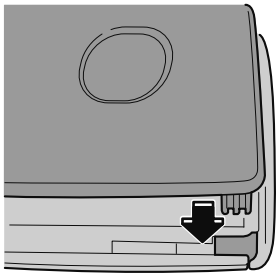


7. 電池の+側が上になるように、キーに新しい電池をはめ込みます。

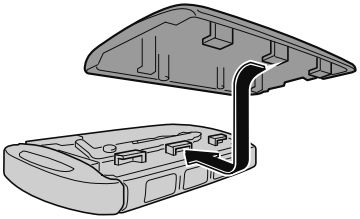
8. キャップを取り付けます。



9. 上側カバーを取り付けます。



10. キーのスロットに下側カバーのツメを差し込むように、下側カバーを取り付けます。



タイヤの点検

▼ タイヤの点検

タイヤの点検は法律で義務付けられています。点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

知識

タイヤの劣化について
タイヤはゴム製品のため、長期間使用すると徐々に劣化していきます。安全な走行状態を確保するために、使用開始後 5〜7 年を目安にマツダ販売店で点検を受けてください。

空気圧の点検

タイヤ間で空気圧の差が出ないように、空気圧計を使用して点検してください。必要に応じて規定値に調整してください。

⚠ 警告

タイヤの空気圧が不足したままで走行しない。
タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤの偏摩耗の原因となります。また、タイヤの空気圧が不足したままで高速走行すると、タイヤがバースト (破裂) するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤバルブキャップは純正品を使用する。
タイヤバルブキャップは純正品以外を使用しないでください。純正品以外を使用するとバルブの損傷により、適正空気圧にならないおそれがあります。そのまま走行すると空気圧が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

き裂、損傷の点検

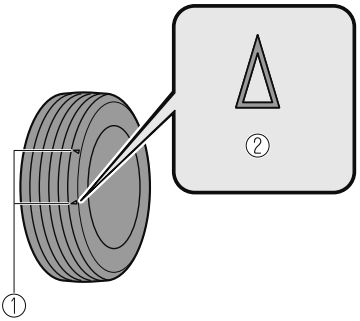
⚠ 警告

異常があるタイヤを装着すると、次の状況が起こることがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因になったりするおそれがあるため、正常なタイヤと交換する。

- 走行中にハンドルがとられる
- 異常な振動を感じる
- パンクやバースト (破裂) する
- 車の性能 (電力消費率・走行安定性・制動距離など) が十分に発揮できない
- 部品に悪影響を与える

溝の深さ、異常摩耗の点検

摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。



1. 摩耗限界表示
2. 摩耗限界表示の位置を示すマークの例です

⚠ 警告

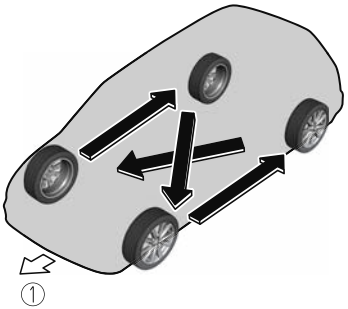
タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が現れているタイヤを使用しない。
そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト (破裂) するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。

知識

摩耗限界表示について
摩耗限界表示は、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6 mm だけ浅くなっています。

▼ タイヤの位置交換 (タイヤローテーション)

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命をのばすために、約 5,000 km 走行ごとにタイヤの位置を交換してください。
タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。



1. 前

⚠ 警告

タイヤを交換するときは指定されたサイズや種類のタイヤを装着する。
指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

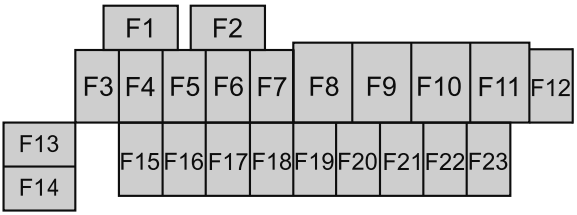
- タイヤの位置交換を行なう前にタイヤの空気圧、摩耗を点検してください。
  →7-16 ページ「タイヤの点検」
- タイヤの位置交換を行なった後はタイヤの空気圧を規定値に調整してください。
  →10-6 ページ「タイヤ空気圧」

知識

・お客様のお車にはスペアタイヤ、ジャッキが標準で搭載されていないため、お客様自身ではタイヤの位置交換を行なうことができません。タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。

ヒューズの受け持つ装置

▼ 室内ヒューズボックス

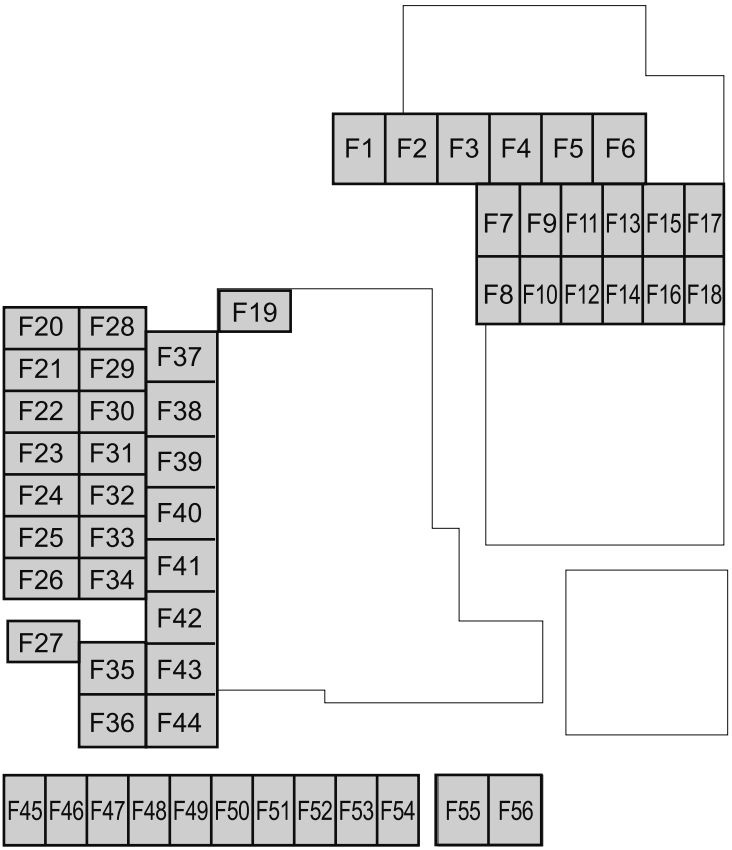


位置	容量	保護装置
F1	—	—
F2	—	—
F3	—	—
F4	15 A	運転席パワードアロック
F5	15 A	助手席パワードアロック
F6	—	—
F7	—	—
F8	—	—
F9	30 A	運転席パワーウインドー
F10	30 A	助手席パワーウインドー
F11	30 A	運転席パワーシート*
F12	—	—
F13	15 A	オーディオ
F14	20 A	シートヒーター*
F15	15 A	リアゲートロック
F16	15 A	イルミネーション

*グレード/仕様別装備

位置	容量	保護装置
F17	10 A	制動灯
F18	10 A	後退灯
F19	10 A	後面方向指示灯
F20	10 A	尾灯
F21	10 A	尾灯
F22	7.5 A	電動ステアリングロック
F23	—	—

▼ モータールーム内ヒューズボックス



位置	容量	保護装置
F1	30 A	電源ソケット
F2	20 A	ウインドーワイパーデアイサー*
F3	—	—
F4	—	—
F5	—	—

*グレード/仕様別装備

位置	容量	保護装置
F6	—	—
F7	20 A	EV コントロールシステム
F8	10 A	モーターコントロールシステム
F9	15 A	充電コントロールシステム
F10	10 A	EV コントロールシステム
F11	7.5 A	空調
F12	10 A	EV コントロールシステム
F13	—	—
F14	—	—
F15	—	—
F16	15 A	各種電源
F17	15 A	ウォーターポンプ
F18	15 A	電源ソケット
F19	60 A	電動パワーステアリング
F20	15 A	ヘッドランプ左 1
F21	15 A	ヘッドランプ右 1
F22	15 A	キーレスシステム
F23	30 A	ABS･DSC システム
F24	15 A	ヘッドランプ左 2
F25	15 A	ヘッドランプ右 2
F26	7.5 A	故障診断装置
F27	25 A	各種電源

位置	容量	保護装置
F28	25 A	各種電源
F29	15 A	ウォッシャー
F30	—	—
F31	15 A	ホーン
F32	15 A	ヘッドランプ*
F33	—	—
F34	20 A	EV コントロールシステム
F35	50 A	ABS･DSC システム
F36	30 A	パーキングロック
F37	30 A	リアウインドーデフォッガー (曇り取り)
F38	50 A	各種電源
F39	—	—
F40	40 A	空調
F41	—	—
F42	20 A	フロントワイパー/ウォッシャー
F43	—	—
F44	30 A	スターター
F45	10 A	EV コントロールシステム
F46	15 A	オーディオ
F47	15 A	各種電源
F48	7.5 A	エアバッグシステム
F49	15 A	メーター

*グレード/仕様別装備

位置	容量	保護装置
F50	15 A	ルームランプ
F51	25 A	オーディオ
F52	—	—
F53	15 A	EV コントロールシステム
F54	10 A	i-ACTIVSENSE
F55	—	—
F56	—	—

ランプ類、電気装置が作動しないとき

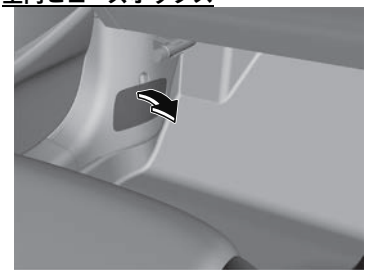
▼ ランプ類、電気装置が作動しないとき

ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。
まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。

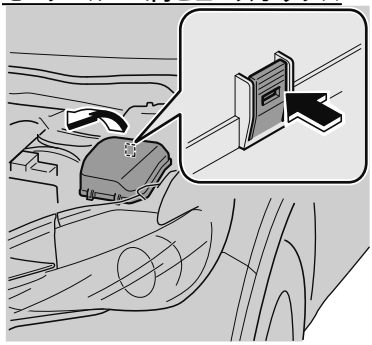
▼ ヒューズの交換

1. 電源ポジションを OFF にします。
2. ヒューズボックスのカバーを開きます。ヒューズボックスは助手席左下と、モータールーム内にあります。

室内ヒューズボックス



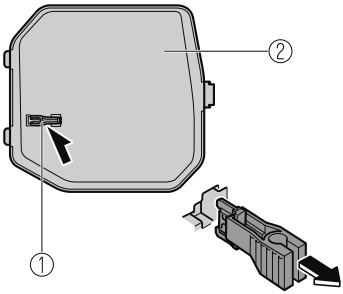
モータールーム内ヒューズボックス



知識

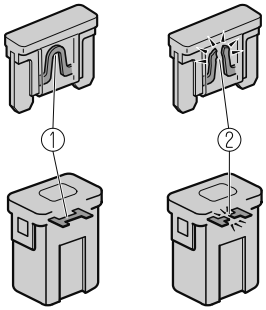
各ヒューズはグレードや仕様によりない場合があります。

3. ヒューズの位置を確認し、故障の状況から、点検すべきヒューズを確認してください。→7-19 ページ「ヒューズの受け持つ装置」
4. ヒューズを抜き取ります。



1. ヒューズはずし具
2. モータールーム内ヒューズボックスカバー

5. ヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換します。



1. 切れていない場合
2. 切れている場合

6. ヒューズボックスのカバーをもとの通り取り付けます。

⚠ 警告

規定容量を超えるヒューズを使用したり、ヒューズの代わりに針金や銀紙などを使用しない。
配線などが過熱し、焼損して火災になるおそれがあります。

⚠ 注意

必ずマツダ純正品または同等品を使用してください。

知識

ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ 電球 (バルブ) の交換

電球はすべて LED タイプのため交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

知識

・**ランプの曇りについて**
ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

外装の手入れ

▼ 外装の手入れ

車を美しく保つためには日ごろの手入れが大切です。

・保管、駐車は風通しのよい屋根のある場所をおすすめします。
・走行後は、車体に付いたほこりをやわらかい布か毛ばたきで払い落としましょう。
・飛び石などによる塗装の傷は腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
・洗車やワックスがけ、装備品の手入れは定期的に行ないましょう。
・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は塗装を損傷するので付着させないでください。万一付着した場合はただちにふき取るか、洗車してください。
・ヘッドランプ、制動灯などのプラスチックを使用しているランプ類は、コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用しないでください。
・次のようなときは、早めに洗車などの手入れを行なってください。
そのまま放置しておくと、塗装の変色や車体の腐食の原因となります。

  ・海岸地帯を走行したとき。
  ・凍結防止剤を散布した雪道を走行したとき。
  ・ばい煙や粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき。
  ・鳥のふん、虫の死がい、樹液、果実などが付いたとき。
  ・コールタール、塗料、砂じん、コンクリートの粉などが付いたとき。
  ・泥、ほこりが著しく付いたとき。

▼ 洗車するとき

⚠ 注意

- ワイパーを立てるときは、ワイパーをサービスポジションに動かす必要があります。正しい手順で行なってください。手順については 7-11 ページをお読みください。
  正しい手順で行なわないと、ワイパーブレード、ワイパーアーム、またはボンネットに傷がつくおそれがあります。
  ワイパーをおろすときはワイパーアームに手を添えながらゆっくりともどしてください。勢いよくもどすとワイパーブレードやワイパーアームが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じたりするおそれがあります。
- ワイパーレバーを OFF の位置にしてください。電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。
- 充電リッドが閉まっていることを確認し、ドアを施錠してください。水圧などで充電リッドが勢いよく開き、車体に傷がついたり、充電リッドが損傷したりするおそれがあります。
- モータールーム内に水をかけないでください。感電につながるおそれがあります。
- 洗車やワックスがけを行なうときは、車体のルーフ部の一点に強い力をかけないようにしてください。強い力をかけると、万一の場合、車体がへこむことがあります。
- 洗車をするときは、フロントバンパーまたはリアバンパーのセンサー部に強い水圧を与えたり、強くこすったりしないでください。障害物を正しく検知できなくなり、パーキングセンサーなどのシステムが正常に作動しないことがあります。

水洗いするとき

1. 車の足まわりに付いている泥を洗い落とします。
2. 車体上部から水をかけながら、やわらかいスポンジやセーム皮などで洗います。汚れがひどいときは洗車用洗剤を使用し、水で十分洗い流してください。
3. はん点が残らないように水をふき取ってください。

自動洗車機を使用するとき

⚠ 注意

- ドアミラーを格納してください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化が早まったりすることがあります。
- スポイラー装備車は、洗車機によってはスポイラーが引っかかり洗車できない場合や損傷するおそれがあります。

知識

パーキングブレーキを解除して、シフトポジションを N にする必要がある自動洗車機をご使用する場合は、ニュートラル保持モードをご使用ください。
ニュートラル保持モードについては、「セレクトレバーの操作」を参照してください。
→5-31 ページ「セレクトレバーの操作」

高圧洗車機を使用するとき

⚠ 注意

洗車機は機種によっては高温、高圧のものがあります。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、室内に水が入ったりするおそれがありますので、洗車ノズルと車体との距離は十分に離してください (30 cm 以上)。また、同じ場所を連続して洗浄しないでください。ドアのすき間や窓ガラスまわりは、特に注意して行なってください。

▼ ワックスをかけるときは

・ワックスがけは月に 1 回程度、または水のはじきが悪くなったときに洗車してから行なってください。
・直射日光を避け、ボディーが冷えているとき (体温以下が目安) に行なってください。

知識

ワックスの使用について

・コンパウンド (みがき紛) 入りのワックスを使用すると、塗装の光沢が失われることがあります。
・ワックス容器に記載してある使用説明をよく読んでから使用してください。

▼ カメラ、レンズの手入れ

⚠ 注意

- カメラのカバーは樹脂ですので、油膜取り剤・有機溶剤・ワックス・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。
- カメラのカバーやレンズを強くこすったり、研磨剤や硬いブラシなどで磨いたりしないでください。

知識

カメラのレンズに水滴や雪、泥などがついているときは、やわらかい布などでふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

▼ アルミホイールの手入れ

アルミホイールに海水や凍結防止剤を付着させたままにしておくと、腐食するおそれがあります。できるだけ早く水洗いしてください。
汚れのひどいときは中性洗剤をしみこませたやわらかい布などでふき取ってください。

⚠ 注意

中性洗剤以外は使用しないでください。ご使用の際には成分をご確認ください。
変色･シミの原因となります。

知識

アルミホイールを洗うときは

- アルミホイールは傷がつきやすいので、砂入り石けんや硬いブラシは使用しないでください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつくことがあります。

▼ 外装樹脂部品の手入れ

- バンパーなど樹脂部品の塗装面にガソリン、オイル、冷却水、12V バッテリー液などが付着すると変色、シミ、塗装はがれなどの原因となります。すみやかにやわらかい布でふき取ってください。
- コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用すると、塗装を損傷するおそれがありますので使用しないでください。
- 電動またはエア工具を使用してコンパウンド (みがき粉) がけやワックスがけを行なうと摩擦熱が発生して、樹脂部品の変形や塗装の損傷などの原因になることがありますので使用しないでください。
- プラスチックレンズを使用しているランプ類は、ガソリン、灯油、高濃度アルコール類、塗料、シンナー、強酸性洗剤、強アルカリ性洗剤などの化学液により表面が変色したりダメージを受けたりして、機能を著しく損なうおそれがあります。お手入れの際には使用しないでください。万一付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

内装の手入れ

▼ 内装の手入れ

⚠ 警告

室内に水をかけない。
オーディオ、スイッチなどの電気部品に水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

知識

- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。
- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。

次のような場合は、すみやかにやわらかい布でふき取ってください。
そのままにしておくと変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になったり、汚れが落ちにくくなったりします。

- 飲み物や芳香剤などをこぼしたとき
- 油脂類が付着したとき
- 汚れがあるとき

▼ シートベルトの手入れ

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
3. 手入れのため引き出したシートベルトを巻き取らせるときは、十分に乾燥させ、水分が残っていないことを確認してください。

⚠ 警告

シートベルトにほつれ、すり傷などの異常があるときは、マツダ販売店で交換する。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルトの汚れを取るときは、中性洗剤を使用する。
有機溶剤を使用したり、染色、漂白したりするとベルトの強度が低下し、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

汚れがあるときはこまめにふき取ってください。汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、ベルトの巻き取りが悪くなったりすることがあります。

▼ ビニールの手入れ

ブラシや掃除機を使用してビニールのほこりや汚れを落としてください。
革・ビニール用クリーナーを使用してビニールの汚れを落としてください。

▼ 布張り、合成皮革部分の手入れ

布張り

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

合成皮革

1. 掃除機などでほこりや砂を取り除きます。
2. 水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、汚れた部分をふき取ります。
3. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

▼ 革張り部分の手入れ

1. 掃除機などでほこりや砂を取り除きます。
2. 純正専用クリーナーまたは水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
3. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
4. 乾いたやわらかい布で水分を取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。雨などでぬれたときも早めに水分をふき取り、乾燥させてください。

知識

- 天然素材のため、シボ (本革表面の凹凸) の不均一や牛革本来の傷がわかる場合があります。
- 品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。
- 次のような場合は、早めに手入れを行なってください。
  そのまま放置しておくと早く摩耗したり、カビやシミなどの原因になったりします。
  - 砂、ほこりなどが付いたとき
  - ハンドクリームなどの油分が付いたとき
  - 化粧品、整髪料などのアルコール類が付いたとき
- 革張り部分がぬれたときはすぐに乾いた布で水分をふき取ってください。表面に水分が残っていると硬化、収縮など変質の原因になります。
- 直射日光に長時間さらすと、変質、縮みなどの原因になります。長時間駐車するときは、サンシェード (日除け) を使用するなどして直射日光をさえぎってください。
- ビニール製品を長時間、革張り部分の上に置かないでください。変質、変色の原因になります。室内が高温になっているとビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。

▼ 樹脂部品の手入れ

⚠ 注意

つや出し剤を使用しないでください。
含まれる成分によっては変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になります。

▼ インストルメントパネル上面 (ソフトパッド部) の手入れ

ソフトパッド部の表皮には非常にやわらかい素材を使用しています。乾いた布などで強くこすると白いすり傷となる場合があります。

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

▼ アクティブ･ドライビング･ディスプレイの手入れ

防塵シートはコーティングされています。お手入れをするときは、硬い布、表面が粗い布、洗剤などは使用しないでください。
→5-27 ページ「アクティブ･ドライビング･ディスプレイ」
また、薬剤などがアクティブ･ドライビング･ディスプレイに付着した場合は、すぐにふき取ってください。防塵シートが破損したり、表面のコーティングが傷ついたりするおそれがあります。メガネふきのようなきめの細かい、やわらかい布をお使いください。

知識

防塵シートは、エアーを吹きつけて清掃することをおすすめします。

▼ パネルおよびコルク部位の手入れ

パネルおよびコルク部位が汚れたときは、きれいな水にひたして固くしぼったやわらかい布などで軽くふき取ってください。
特に汚れが気になるときは、次の方法で手入れを行なってください。

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

知識

- 光沢のあるパネル、メッキ部分などの金属部分がある場合は、傷がつきやすいので、特に注意して手入れを行なってください。
- **(コルク部位)**
  粘着性のあるものを貼り付けると、コルクが損傷するおそれがあります。コルク部位には粘着性のあるものを使用しないでください。

▼ ガラス、ミラーの手入れ

ガラスやミラーに付いた油膜を取るときは純正ガラスクリーナーを使用してください。
ガラスの内側をふくときはきれいな水にひたして固くしぼったやわらかい布などで軽くふいてください。
フロントガラスに油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射して、見えにくくなることがあります。
ガラスに撥水などのコーティングをすると、ワイパー作動時にばたつく場合があります。
ガラスにアンテナや熱線がプリントされている場合はアンテナや熱線にそってふいてください。

⚠ 注意

特に汚れが気になるときは、ガラスクリーナーを使って手入れができます。ただし、次のことに注意してください。

- ガラスクリーナーの容器に記載してある内容に従う。
- ガラスアンテナや熱線、自動防眩機能の付いたルームミラーにはガラスクリーナーを使用しない。
  ガラスクリーナーを使用すると、ガラスアンテナや熱線をいためるおそれがあり、自動防眩機能が正常に作動しないおそれがあります。

冬に備えて

▼ 12V バッテリー液の点検

気温が下がると 12V バッテリー性能が低下するため EV システム始動が困難になる場合があります。
12V バッテリー液の量、比重を点検し、必要に応じて液の補充をしてください。
点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

▼ 冷却水の濃度の調節

冷却水には、凍結を防止するために不凍液が入っています。
冬場になっても凍結しないよう冷却水の濃度を調節してください。

不凍液の割合	凍結温度
30%	−16℃
50%	−37℃

純正ロングライフクーラント (ゴールデン) FL22 を使用する場合

純正ロングライフクーラント (ゴールデン) FL22 は濃度調整済みの冷却水です。
薄めずそのままご使用ください。
冷却水量の点検や補充については別冊のメンテナンスノートに記載しています。
冷却水を交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。

▼ ウォッシャー液の濃度の調節

ウォッシャー液が凍結するのを防ぐため、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考にして、外気温に応じた濃度に調節してください。
→7-10 ページ「ウォッシャー液の補充」

▼ 寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。
寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムで覆ってあります。
必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

▼ 冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

⚠ 警告

タイヤを交換するときは前後輪とも必ず指定された同一サイズ、同一種類のものを使用する。
指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を準備し、使用する前に一度装着してみて手順を理解しておきましょう。
→7-32 ページ「タイヤチェーンの取り付け」

▼ タイヤチェーンの取り付け

タイヤチェーンは前輪に取り付けます。
タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を使用してください。タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って正しく取り付けてください。
タイヤチェーンの取り付けは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる平らな場所で行なってください。
路上で行なう場合は、非常点滅灯、停止表示板 (停止表示灯) を使用してください。

⚠ 注意

- 標準タイヤのみタイヤチェーンを装着できます。標準タイヤ以外のタイヤにタイヤチェーンを装着すると、チェーンがボディーなどに干渉し、傷をつけることがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。
- 純正品以外のタイヤチェーンを使用するとボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。
- 積雪路、凍結路以外ではタイヤチェーンを装着して走行しないでください。チェーンの摩耗を早める原因になります。
- タイヤチェーンを装着したときは、30 km/h 以下で走行してください。30 km/h 以上で走行すると、タイヤチェーンにかかる負担が大きくなるため、チェーンが切れやすくなります。

知識

タイヤチェーンについて

・お客様のお車にタイヤチェーンは標準で搭載されていません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。
・タイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷がつくおそれがあります。

環境保護のために

▼ 廃棄物を処理するときは

廃棄物については、法律上適切な処理が求められています。

- タイヤを燃やすと有毒なガスが発生するので、自己処理はしないでください。使用済みタイヤは新品タイヤを購入した販売店に処分を依頼してください。
- 12V バッテリーは鉛や硫酸が使われています。使用済み 12V バッテリーは新品 12V バッテリーを購入した販売店に処分を依頼してください。
- クーラントが地下や川などに流れ出すと、環境を悪化させます。クーラントを交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- エアコンの冷媒にはオゾン層を破壊しないエアコンガスを使用していますが、エアコンガスには地球を温暖化する働きがあります。ガスの大気放出を防止するため、エアコンの点検、修理はマツダ販売店か専門の修理業者に依頼してください。

8 トラブルが起きたら

車が故障したとき、事故にあったときの処置

マツダエマージェンシーコール 8-4
マツダエマージェンシーコール*..... 8-4

故障したとき.....8-5
路上で動けなくなったとき 8-5
スタックしたとき..... 8-5
踏切内で動けなくなったとき 8-6
パンクやバースト (破裂) したとき.....8-6

緊急用具の取り扱い..... 8-7
発炎筒..... 8-7
工具の格納場所.....8-7

パンクしたとき..... 8-9
タイヤパンク応急修理キット 8-9

充電で困ったときは.....8-14
充電できないときの対処方法 8-14

給電で困ったときは.....8-16
給電できないときの対処方法 8-16

12V バッテリーがあがったとき 8-17
12V バッテリーあがりについて 8-17

駆動用バッテリーがあがったとき 8-20
駆動用バッテリーあがりについて 8-20

キーが作動しないとき..... 8-21
キー一時停止機能..... 8-21

けん引について.....8-22
けん引について.....8-22

警告灯/表示灯、警報チャイム.....8-24
警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは.....8-24
マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは..... 8-31
チャイムがなったときは.....8-36

リアゲート.....8-40
リアゲートが開けられなくなったとき..... 8-40

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ.....8-41
アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動しないとき.....8-41

*グレード/仕様別装備

フロントワイパーが高速作動するとき..... 8-42
フロントワイパーが高速作動するとき.....8-42
万一事故が起きたとき..... 8-43
万一事故が起きたときは.....8-43

MEMO

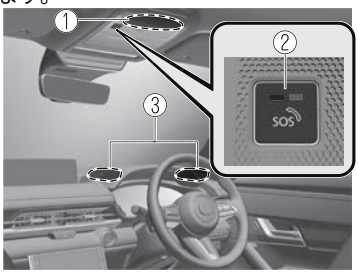
マツダエマージェンシーコール*

▼ マツダエマージェンシーコール

⚠ 警告

コネクティッドサービス使用時、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方はアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。
電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

エアバッグが展開される衝突事故などを車両が検知した場合や、SOS ボタンを押した場合に、緊急通報オペレーターに車両の位置情報と緊急信号が送信され、オペレーターを通じて緊急車両の手配などを行なうことができます。
また、交通事故発生時、車両データの活用によりお客様の重症度を推定し、ドクターヘリなどの早期出動判断を行なう D-Call Net®にも対応しています。



1. マイク、スピーカー
2. SOS ボタン
3. アンテナ

詳しくは
コネクティッドサービス取扱説明書
をご確認ください。
(URL)
https://www.mazda.co.jp/carlife/connected/

*グレード/仕様別装備

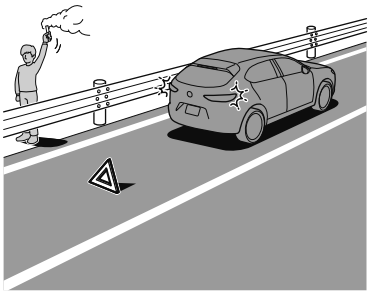
路上で動けなくなったとき

▼ 路上で動けなくなったとき

⚠ 警告

発煙筒は車から離れたところで使用する。
感電、火災につながる恐れがあり危険です。

1. 車を路肩に止め、非常点滅灯を点滅させます。
2. 必要に応じて停止表示板 (停止表示灯)、発炎筒を使用し、後続車に故障車であることを知らせます。
   →8-7 ページ「発炎筒について」
   - 高速道路や自動車専用道路などでは車の後方に停止表示板 (停止表示灯) を置くことが法律で義務付けられています。
   - 停止表示板を置くときには、発炎筒を使って合図をするなど、後続車に十分注意してください。



3. 全員が車から降り、ガードレールの外などの安全な場所に、すみやかに避難してください。
4. 安全を確保した後、救援を求めます。
   故障の修理などお困りの際はマツダ販売店に連絡してください。

知識

停止表示板 (停止表示灯) について
停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。万一に備えてあらかじめ用意しておいてください。マツダ販売店でお求めいただけます。

スタックしたとき

▼ スタックしたとき

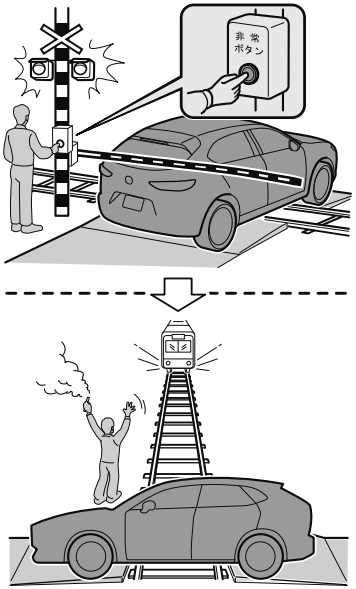
ぬかるみ、砂地、深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んだりして動けなくなることをスタックといいます。

- 周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ前後の土や雪を取り除くか、タイヤの下に木や石をあてがい、セレクトレバーを D または R の位置に入れて、アクセルペダルを軽く踏みます。セレクトレバー操作中はアクセルペダルを踏まないでください。EV トランスアクスルなどを損傷するおそれがあります。また、車両の周辺に人がいないことを確認してください。あてがった木や石が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト (破裂) したり、異常過熱したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルを過度に踏んだり、タイヤを空転させたりしないでください。EV トランスアクスルなどを損傷するおそれがあります。

踏切内で動けなくなったとき

▼ 脱輪などで動けなくなったとき

1. 踏切の非常ボタンを押します。緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→8-7 ページ「発炎筒について」
2. 付近の人に救援を求めます。



パンクやバースト (破裂) したとき

▼ パンクやバースト (破裂) してもあわてない

走行中タイヤがパンクやバースト (破裂) したときは、ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。
急ブレーキをかけるとハンドルをとられるおそれがあります。
次のようなときはパンクやバースト (破裂) が考えられます。

・ハンドルがとられるとき。
・異常な振動があるとき。
・車両が異常に傾いたとき。

発炎筒

▼ 発炎筒について

⚠ 警告

油、ガソリンなど可燃物の近くでは使用しない。
火災につながるおそれがあります。

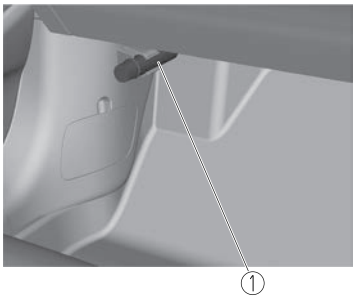
使用するときは筒先を顔や体に向けたり近づけたりしない。
やけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにはさわらせない。
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

トンネル内では発炎筒を使用しない。
トンネル内で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要なときは非常点滅灯を使用してください。

事故や故障で停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読み、あらかじめ確認しておいてください。

・使用方法
・使用上の注意事項
・発炎時間
・有効期限



1. 発炎筒

工具の格納場所

▼ 工具の格納場所

⚠ 注意

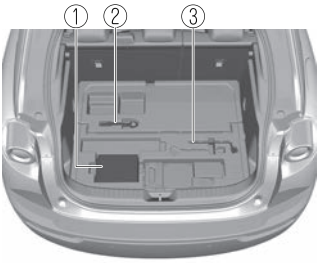
➢ 工具を使用した後は走行中に動かないよう、所定の位置にしっかりと固定してください。

知識

スペアタイヤはお客様のお車に標準で搭載されておりません。スペアタイヤの取り扱いについては、マツダ販売店にご相談ください。

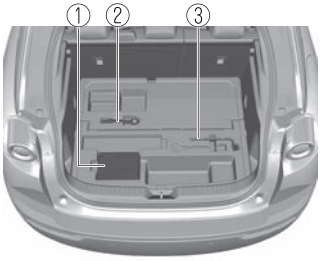
工具は図の位置に格納されています。

A タイプ



1. タイヤパンク応急修理キット
2. けん引フック
3. ホイールレンチ

B タイプ



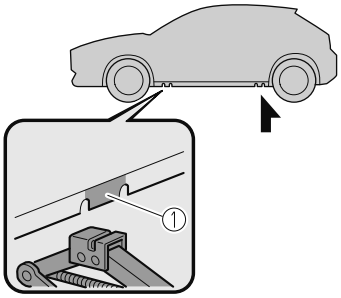
1. タイヤパンク応急修理キット
2. けん引フック
3. ホイールレンチ

▼ ジャッキについて

知識

ジャッキはお客様のお車に標準で搭載されておりません。用品としてマツダ純正ジャッキがありますので、タイヤ交換の際は、マツダ純正ジャッキを使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

ジャッキアップ指定位置

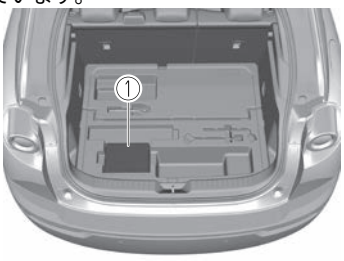


1. ジャッキアップ指定位置

タイヤパンク応急修理キット

▼ タイヤパンク応急修理キット

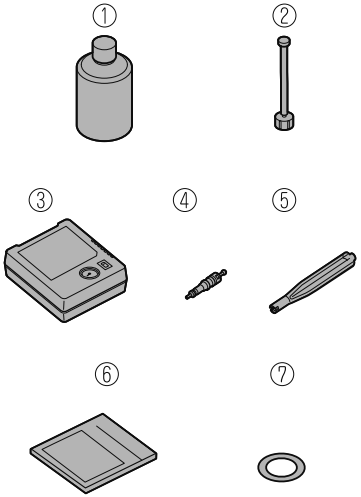
本キットはタイヤの接地面に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを一時的に修理するものです。
タイヤに刺さった釘やネジなどを抜かず、応急修理してください。
タイヤパンク応急修理キットは図の位置に格納されています。



1. タイヤパンク応急修理キット

▼ タイヤパンク応急修理キットについて

タイヤパンク応急修理キット内には、次のものが格納されています。



1. 修理剤
2. 注入ホース
3. エアコンプレッサー
4. 予備バルブコア
5. コアまわし
6. 取扱説明書
7. 速度制限シール

⚠ 警告

万一誤飲したときは、すぐに多量の水を飲み、応急処置が済んだら、医師の診察を受ける。
修理剤を誤飲すると健康に害があります。

修理剤が目に入ったり、皮膚に付着したりしたときは、すぐに多量の水で洗浄する。
それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

お子さまには修理剤をさわらせない。
誤って使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

天然ゴムに対するアレルギーを有する人は修理剤に触れない。
アレルギー症状を発症する可能性があります。

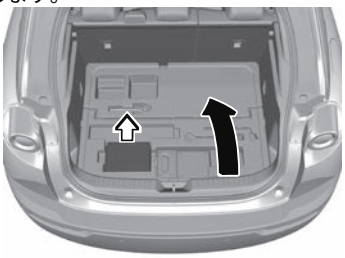
知識

修理剤の使用について

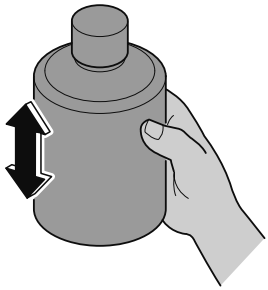
- 一度使用した修理剤は再使用できません。新しい修理剤をマツダ販売店でお求めください。
- 次のようなときには、修理剤を使用することができません。マツダ販売店またはJAF などに連絡してください。
  - 修理剤の有効期限が切れているとき(有効期限はボトルのラベルに記載されています)
  - 約 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - 接地部以外が損傷を受けたとき
  - パンクしたまま走行し、タイヤ側面が損傷しているとき
  - タイヤがホイールからはずれているとき
  - ホイールやバルブが破損しているとき
  - タイヤが 2 本以上パンクしているとき

▼ タイヤパンク応急修理キットの使いかた

1. 車を交通のさまたげにならない、地面が平らで固い安全に作業できる場所に移動します。
2. セレクトレバーを P の位置に入れます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、EV システムを停止します。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。
5. 人や荷物を降ろしラゲッジマットを開けて、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。



6. 修理剤のボトルをよく振ります。



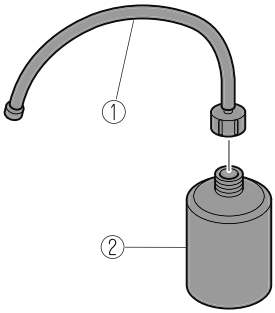
⚠ 警告

注入ホースをねじ込む前にボトルを振る。
注入ホースをねじ込んだ後にボトルを振ると、修理剤が注入ホースから飛び散り、衣服などに付着すると取れないおそれがあります。

知識

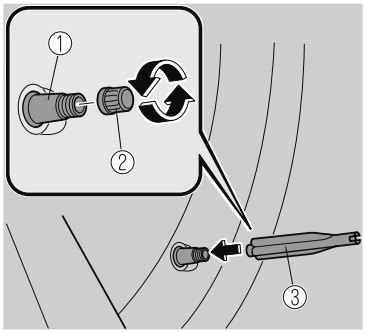
修理剤の性質について
0°C 以下の寒冷時では修理剤が固まりやすくなり、注入作業がしにくくなります。車内などで暖めると注入作業がしやすくなります。

7. ボトルのキャップをはずします。内ぶたをつけたままの状態で注入ホースをボトルにねじ込むと、ボトルの内ぶたが破れます。



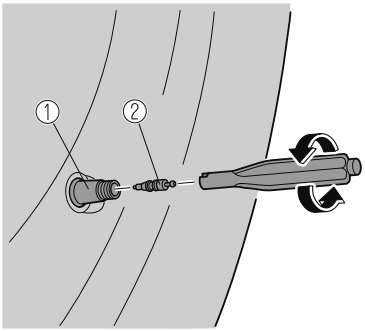
1. 注入ホース
2. ボトル

8. パンクしたタイヤのバルブからキャップを取りはずし、コアまわしの後ろでバルブ内のバルブコアを押してタイヤの空気を完全に抜きます。



1. バルブ
2. キャップ
3. コアまわし

9. コアまわしでバルブコアを左にまわし、バルブコアを取りはずします。



1. バルブ
2. バルブコア

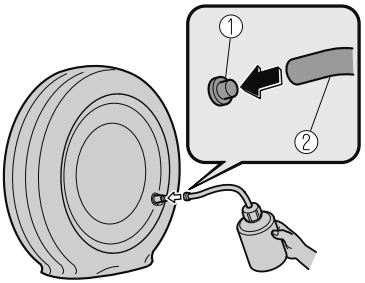
⚠ 注意

バルブコアをはずすとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すおそれがあります。バルブコアは慎重に取りはずしてください。

知識

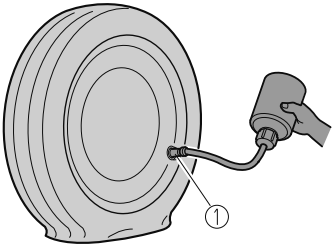
バルブコアは汚れないように保管してください。

10. 注入ホースの栓をはずし、注入ホースをバルブに差し込みます。



1. 栓
2. 注入ホース

11. ボトルを逆さまにして持ち、手でボトルを圧迫し、修理剤をすべてタイヤの中に注入します。



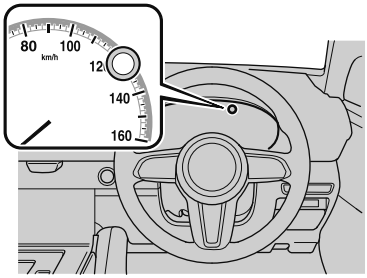
1. バルブ

12. 注入ホースをバルブから引き抜き、コアまわしでバルブコアを右にまわし、バルブコアを取り付けます。

知識

修理剤の回収について
注入が完了した空ボトルは、タイヤ交換または修理の際に使用済み修理剤の回収に使用しますので、ボトルは捨てずにマツダ販売店までお持ちください。

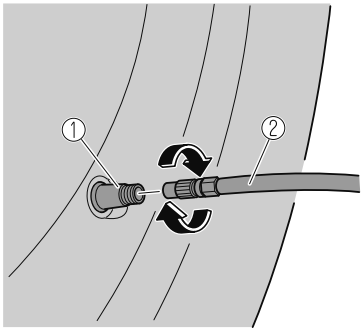
13. 運転者のよく見えるところに速度制限シールを貼ります。



⚠ 警告

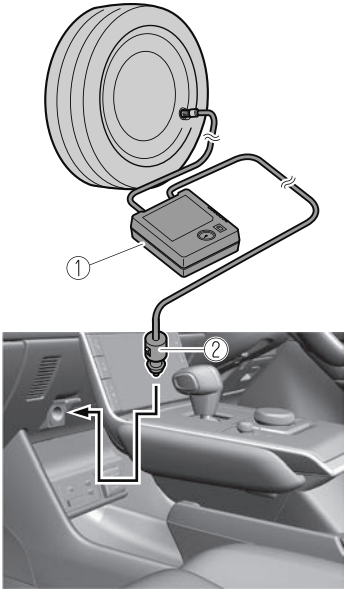
ハンドルのパッド部に速度制限シールを貼らない。
万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には貼らないでください。

14. エアコンプレッサーのホースの口金を右にまわしてバルブに取り付けます。



1. バルブ
2. ホース

15. エアコンプレッサーのプラグを車内の電源ソケットに差し込み、電源ポジションをACC にします。
→6-33 ページ「電源ソケット」



1. コンプレッサー
2. プラグ

⚠ 注意

電源ソケットにエアコンプレッサーのプラグを抜き差しするときは、エアコンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。エアコンプレッサーのON、OFF はエアコンプレッサー本体のスイッチで行なってください。

16. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、タイヤを適正空気圧まで昇圧します。

知識

空気圧の調整について

- タイヤの適正空気圧は運転席ドアを開けたリアドア側に貼り付けられているラベルで確認してください。
- エアコンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10 分以上連続して作動させないでください。
- タイヤ空気圧が昇圧できない場合は修理できません。もし、10 分以内に適正空気圧にならなければ、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。マツダ販売店または JAF などに連絡してください。
- 空気を入れすぎたときはエアコンプレッサーのホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。

17. 適正空気圧まで昇圧できたら、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしエアコンプレッサーのホースの口金を左にまわしてバルブから抜きます。
18. バルブキャップを取り付けます。
19. 修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、ただちに走行を始めます。

⚠ 注意

80 km/h 以下の速度で慎重に運転してください。80 km/h を超えた速度で走行した場合、車体が振動することがあります。

20. 10 分間もしくは 5 km 程度走行後に手順 14 の方法でタイヤにエアコンプレッサーを接続し、エアコンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧を確認します。適正空気圧より低下していたら、手順 15 の作業から再度行ないます。

⚠ 警告

空気圧が 130 kPa (1.3 kgf/cm^2) 以下に低下していたら、運転を中止してマツダ販売店または JAF などに連絡する。
本修理キットによる応急修理はできません。

手順 14～20 の作業を繰り返しても、空気圧の低下が認められる場合は、運転を中止する。
マツダ販売店または JAF などに連絡してください。

⚠ 注意

タイヤ空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてから確認してください。

21. 空気圧が低下していなければ、応急修理完了です。すみやかにマツダ販売店まで慎重に運転し、新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理･再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。

知識

応急修理をしたタイヤとホイールは

- タイヤパンク応急修理キットで応急修理をしたタイヤは、できるだけ早く新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理･再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できます。ただし、バルブは新しいものと取り替えてください。

▼ タイヤパンク応急修理キットの点検

タイヤパンク応急修理キットの点検は定期的に行なってください。

- 修理剤の有効期限の確認
- コンプレッサーの作動の確認

知識

修理剤の有効期限について
修理剤には有効期限があります。有効期限が切れたものは使用できませんので、ボトルのラベルに記載されている有効期限を確認し、有効期限が切れる前にマツダ販売店で新しい修理剤をお求めください。

充電できないときの対処方法

▼ 充電できないときの対処方法

充電できないなど、充電の作業中に困ったときは次の内容をお読みください。ここにある項目を確認しても問題が解決できないときは、車両または充電機器の故障の可能性がありますので、マツダ販売店にご連絡ください。

充電できない

原因	対処方法
EV システム始動中かつセレクトレバーが P の位置以外になっている。	セレクトレバーを P の位置にしてください。
すでに満充電になっている。	すでに満充電になっているときは、充電が行なわれません。
駆動用バッテリーの温度が極端に高いまたは低い。	メーターの駆動用バッテリー温度計を確認してください。駆動用バッテリー温度計が赤色または青色の範囲に入っているときは、充電できなくなることがあります。
12V バッテリーがあがっている。	電源ポジションを ON にしてもメーターなどが点灯しない場合は、12V バッテリーがあがっている可能性があります。12V バッテリーを充電するか交換してください。

普通充電ができない

原因	対処方法
コンセントまで電力がきていない。	漏電遮断機が作動していたり、停電していたりしないか確認してください。なお、電源にタイマー機能がついている場合、電源に設定されている時間帯までは、コンセントに電力が供給されないものもあります。また、立体駐車場の場合、駐車パレットが完全に格納されるまでの間やエレベーターの作動中は、電力が遮断されるものがあります。
充電プラグがコンセントに正しく接続されていない。	充電プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
充電コネクターが正しく接続されていない。	充電コネクターが正しく接続されているか確認してください。
タイマー充電の設定がされている。	マツダコネクトの「設定」でタイマー充電を解除するか、タイマー充電キャンセルの機能を使用してください。

コネクティッドサービスが使用できない

リモート機能が作動しないなど、コネクティッドサービスに関して困ったときは、コネクティッドサービス取扱説明書を参照してください。

給電できないときの対処方法

▼ 給電できないときの対処方法

給電できないときは、次の方法で対処してください。問題が解決できないときは車両故障の可能性がありますので、マツダ販売店にご連絡ください。

原因	対処方法
外部給電器の電源が OFF になっている。	外部給電器の取扱説明書に従って、適切な対処をしてください。
外部給電器が正常に作動していない。	
給電コネクターが急速充電ポートに確実に接続されていない。	給電コネクターが急速充電ポートに確実に接続されているか確認してください。
前回の給電時に正常終了していない。	一度給電コネクターをはずしてから EV システムを始動した後、電源ポジションを OFF にしてください。

12V バッテリーあがりについて

▼ 12V バッテリーあがりについて

次のような状態は 12V バッテリーあがりです。

・EV システムが始動しない。
・セレクトレバーを操作してもセレクトレバーを P の位置以外にできない。
・ホーンの音が小さい、または鳴らない。
・ランプ類がいつもより極端に暗い。

⚠ 警告

正しく安全に 12V バッテリーを取り扱うために、12V バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。

必ず保護メガネを着用する。
12V バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、12V バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

12V バッテリーの近くでお子さまを遊ばせない。また、12V バッテリー液をこぼさない。
12V バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一、目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

絶対に火気を近づけない。
12V バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、端子同士やボディーに触れないように十分注意してください。

換気の悪い場所では、12V バッテリーの充電を行なわない。また、充電中は 12V バッテリーに近づかない。
12V バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

ブースターケーブルを使用して EV システムを始動する前に必ず 12V バッテリー液の量を点検する。
12V バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態で EV システムを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。12V バッテリー液が不足しているときは、EV システム始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。

▼ 処置方法

押しがけによる始動はできません。
別売りのブースターケーブルを使用して、救援車 (他の車) の 12V バッテリーと自車の 12V バッテリーを接続して EV システムを始動します。

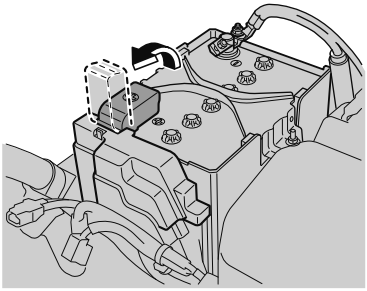
⚠ 注意

- ブースターケーブルを接続するときは慎重に行なってください。
- ジャンプスタートを行なうときは、車両が破損するおそれがあるため、充電ケーブルを取りはずしてください。
- 電気自動車は救援車として使用しないでください。

知識

・救援車には 12V バッテリー使用の車両を使用してください。

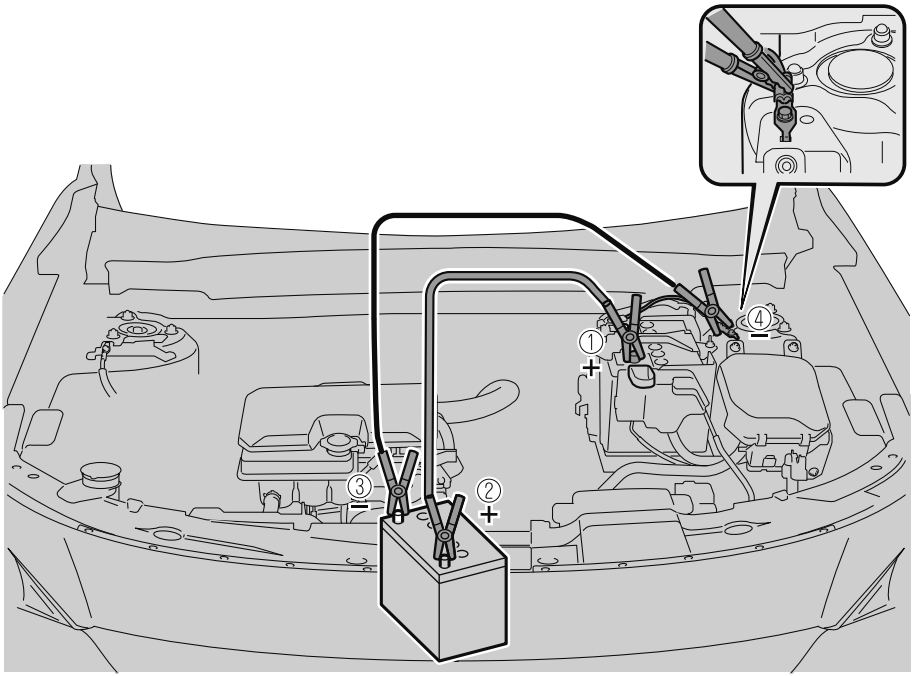
1. 自車の 12V バッテリーと救援車の 12V バッテリーがいちばん近い位置になるように、車を移動させます。
2. 電源スイッチが OFF になっていることを確認します。
3. バッテリーキャップを取りはずします。



4. 救援車のエンジンを止めて、ブースターケーブルを次の順で接続します。
   ブースターケーブルはエンジンの振動などではずれないよう確実に接続してください。

   ・**1 本目**
   ①自車の 12V バッテリーの+端子
   ②救援車の 12V バッテリーの+端子
   ・**2 本目**
   ③救援車の 12V バッテリーの-端子

④図で表示の箇所 (12V バッテリーの-端子に接続しない)



5. 救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を高めにします。
6. 自車の EV システムを始動します。
7. EV システムが始動したら、ブースターケーブルを接続したときと逆の順で取りはずします。
8. バッテリーキャップを取り付けます。
9. 早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

駆動用バッテリーあがりについて

▼ 駆動用バッテリーの残量が完全になくなったとき

駆動用バッテリーが完全になくなると、EV システムが停止し、走行できなくなります。
安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

キー一時停止機能

▼ キー一時停止機能

キーが車内にあるとき、車内に置いてあるキーの機能が、盗難防止のために一時停止する場合があります。
この場合は、車内から一時停止したキーのアンロックスイッチを押すと復帰します。

けん引について

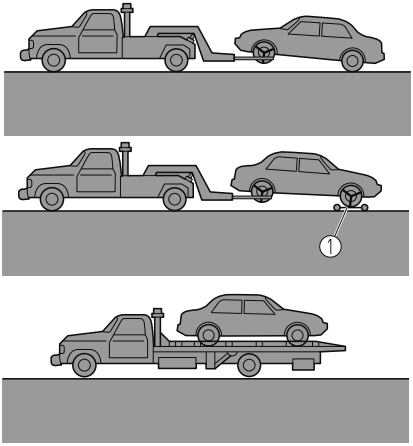
▼ けん引してもらうとき

この車両で他車をけん引することはできません。けん引してもらうときは必ずマツダ販売店または JAF などに依頼してください。

⚠ 警告

車両を搬送するときは、必ず前輪を持ち上げる、または前後輪すべてを持ち上げる。
前輪が接地した状態でけん引すると、駆動装置が破損したり、モーターが発電し EV システムが破損するおそれがあります。破損の状態によってはモーターから発電された電気が異常に流れ、火災のおそれがあります。

図のように前輪を持ち上げる、または前後輪を持ち上げてけん引してください。

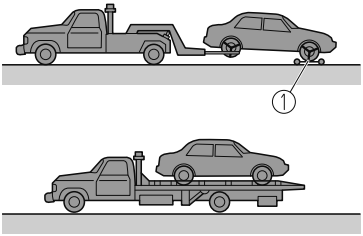


1. けん引用補助台車

後輪が接地した状態でけん引するときは、電動パーキングブレーキ（EPB）を解除してください。

⚠ 注意

- 電動パーキングブレーキ (EPB) が解除できないときのけん引は、図のように前後輪をすべて持ち上げた状態で搬送してください。車輪を持ち上げないでけん引すると、ブレーキシステムが破損するおそれがあります。



1. けん引用補助台車

- 吊り下げタイプのレッカー車は、車体を傷つけるおそれがありますので、できるだけ使用を避けてください。 金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端に付いているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

ロープでけん引してもらうとき

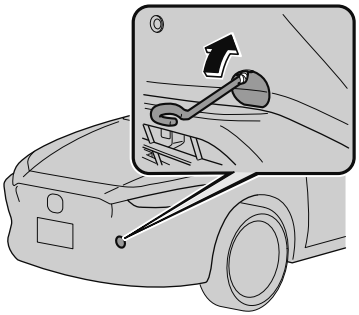
⚠ 注意

- 緊急時など、やむをえず車両を移動するためにロープでけん引してもらうときは、搬送車までの移動やスタックからの脱出などできるだけ短い距離で行なってください。駆動装置や EV システムが破損するおそれがあります。
- 次のようなときは、ロープでのけん引をしないでください。駆動装置や EV システムが破損するおそれがあります。
  - EV システムが始動しないとき
  - シフトシステム警告表示/警告灯が表示/点灯したとき
- けん引フック以外にロープをかけないでください。車体が損傷するおそれがあります。

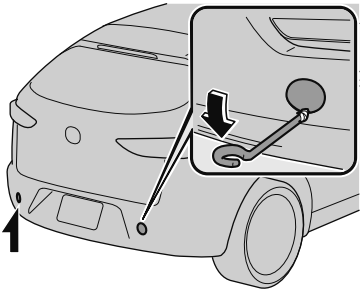
車両の移動やスタックからの脱出のためにロープでけん引してもらうときは、けん引フックを使用し、次の手順で行なってください。

1. けん引フック、ホイールレンチをラゲッジルームから取り出します。
→8-7 ページ「工具の格納場所」
2. マイナスドライバーなどの先端に布を巻いてカバーを取りはずします。

フロント



リア

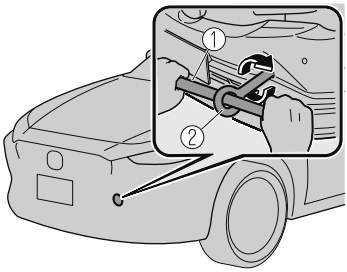


⚠ 注意

カバーはバンパーから完全に取りはずし、紛失しないように保管してください。

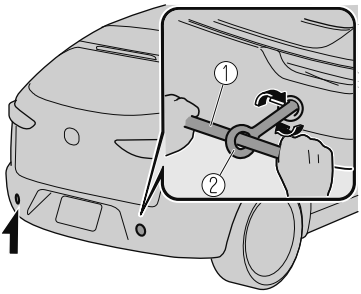
3. ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。

フロント



1. ホイールレンチ
2. けん引フック

リア



1. ホイールレンチ
2. けん引フック

4. けん引ロープをフックにかけます。

⚠ 注意

金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端に付いているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

5. EV システムを始動させ、セレクトレバーを N に入れます。

⚠ 注意

けん引中は EV システムを停止しないでください。パーキングロックがかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

6. パーキングブレーキを解除します。

警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは

▼ 警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは

警告灯/表示灯が点灯、点滅した場合は、それぞれの方法で対処してください。警告灯/表示灯が消灯しない場合、または再度点灯、点滅する場合はマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

警告灯/表示灯が点灯、点滅した場合は、ただちに安全な場所に停車し適切な処置を行なう。
警告灯/表示灯の点灯、点滅を無視して運転を続けると、車両システムなどが異常になったり、思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

センターディスプレイやメーター内のマルチインフォメーションディスプレイで詳細を確認できる警告があります。

センターディスプレイで確認する

1. ホーム画面の“情報”を選択します。
2. “車両ステータスモニター”を選択します。
3. 確認したい警告を選択すると、警告の詳細が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイで確認する

1. ステアリングスイッチの INFO スイッチを押すと、メッセージ表示画面が表示されます。

▼ ブレーキ警告表示/警告灯



次のようなときは点灯し続けます。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

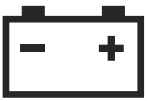
・ブレーキ液が不足しているとき。
・ブレーキ装置 (電子制御制動力配分システム) に異常があるとき。

⚠ 警告

ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しない。
ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。
EV システムを始動させたとき、ブレーキ警告表示/表示灯が表示/点灯することがあります。その場合、安全な場所に停車し、ブレーキペダルから足を放してください。それでもブレーキ警告表示/表示灯が消えない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。
急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 12 V バッテリー充電警告表示/警告灯



EV システム作動中、充電装置に異常があると表示/点灯します。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

12 V 充電警告表示/警告灯が表示/点灯したまま走行しない。
EV システムが不意に停止して思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ EV システム異常警告表示/警告灯



“EV システムが異常です点検を受けてください”と表示/点灯されるとき

EV システムに異常があると表示/点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

“EV システムが異常です安全な場所に停車してください”と表示/点灯されるとき

EV システムに異常があると表示/点灯します。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

“EV システムの漏電を検出しました安全な場所に停車してください”と表示/点灯されるとき

EV システムの漏電を検出すると表示/点灯します。
マツダ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

ボンネットを開けない。
モータールーム内に触れると感電するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

走行時に表示/点灯した場合は、EV システムを停止すると、再度 EV システムを始動できなくなります。

▼ 駆動用バッテリー温度警告表示



“駆動用バッテリーが高温になっていますゆっくり走行してください”と表示されるとき

駆動用バッテリーの温度が異常に高いとき表示します。
駆動用バッテリーに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。
必要に応じて安全な場所に停車してください。
表示し続けるときは、システムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

“駆動用バッテリーが低温になっています出力が制限されています”と表示されるとき

駆動用バッテリーの温度が異常に低いとき表示します。
モーターの出力が制限されているため、アクセルペダルを踏んでも車速が上がらない場合があります。
表示し続けるときは、システムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ 駆動用バッテリー残量警告表示/警告灯



“駆動用バッテリーの残量が低下しています充電してください”と表示/点灯されるとき

駆動用バッテリー残量が少なくなると表示/点灯します。

“駆動用バッテリーの残量が低下しています走行できなくなります”と表示/点滅されるとき

駆動用バッテリー残量が 0 になると表示/点滅します。

“駆動用バッテリーの残量がありません走行できません”と表示/点滅されるとき

駆動用バッテリー残量が 0 になり、走行できないときに表示/点滅します。

▼ 充電警告表示/警告灯



充電システムに異常があると表示/点灯します。
充電ができないおそれがあるため、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

▼ 出力制限警告表示/警告灯



“出力が制限されています意図した加速ができません”と表示/点灯されるとき

次のようなときに表示/点灯します。モーターの出力が制限されるため、アクセルペダルを踏んでも車速が上がらなくなることがあります。

・EV システムを過熱などから保護するとき
・駆動用バッテリー残量が少なくなっているとき
・駆動用バッテリーの温度が低いとき

“出力が制限されています意図した加速ができません”と表示/点滅されるとき

出力制限警告表示/警告灯が点灯している状態で走行を続けると出力制限警告灯が点滅します。
出力制限警告灯が点灯しているときよりも、モーターの出力が制限されるため、アクセルペダルを踏んでも車速が上がらなくなることがあります。

“EV システム高温出力を制限していますブレーキペダルを踏んでください”と表示/点灯されるとき

セレクトレバーが D または R の位置で、ブレーキペダルを踏まず上り坂に停車または、上り坂を低速走行 (前進、ずり下がり) すると表示/点灯する場合があります。
EV システムが正常に戻るまで出力が制限されるため、必要に応じて出力制限警告表示/警告灯が消灯するまで安全な場所に停車してください。 出力制限警告表示/警告灯が消灯すると通常通り走行ができます。

⚠ 警告

出力制限警告表示/警告灯が表示/点灯または点滅したときは周囲の安全を十分確認する。
モーターの出力が低下し、車両の速度が落ちることで思わぬ事故につながるおそれがあります。安全に走行できない場合は、安全な場所に停車してください。

▼ 電動パワーステアリング警告表示/警告灯



EV システム作動中、電動パワーステアリングに異常があると表示/点灯します。
表示したときは安全な場所に停車し、電源ポジションを OFF してください。
しばらく経って EV システムを再始動したときに表示/点灯が消えた場合は問題ありません。
EV システムを再始動した後でも表示/点灯するときは、マツダ販売店に連絡してください。

知識

・警告表示/警告灯が表示/点灯されたときは電動パワーステアリングは正常に作動しません。この場合、ハンドル操作は可能ですが、通常に比べて操作が重くなります。
・停車中または低速走行時にハンドル操作を繰り返すと、システム保護のためハンドル操作が重くなる場合がありますが、異常ではありません。安全な場所に停車し、ハンドル操作をしないでください。しばらくするともとにもどります。

▼ シフトシステム警告表示/警告灯



“シフトシステムが異常です安全な場所に停車してください”と表示される/点灯するとき

シフトシステムに重大な異常があります。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

“シフトシステムが異常です点検を受けてください”と表示される/点灯するとき

シフトシステムに異常があると表示/点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

“パーキングロック不可駐車時はパーキングブレーキをかけてください安全な場所に停車してください”と表示される/点灯するとき

セレクトレバーを P の位置にしても、停車保持することができません。
駐車/停車するときは必ずパーキングブレーキをかけてください。また、EV システムを停止すると、再度 EV システムを始動できない場合があります。
マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ ABS 警告表示/警告灯



システムに異常があるときは点灯し続けます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。
急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

ABS 警告灯が点灯しているとき、ABS は作動しませんが通常のブレーキ性能は確保されています。

▼ マスター警告表示



システムに異常があると表示します。
センターディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイで表示理由を確認してください。
→8-24 ページ「警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは」

▼ ブレーキコントロールシステム警告表示/警告灯



システムに異常があると表示/点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ 電動パーキングブレーキ (EPB) 表示/表示灯



パーキングブレーキをかけているときに点灯し、解除すると消灯します。

点灯するとき

電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを解除しても点灯し続けるときは、システムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受けてください。

表示/点滅するとき

システムに異常があるときに表示/点滅します。
電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを操作しても表示/点滅し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。

▼ ブレーキ･オーバーライド警告表示



アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んでいるときに表示されます。
周囲の安全を確認し、アクセルペダルを放して、ブレーキペダルのみを踏んでください。

▼ TCS/DSC 作動表示/表示灯



次のようなときは DSC、TCS、またはヒル･ローンチ･アシスト (HLA) の異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
- 走行中に点灯したとき

▼ エアバッグ/フロントシートベルトプリテンショナー警告表示/警告灯



次のようなときはシステムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき
- 表示/点灯/点滅し続けるとき

⚠ 警告

エアバッグ/フロントシートベルトプリテンショナー警告表示/警告灯が表示/点灯/点滅したまま走行しない。
衝突したときにエアバッグまたはシートベルトプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ KEY 警告表示/警告灯 (赤)



“キーレスシステムが異常です点検を受けてください”と表示された/点灯するとき

システムに異常があると表示/点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

同時にプッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅している場合は、EV システムが始動できなくなるおそれがあります。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

“キーが見つかりません”と表示された/点灯するとき

次の場合に表示/点灯します。キーを作動範囲に入れてください。

- キーが作動範囲内にないときや車内でも感知しにくい場所に置いているとき
- 電源ポジションを OFF にせずに、キーを車外に持ち出した後、すべてのドアを閉めたとき

▼ セキュリティ表示灯



運転中にセキュリティ表示灯が点灯/点滅した場合は EV システムを停止せず、そのままマツダ販売店で点検を受けてください。EV システムを停止すると、再度 EV システムを始動できない場合があります。

EV システムが始動できないときは一度、電源ポジションを OFF にもどし、キーを作動範囲内の別の場所に置いて、再度 EV システムを始動してください。
セキュリティ表示灯を確認し、消灯しない場合は (点灯/点滅したままなど)、もう一度電源ポジションを OFF にもどし、しばらく待って再度 EV システムを始動してください。
3 回行なっても EV システムが始動しないときはシステムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

イモビライザーシステムを修理するときはキーのコードを再登録する必要があります。お手持ちのすべてのキーを、マツダ販売店に持参してください。

▼ ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 警告表示/警告灯 (橙)*



システムに異常があると表示/点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 警告表示/警告灯 (橙)*



システムに異常があると表示/点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯



i-ACTIVSENSE 関連システムに異常があると表示/点灯します。
異常の内容をマルチインフォメーションディスプレイ/センターディスプレイで確認してください。
→8-24 ページ「警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは」

▼ エクステリアランプ警告表示/警告灯



エクステリアランプ (番号灯は含まない) に異常があると表示/点灯します。

注意

エクステリアランプ に異常がある状態で走行しないでください。視界不良やブレーキ、方向指示器の合図ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、ランプが点灯しない状態で走行すると、整備不良により法規に抵触するおそれがあります。

エクステリアランプ警告表示/警告灯が表示/点灯した場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ シートベルト警告灯 (フロントシート)



点灯するとき

電源ポジションが ON のとき、運転席/助手席シートベルトを着用していないと点灯します。

点滅するとき

運転席/助手席シートベルトを着用しないまま約 20 km/h 以上になるとしばらくの間点滅します。

処置方法

シートベルトを着用してください。

▼ シートベルト警告灯 (リアシート) (赤)



電源ポジションが ON のとき、シートベルトを着用していないとしばらくの間点灯し、その後消灯します。また、着用していたシートベルトをはずすとしばらくの間点灯し、その後消灯します。

処置方法

シートベルトを着用してください。

▼ ウォッシャー液残量警告表示/警告灯*

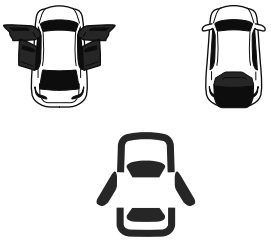


電源ポジションが ON のとき、ウォッシャー液が少なくなると表示/点灯します。

処置方法

ウォッシャー液を補充してください。

▼ 半ドア警告表示/リアゲート開警告表示/半ドア警告灯



いずれかのドア/リアゲートが確実に閉まっていないときに表示/点灯します。

処置方法

ドア/リアゲートを確実に閉めてください。

▼ KEY 表示灯 (緑) (点滅)



“キーの電池残量が少なくなっています電池を交換してください”と表示された/点滅するとき

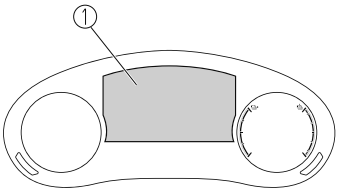
キーの電池残量が少ないときに電源ポジションを OFF にすると、表示/点滅します。
キーの電池を交換してください。
→7-15 ページ「キーの電池を交換するときは」

 *グレード/仕様別装備

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは

▼ マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは

車両からお知らせがある場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。それぞれの内容を確認して処置してください。



1. マルチインフォメーションディスプレイ

警告灯/表示灯が同時に点灯/点滅したとき、またはシンボルが表示されたときは、警告灯/表示灯、またはシンボルの内容を確認してください。

表示*1*2*3	内容	処置方法
ブレーキペダルを踏んでください停止保持を継続できません	オートホールド機能による停車保持中にブレーキ関連システムが故障したときに表示	ブレーキペダルを踏んでください。 オートホールド機能の使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。
急勾配です停止保持のためブレーキを踏み続けてください	急勾配などでオートホールド機能による停車保持ができない可能性があるときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態にして足を放さないでください。
EPB を解除するにはブレーキペダルを踏みスイッチを操作してください	ブレーキペダルを踏まずに電動パーキングブレーキ (EPB)スイッチを操作したときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態で電動パーキングブレーキ (EPB)スイッチを操作してください。
解除するにはブレーキペダルを踏みスイッチを操作してください	オートホールド機能による停車保持中にブレーキペダルを踏まずに解除操作をしたときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態でオートホールド機能を解除してください。
MRCC の作動を停止しました周囲の安全を確認して走行してください	運転者の操作以外で、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))が停止したときに表示	システムに異常が発生しています。 マツダ販売店で点検を受けてください。
CTS の作動を停止しました周囲の安全を確認して走行してください	運転者の操作以外でクルージング&トラフィック・サポート (CTS)が停止したときに表示	システムに異常が発生しています。 マツダ販売店で点検を受けてください。

表示*1*2*3	内容	処置方法
ディスタンス&スピード・アラートが作動を停止しました周囲の安全を確認して走行してください	運転者の操作以外で、ディスタンス&スピード･アラートが停止したときに表示	システムに異常が発生しています。 マツダ販売店で点検を受けてください。
クルーズコントロール作動を停止しました周囲の安全を確認して走行してください	運転者の操作以外で、クルーズコントロールが停止したときに表示	システムに異常が発生しています。 マツダ販売店で点検を受けてください。
自動ブレーキ作動停止保持のためブレーキペダルを踏んでください	スマート･ブレーキ･サポート(SBS)制御によるブレーキ作動後に、SBS 停車制御が解除されたときに表示	ブレーキペダルを踏んでください。
キーでスタートボタンに触れてください	キーの電池残量が少ないときやキーが破損しているときに、EV システム始動操作をすると表示	キーの裏面でパワースイッチに触れた状態で EV システムを始動させてください。 →5-6 ページ「キーが電池切れしたときの EV システム始動」
始動時はブレーキを踏んでください	ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押したときに表示	EV システムを始動する時は、ブレーキペダルを踏んだ状態でパワースイッチを押してください。
ハンドルを左右に動かしながらスタートボタンを押してください	ハンドルロックが作動しているときにハンドルを操作すると表示	ハンドルを左右に動かしながらパワースイッチを押してハンドルロックを解除してください。
セレクトレバーの位置を確認してください	以下のときに表示 ・前進中にセレクトレバーが R の位置になったとき ・走行中にセレクトレバーが P の位置になったとき ・後進中にセレクトレバーが D の位置になったとき	セレクトレバーの位置を確認してください。
ドアを閉めてシートベルトを装着してください	運転席シートベルトはずした、または運転席ドアを開けた状態でオートホールドスイッチを押したときに表示	運転席シートベルトを装着し、運転席ドアを閉めた状態でオートホールドスイッチを押してください。

表示*1*2*3	内容	処置方法
ワイパースイッチを操作する前に必ずワイパーを倒してください	ワイパーアームがサービスポジションにある状態で電源ポジションを ON にすると表示	ワイパーアームを初期位置に戻してください。
ワイパーの可動範囲が狭くなっています異物を取り除いてください	フロントガラスに雪やゴミなどでワイパの動作範囲が狭くなったときに表示	フロントガラスの雪やゴミを取り除いてください。
電源ポジションが OFF になっていません	電源ポジションが ACC のときに運転席ドアを開けると表示	電源ポジションを OFF にしてから運転席ドアを開けてください。
自動パーキングロック作動中セレクトレバーを P に入れてください	オート P (パーキングロック) 機能が作動すると表示	セレクトレバーを P の位置にしてください。
始動時はセレクトレバーを P に入れてください	セレクトレバーの位置とシフトポジションが異なった状態で電源ポジションを ON すると表示	セレクトレバーを P の位置にしてください。
N レンジでアクセルを踏んでいます	セレクトレバーが N の位置でアクセルペダルを踏み込むと表示	アクセルペダルから足を離してください。
急発進抑制中発進時はブレーキペダルを踏んでください	ブレーキペダルを踏まずにセレクトレバーが N から D または R の位置になったときに表示	ブレーキペダルを踏んでください。
自動パーキングロック解除中	ニュートラル保持モードにすると表示	ニュートラル保持モードになっています。必要に応じてニュートラル保持モードを解除してください。 →5-31 ページ「セレクトレバーの操作」
自動パーキングロック解除中セレクトレバーを N に入れてください	ニュートラル保持モード作動中にセレクトレバーが D または R の位置になったときに表示	セレクトレバーを N の位置にしてください。
12V バッテリーが充電不足です頻繁に点灯する場合は点検を受けてください	12V バッテリーの充電量が低くなると表示	12V バッテリーを点検してください。必要に応じてマツダ販売店で点検を受けてください。

表示*1*2*3	内容	処置方法
駆動用バッテリーの残量が低下しています	駆動用バッテリー残量が少なくなると表示	必要に応じて充電を行ってください。
始動時は充電コネクタを抜いてください	充電コネクターを接続している状態で EV システムを始動すると表示	EV システムを始動するときは、充電コネクターを抜いてください。
充電コネクタが挿入されたため READY オフしました	EV システム作動中に充電コネクターを接続すると表示	充電するときは、電源ポジションを OFF にしてください。
バッテリーヒーターが作動しましたバッテリー残量が低下しています充電コネクタを挿入して駐車することを推奨します	充電コネクターを接続していない状態でバッテリーヒーターが作動したあと EV システムを始動すると表示	走行可能距離を確認してください。必要に応じて充電を行ってください。
バッテリーヒーターが自動停止しましたバッテリー残量が低下しています充電コネクタを挿入して駐車することを推奨します	バッテリーヒーターが自動停止したあと EV システムを始動すると表示	駐車中にバッテリーヒーターが作動する場合は、充電コネクターを接続してください。
バッテリーヒーターが自動停止しました長期放置時は設定オフを推奨します	バッテリーヒーターが長時間作動し、自動停止したあと EV システムを始動すると表示	長期間車両を使用しない場合は、バッテリーヒーターの設定を OFF してください。
充電が中断されました	充電が中断すると表示	充電コネクターの接続状態を確認してください。
EV システム高温出力が制限されますブレーキペダルを踏んでください	登り坂などでアクセルペダル操作のみで停車保持し、モーターが高温になると表示	ブレーキペダルを踏んでください。
回生ブレーキの効きが制限されています	回生ブレーキが制限されているときに表示	回生ブレーキの効きが悪くなっているので注意して運転してください。

表示*1*2*3	内容	処置方法
車から離れるときはセレクトレバーを P レンジに入れてください	セレクトレバーが P 以外の位置で運転席ドアが開くと表示	セレクトレバーを P の位置にしてください。
12V バッテリーの電力消費が一定量超過 READY にすることで電力を自動供給しますドアの開け閉めなど継続すると作動しますドア連動照明など電力消費を抑制します	EV システム OFF のときに、ドアやリフトゲートの開閉を繰り返すなどして、電力消費が一定量をこえると表示 電力消費を抑制するために、機能の一部を制限しています	12V バッテリーを充電させるため、5 分以上 EV システムを作動させてください。

*1　警告が発生したときに、自動で画面表示されます。
*2　1 つの画面に 4 行が表示されます。メッセージ全体を 1 つの画面に表示できない場合は、別の画面に切り替わります。
*3　表示内容が、車両と異なる場合があります。

チャイムがなったときは

▼ ランプ消し忘れ防止チャイム

エクステリアランプが点灯しているときに、電源ポジションを OFF にして運転席ドアを開けるとチャイムが鳴ります。
ヘッドランプスイッチを操作して、エクステリアランプを消してください。

知識

ランプ消し忘れ防止チャイムの音量を変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「車両装備」

▼ シートベルト着用忘れチャイム

運転席/助手席

シートベルトを着用していない状態で、車速が約 20 km/h 以上になるとしばらくの間チャイムが鳴り続けます。

後席

電源ポジションが ON のとき、装着していたシートベルトをはずすとチャイムが鳴ります。

シートベルトを着用してください。

▼ 電源オフ忘れ警告チャイム

電源ポジションが ACC のときに、運転席ドアを開けると車内のチャイムが鳴り続けます。
電源ポジションを OFF にしてください。

▼ キー車外持ち出し警報チャイム

アドバンストキーレス機能装備車

電源ポジションが ON または ACC の状態でキーを車外に持ち出すと、すべてのドアを閉めたときに車外のチャイムが 6 回鳴り、車内のチャイムが 1 回鳴ります。

アドバンストキーレス機能非装備車

電源ポジションが ON または ACC の状態でキーを車外に持ち出すと、すべてのドアを閉めたときに車内のチャイムが 1 回鳴ります。

キーを携帯したまま車外に出ていないかを確認、または電源ポジションを OFF にしてください。

▼ キー車内閉じ込み警報チャイム

電源ポジションが OFF でキーを車内に置いた状態のときに、ロック操作された運転席ドアと運転席以外の全ドアが閉まるとチャイムが鳴ります。
キーが車内に置いたままになっていないかを確認してください。

▼ ラゲッジルーム内キー閉じ込み警報チャイム (アドバンストキーレス機能装備車)

電源ポジションが OFF でドアが施錠された状態で、キーをラゲッジルーム内に置いたままリアゲートを閉めると、チャイムが鳴ります。
ラゲッジルーム内にキーを置いてないかを確認してください。

▼ タッチセンサー不作動警告チャイム (アドバンストキーレス機能装備車)

次の条件がすべてそろった場合に、チャイムが鳴ります。

・電源ポジションが OFF のとき
・全ドアが閉まっていないとき
・5 秒以内に 3 回ロック操作をしたとき

電源ポジションとドアの開閉状態を確認して、再度ロック操作をしてください。

▼ リアゲートロックスイッチ不作動警告チャイム (アドバンストキーレス機能装備車)

次のいずれかの状態のときに、キーを携帯してリアゲートのロックスイッチを押すと、チャイムが鳴ります。

・電源ポジションが OFF 以外
・いずれかのドアが開いている

上記の状態になっていないことを確認して、再度ロックスイッチを押してください。

▼ 駆動用バッテリー残量警告チャイム

駆動用バッテリー残量が少なくなり駆動用バッテリー残量警告表示/警告灯が表示/点灯/点滅するのと同時にチャイムが鳴ります。
すみやかに充電してください。

▼ 電動ハンドルロック警告チャイム

ハンドルがロックされた状態で、パワースイッチを押すとチャイムが鳴ります。
ハンドルロックを解除してください。

▼ ブレーキシステム警告チャイム

ブレーキシステムに異常が発生し、ブレーキが意図通りに効かないおそれがある場合にチャイムが鳴ります。
周囲の安全を確認しながら減速し安全な場所に停車してください。
停車後にマツダ販売店に連絡してください。

▼ ブレーキ･オーバーライド警告チャイム

走行中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むとチャイムが鳴ります。
ブレーキペダルのみを踏んでください。

▼ 電動パーキングブレーキ (EPB) 警告チャイム

次のときにチャイムが鳴ります。

- パーキングブレーキをかけたまま走行しているとき
- 走行中に電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを引き、パーキングブレーキをかける操作をしたとき
- パーキングブレーキが自動解除できない状態で、車を発進させようとしたとき

パーキングブレーキの状態を確認してください。

▼ オートホールド警告チャイム

オートホールド機能に異常が発生しているときに、オートホールド機能を使用する、またはオートホールドスイッチを操作すると、約 5 秒間チャイムが鳴ります。
マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されるのと同時にチャイムが鳴るときは、オートホールド機能の使用を中止し、マツダ販売店に連絡してください。

▼ 車両異常警告チャイム

次の異常が発生したとき、チャイムが鳴ります。

- ブレーキ液量低下
- 電動パーキングブレーキ (EPB) 異常
- シフトシステム異常
- EV システム異常
- 充電システム異常
- 車両接近通報装置異常

センターディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイで警告表示内容を確認してください。

▼ シフトポジション警告チャイム

セレクトレバー位置と車両のシフトポジションが不一致のときにチャイムが鳴ります。
セレクトレバーの位置を確認してください。

▼ セレクトレバー戻し忘れ警告チャイム

セレクトレバーが P 以外の位置で、次の操作を行なうとチャイムが鳴ります。

- EV システム作動中から電源ポジションを OFF にしたとき
- 運転席シートベルトをはずし、運転席ドアを開けたとき

セレクトレバーの位置を確認してください。

▼ リバースポジション警告チャイム

電源ポジションが ON のとき、セレクトレバーを R の位置にするとチャイムが鳴ります。
セレクトレバーを R の位置以外にすると鳴り止みます。

▼ ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警告チャイム

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯が点灯している側に方向指示器のレバーを操作するとチャイムが鳴ります。

車両後方の安全を確認してください。

▼ 前側方接近車両検知 (FCTA) 警告チャイム*

自車前方の左右から接近してくる車両と衝突する可能性がある場合にチャイムが鳴ります。

車両前方の安全を確認してください。

▼ 後側方接近車両検知 (RCTA) 警告チャイム

自車後方の左右から車両が接近している場合にチャイムが鳴ります。

車両後方の安全を確認してください。

▼ 車線/路外逸脱警告チャイム

車線から逸脱、または路外へ逸脱する可能性があるとシステムが判断したときにチャイムが鳴ります。
車線から逸脱、または路外へ逸脱していないかを確認してください。

▼ ハンドル操作要求警告チャイム

ハンドル操作をアシストするシステムが作動状態で、ハンドルから手を放すとチャイムが鳴ります。
ハンドルをしっかりと持ってください。

▼ マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))警告チャイム

システムの異常や使用上の注意が必要なときに、警告チャイムでお知らせします。

警告チャイムの種類	お知らせ内容
MRCC 作動中に、チャイムが 1 回鳴るとき	システムに異常が発見されたなどで、MRCC (全車速追従機能付) が解除されています。マツダ販売店で点検を受けてください。
MRCC 作動中に、チャイムが断続的に鳴るとき	前方車との車間距離が近すぎます。周囲の安全を確認し、減速してください。

▼ クルージング & トラフィック･サポート (CTS) 警告チャイム

システムの異常や使用上の注意が必要なときに、警告チャイムでお知らせします。

警告チャイムの種類	お知らせ内容
CTS 作動中に、チャイムが 1 回鳴るとき	システムに異常が発見されたなどで、CTS が解除されています。マツダ販売店で点検を受けてください。
CTS 作動中に、チャイムが断続的に鳴るとき	前方車との車間距離が近すぎます。周囲の安全を確認し、減速してください。

*グレード/仕様別装備

▼ 速度超過警告チャイム

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ/マルチインフォメーションディスプレイに表示されている最高速度標識より自車の速度が超えるとディスプレイに表示されている最高速度標識のまわりが橙色に点滅し、同時にチャイムが鳴り続けます。
周囲の状況を確認しながら、ブレーキペダルを踏むなどの操作をして、法定速度内に減速してください。

▼ 衝突警報/接近警告チャイム

前方車や後方の障害物と衝突する可能性がある場合にチャイムが鳴ります。
前方車や後方の障害物に近づきすぎていないかを確認してください。必要に応じて、周囲の状況を確認しながらブレーキペダルを踏むなどの回避操作をしてください。

▼ AT 誤発進警告チャイム

障害物と衝突する危険があり、アクセルペダルを踏み込んでいる間のみ鳴ります。
アクセルペダルを踏み間違えていないかを確認してください。

▼ 半ドア警告チャイム

半ドア状態で走行すると、チャイムが鳴ります。
ドア/リアゲートを閉めてから走行してください。

▼ 12V バッテリー充電量低下チャイム

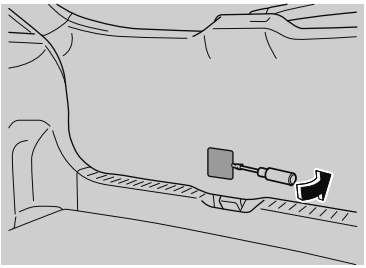
電力消費が一定量を超えるとチャイムが鳴ります。
12V バッテリーを充電させるため、5 分以上 EV システムを作動させてください。

リアゲートが開けられなくなったとき

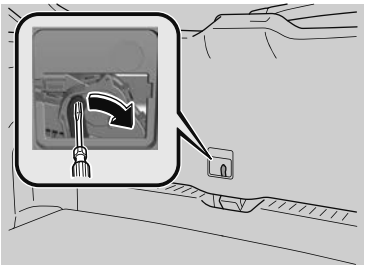
▼ リアゲートが開けられなくなったとき

12V バッテリーがあがると、リアゲートの解錠ができず開けられなくなります。
この場合は、12V バッテリーあがりの対処をすることでリアゲートの解錠ができるようになります。
→8-18 ページ「処置方法」
12V バッテリーあがりの対処をしてもリアゲートの解錠ができない場合は、電気系統の故障が考えられます。
この場合は、応急処置として次の手順でリアゲートを開けることができます。

1. リアシートを倒します。
   →2-12 ページ「荷室を作るとき」
2. カバーをはずします。



3. レバーを右側に動かして解錠します。



応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないとき

▼ アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないとき

アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないときは電源ポジションを OFF にして、再度 EV システムを始動させてください。EV システムを始動させても作動しないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

フロントワイパーが高速作動するとき

▼ フロントワイパーが高速作動するとき

ワイパーの制御に異常があると、フロントワイパーが高速作動する場合があります。ワイパースイッチの操作にかかわらずフロントワイパーが高速作動するときはマツダ販売店で点検を受けてください。

万一事故が起きたときは

▼ 事故が起きたときの処置方法

事故が起きたときは、あわてず次の処置をしてください。

1.事故の続発防止

他の交通のさまたげにならない安全な場所 (路肩、空き地など) に車を移動させ、EV システムを停止します。

2.負傷者の救護

負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行ないます。
この場合、とくに頭部に傷を受けているようなときは、むやみに動かさないようにします。ただし、後続事故のおそれがある場合は、安全な場所に移動させます。

3.警察への連絡

事故の発生場所、状況、負傷の程度などを報告し、指示を受けます。

4.相手の氏名、住所などの確認

5.マツダ販売店、保険会社への連絡

知識

事故が起きたら
軽いけがでも、必ず警察に届けましょう。また、外傷がなくても頭部などに強い衝撃を受けたときは、医師の診断を受けましょう。後遺症がでることがあります。

MEMO

9 カスタマーインフォメーション

車に関する情報について

カスタマーインフォメーション 9-2
お車の点検について.....9-2
携帯電話の使用について.....9-2
EDR (イベントデータレコーダー)について.....9-3
車両データの記録について .....
..... 9-3

お車の点検について

▼ 床下に衝撃を受けたら下まわりを点検する

安全な場所に停車して、車の下にブレーキ液の漏れがないか、また各部に損傷がないか確認してください。
異常があったときは、マツダ販売店に連絡してください。
そのまま走行すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 異常を感じたときはマツダ販売店で点検を受ける

次のようなときは、車が故障しているおそれがあります。そのまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

・普段と違う音や臭い、振動がするとき。
・ハンドル操作に異常を感じるとき。
・ブレーキ液が不足しているとき。

携帯電話の使用について

▼ 運転中は携帯電話を使用しない

運転しながらハンズフリー以外の携帯電話やスマートフォンを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

EDR (イベントデータレコーダー) について

▼ EDR (イベントデータレコーダー) について

本車両は、SRS エアバッグ制御のためのコンピューターを搭載しています。
そのコンピューターは、SRS エアバッグシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突や衝突に近い状態のとき、データを記録・蓄積する EDR を装備しています。

記録するデータ

EDR は次のような情報を記録します。

- 車速
- 運転席乗員のシートベルト装着有無
- 助手席乗員のシートベルト装着有無
- エアバッグ作動に関する情報 (加速度波形など)
- エアバッグシステムの故障診断情報

知識

EDR は会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

マツダおよびマツダの委託先は、EDR に記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、取得したデータは次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

車両データの記録について

▼ 車両データの記録について

本車両は、車両の制御や操作、その他の走行環境に関する主要なデータを記録するコンピューターを装備しています。

記録されるデータ

- 車速など車両の状態
- アクセル/ブレーキなどの運転状態・車両走行時の環境情報
- 各車載コンピューターの故障診断情報
- その他、各車載コンピューターの制御に関する情報

知識

記録されるデータの項目は、車両のグレードやオプション装備の種類により異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

マツダおよびマツダの委託先は、コンピューターに記録されたデータを、車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、取得したデータは次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意 (リース車は貸借主の同意) がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

MEMO

10 車両スペック

車両スペック..... 10-2
車両スペック.....10-2
各部の点検値、交換時期..... 10-7

車両スペック

▼ 充電システム

項目	サービスデータ
入力電圧	AC 200 V
定格周波数	50 Hz/60 Hz
最大定格電流	32 A (普通充電)
最大消費電力	6.4 kVA (普通充電)
最大入力電流	150 A (急速充電)
純正充電ケーブル内蔵コントロールボックス漏電検知電流	5 mA
EV 充電モード/接続タイプ	普通充電 : モード 2、モード 3 急速充電 : CHAdeMO
施工要求 (短路保護電流、保護機器の情報)	過電流、過電圧対策手段は、法規・基準に従うことが必要です。 家屋、ビルの配線に適切な過電流保護装置を必ず設置してください。
IP 等級	IP44: 充電ポートに充電コネクターを接続したとき IP67: 充電ケーブル
動作温度	車載充電器 : -30 °C ～ 65 °C (冷却水温度) 60 °C以上で性能低下 充電ケーブル : -30 °C ～ 50 °C (外気温)
保管温度	車載充電器 : -40 °C ～ 65 °C (冷却水温度)、-40 °C ～ 85 °C (外気温) 充電ケーブル : 車両の保証温度
適合規格	車載充電器 : EN/IEC 61851-1、EN/IEC 61851-21、EN/IEC 61851-23 充電ケーブル : IEC61851-1
アダプタ	充電プラグおよび充電コネクター部にアダプタを使用しないでください。 延長ケーブルなどは使用しないでください。

▼ 駆動用バッテリー

項目	サービスデータ
タイプ	リチウムイオン電池
温度範囲	作動保証温度: -30 °C ～ 60 °C 保存保証温度: -40 °C ～ 70 °C

▼ 12V バッテリー

項目	サービスデータ
型式*1	LN1、42Ah (20 時間率)

*1 車両に取り付けられたバッテリーを確認の上、同等以上の性能のバッテリーを使用してください。ただし、同一型式の中でも性能が異なる場合がありますので、交換する際はマツダ販売店にご相談ください。

▼ 冷却水

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
交換時期	純正ロングライフクーラント	2 年ごと (初回は 3 年)
	純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1	100,000 km 走行または 5 年ごと (初回は 200,000 km 走行または 15 年)
推奨液		純正ロングライフクーラント、 純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1
容量 (参考値)		4.3 L

*1 ラジエーターキャップまたはその付近に FL22 のマークがある場合は、純正ロングライフクーラント (ゴールデン) を使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

▼ EV トランスアクスルフルード

項目	サービスデータ
推奨フルード	純正 ATF FZ
容量 (参考値)	1.55 L

▼ ブレーキ液

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
交換時期	2 年ごと (初回は 3 年)
推奨液	純正ブレーキフルード BF-3 (DOT-3)、 純正ブレーキフルード B7 (DOT-3)

▼ ウォッシャー液

液量の確認は、レベルゲージで行なってください。

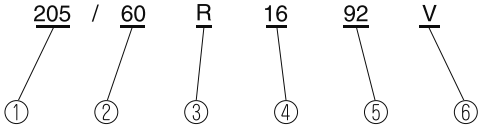
項目		サービスデータ
タンク容量 (参考値)	ヘッドランプウォッシャー非装備車	2.2 L
	ヘッドランプウォッシャー装備車	4.2 L

▼ 電球 (バルブ) について

この車両に装備されている電球は、すべて LED タイプです。
LED タイプの電球は交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

▼ タイヤ/ホイールサイズ

タイヤサイズ表示 (一例) の見方



1. タイヤ幅の呼称 (mm)
2. 偏平率 (%)
3. ラジアル構造
4. リム径の呼称 (インチ)
5. ロードインデックス (LI)
6. 速度記号

速度記号の見方

次の速度記号情報で、車両の適切なタイヤを選んでください。

速度記号	最高速度
L	120 km/h まで
N	140 km/h まで
Q	160 km/h まで
R	170 km/h まで
S	180 km/h まで
T	190 km/h まで
U	200 km/h まで
H	210 km/h まで
V	240 km/h まで
W	270 km/h まで

標準タイヤ

タイヤサイズは、運転席側のリアドアに貼付されているラベルで確認してください。

タイヤサイズ	ホイール		
	サイズ	インセット (オフセット)	ピッチサークル直径
215/55R18 95H	18×7J	45.0 mm	114.3 mm

▼ タイヤ空気圧

標準タイヤ

適正空気圧は、運転席側のリアドアに貼付されているラベルで確認してください。

タイヤサイズ	タイヤ空気圧	
	前輪	後輪
215/55R18 95H	250 kPa (2.5 kgf/cm^2)	260 kPa (2.6 kgf/cm^2)

▼ ホイールナットの締め付けトルク

タイヤを取り付けるときは、次のトルクでホイールナットを締め付けてください。
108 N·m～147 N·m (12 kgf·m～14 kgf·m)

▼ ブレーキディスクの摩耗限度情報

ブレーキディスクの使用限度値とその測定方法に関する情報が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

各部の点検値、交換時期

▼ ブレーキペダル

項目	サービスデータ
遊び	3 mm 以下
フロアマットとのすき間 (踏力 147 N {15 kgf})	65.6 mm 以上

MEMO

11 さくいん

A

ABS (アンチロックブレーキシステム).....5-57
AT 誤発進警告チャイム..... 8-39
AT 誤発進抑制制御 [後退時]..... 5-133
AT 誤発進抑制制御 [前進時]..... 5-129

D

DSC (ダイナミックスタビリティコントロール)..... 5-59
　TCS/DSC 作動表示灯.....5-60

E

EV システム
　EV システムを始動するとき.....5-5
　EV システムを停止するとき.....5-7
EV トランスアクスルフルード.....10-3

I

i-ACTIVSENSE..... 5-61
　AT 誤発進抑制制御 [後退時].....5-133
　AT 誤発進抑制制御 [前進時].....5-129
　アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH).....5-75
　緊急時車線維持支援 (ELK)..... 5-114
　クルージング&トラフィック･サポート (CTS)..... 5-103
　後側方接近車両検知 (RCTA).....5-95
　交通標識認識システム (TSR).....5-83
　360°ビュー･モニター.....5-135
　車線逸脱警報システム..... 5-77
　スマート･ブレーキ･サポート (SBS).. 5-120
　前側方接近車両検知 (FCTA)..... 5-93
　ディスタンス & スピード･アラート (DSA).....5-89
　ドライバー･アテンション･アラート (DAA).....5-90
　ドライバー･モニタリング.....5-91
　ドライバー･モニタリングカメラ..... 5-73
　ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)..... 5-74
　フォワードセンシングカメラ (FSC).... 5-64
　フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ 5-72
　フロントサイドレーダーセンサー.....5-69
　フロント超音波センサー.....5-71
　フロントレーダーセンサー.....5-67
　ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)..... 5-79
　マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))..... 5-98
　リアサイドレーダーセンサー..... 5-70
　リア超音波センサー..... 5-72
　レーンキープ･アシスト･システム (LAS)..... 5-111
i-ACTIVSENSE OFF スイッチ..... 5-63

S

SRS エアバッグシステム..... 2-33
　エアバッグの注意点..... 2-34

T

TCS (トラクションコントロールシステム)..... 5-58
　TCS OFF スイッチ..... 5-58
　TCS OFF 表示灯.....5-58
　TCS/DSC 作動表示灯.....5-58

あ

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ... 5-27
　アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないとき..... 8-41
アクティブセーフティ技術..... 5-61
アシストグリップ..... 6-35
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH).... 5-75
アルミホイール
　手入れ.....7-29
アンチロックブレーキシステム (ABS).....5-57

い

イモビライザーシステム..... 3-46
イルミネーテッドエントリーシステム..... 6-33
インテリアライト (室内照明)..... 6-31
インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM).....5-25
　インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM) ランプ..... 5-25
インナーミラー (ルームミラー).....3-42

う

ウインカー (方向指示器)
　レバー.....5-41

ウインドー
曇ったとき..... 6-9
手入れ.....7-31
パワーウインドー..... 3-44
リアウインドーデフォッガー (曇り取り)
スイッチ.....5-46
ウインドーワイパーデアイサー..... 5-47
ウォッシャー
ウォッシャー液の補充..... 7-10
タンク容量..... 10-4
冬に備えて (濃度の調節)..... 7-32
フロント.....5-44
リア..... 5-45

え

エアコン (空調)
エアコンの基本操作.....6-7
エアコンのスイッチ/アイコン一覧..... 6-3
エアコンの便利な使いかた..... 6-10
快適に使用していただくために.....6-2
タイマー予約でエアコンをつけるとき (タイマーエアコン).....6-11
離れた場所からエアコンをつけるとき (リモートエアコン).....6-12
吹き出し口の選択..... 6-8
吹き出し口の調節..... 6-7
エアバッグシステム..... 2-33
エアバッグの注意点.....2-34
エマージェンシーシグナルシステム (ESS)..... 5-56

お

オートホールド..... 5-52
オートホールド警告チャイム.....8-37
オーバーヘッドコンソール..... 6-37
大型コンソールボックス..... 6-37
お子さまの安全
お子さま専用シート選択の目安.....2-28
お子さま専用シートについて.....2-25
お子さま専用シートの種類.....2-26
チャイルドシートを固定するとき.....2-31
ロアアンカレッジ.....2-31

か

カップホルダー..... 6-34
カミング・ホーム・ライト.....5-40
カメラ、センサー.....5-62
ガラス
曇ったとき..... 6-9
手入れ.....7-31
リアウインドーデフォッガー (曇り取り)
スイッチ.....5-46

き

キー.....3-26
キーの電池交換..... 7-15
作動しないとき..... 8-21
キー車外持ち出し警告チャイム..... 8-36
キー車内閉じ込み警告チャイム..... 8-36
キー (アドバンストキーレス機能装備車)
作動範囲.....3-30
ドアの施錠/解錠.....3-32
キー (アドバンストキーレス機能非装備車)
作動範囲..... 3-29
ドアの施錠/解錠.....3-34
給電システム..... 3-21
困ったときは.....8-16
緊急時車線維持支援 (ELK)
側方危険回避アシスト機能..... 5-114
ロードキープアシスト機能..... 5-117

く

空気圧 (タイヤ).....10-6
駆動用バッテリー.....10-3
あがったとき.....8-20
駆動用バッテリー残量警告チャイム..... 8-36
曇り取り (デフォッガー) スイッチ.....5-46
クラクション (ホーン).....5-48
クルージング＆トラフィック・サポート (CTS)
警告チャイム..... 8-38
クルージング&トラフィック・サポート (CTS)..... 5-103
クルーズコントロール.....5-166
グローブボックス..... 6-37

け

警報・リスク回避支援表示..... 5-63
警告灯が点灯、点滅したときは.....8-24
化粧鏡 (バニティミラー)..... 6-30
けん引について.....8-22

こ

コインボックス.....6-37
交換

タイヤの位置交換 (タイヤローテーション)....7-17
電球 (バルブ) 交換....7-26
電池交換 (キー)....7-15
ヒューズの交換....7-25
工具....8-7
後側方接近車両検知 (RCTA)....5-95
後側方接近車両検知 (RCTA) 警告チャイム....8-38
交通標識認識システム (TSR)....5-83
コンソールボックス....6-37

さ

サイドミラー (ドアミラー)....3-41
サブトランクボックス....6-38
サンバイザー....6-30
360°ビュー・モニター....5-135
サイドビュー....5-150
使用するとき....5-142
トップビュー/フロントビュー....5-145
トップビュー/リアビュー....5-153
トップビュー/リアワイドビュー....5-158
フロントワイドビュー....5-148

し

シート
フロントシート....2-3
ヘッドレスト....2-14
シートヒーター....2-16
シートベルト
ELR (緊急時固定) 機構....2-21
警告システム....2-23
シートベルトについて....2-20
高さ調節....2-23
手入れ....7-29
シートベルト表示灯 (リアシート) (緑)....2-23
プリテンショナー機構....2-24
ロードリミッター機構....2-24
シートベルト着用忘れチャイム....8-36
室内照明....6-31
イルミネーテッドエントリーシステム....6-33
マップランプ....6-31
ラゲッジルームランプ....6-31
ルームランプ....6-31
室内灯 (ルームランプ)
スイッチ....6-31
シフトシステム
運転するとき....5-35
シフトロック装置....5-35
セレクトレバー....5-31
駐車するとき....5-35
シフトポジション警告チャイム....8-37
車線逸脱警報システム....5-77
車線/路外逸脱警告チャイム....8-38
車幅灯 (スモールランプ)
スイッチ....5-38
車両異常警告チャイム....8-37
収納....6-36
オーバーヘッドコンソール....6-37
大型コンソールボックス....6-37
グローブボックス....6-37
コインボックス....6-37
コンソールボックス....6-37
サブトランクボックス....6-38
ラゲッジルーム....6-38
衝突警報/接近警告チャイム....8-39
ジャッキ....8-8
充電システム....10-2
充電について
困ったときは....8-14
準備....3-10
注意....3-9
手順....3-12

す

スイッチ
TCS OFF スイッチ....5-58
非常点滅灯スイッチ....5-48
フロントウォッシャースイッチ....5-44
フロントワイパースイッチ....5-43
ヘッドランプウォッシャースイッチ....5-46
ヘッドランプスイッチ....5-38
リアウォッシャースイッチ....5-45
リアワイパースイッチ....5-45
ルームランプスイッチ....6-31
スタックしたとき....8-5
ステアリングヒーター....2-18
スノータイヤ....7-32
スマート・ブレーキ・サポート (SBS)....5-120
後進時検知機能....5-123
前進時検知機能....5-120
スモールランプ (車幅灯)
スイッチ....5-38
スリーフラッシュターンシグナル....5-42

せ

セレクトレバー..... 5-31
セレクトレバー戻し忘れ警告チャイム.....8-37
洗車.....7-27
前照灯 (ヘッドランプ)
　スイッチ.....5-38
前側方接近車両検知 (FCTA).....5-93
前側方接近車両検知 (FCTA) 警告チャイム 8-38

そ

速度超過警告チャイム.....8-39
側方危険回避アシスト機能.....5-114

た

ターンシグナル (方向指示器)
　レバー.....5-41
タイヤ
　空気圧.....10-6
　サイズ.....10-5
　チェーン..... 7-32
　点検..... 7-16
　パンク応急修理キット..... 8-9
　冬に備えて.....7-32
　ローテーション (位置交換)..... 7-17
タッチセンサー不作動警告チャイム..... 8-36
ダイナミックスタビリティコントロール (DSC).....5-59
　TCS/DSC 作動表示灯.....5-60
脱輪などで動けなくなったとき..... 8-6

ち

チェーン (タイヤチェーン)..... 7-32
チャイムがなったときは
　AT 誤発進警告チャイム.....8-39
　オートホールド警告チャイム.....8-37
　キー車外持ち出し警告チャイム..... 8-36
　キー車内閉じ込み警告チャイム..... 8-36
　駆動用バッテリー残量警告チャイム... 8-36
　クルージング＆トラフィック･サポート (CTS) 警告チャイム..... 8-38
　後側方接近車両検知 (RCTA) 警告チャイム 8-38
　シートベルト着用忘れチャイム..... 8-36
　シフトポジション警告チャイム..... 8-37
　車線/路外逸脱警告チャイム.....8-38
　車両異常警告チャイム..... 8-37
　衝突警報/接近警告チャイム.....8-39
　セレクトレバー戻し忘れ警告チャイム 8-37
　前側方接近車両検知 (FCTA) 警告チャイム 8-38
　速度超過警告チャイム..... 8-39
　タッチセンサー不作動警告チャイム... 8-36
　電源オフ忘れ警告チャイム..... 8-36
　電動ハンドルロック警告チャイム.....8-36
　電動パーキングブレーキ (EPB) 警告チャイム..... 8-37
　半ドア警告チャイム.....8-39
　ハンドル操作要求警告チャイム..... 8-38
　ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警告チャイム.....8-38
　ブレーキ･オーバーライド警告チャイム 8-37
　ブレーキシステム警告チャイム..... 8-37
　マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))警告チャイム..... 8-38
　ラゲッジルーム内キー閉じ込み警告チャイム..... 8-36
　ランプ消し忘れ防止チャイム.....8-36
　リアゲートロックスイッチ不作動警告チャイム..... 8-36
　リバースポジション警告チャイム.....8-37
　12V バッテリー充電量低下チャイム....8-39
チャイルドシート.....2-25
　お子さま専用シート選択の目安.....2-28
　お子さま専用シートの種類.....2-26
　チャイルドシートを固定するとき.....2-31
　ロアアンカレッジ.....2-31
駐車支援システム
　パーキングセンサー.....5-182
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)
　操作方法..... 5-49

て

テールランプ (尾灯)
　スイッチ.....5-38
定期点検..... 7-5
手入れ
　アクティブ･ドライビング･ディスプレイ 7-31
　アルミホイール..... 7-29
　インストルメントパネル上面..... 7-31
　カメラ.....7-28
　革張り部分..... 7-30
　外装..... 7-27

外装樹脂部品.....7-29
ガラス.....7-31
シートベルト.....7-29
樹脂部品.....7-31
洗車.....7-27
ソフトパッド部.....7-31
内装.....7-29
布張り、合成皮革部分.....7-30
パネル.....7-31
ビニール.....7-30
ミラー.....7-31
ワックスがけ.....7-28
点検整備について.....7-4
デイタイムランニングランプ.....5-41
ディスタンス & スピード・アラート (DSA).....5-89
電気自動車とは.....3-2
ステアリングホイールパドル.....3-6
電子音.....3-8
電球
電球 (バルブ) 交換.....7-26
電源オフ忘れ警告チャイム.....8-36
電源ソケット.....6-33
電源ポジション.....5-4
電動ハンドルロック警告チャイム.....8-36
電動パーキングブレーキ (EPB) 警告チャイム.....8-37

と

盗難防止システム
イモビライザーシステム.....3-46
トノカバー.....3-40
トラクションコントロールシステム (TCS).....5-58
TCS/DSC 作動表示灯.....5-58
ドア
ドアミラー.....3-41
ドアミラー.....3-41
曇り取り.....5-47
ドライバー・アテンション・アラート (DAA).....5-90
ドライバー・モニタリング.....5-91
ドライバー・モニタリングカメラ.....5-73
ドライビングポジションメモリー機能.....2-7

な

ナンバープレートランプ (番号灯)
スイッチ.....5-38

に

荷室を作るとき.....2-12
日常点検.....7-7

は

ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC).....5-74
ハイビーム (ヘッドランプ上向き)
切り替え.....5-40
ハザードランプ (非常点滅灯)
スイッチ.....5-48
半ドア警告チャイム.....8-39
ハンドル操作要求警告チャイム.....8-38
バックガイドモニター.....5-169
バックミラー (ルームミラー).....3-42
バッテリー
駆動用バッテリー.....8-20
12V バッテリー.....8-17
バニティミラー (化粧鏡).....6-30
バルブ (電球)
電球 (バルブ) 交換.....7-26
番号灯 (ナンバープレートランプ)
スイッチ.....5-38
パーキングブレーキ
操作方法.....5-49
パッシング合図.....5-40
パワーウインドー.....3-44
パワースイッチ.....5-4

ひ

非常点滅灯
スイッチ.....5-48
ヒューズ.....7-19
室内ヒューズボックス.....7-19
ヒューズ点検、交換.....7-25
モータールーム内ヒューズボックス.....7-21
表示
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ.....5-27
アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動しないとき.....8-41
メーター.....5-9
表示灯
TCS OFF 表示灯.....5-58
TCS/DSC 作動表示灯.....5-58
表示灯が点灯、点滅したときは.....8-24
ヒル・ローンチ・アシスト (HLA).....5-56

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) (坂道発進補助機能)....5-56
尾灯 (テールランプ)
スイッチ....5-38

ふ

フード (ボンネット)
開けかた....7-5
閉めかた....7-6
フォワードセンシングカメラ (FSC)....5-64
踏切内で動けなくなったとき....8-6
冬用タイヤ (スノータイヤ)....7-32
フリースタイルドア....3-37
フロントウォッシャー....5-44
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ....5-72
フロントサイドレーダーセンサー....5-69
フロントシート....2-3
フロント超音波センサー....5-71
フロントレーダーセンサー....5-67
フロントワイパー....5-43
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)....5-79
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警告チャイム....8-38
ブレーキ
ブレーキ･オーバーライド･システム...5-51
ブレーキ･オーバーライド･システム....5-51
ブレーキ･オーバーライド警告チャイム....8-37
ブレーキ液 (フルード)
交換時期、推奨液....10-4
ブレーキシステム警告チャイム....8-37
ブレーキペダル
点検基準値....10-7
プリクラッシュセーフティ技術....5-61

へ

ヘッドランプウォッシャー....5-46
ヘッドランプ (前照灯)
切り替え....5-40
スイッチ....5-38
デイタイムランニングランプ....5-41
パッシング合図....5-40
レベリング....5-41
ヘッドレスト....2-14

ほ

ホーン....5-48
ホイール
サイズ....10-5
手入れ....7-29
方向指示器
レバー....5-41
ボトルホルダー....6-35
ボンネット....7-5

ま

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))警告チャイム....8-38
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))....5-98
マツダコネクト....6-13
マツダコネクトの基本操作....6-17
マツダコネクトをご使用の前に....6-26
マップランプ....6-31

み

ミラー
手入れ....7-31
ドアミラー....3-41
バニティミラー....6-30
ルームミラー....3-42

め

メーター....5-9
i-ACTIVSENSE 表示....5-17
インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM)....5-25
オドメーター....5-13
外気温表示....5-15
駆動用バッテリー温度計....5-13
駆動用バッテリー残量計....5-14
駆動用バッテリー残量表示....5-15
警告灯が点灯、点滅したときは....8-24
警告表示/警告灯....5-18
瞬間電力消費率表示....5-16
スピードメーター....5-9
走行可能距離表示....5-16
トリップメーター....5-13
パネルライトコントロール....5-14
パワーメーター....5-9
表示灯が点灯、点滅したときは....8-24
表示/表示灯....5-21
平均電力消費率表示....5-16

マルチインフォメーションディスプレイ 5-11
メッセージ表示..... 5-17

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)
スイッチ..... 5-38
ラゲッジルーム..... 6-38
ラゲッジルーム内キー閉じ込み警告チャイム 8-36
ラゲッジルームランプ..... 6-31
ランプ
カミング・ホーム・ライト..... 5-40
スイッチ..... 5-38
点灯しないとき..... 7-25
電球 (バルブ) 交換..... 7-26
リービング・ホーム・ライト..... 5-40
レベリング..... 5-41
ランプ消し忘れ防止チャイム..... 8-36

り

リービング・ホーム・ライト..... 5-40
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ..... 5-46
リアウォッシャー..... 5-45
リアゲート
開けかた..... 3-38
開けられなくなったとき..... 8-40
閉めかた..... 3-38
リアゲートロックスイッチ不作動警告チャイム..... 8-36
リアコートフック..... 6-36
リアサイドレーダーセンサー..... 5-70
リア超音波センサー..... 5-72
リアワイパー..... 5-45
リバースポジション警告チャイム..... 8-37

る

ルームミラー..... 3-42
ルームランプ
スイッチ..... 6-31

れ

レーンキープ・アシスト・システム (LAS).. 5-111
冷却水
交換時期、推奨液、容量..... 10-3
冬に備えて (濃度の調節)..... 7-32

ろ

ロードキープアシスト機能..... 5-117
路上で動けなくなったとき..... 8-5

わ

ワイパー
寒冷地用ワイパーブレード..... 7-32
フロント..... 5-43
リア..... 5-45
リアワイパーブレードの交換..... 7-13
ワイパーブレードの交換..... 7-11
ワックスがけ..... 7-28

0〜9

12V バッテリー
あがったとき..... 8-17
型式、容量..... 10-3
点検..... 7-14
冬に備えて..... 7-32
12V バッテリー充電量低下チャイム..... 8-39